

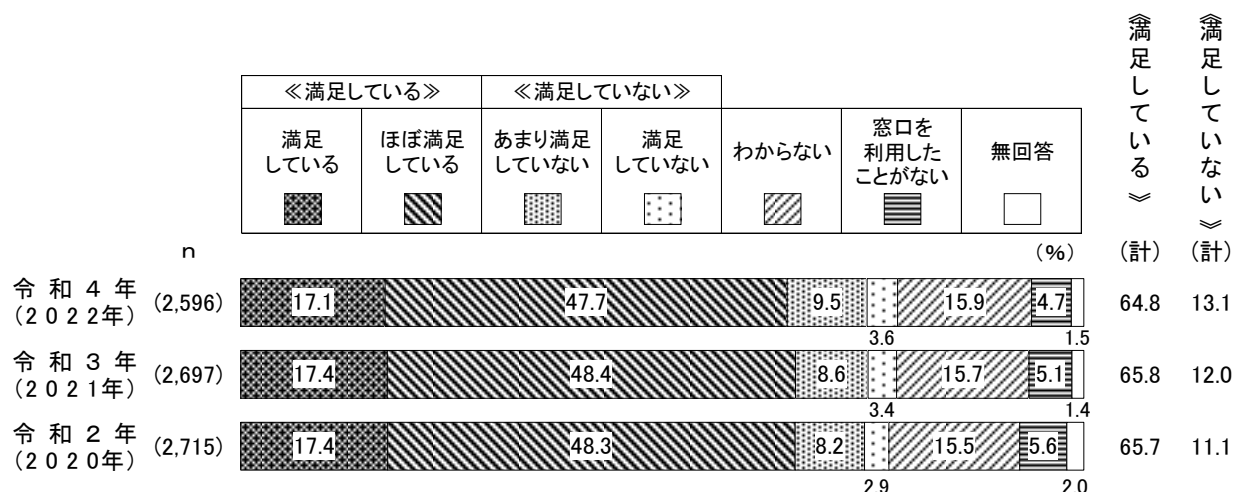
### 3. 「八王子ビジョン2022」の施策指標に関する調査

#### (1) 窓口サービスの満足度

◇《満足している》が6割台半ば

問16 あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は1つだけ）

図3-1-1 窓口サービスの満足度－全体、経年比較

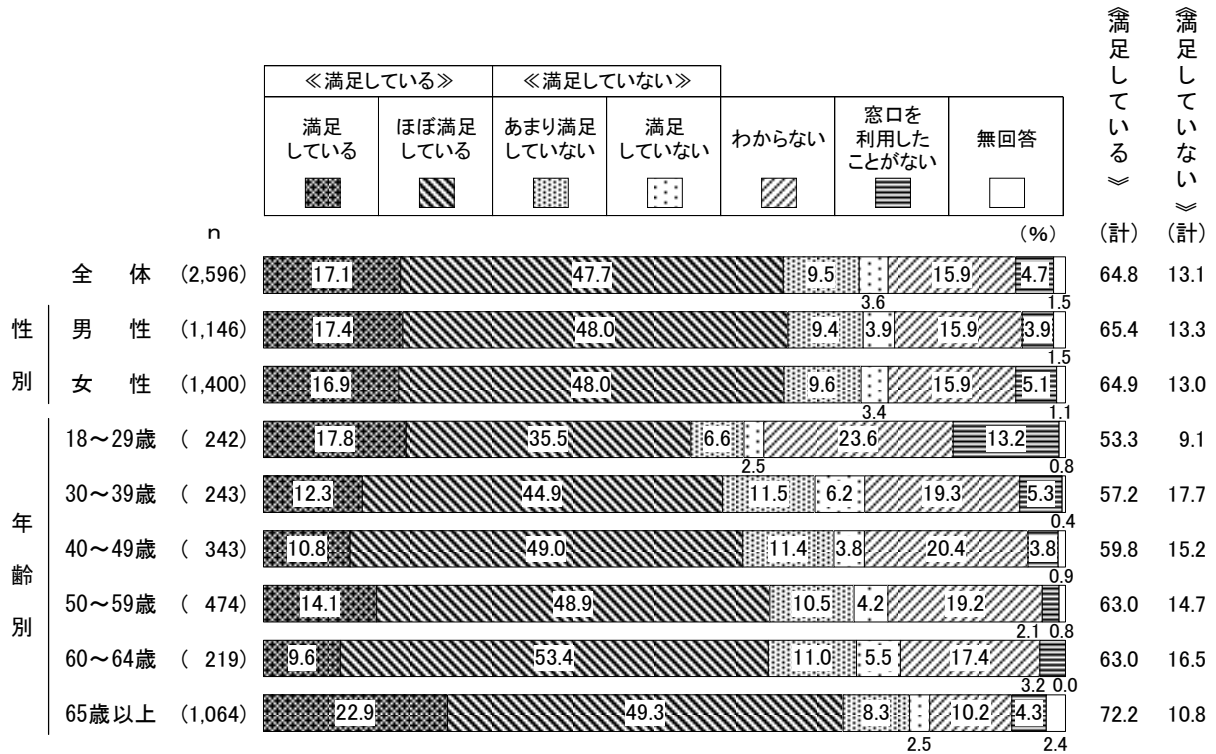


市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（17.1%）と「ほぼ満足している」（47.7%）を合わせた《満足している》（64.8%）は6割台半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」（9.5%）と「満足していない」（3.6%）を合わせた《満足していない》（13.1%）は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年（2021年）と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-1-1)

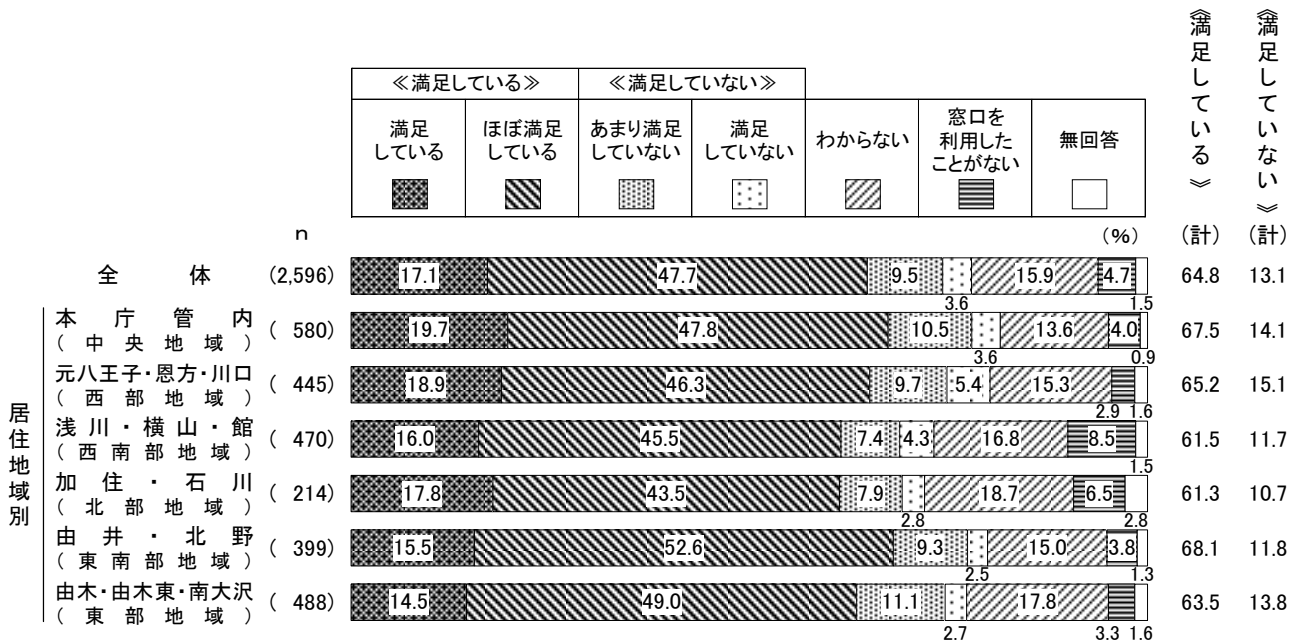
図3-1-2 窓口サービスの満足度—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《満足している》はおおむね年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上(72.2%)で7割強と多くなっている。(図3-1-2)

図3-1-3 窓口サービスの満足度—居住地域別



居住地域別にみると、《満足している》は由井・北野(東南部地域)(68.1%)と本庁管内(中央地域)(67.5%)で7割近くと多くなっている。(図3-1-3)

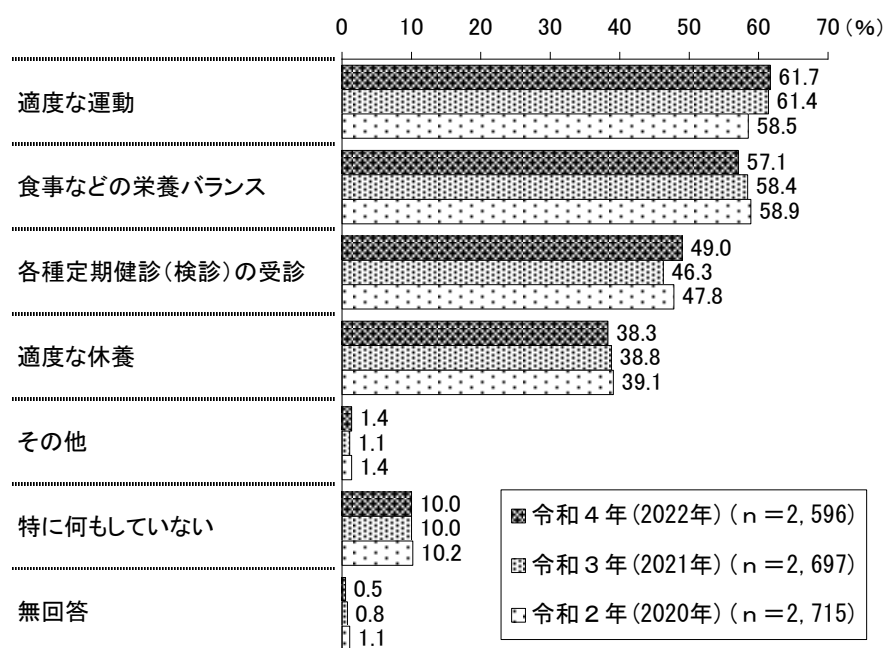
## (2) 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が6割強

問17 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

(〇はいくつでも)

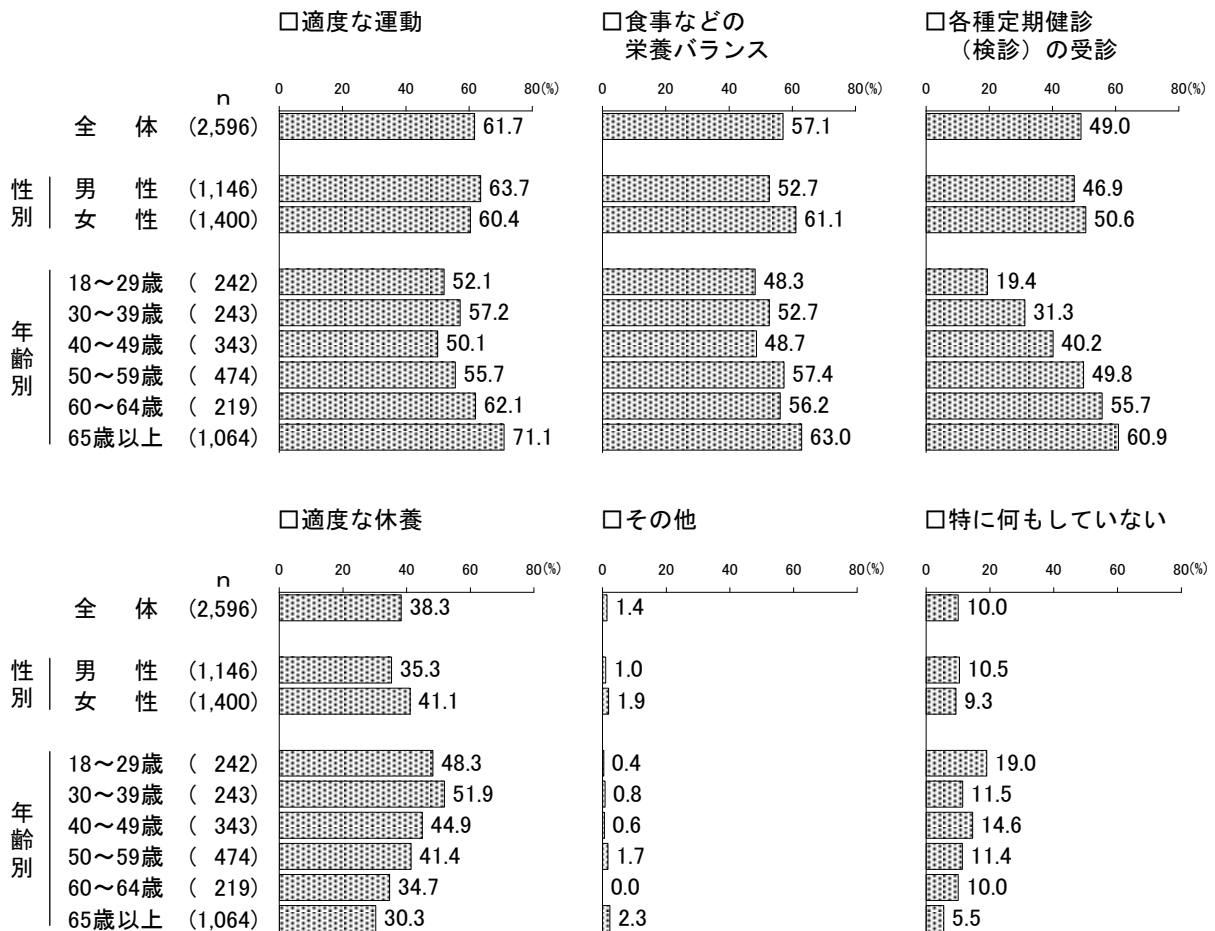
図3-2-1 健康のために心がけていることー全体、経年比較



健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」(61.7%)が6割強で最も多くなっている。次いで「食事などの栄養バランス」(57.1%)、「各種定期健診(検診)の受診」(49.0%)、「適度な休養」(38.3%)の順となっている。一方、「特に何もしていない」(10.0%)は1割となっている。

前回までの調査と比較すると、「各種定期健診(検診)の受診」は令和3年(2021年)(46.3%)より2.7ポイント増加している。(図3-2-1)

図3-2-2 健康のために心がけていることー性別、年齢別

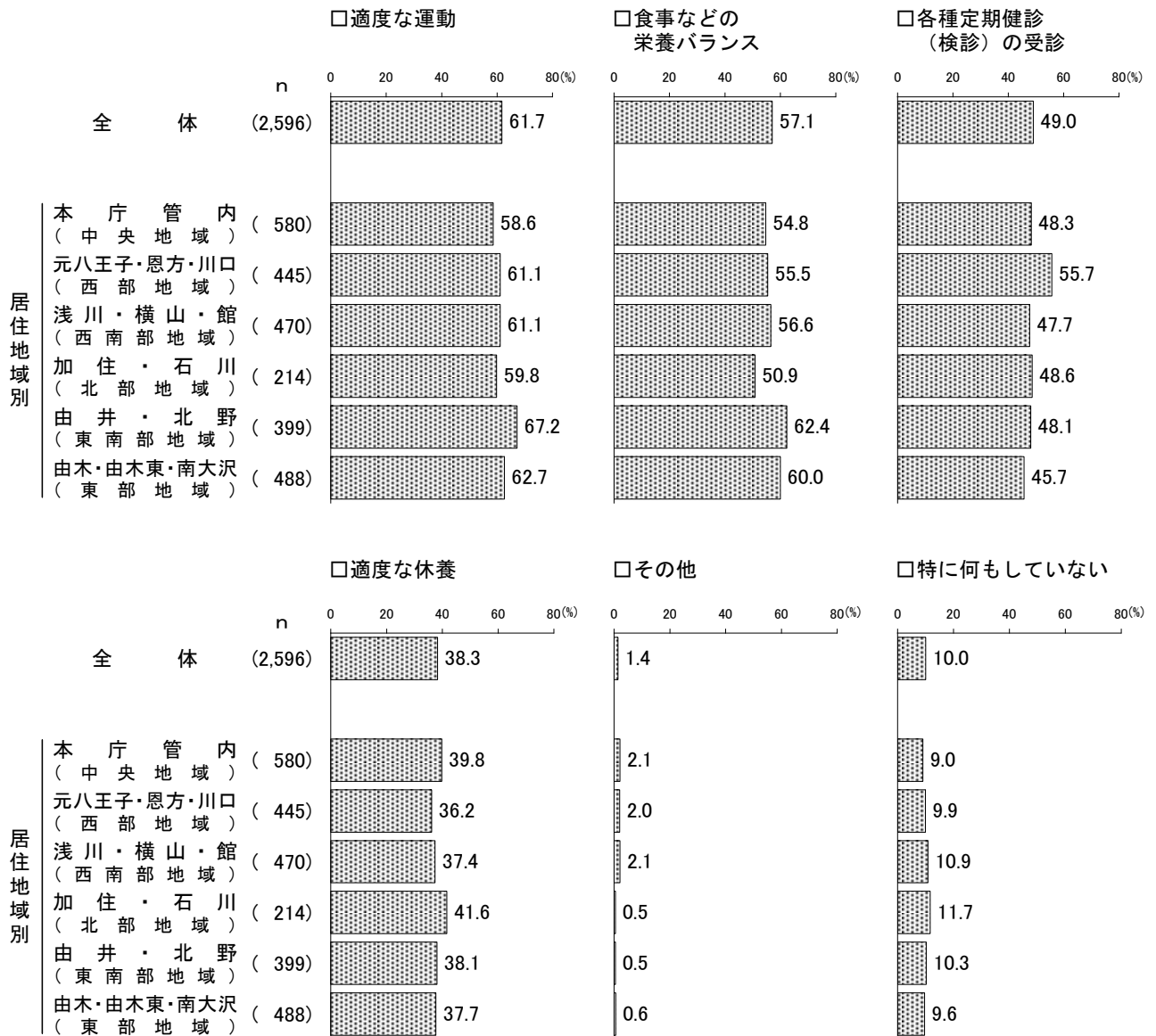


性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（61.1%）が男性（52.7%）より8.4ポイント、「適度な休養」は女性（41.1%）が男性（35.3%）より5.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「適度な運動」は男性（63.7%）が女性（60.4%）より3.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」は65歳以上（71.1%）で7割強と多くなっている。「食事などの栄養バランス」は65歳以上（63.0%）で6割強と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（60.9%）で約6割と多くなっている。

(図3-2-2)

図3-2-3 健康のために心がけていることー居住地域別



居住地域別にみると、「適度な運動」は由井・北野（東南部地域）（67.2%）で7割近くと多くなっている。「食事などの栄養バランス」は由井・北野（東南部地域）（62.4%）で6割強と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（55.7%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-2-3）

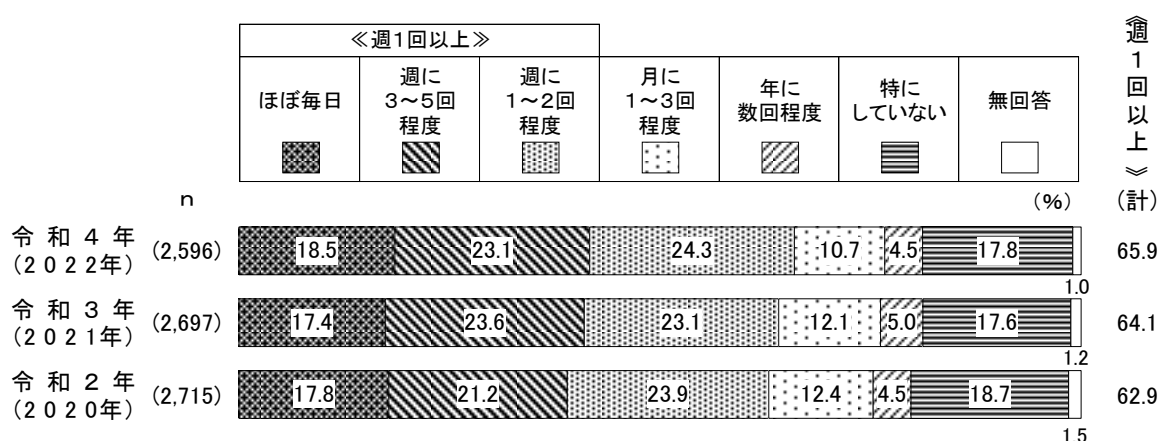
### (3) この1年間の運動頻度

◇《週1回以上》が6割台半ば

問18 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計回数をお答えください。(○は1つだけ)

※運動には、野外活動（登山やハイキングなど）や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩（散策、ペットの散歩を含む）などで1日合計30分以上行うものも含めます。

図3-3-1 この1年間の運動頻度—全体、経年比較

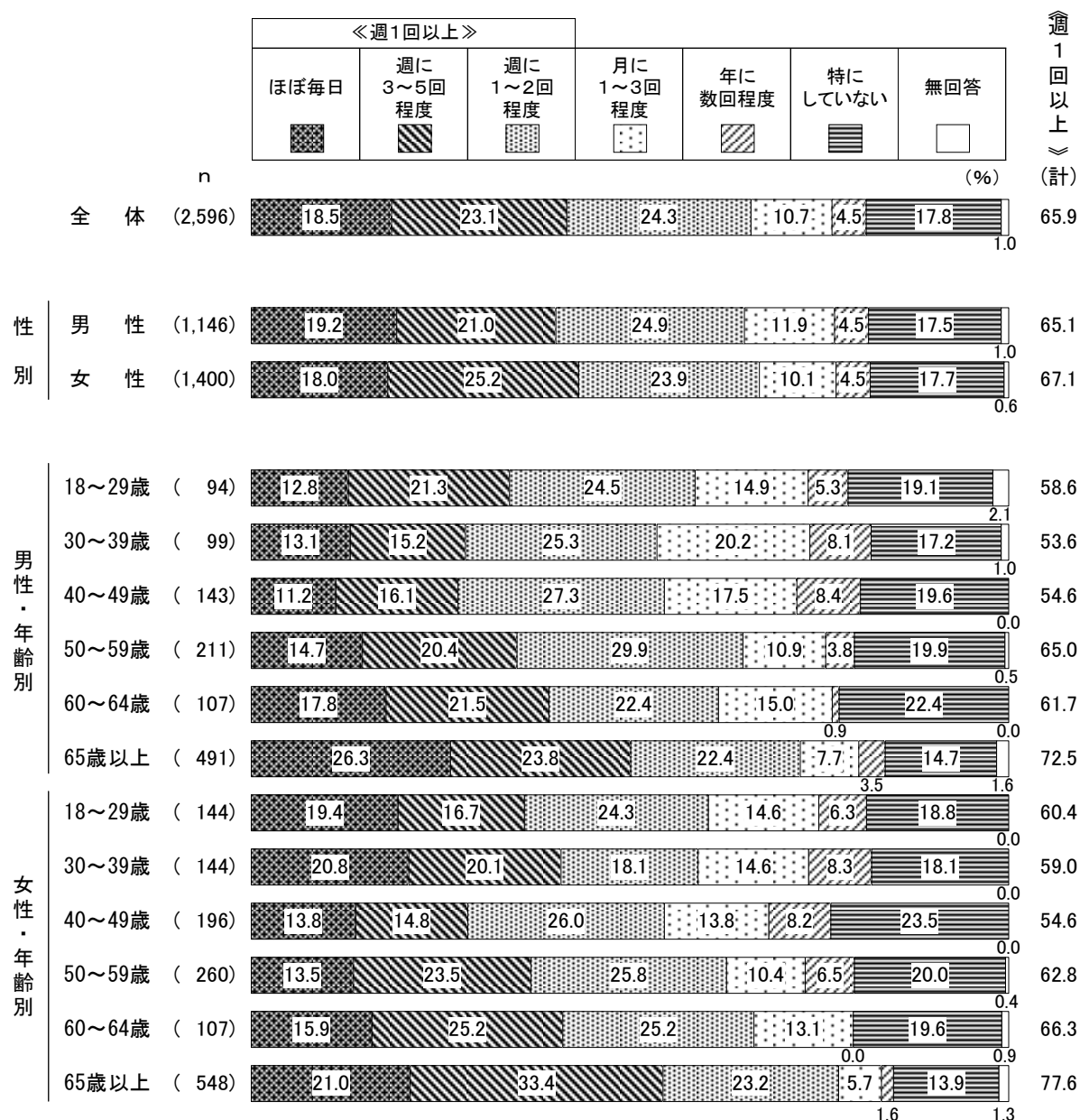


この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」(18.5%)、「週に3~5回程度」(23.1%)、「週に1~2回程度」(24.3%)の3つを合わせた《週1回以上》(65.9%)は6割台半ばとなっている。また、「月に1~3回程度」(10.7%)は約1割、「年に数回程度」(4.5%)は1割未満となっている。一方、「特にしていない」(17.8%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-3-1)

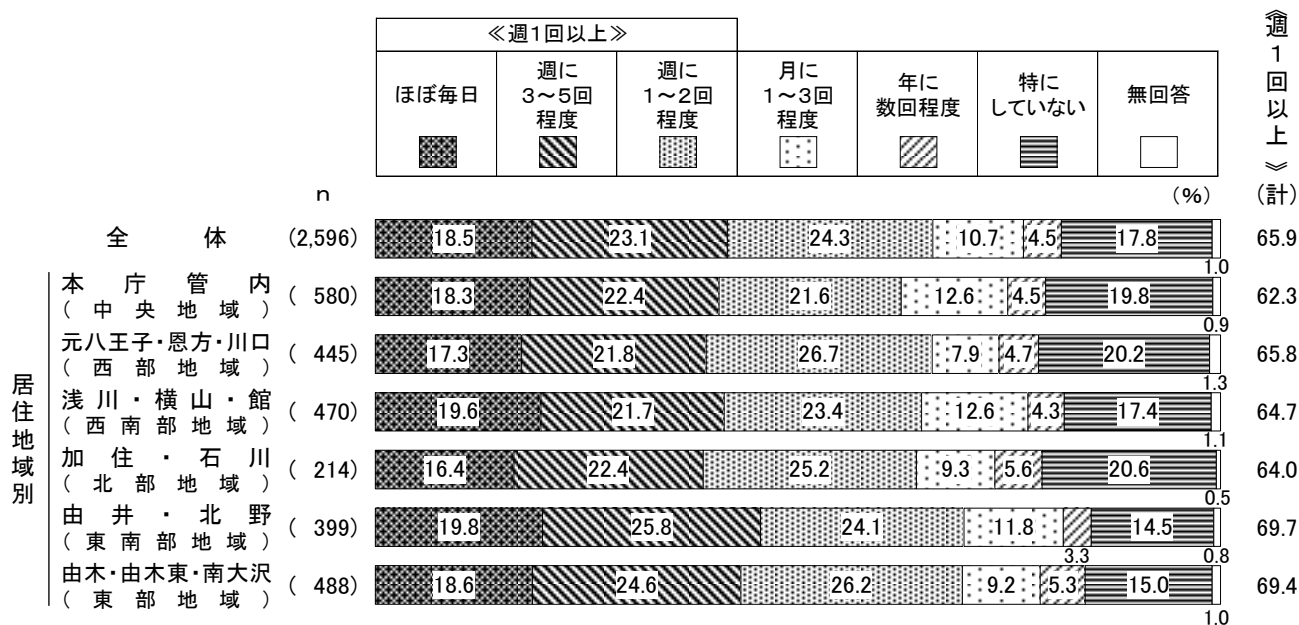
図3-3-2 この1年間の運動頻度—性別、性・年齢別



性別にみると、《週1回以上》は女性（67.1%）が男性（65.1%）より2.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《週1回以上》は女性65歳以上（77.6%）で8割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は女性40~49歳（23.5%）と男性60~64歳（22.4%）で2割強と多くなっている。（図3-3-2）

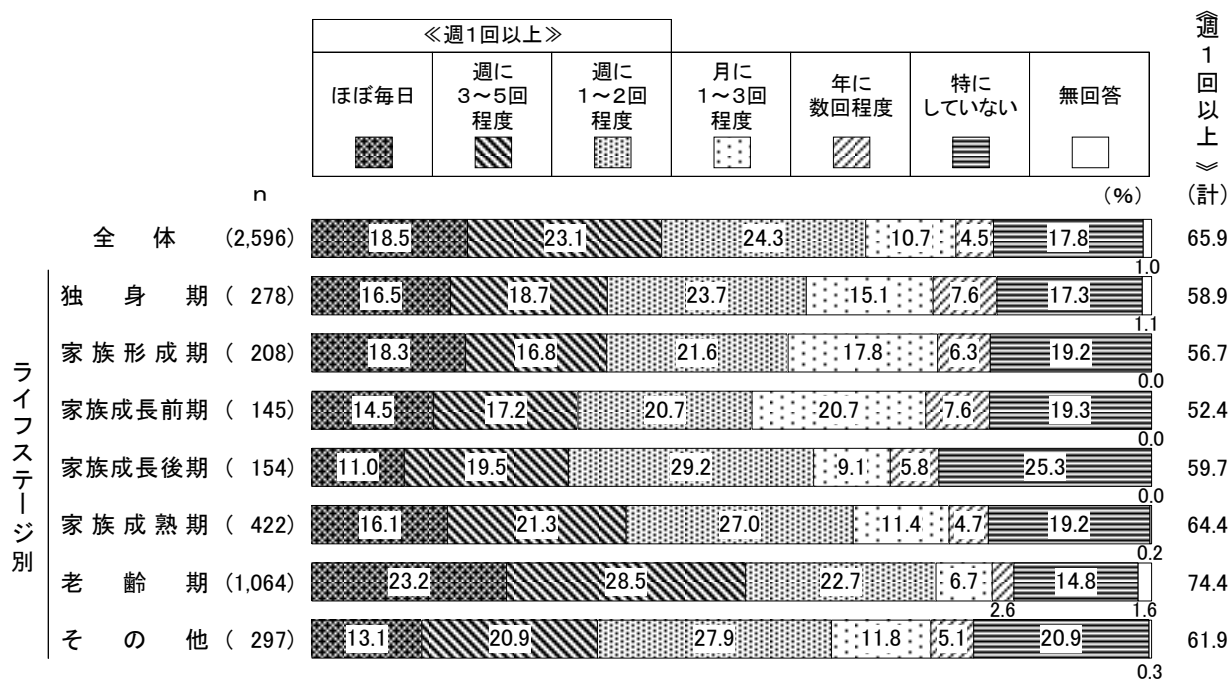
図3-3-3 この1年間の運動頻度—居住地地域別



居住地地域別にみると、《週1回以上》は由井・北野（東南部地域）（69.7%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（69.4%）で7割弱と多くなっている。一方、「特にしていない」は加住・石川（北部地域）（20.6%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（20.2%）で約2割と多くなっている。

(図3-3-3)

図3-3-4 この1年間の運動頻度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《週1回以上》は老齢期（74.4%）で7割台半ば、家族成熟期（64.4%）で6割台半ばと多くなっている。一方、「特にしていない」は家族成長後期（25.3%）で2割台半ばと多くなっている。(図3-3-4)

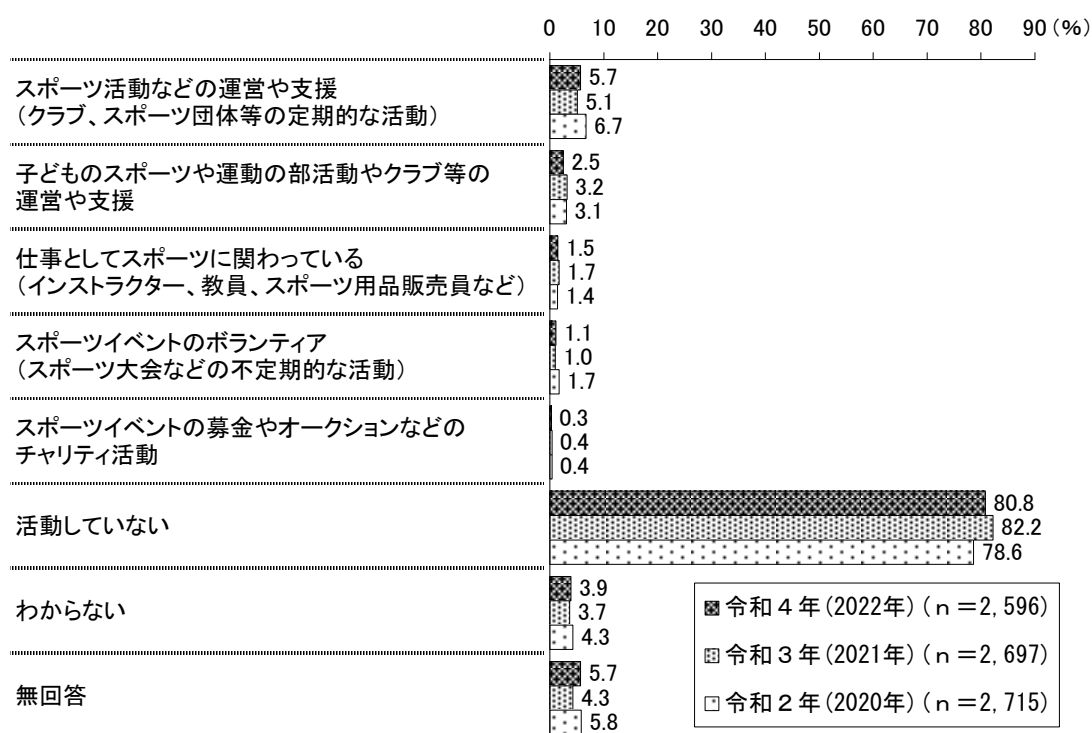


#### (4) この1年間に関わったスポーツを支える活動

◇「活動していない」が約8割

問19 この中に、あなたがこの1年間に関わったスポーツを支える活動がありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

図3-4-1 この1年間に関わったスポーツを支える活動—全体、経年比較

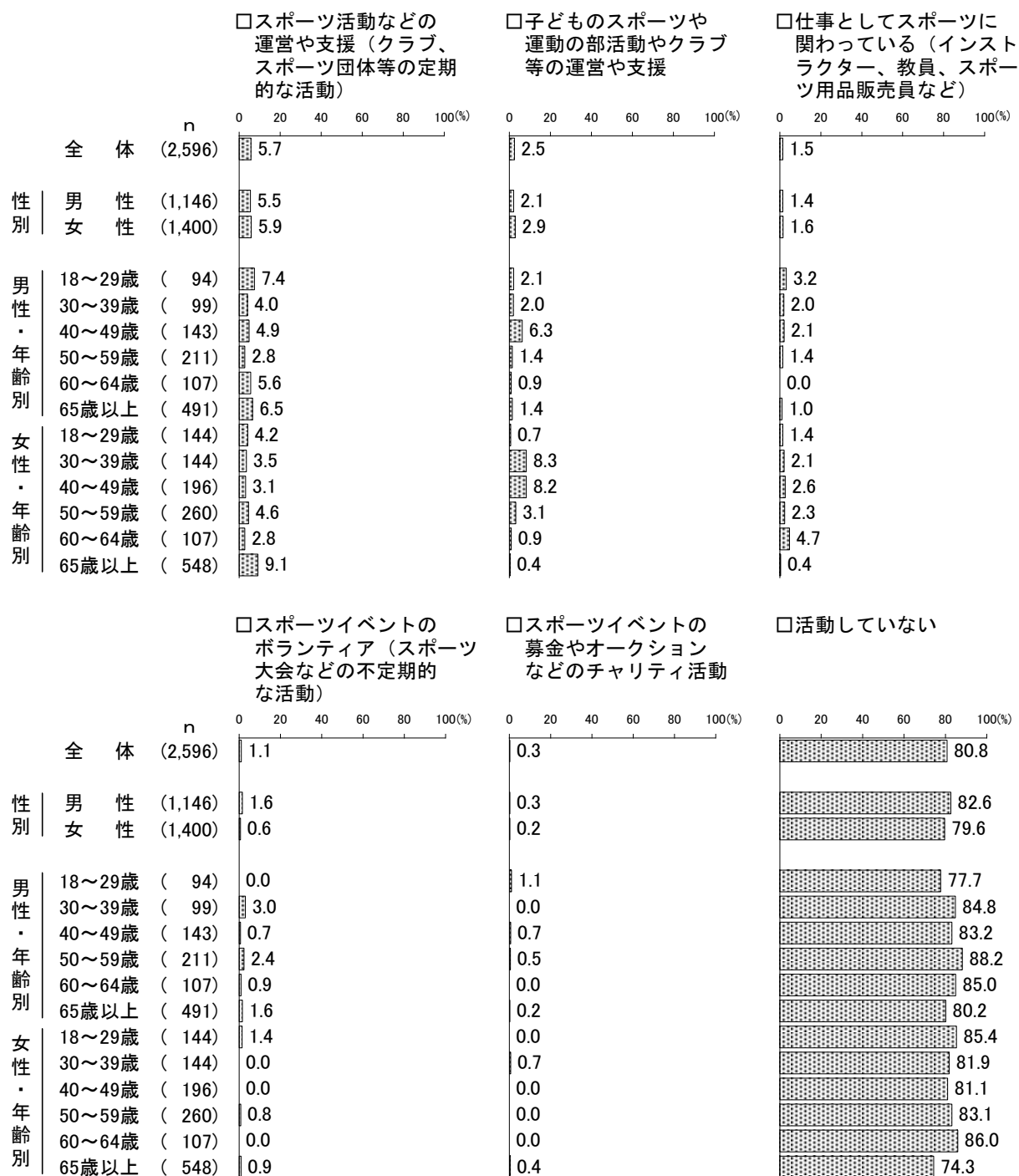


この1年間に関わったスポーツを支える活動を聞いたところ、「活動していない」(80.8%)が約8割となっている。活動した中では、「スポーツ活動などの運営や支援(クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動)」(5.7%)、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」(2.5%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-4-1)

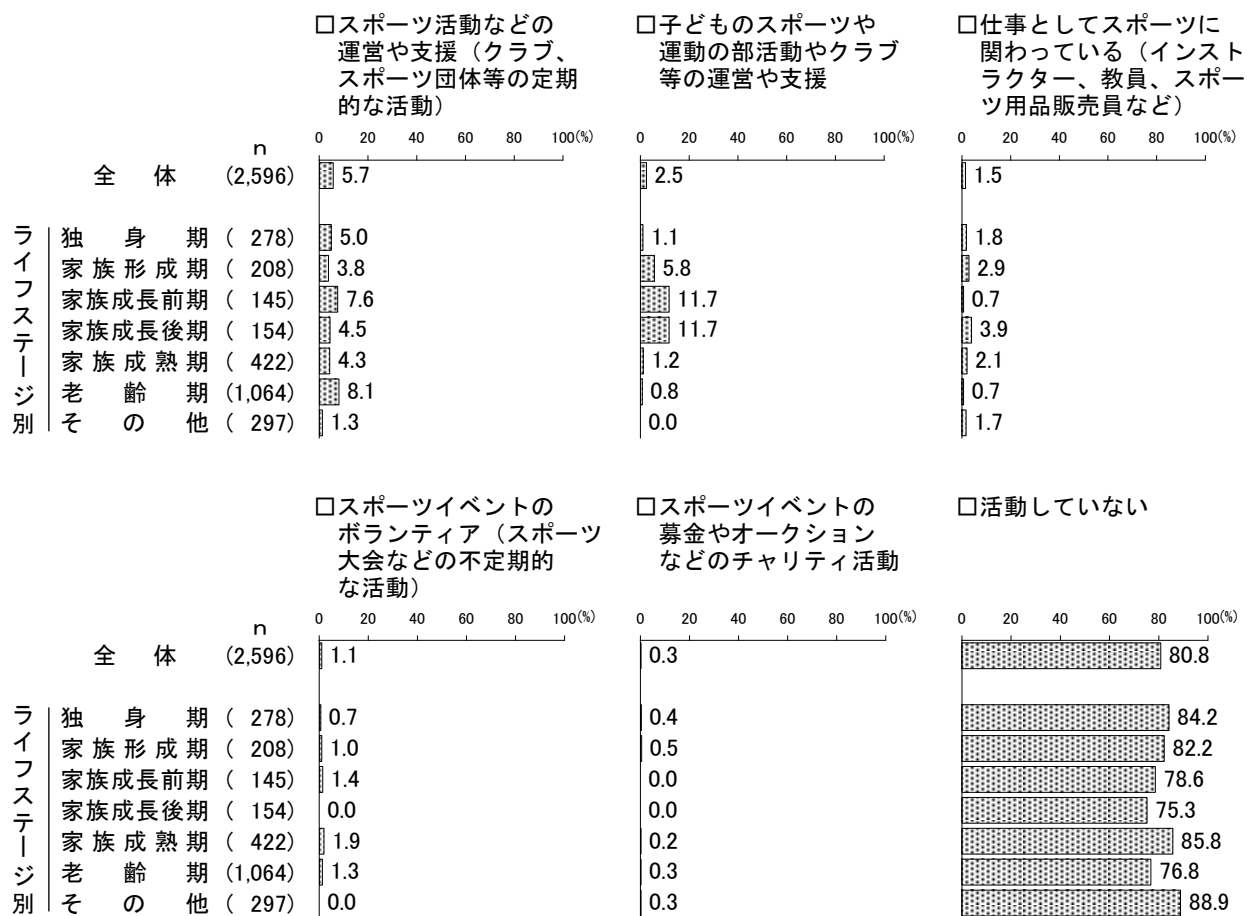
図3-4-2 この1年間に関わったスポーツを支える活動—性別、性・年齢別  
 (「わからない」を除く)



性別にみると、「活動していない」は男性（82.6%）が女性（79.6%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「スポーツ活動などの運営や支援（クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動）」は女性65歳以上（9.1%）で1割弱となっている。一方、「活動していない」は男性50~59歳（88.2%）と女性60~64歳（86.0%）で9割近くと多くなっている。（図3-4-2）

図3-4-3 この1年間に関わったスポーツを支える活動－ライフステージ別  
 (「わからない」を除く)



ライフステージ別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は家族成長前期と家族成長後期（ともに11.7%）で1割強となっている。一方、「活動していない」はその他（88.9%）で9割近くと多くなっている。（図3-4-3）

## (5) パラスポーツへの関心

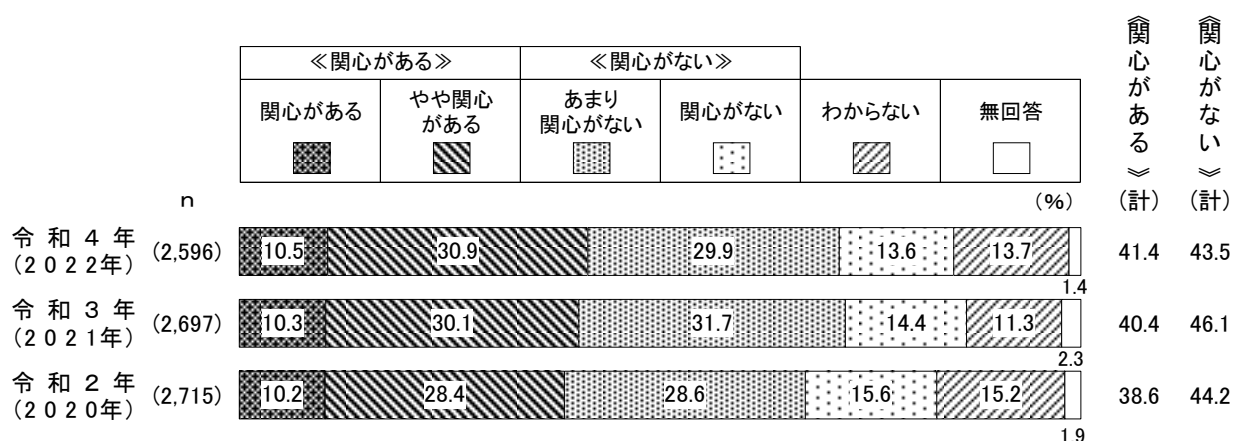
◇《関心がある》が4割強

問20 あなたは、パラスポーツに関心がありますか。(○は1つだけ)

※「パラスポーツ」とは・・・

障害があってもスポーツ活動ができるよう、障害に応じ競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障害を補ったりする工夫・適合・開発がされたスポーツのことです。

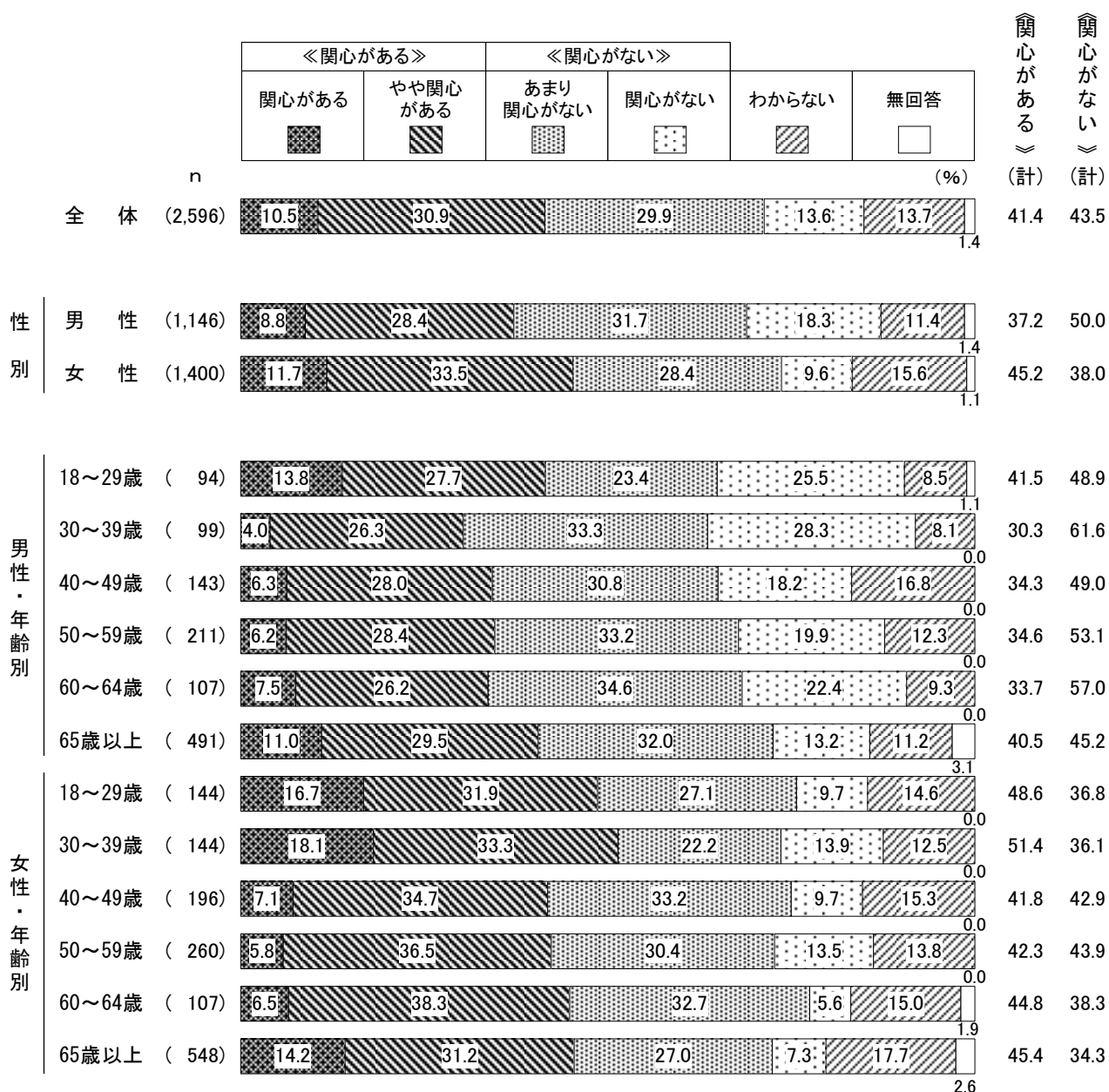
図3-5-1 パラスポーツへの関心—全体、経年比較



パラスポーツへの関心を聞いたところ、「関心がある」(10.5%)と「やや関心がある」(30.9%)を合わせた《関心がある》(41.4%)は4割強となっている。一方、「あまり関心がない」(29.9%)と「関心がない」(13.6%)を合わせた《関心がない》(43.5%)は4割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《関心がない》は令和3年(2021年)(46.1%)より2.6ポイント減少している。(図3-5-1)

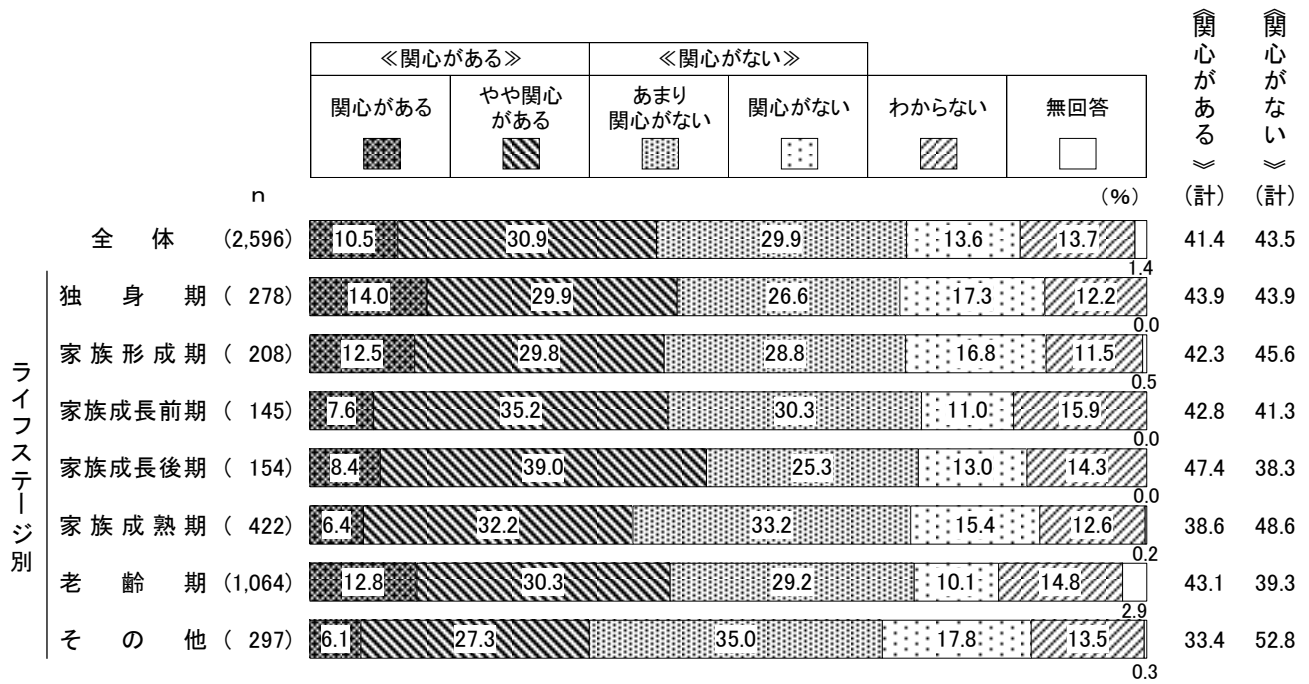
図3-5-2 パラスポーツへの関心—性別、性・年齢別



性別にみると、《関心がある》は女性（45.2%）が男性（37.2%）より8.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《関心がある》は女性30～39歳（51.4%）で5割強と多くなっている。一方、《関心がない》は男性30～39歳（61.6%）で6割強と多くなっている。（図3-5-2）

図3-5-3 パラスポーツへの関心—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《関心がある》は家族成長後期（47.4%）で5割近くと多くなっている。一方、《関心がない》はその他（52.8%）で5割強と多くなっている。（図3-5-3）

## (6) かかりつけの医療機関の有無

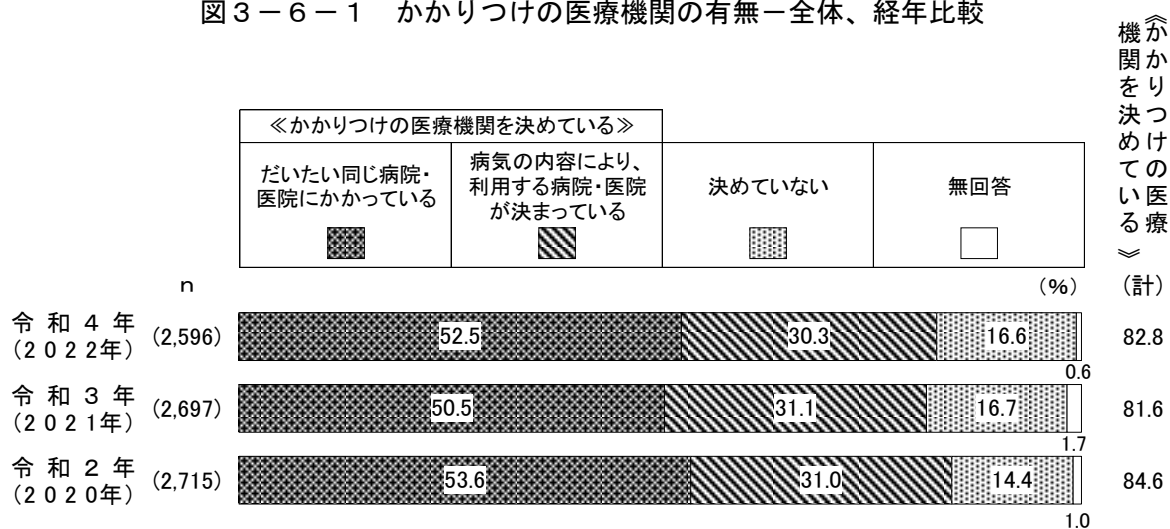
◇《かかりつけの医療機関を決めている》が8割強

問21 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(〇は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

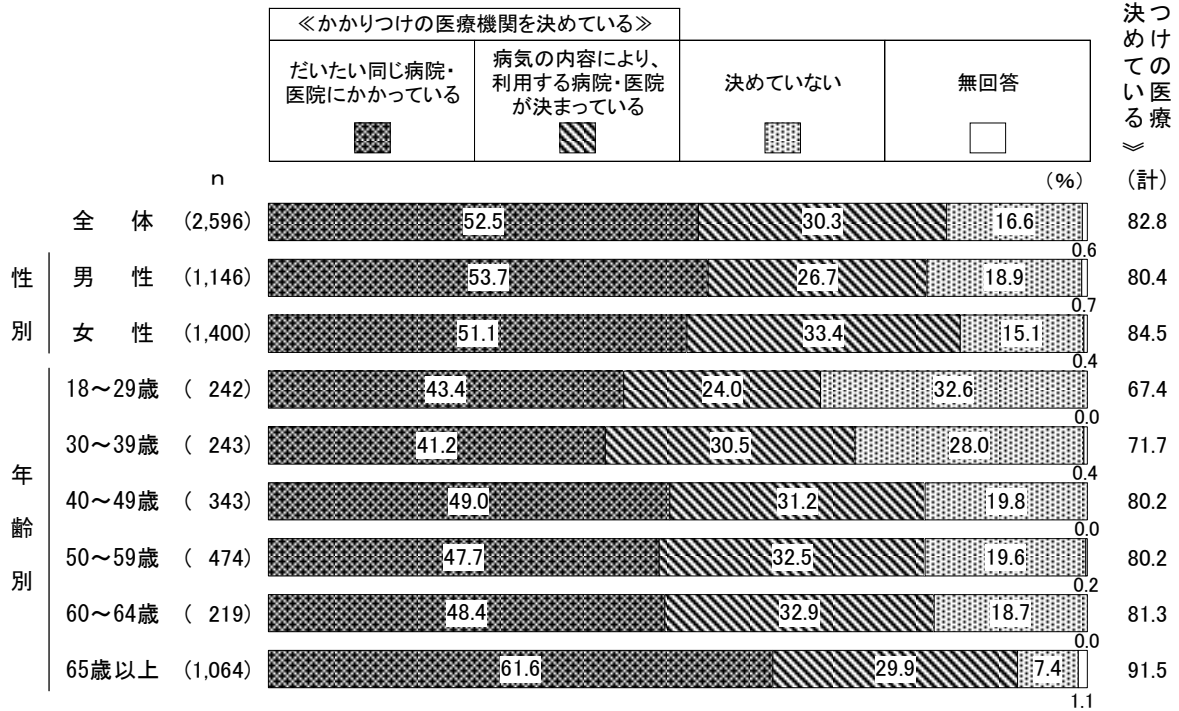
図3-6-1 かかりつけの医療機関の有無-全体、経年比較



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(52.5%)と「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(30.3%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》(82.8%)は8割強となっている。一方、「決めていない」(16.6%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」は令和3年(2021年)(50.5%)より2.0ポイント増加している。(図3-6-1)

図3-6-2 かかりつけの医療機関の有無－性別、年齢別

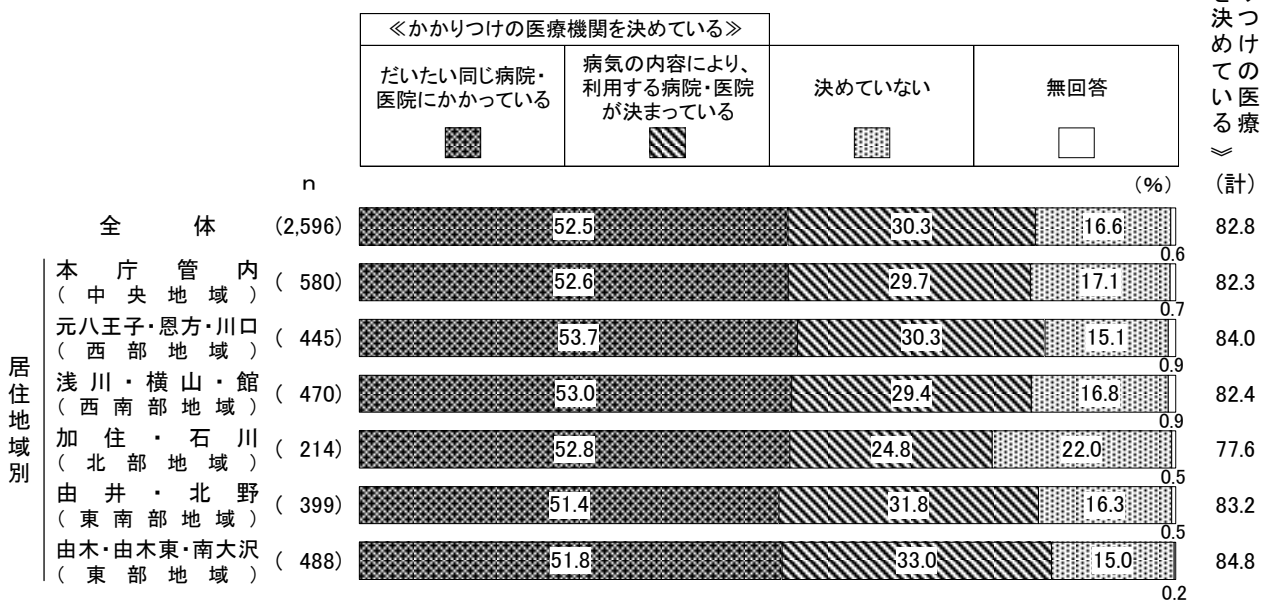


性別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は女性（84.5%）が男性（80.4%）より4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は65歳以上（91.5%）で9割強と多くなっている。一方、「決めていない」は18～29歳（32.6%）で3割強と多くなっている。

(図3-6-2)

図3-6-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



居住地域別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（84.8%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（84.0%）で8割台半ばと多くなっている。

(図3-6-3)



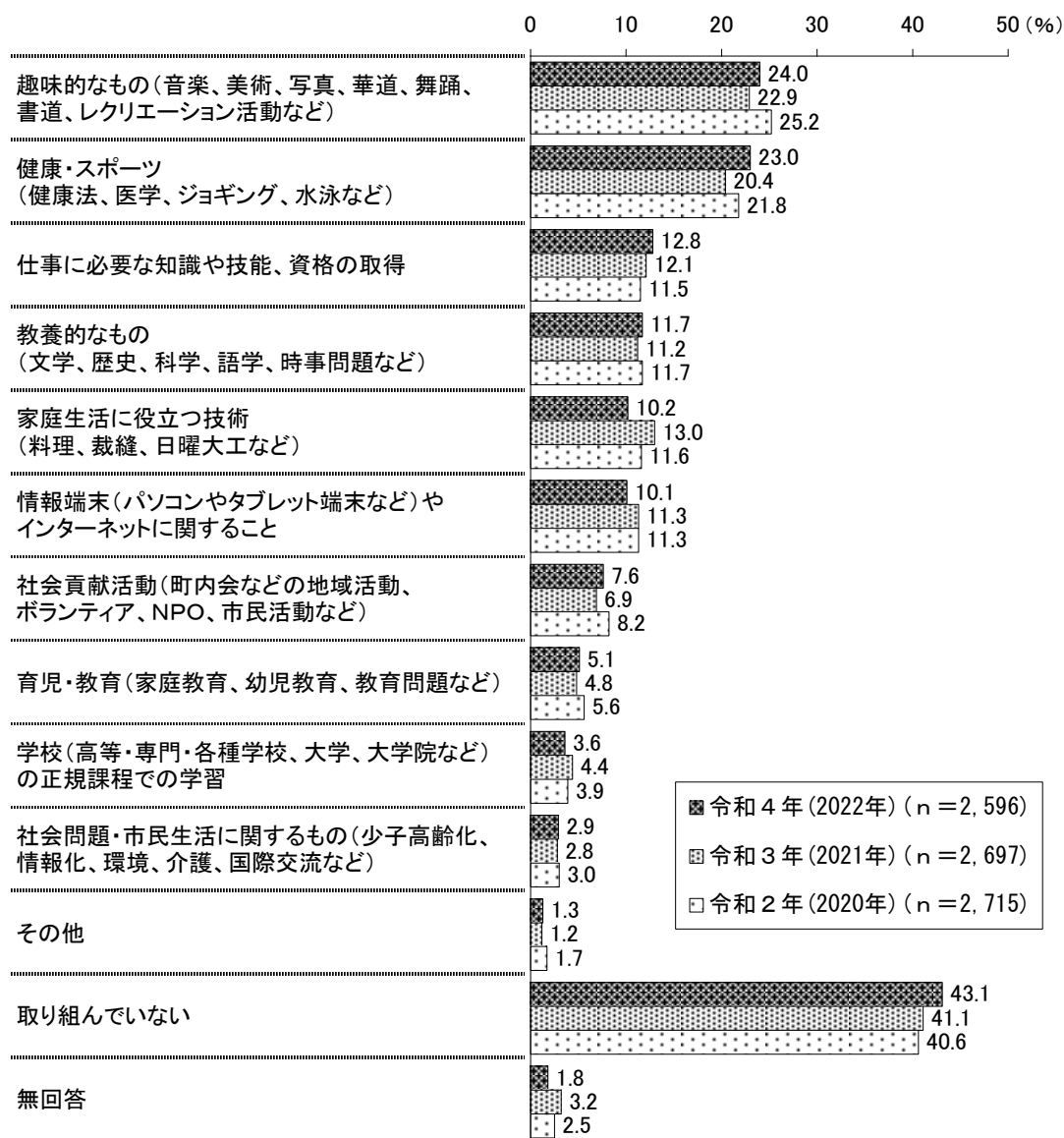
## (7) この1年間に取り組んだ生涯学習活動

◇「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」が2割台半ば

問22 あなたは、この1年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。

(○はいくつでも)

図3-7-1 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—全体、経年比較

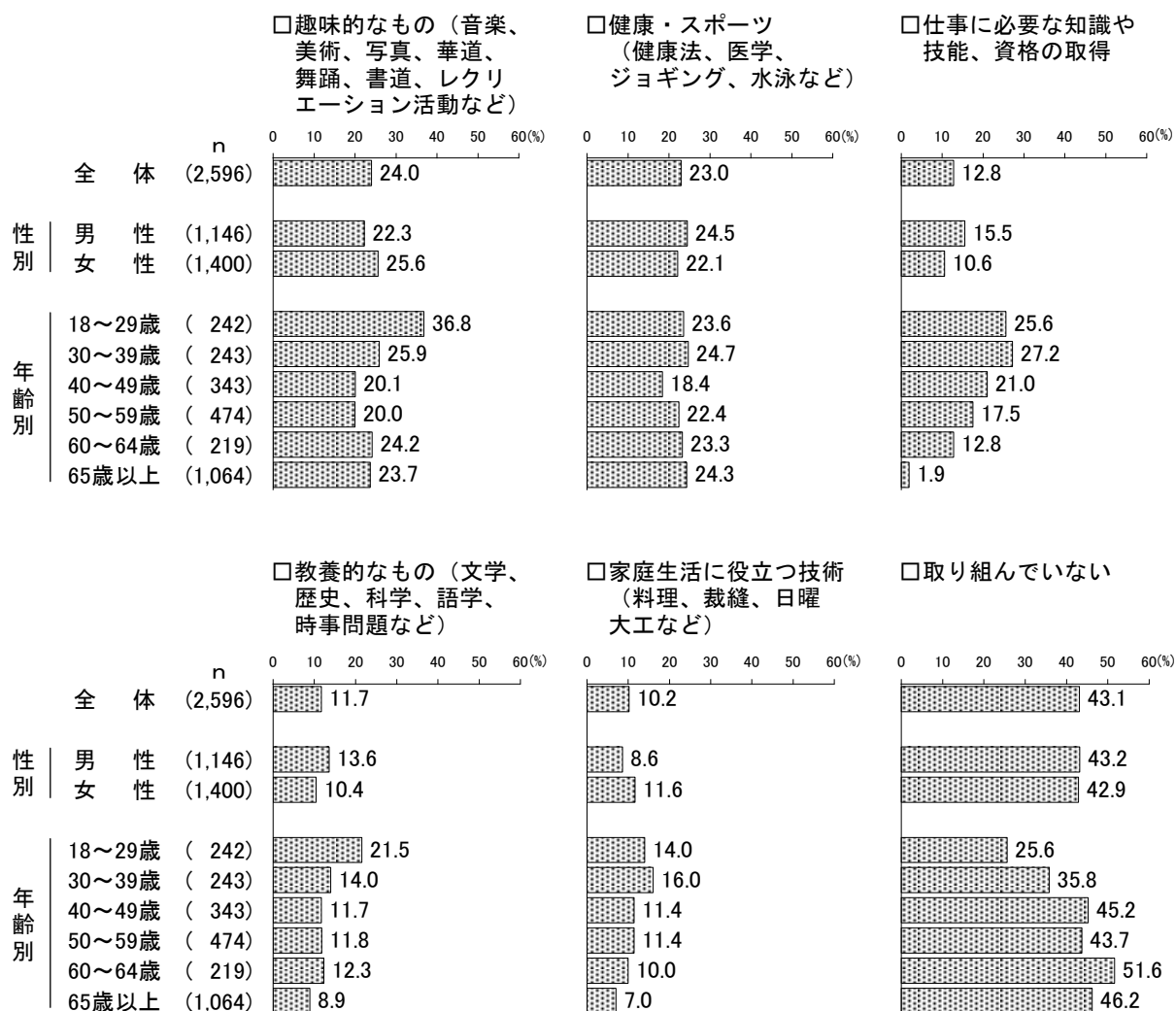


この1年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」(24.0%)が2割台半ばで最も多くなっている。次いで「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」(23.0%)、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」(12.8%)などの順となっている。一方、「取り組んでいない」(43.1%)は4割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」は令和3年(2021年)(20.4%)より2.6ポイント増加している。一方、「家庭生活に役立つ技術(料理、裁縫、日曜大工など)」は令和3年(2021年)(13.0%)より2.8ポイント減少している。

(図3-7-1)

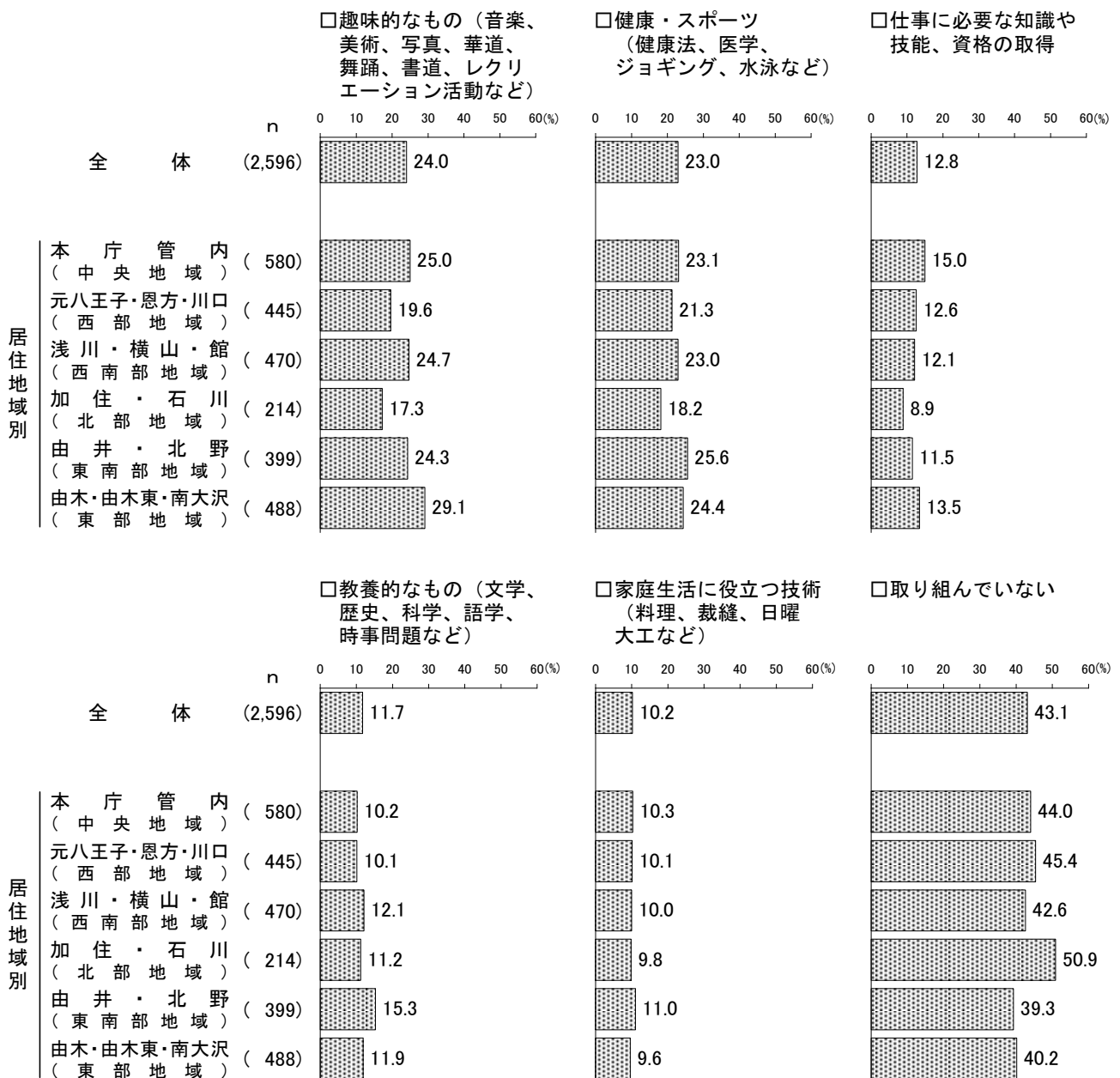
図3-7-2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—性別、年齢別（上位5位+「取り組んでいない」）



性別にみると、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は男性（15.5%）が女性（10.6%）より4.9ポイント高くなっている。一方、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は女性（25.6%）が男性（22.3%）より3.3ポイント高くなっている。

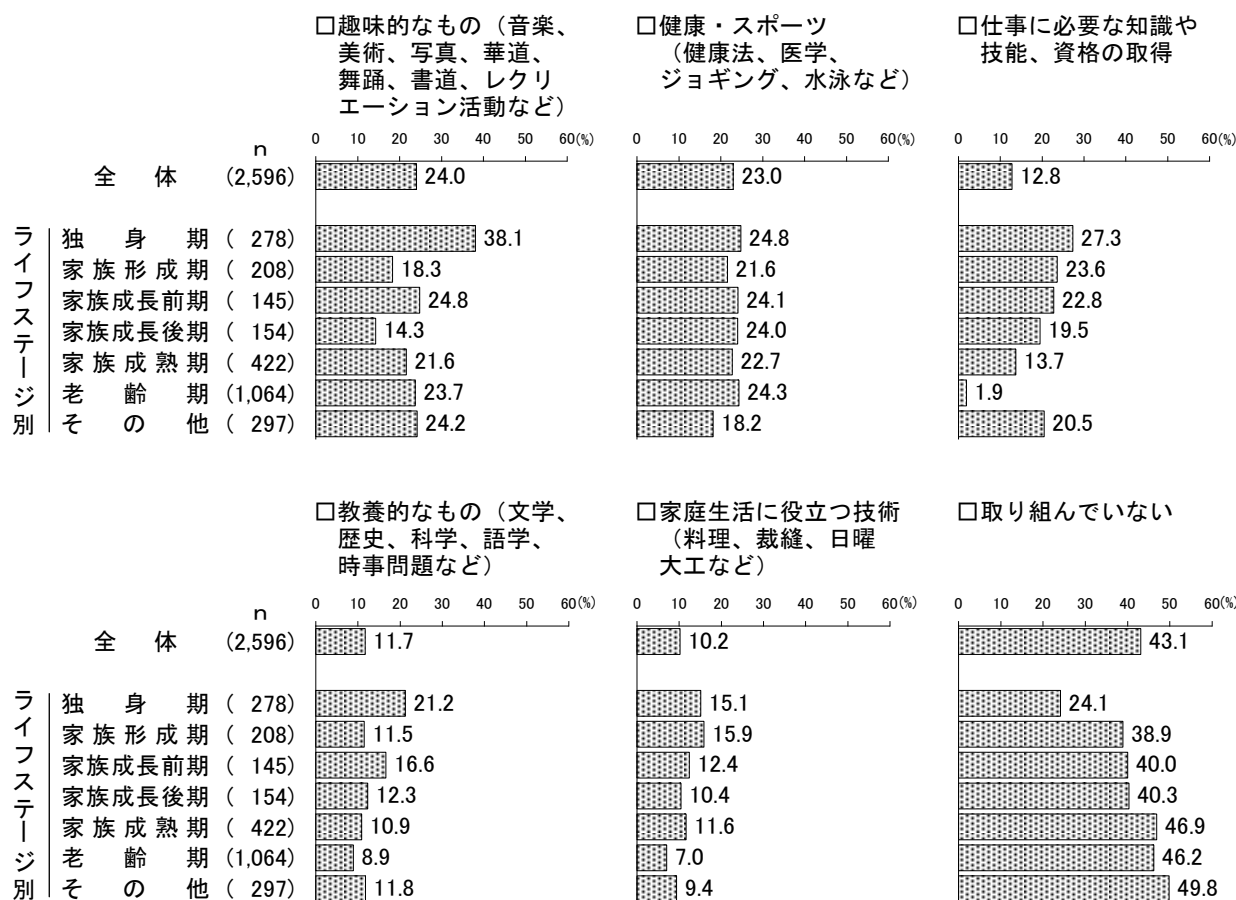
年齢別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は18~29歳（36.8%）で4割近くと多くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は30~39歳（27.2%）で3割近くと多くなっている。一方、「取り組んでいない」は60~64歳（51.6%）で5割強と多くなっている。（図3-7-2）

図3-7-3 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—居住地域別（上位5位+「取り組んでいない」）



居住地域別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（29.1%）で3割弱と多くなっている。「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」は由井・北野（東南部地域）（25.6%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（24.4%）で2割台半ばと多くなっている。一方、「取り組んでいない」は加住・石川（北部地域）（50.9%）で約5割と多くなっている。（図3-7-3）

図3-7-4 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—ライフステージ別  
(上位5位+「取り組んでいない」)



ライフステージ別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は独身期（38.1%）で4割近くと多くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は独身期（27.3%）で3割近くと多くなっている。一方、「取り組んでいない」はその他（49.8%）で5割弱と多くなっている。（図3-7-4）

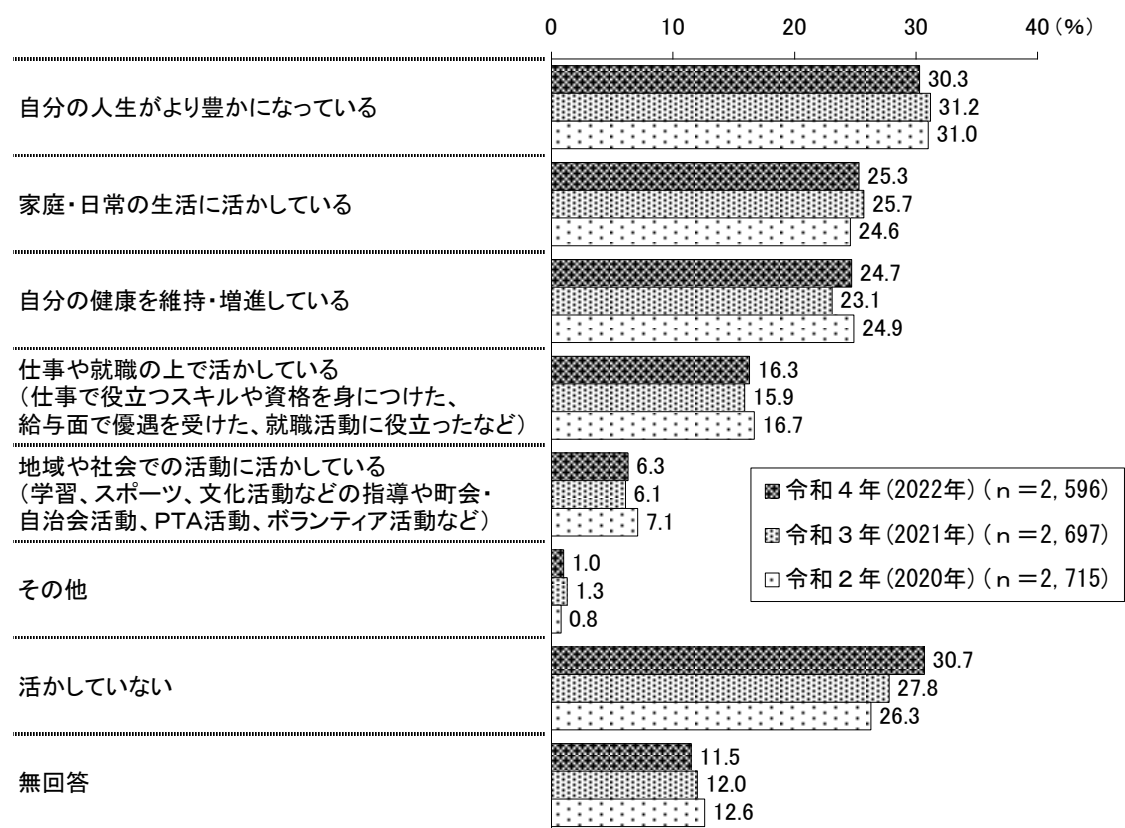
## (8) 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法

◇「自分の人生がより豊かになっている」が約3割

問23 あなたは、生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしていますか。

(〇はいくつでも)

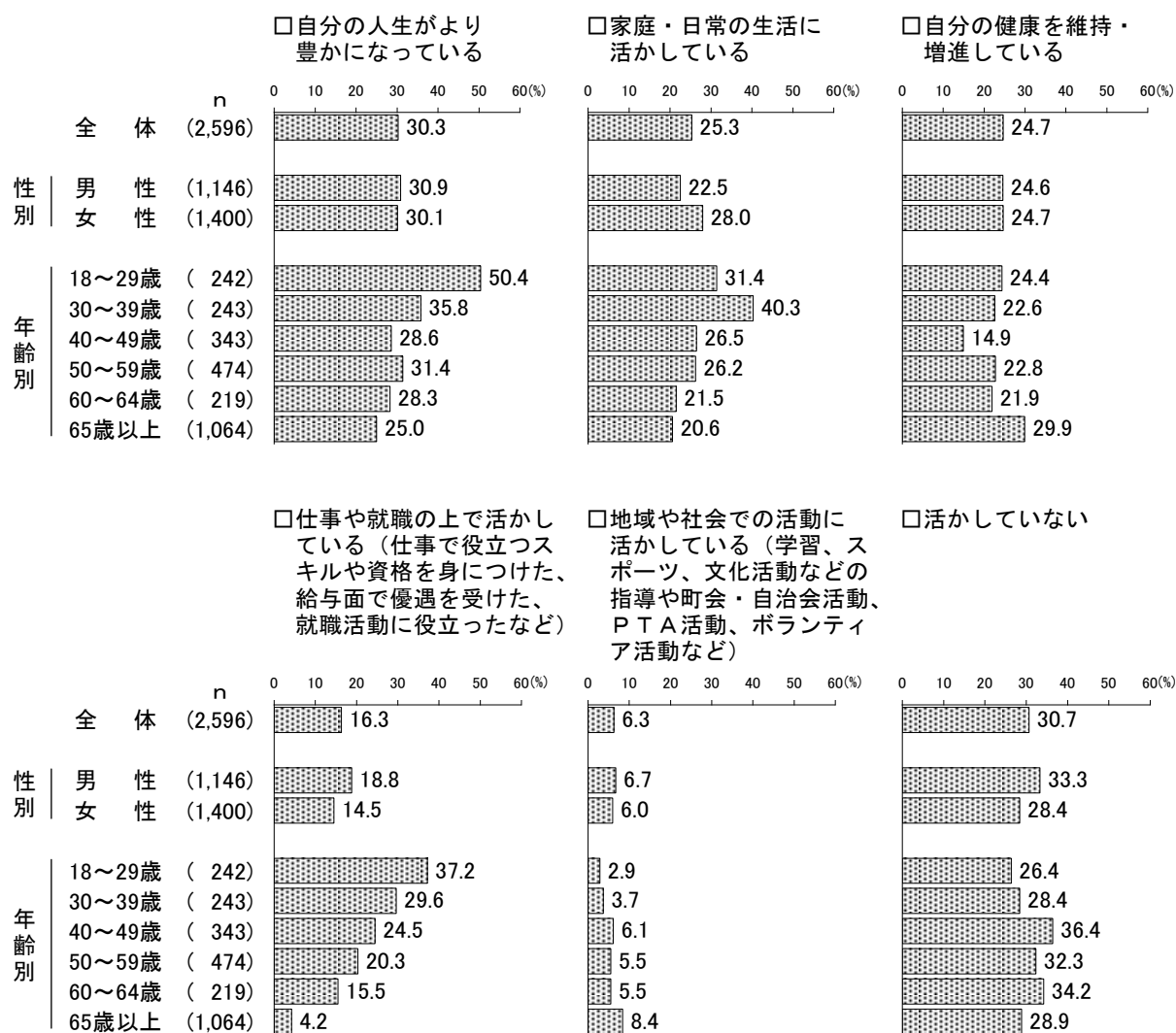
図3-8-1 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法—全体、経年比較



生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(30.3%)が約3割で最も多くなっている。次いで「家庭・日常の生活に活かしている」(25.3%)、「自分の健康を維持・増進している」(24.7%)、「仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)」(16.3%)などの順となっている。一方、「活かしていない」(30.7%)は約3割となっている。

前回までの調査と比較すると、「活かしていない」は令和3年(2021年)(27.8%)より2.9ポイント増加している。(図3-8-1)

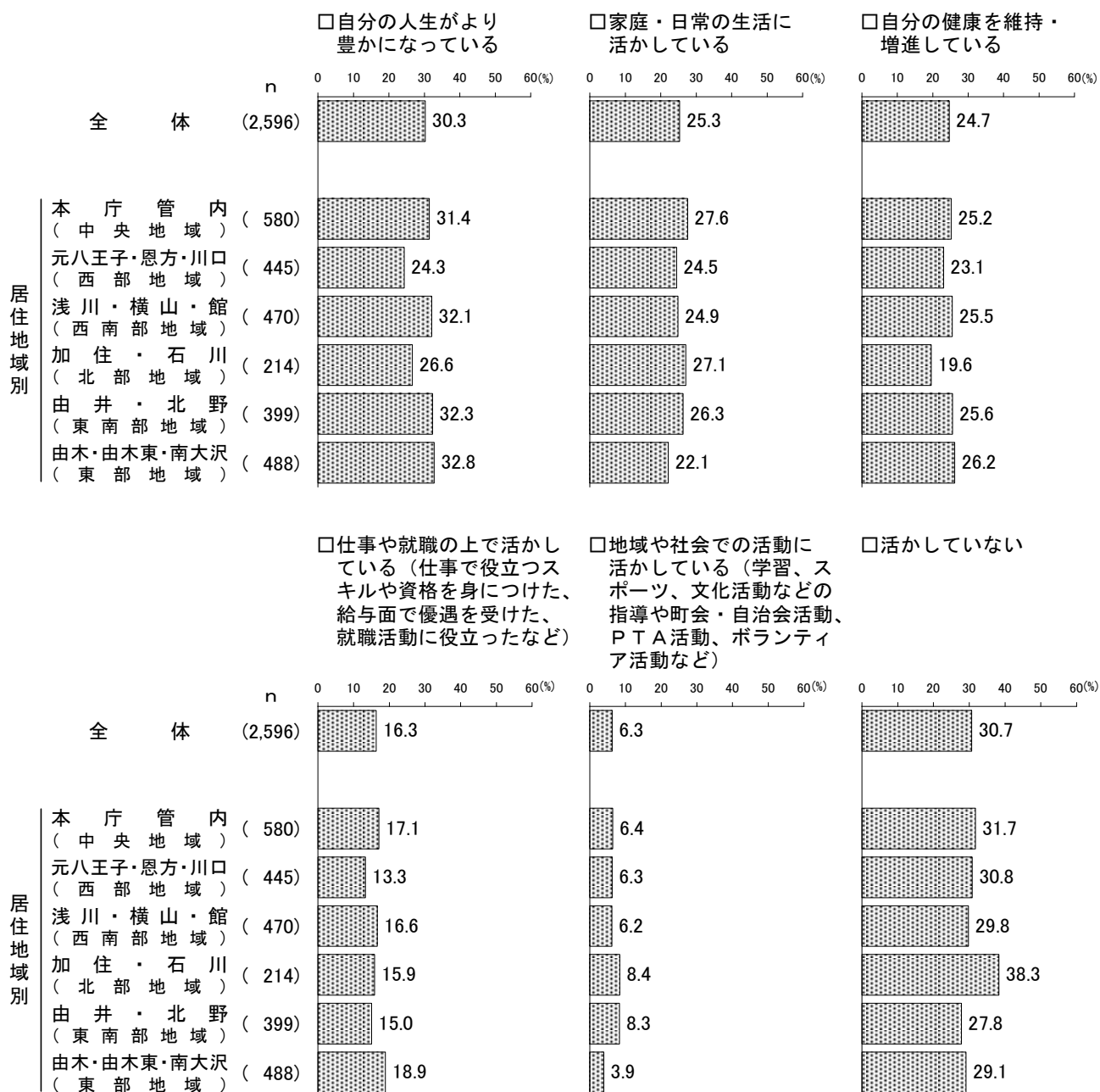
図3-8-2 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法—性別、年齢別  
(上位5位+「活かしていない」)



性別にみると、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（28.0%）が男性（22.5%）より5.5ポイント高くなっている。一方、「活かしていない」は男性（33.3%）が女性（28.4%）より4.9ポイント、「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は男性（18.8%）が女性（14.5%）より4.3ポイント、それぞれ高くなっている。

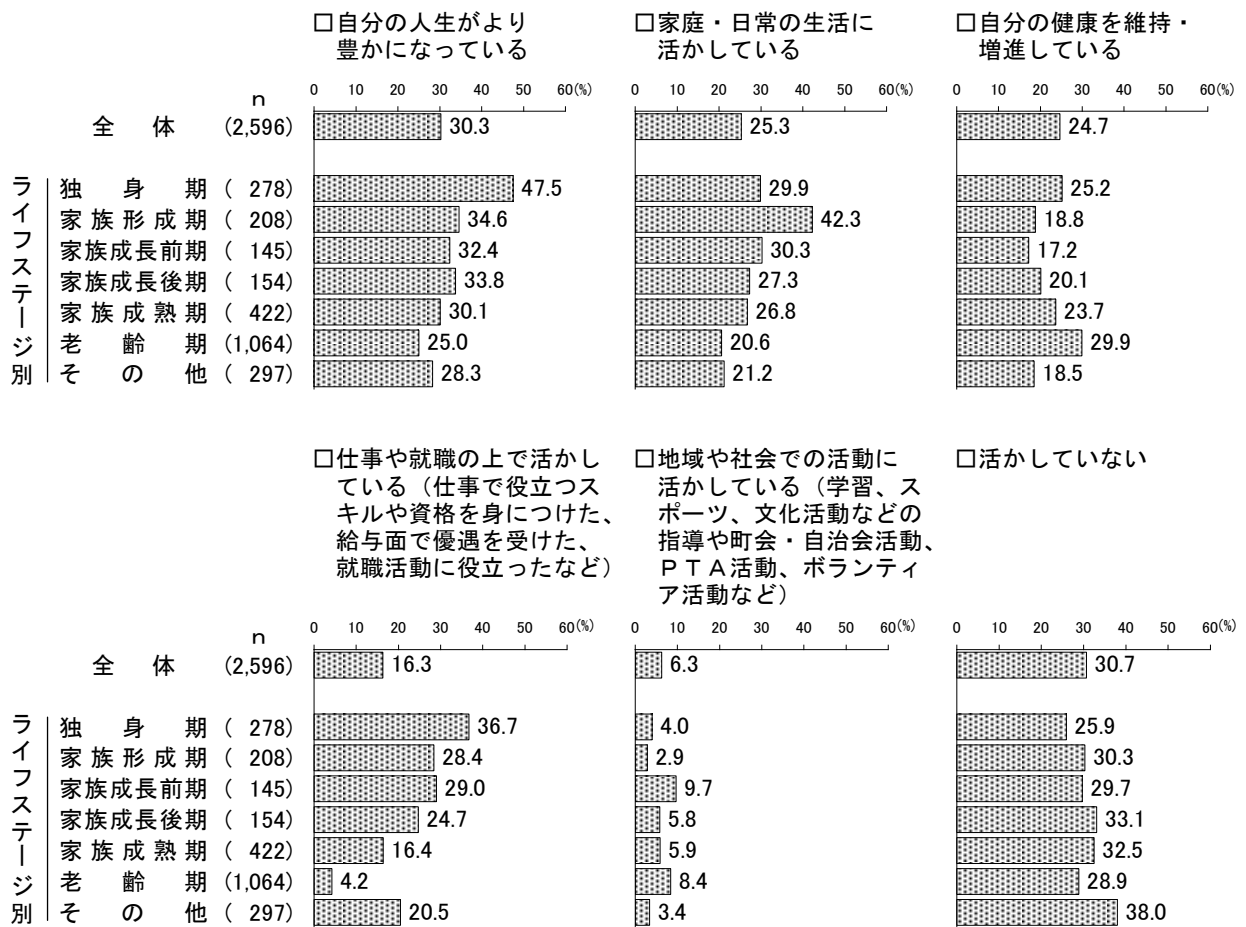
年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18~29歳（50.4%）で約5割と多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は30~39歳（40.3%）で約4割と多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は年代が低くなるほど割合が高く、18~29歳（37.2%）で4割近くと多くなっている。（図3-8-2）

図3-8-3 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法—居住地域別  
(上位5位+「活かしていない」)



居住地域別にみると、「活かしていない」は加住・石川(北部地域) (38.3%)で4割近くと多くなっている。(図3-8-3)

図3-8-4 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法—ライフステージ別  
(上位5位+「活かしていない」)



ライフステージ別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は独身期（47.5%）で5割近くと多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は家族形成期（42.3%）で4割強と多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は独身期（36.7%）で4割近くと多くなっている。（図3-8-4）



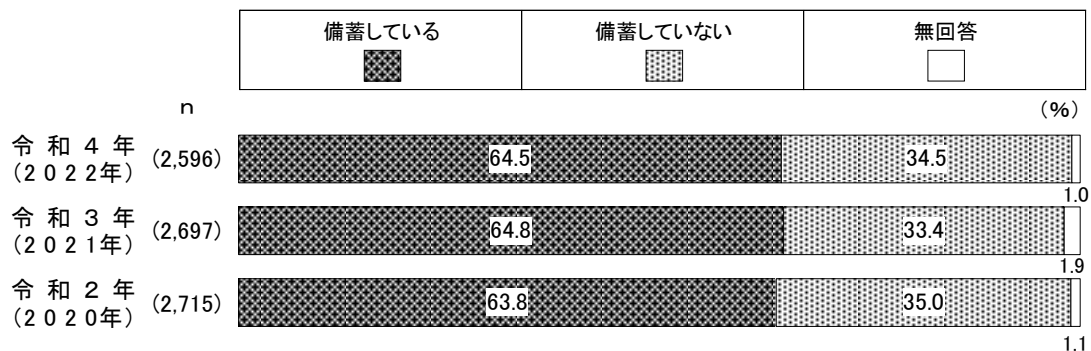
## (9) 食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割台半ば

問24 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【1. 食料について】(○は1つだけ)

図3-9-1 食料の備蓄の有無-全体、経年比較

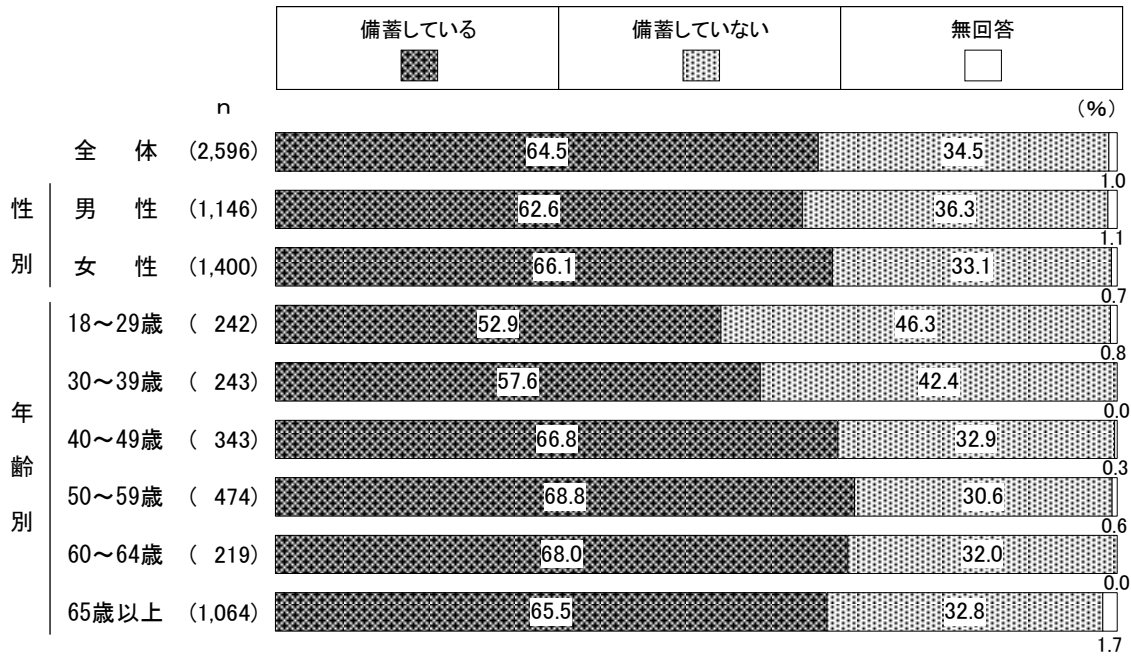


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(64.5%)が6割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」(34.5%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-9-1)

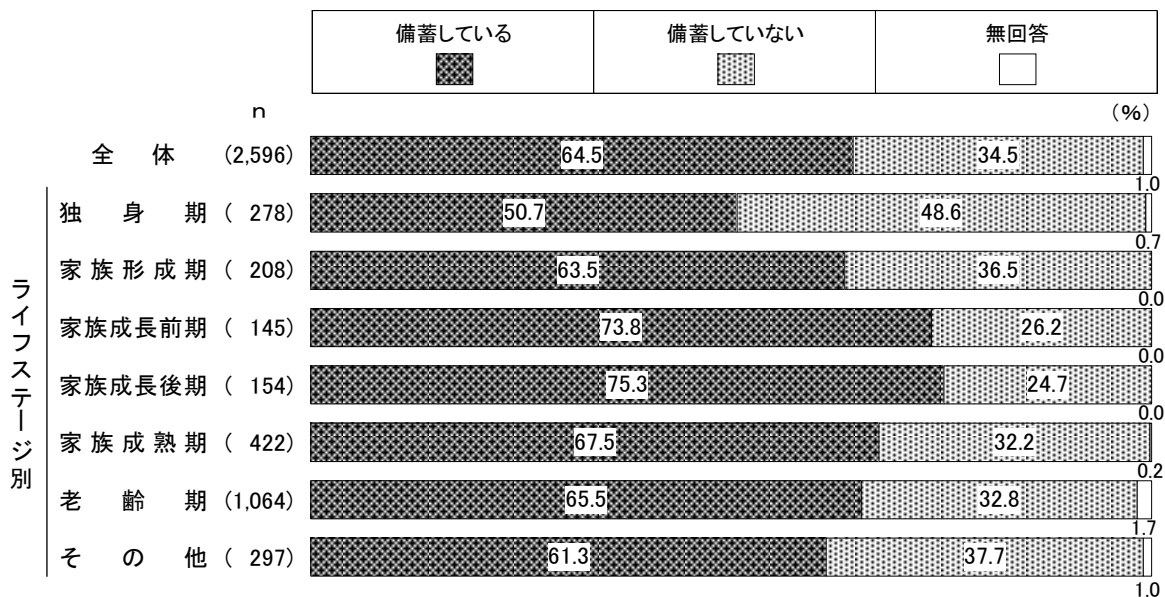
図 3-9-2 食料の備蓄の有無-性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（66.1%）が男性（62.6%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は40~49歳（66.8%）、50~59歳（68.8%）、60~64歳（68.0%）で7割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は18~29歳（46.3%）で5割近くと多くなっている。（図3-9-2）

図 3-9-3 食料の備蓄の有無-ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長後期（75.3%）で7割台半ばと多くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期（48.6%）で5割近くと多くなっている。

（図3-9-3）

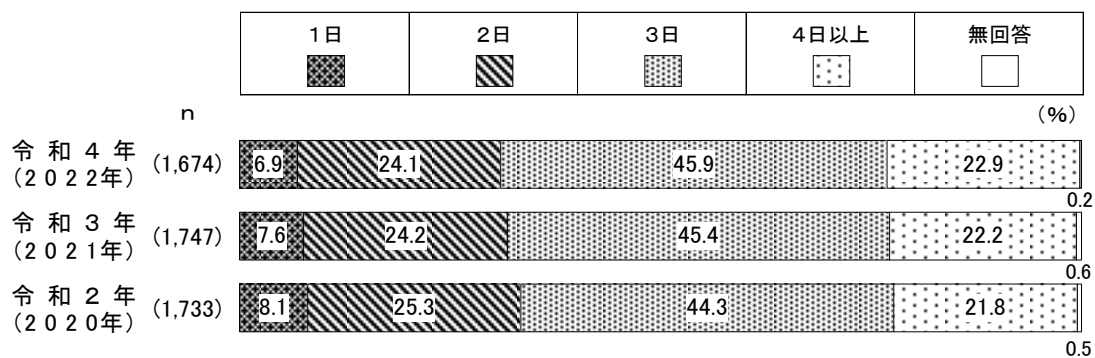
## (10) 食料の備蓄量

◇「3日」が4割台半ば

(食料を「備蓄している」とお答えの方へ)

問24-1-1 家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図3-10-1 食料の備蓄量－全体、経年比較

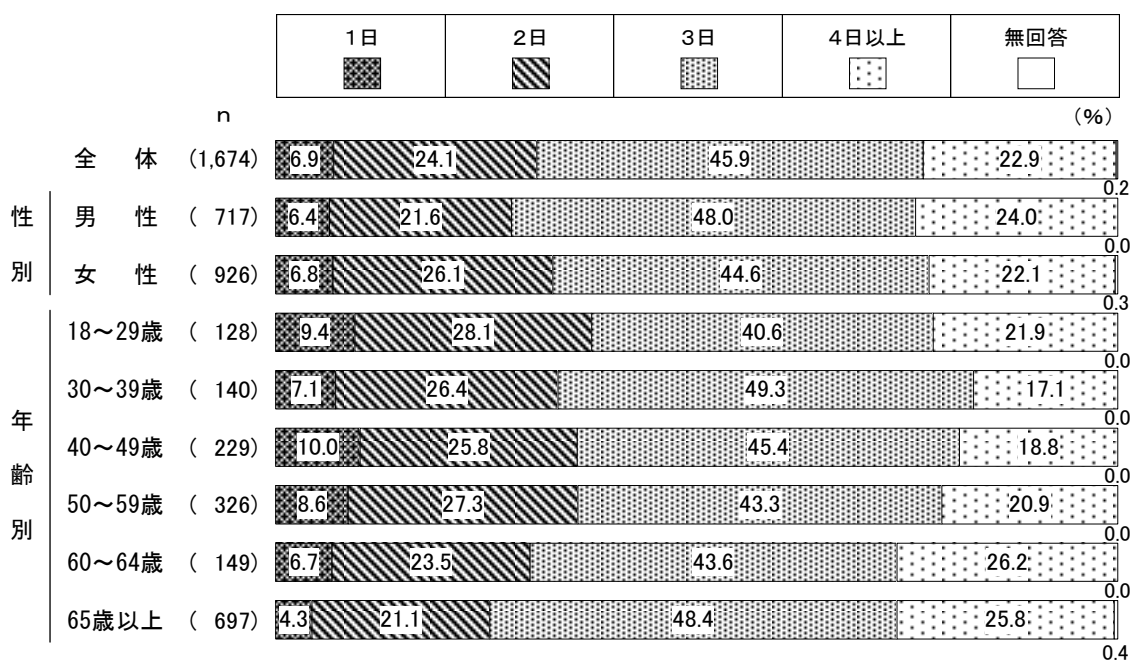


食料を「備蓄している」と回答した1,674人に、家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(45.9%)が4割台半ばで最も多くなっている。次いで「2日」(24.1%)、「4日以上」(22.9%)、「1日」(6.9%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-10-1)

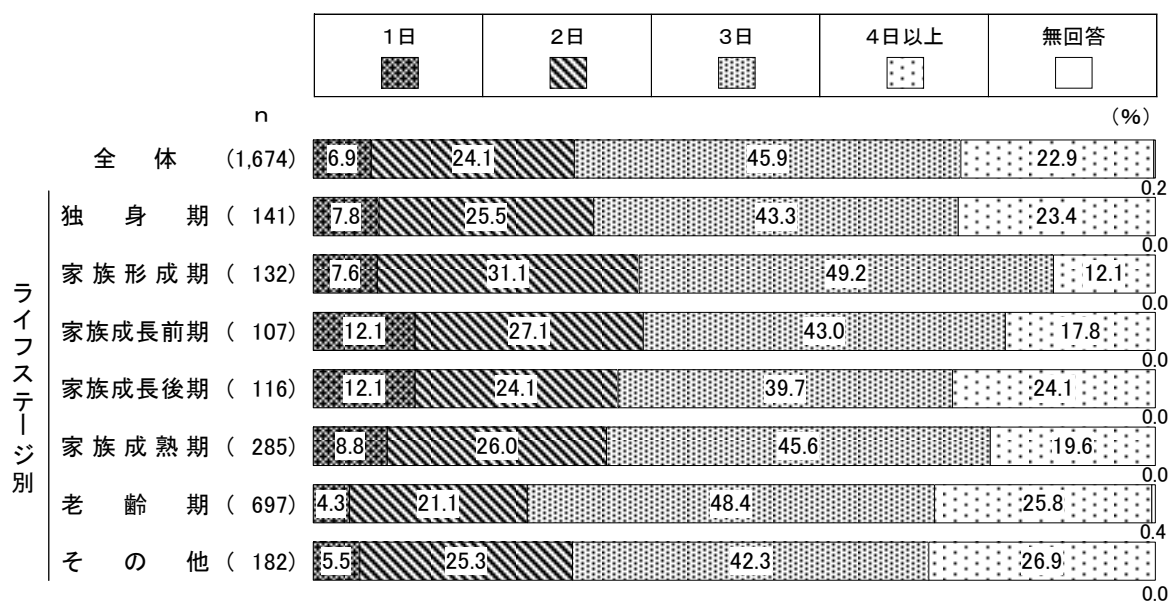
図3-10-2 食料の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「2日」は女性（26.1%）が男性（21.6%）より4.5ポイント高くなっている。一方、「3日」は男性（48.0%）が女性（44.6%）より3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「3日」は30～39歳（49.3%）で5割弱と多くなっている。「4日以上」は60～64歳（26.2%）で3割近くと多くなっている。（図3-10-2）

図3-10-3 食料の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「2日」は家族形成期（31.1%）で3割強と多くなっている。「3日」は家族形成期（49.2%）で5割弱と多くなっている。「4日以上」はその他（26.9%）で3割近くと多くなっている。（図3-10-3）

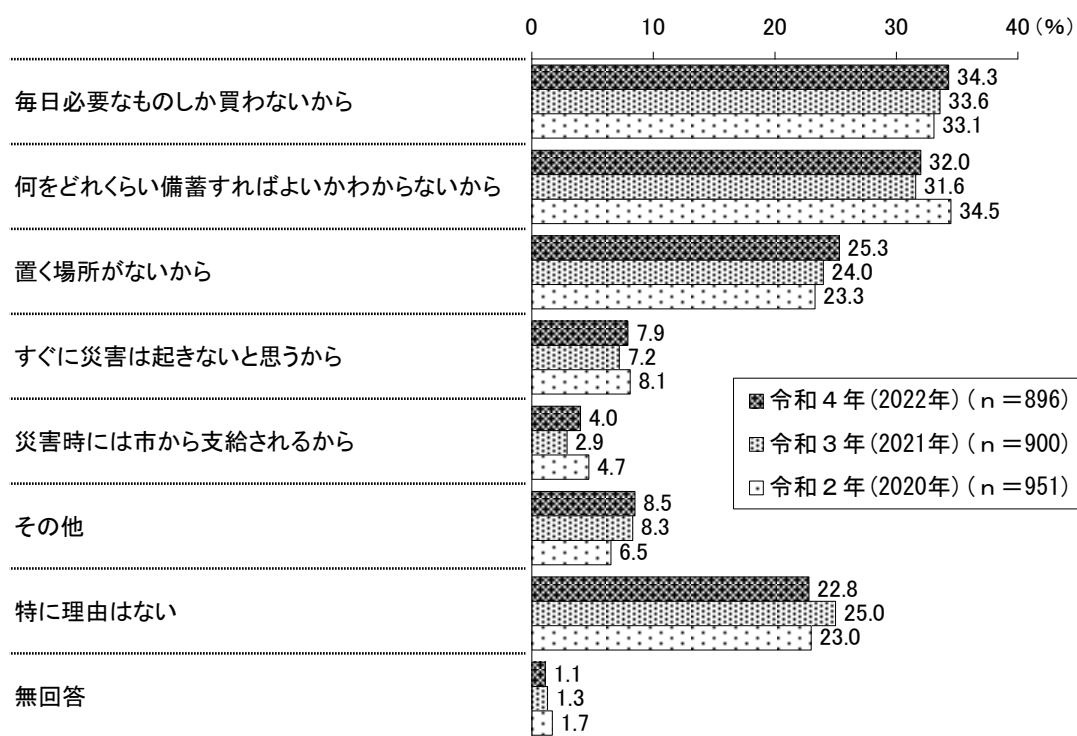
## (11) 食料を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が3割台半ば

(食料を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問24-1-2 食料を備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

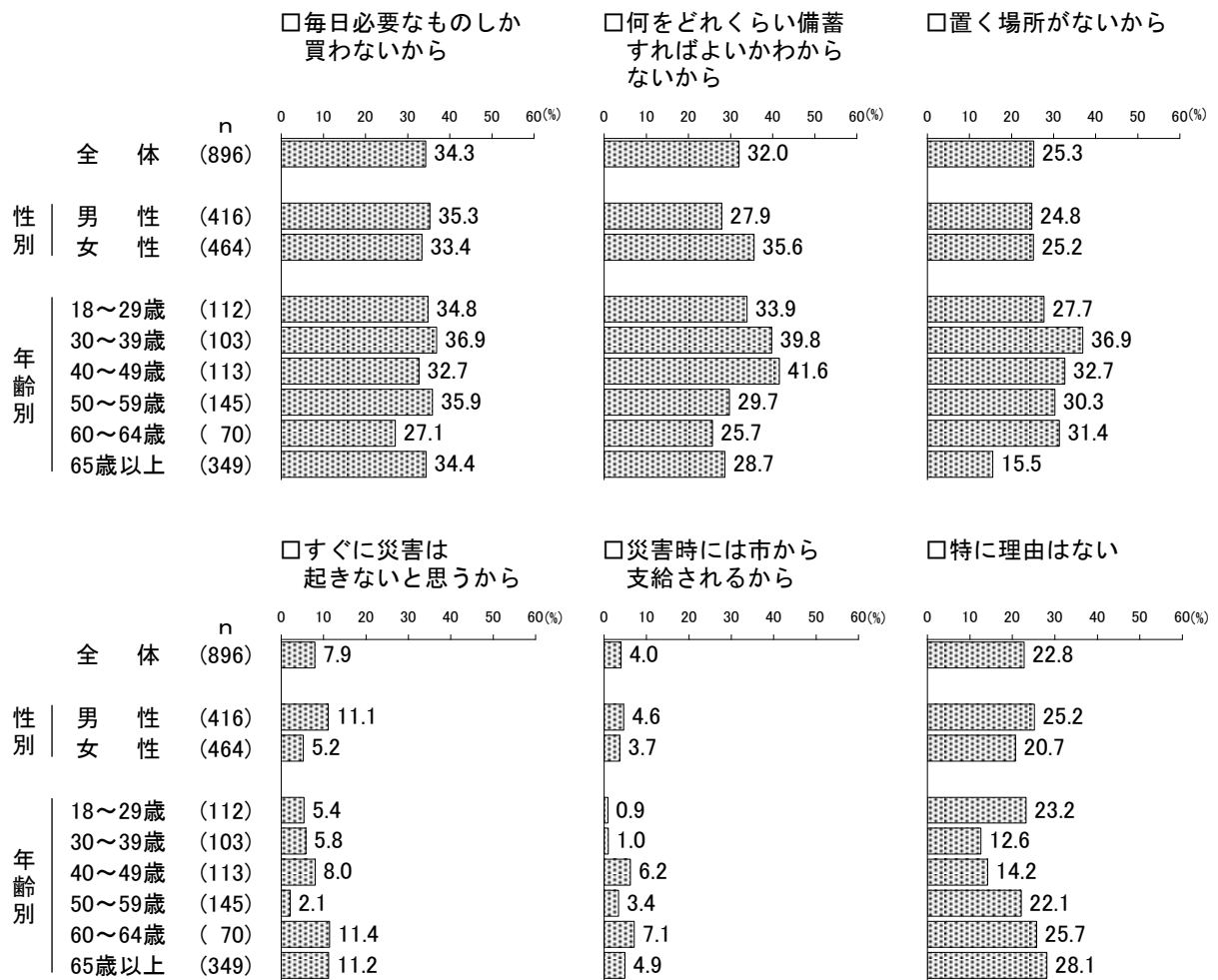
図3-11-1 食料を備蓄していない理由—全体、経年比較



食料を「備蓄していない」と回答した896人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(34.3%)が3割台半ばで最も多くなっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(32.0%)、「置く場所がないから」(25.3%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「特に理由はない」は令和3年(2021年)(25.0%)より2.2ポイント減少している。(図3-11-1)

図3-11-2 食料を備蓄していない理由—性別、年齢別（「その他」を除く）

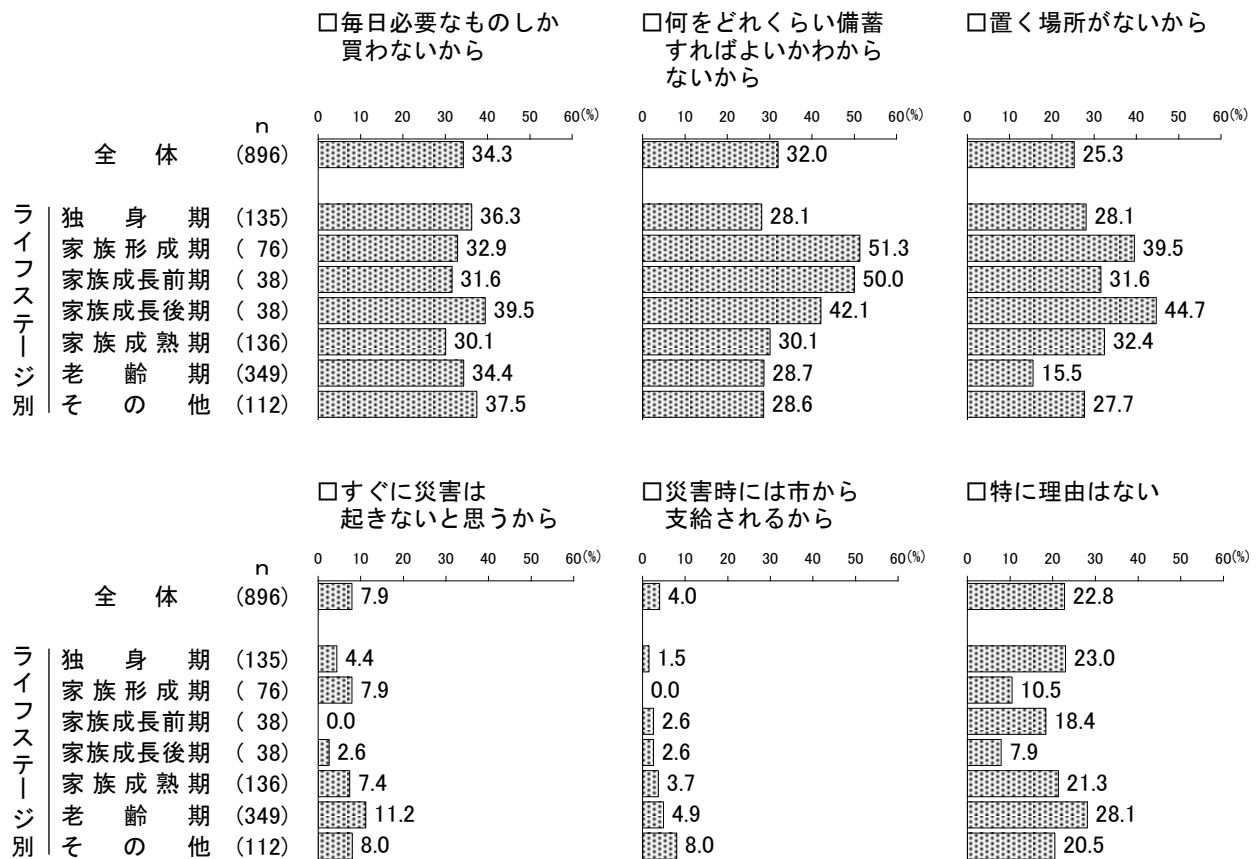


性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（35.6%）が男性（27.9%）より7.7ポイント高くなっている。一方、「すぐに災害は起きないと思うから」は男性（11.1%）が女性（5.2%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は30~39歳（36.9%）で4割近くと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は40~49歳（41.6%）で4割強と多くなっている。「置く場所がないから」は30~39歳（36.9%）で4割近くと多くなっている。

(図3-11-2)

図3-11-3 食料を備蓄していない理由－ライフステージ別（「その他」を除く）



ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期（39.5%）で4割弱と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（51.3%）で5割強と多くなっている。「置く場所がないから」は家族成長後期（44.7%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-11-3）

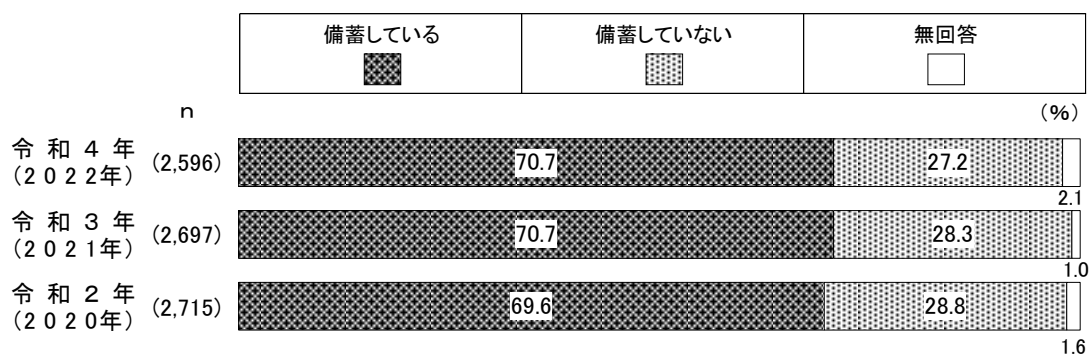
## (12) 飲料水の備蓄の有無

◇「備蓄している」が約7割

問24 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【2. 飲料水について】（○は1つだけ）

図3-12-1 飲料水の備蓄の有無—全体、経年比較



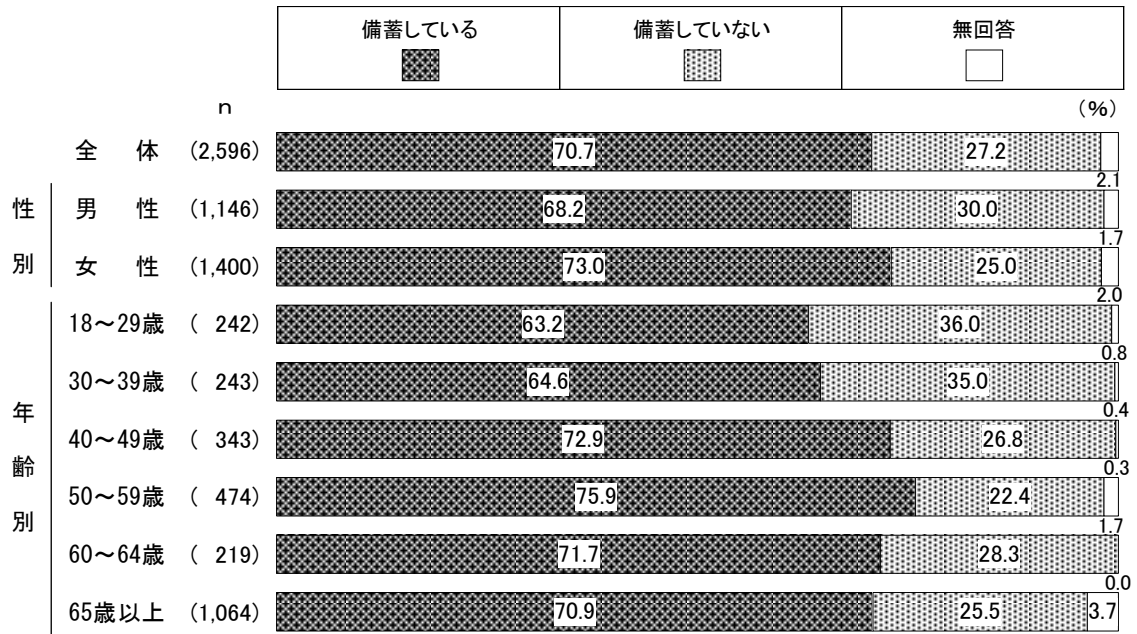
災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(70.7%)が約7割となっている。一方、「備蓄していない」(27.2%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-12-1)



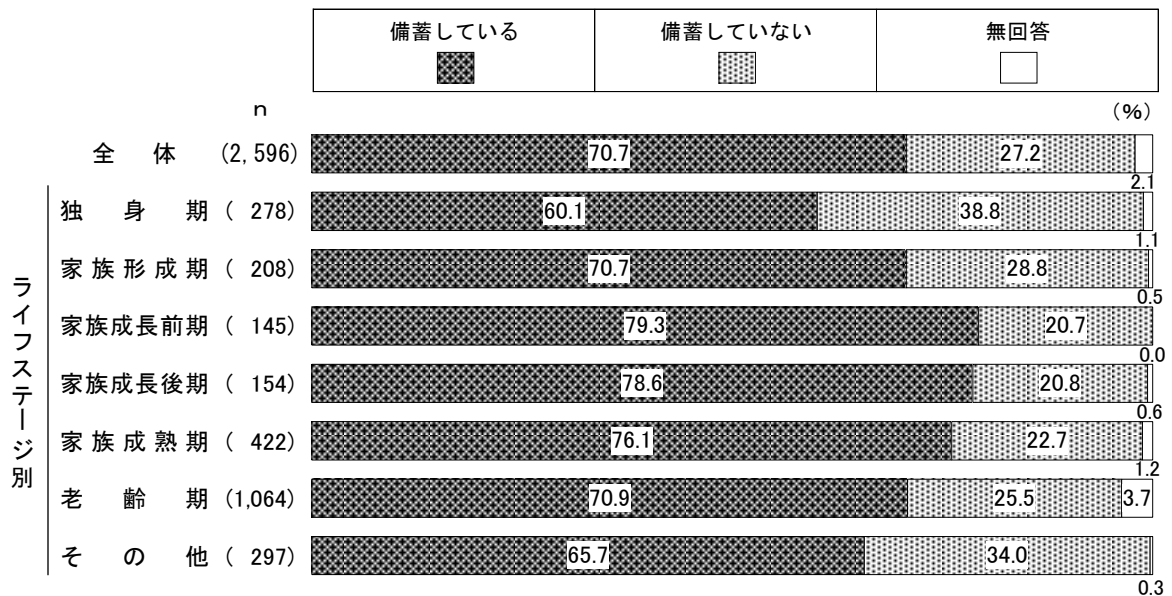
図 3-12-2 飲料水の備蓄の有無—性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（73.0%）が男性（68.2%）より4.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は50~59歳（75.9%）で7割台半ばと多くなっている。一方、「備蓄していない」は18~29歳（36.0%）で4割近くと多くなっている。（図 3-12-2）

図 3-12-3 飲料水の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長前期（79.3%）で8割弱と多くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期（38.8%）で4割近くと多くなっている。（図 3-12-3）

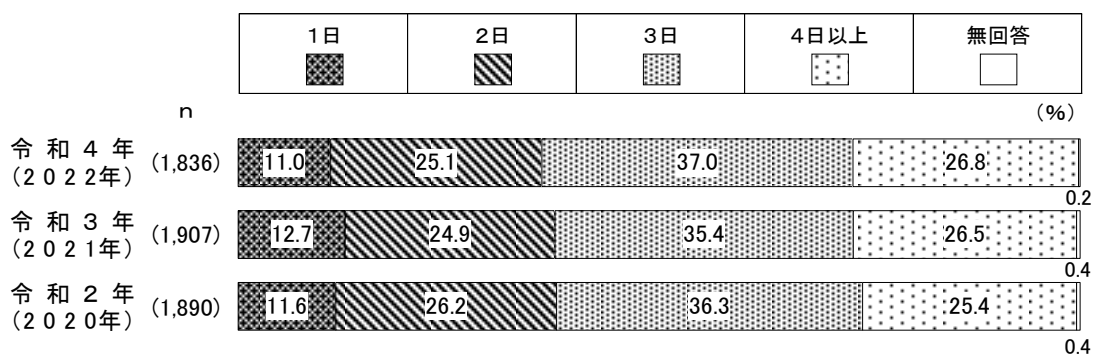
### (13) 飲料水の備蓄量

◇ 「3日」が4割近く

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方へ)

問24-2-1 家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図3-13-1 飲料水の備蓄量－全体、経年比較



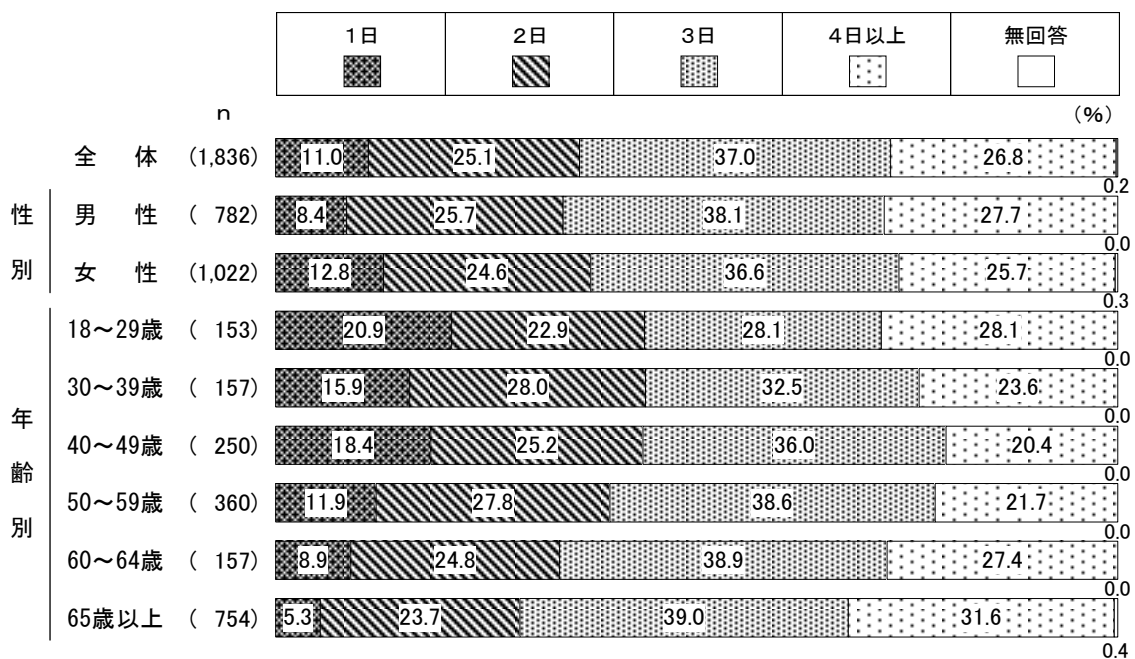
(注) 飲料水は大人1人1日3リットルで計算

飲料水を「備蓄している」と回答した1,836人に、家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(37.0%)が4割近くで最も多くなっている。次いで「4日以上」(26.8%)、「2日」(25.1%)、「1日」(11.0%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-13-1)

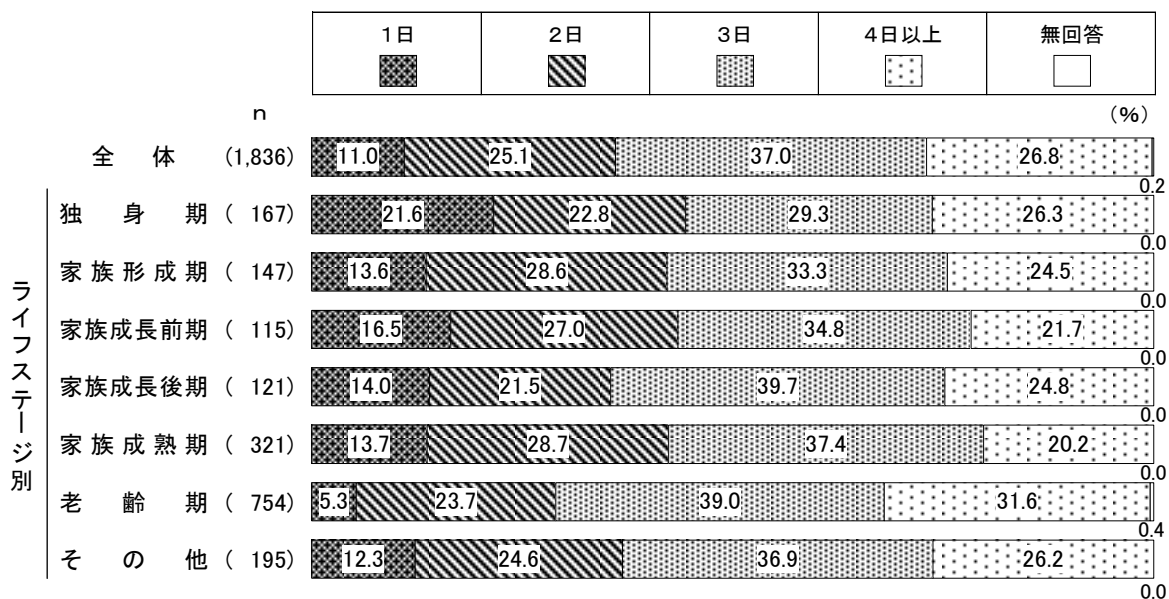
図3-13-2 飲料水の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「1日」は女性（12.8%）が男性（8.4%）より4.4ポイント高くなっている。一方、「4日以上」は男性（27.7%）が女性（25.7%）より2.0ポイント高くなっている。

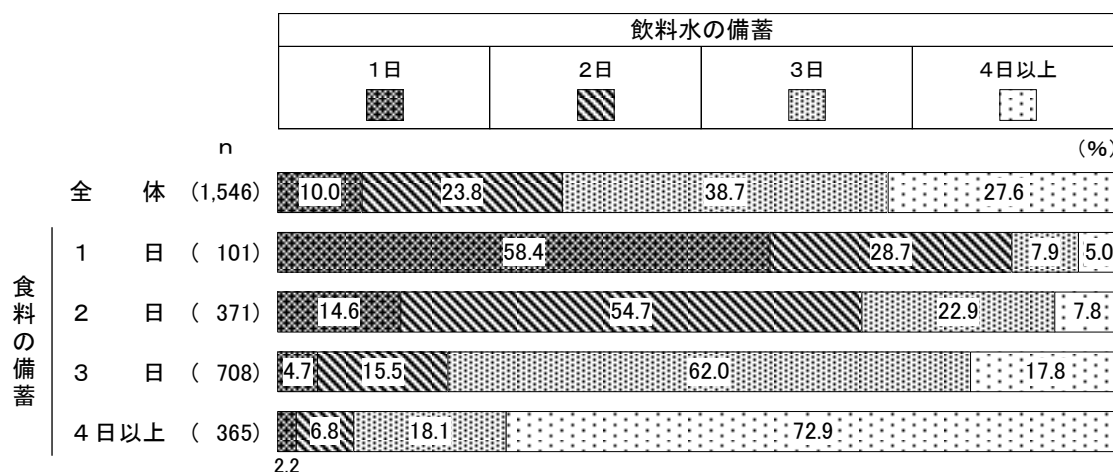
年齢別にみると、「3日」は65歳以上（39.0%）で4割弱と多くなっている。「4日以上」は65歳以上（31.6%）で3割強と多くなっている。（図3-13-2）

図3-13-3 飲料水の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると「3日」は家族成長後期（39.7%）と老齢期（39.0%）で4割弱と多くなっている。「4日以上」は老齢期（31.6%）で3割強と多くなっている。（図3-13-3）

図3-13-4 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量



飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄量をみると、飲料水の備蓄日数と食料の備蓄日数はほぼ相関関係にあり、「飲料水、食料ともに4日分以上」(72.9%)が7割強で最も多くなっている。(図3-13-4)

図3-13-5 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量(全体に占める人数及び構成比)

		飲料水の備蓄量						
		4日以上	3日	2日	1日	日数不明	備蓄無し	不備蓄有無
(n=2,596)		492	679	460	202	3	706	54
		19.0	26.2	17.7	7.8	0.1	27.2	2.1
食料の備蓄量	4日以上	384	266	66	25	8	17	2
		14.8	10.2	2.5	1.0	0.3	0.7	0.1
	3日	769	126	439	110	33	52	9
		29.6	4.9	16.9	4.2	1.3	2.0	0.3
	2日	403	29	85	203	54	30	2
		15.5	1.1	3.3	7.8	2.1	1.2	0.1
	1日	115	5	8	29	59	10	4
	4.4	0.2	0.3	1.1	2.3	0.4	0.2	
日数不明	3	-	-	1	-	1	1	
	0.1	-	-	0.0	-	0.0	0.0	
備蓄無し	896	62	79	91	48	2	588	26
	34.5	2.4	3.0	3.5	1.8	0.1	22.7	1.0
備蓄有無不明	26	4	2	1	-	1	8	10
	1.0	0.2	0.1	0.0	-	0.0	0.3	0.4

飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量(全体に占める人数及び構成比)をみると、「飲料水、食料ともに備蓄無し」(n=588、22.7%)が全体の2割強と最も多くなっている。次いで「飲料水、食料ともに3日分」(n=439、16.9%)、「飲料水、食料ともに4日分以上」(n=266、10.2%)、「飲料水、食料ともに2日分」(n=203、7.8%)などの順となっている。なお、「飲料水、食料ともに3日以上備蓄」(グレー網掛け部分)(n=897、34.6%)している人は全体の3割台半ばとなっている。(図3-13-5)

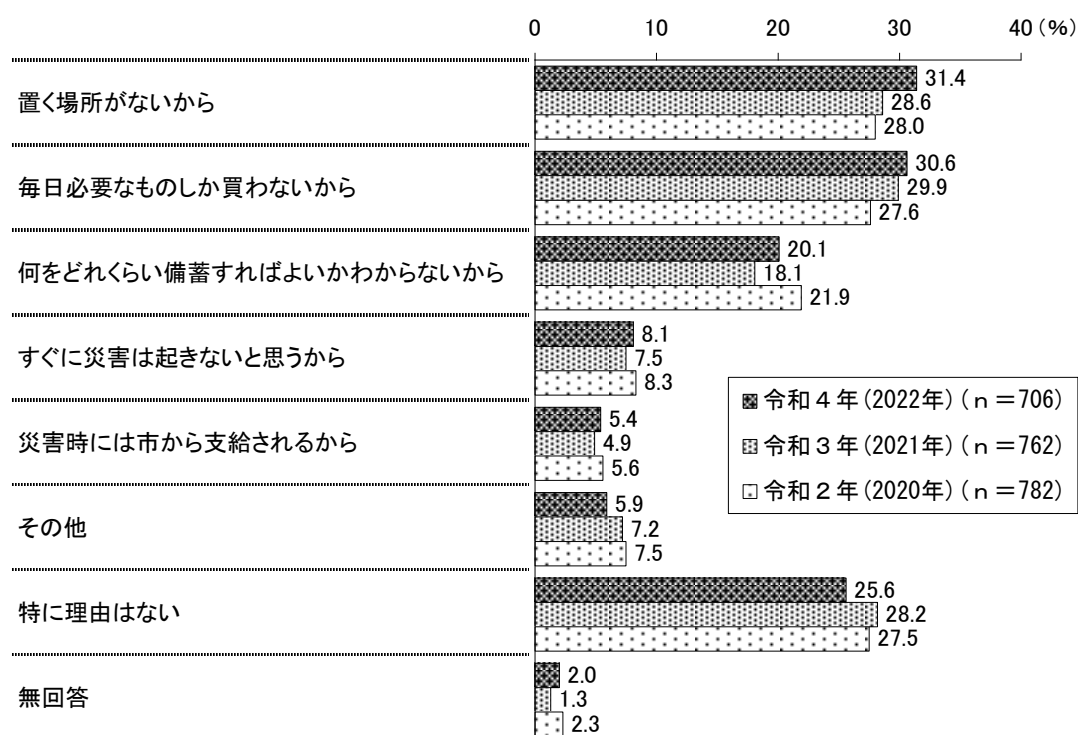
## (14) 飲料水を備蓄していない理由

◇「置く場所がないから」が3割強

(飲料水を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問24-2-2 飲料水を備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

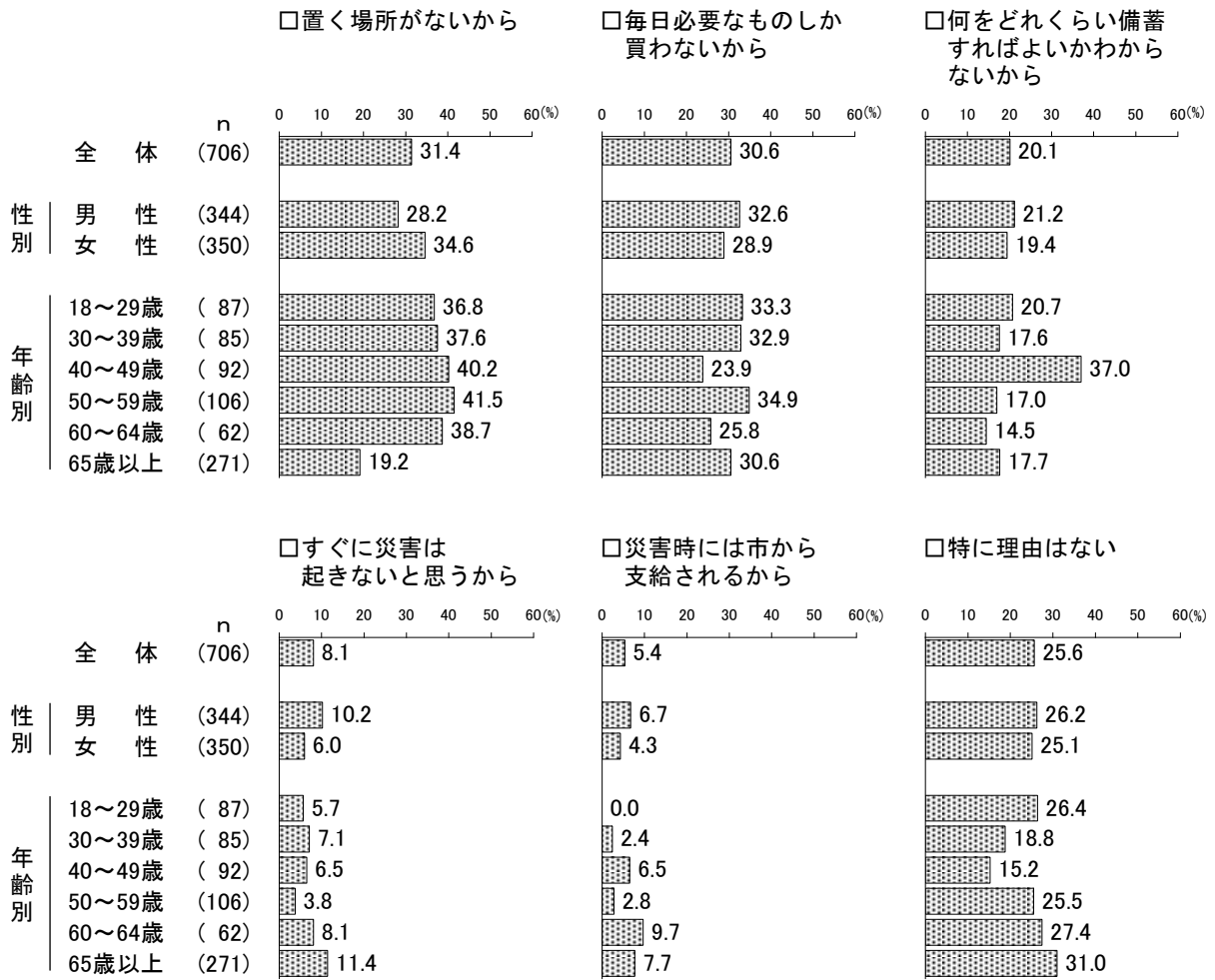
図3-14-1 飲料水を備蓄していない理由-全体、経年比較



飲料水を「備蓄していない」と回答した706人に、その理由を聞いたところ、「置く場所がないから」(31.4%)が3割強で最も多くなっている。次いで「毎日必要なものしか買わないから」(30.6%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(20.1%)などの順となっている。一方、「特に理由はない」(25.6%)は2割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「置く場所がないから」は令和3年(2021年)(28.6%)より2.8ポイント、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は令和3年(2021年)(18.1%)より2.0ポイント、それぞれ増加している。(図3-14-1)

図3-14-2 飲料水を備蓄していない理由—性別、年齢別（「その他」を除く）

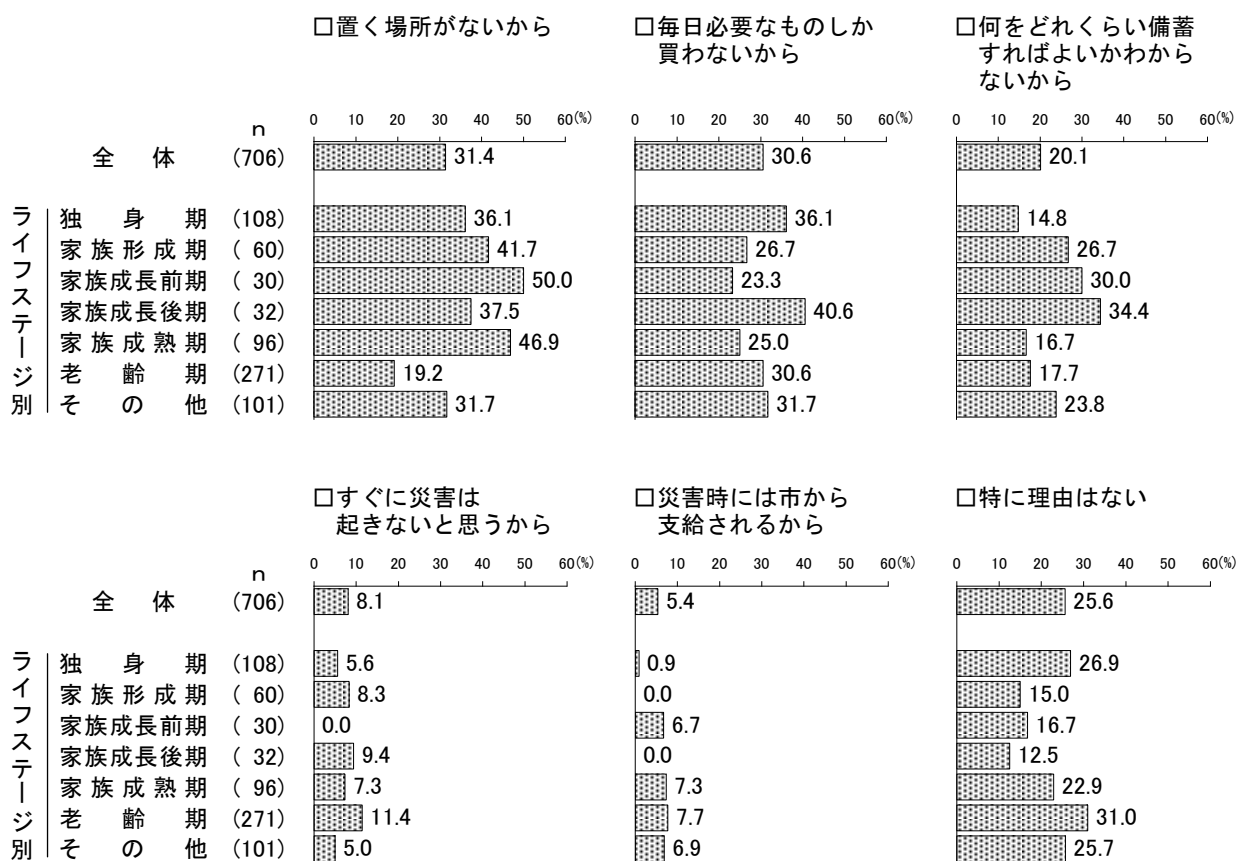


性別にみると、「置く場所がないから」は女性（34.6%）が男性（28.2%）より6.4ポイント高くなっている。一方、「すぐに災害は起きないと思うから」は男性（10.2%）が女性（6.0%）より4.2ポイント、「毎日必要なものしか買わないから」は男性（32.6%）が女性（28.9%）より3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「置く場所がないから」は50~59歳（41.5%）で4割強と多くなっている。「毎日必要なものしか買わないから」は50~59歳（34.9%）で3割台半ばと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は40~49歳（37.0%）で4割近くと多くなっている。

（図3-14-2）

図3-14-3 飲料水を備蓄していない理由—ライフステージ別（「その他」を除く）



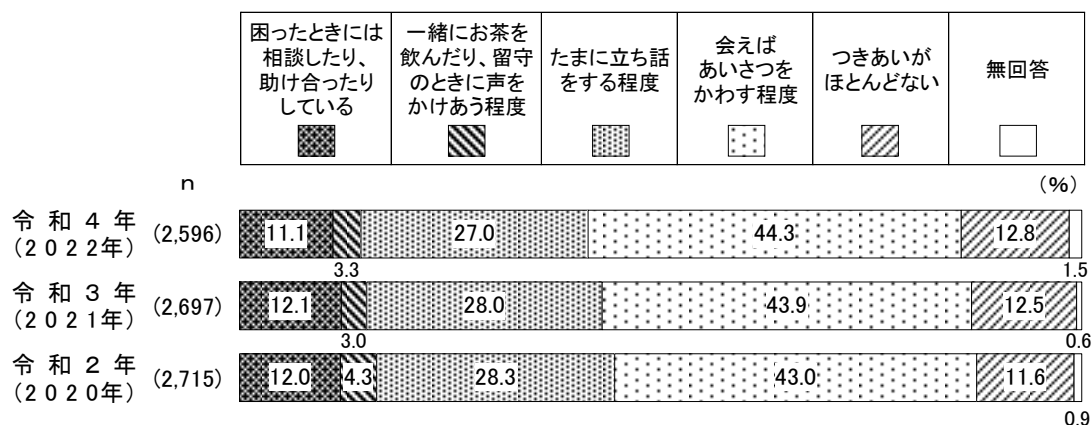
ライフステージ別にみると、「置く場所がないから」は家族成長前期（50.0%）で5割と多くなっている。「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期（40.6%）で約4割と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族成長後期（34.4%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-14-3）

## (15) 隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が4割台半ば

問25 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つだけ)

図3-15-1 隣近所とのつきあい方—全体、経年比較



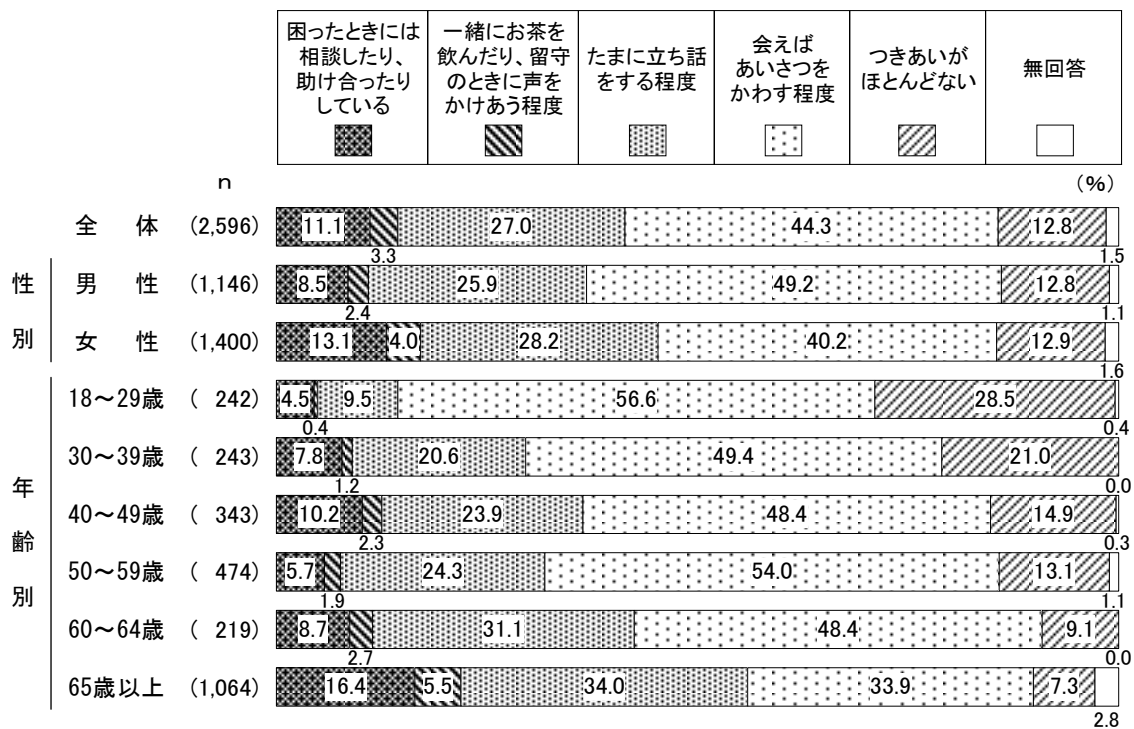
日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」(44.3%)が4割台半ばで最も多くなっている。次いで「たまに立ち話をする程度」(27.0%)、「つきあいがほとんどない」(12.8%)、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」(11.1%)、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあう程度」(3.3%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-15-1)



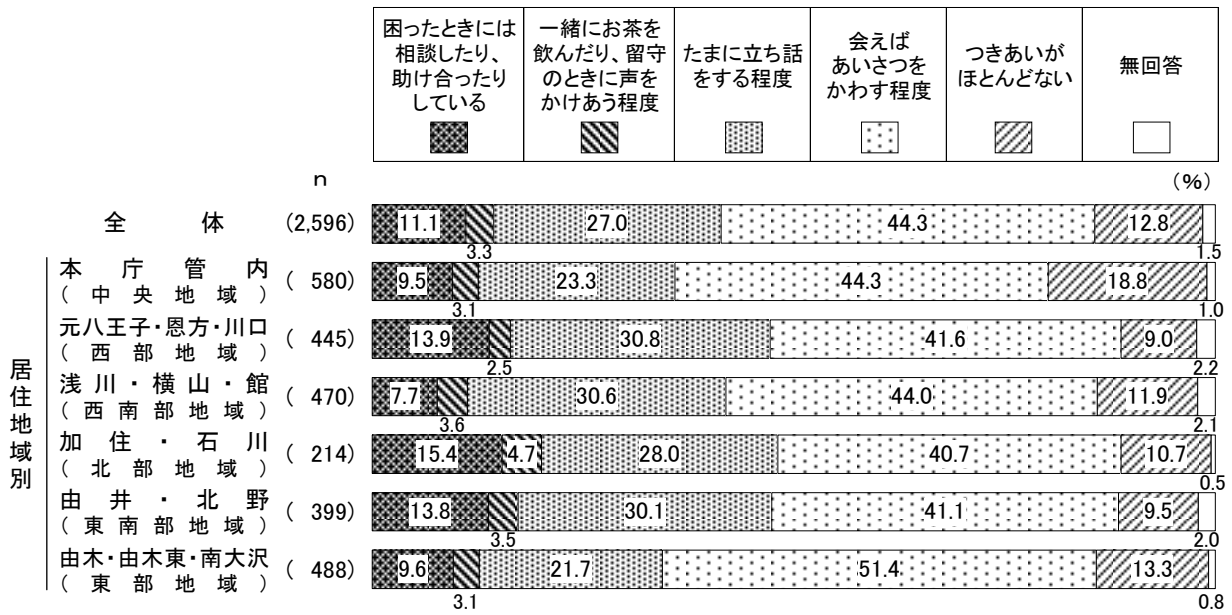
図 3-15-2 隣近所とのつきあい方—性別、年齢別



性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（49.2%）が女性（40.2%）より9.0ポイント高くなっている。一方、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は女性（13.1%）が男性（8.5%）より4.6ポイント、「たまに立ち話をする程度」は女性（28.2%）が男性（25.9%）より2.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「たまに立ち話をする程度」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（34.0%）で3割台半ばと多くなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は18～29歳（56.6%）で6割近くと多くなっている。「つきあいがほとんどない」は年代が低くなるほど割合が高く、18～29歳（28.5%）で3割近くと多くなっている。（図 3-15-2）

図 3-15-3 隣近所とのつきあい方—居住地域別



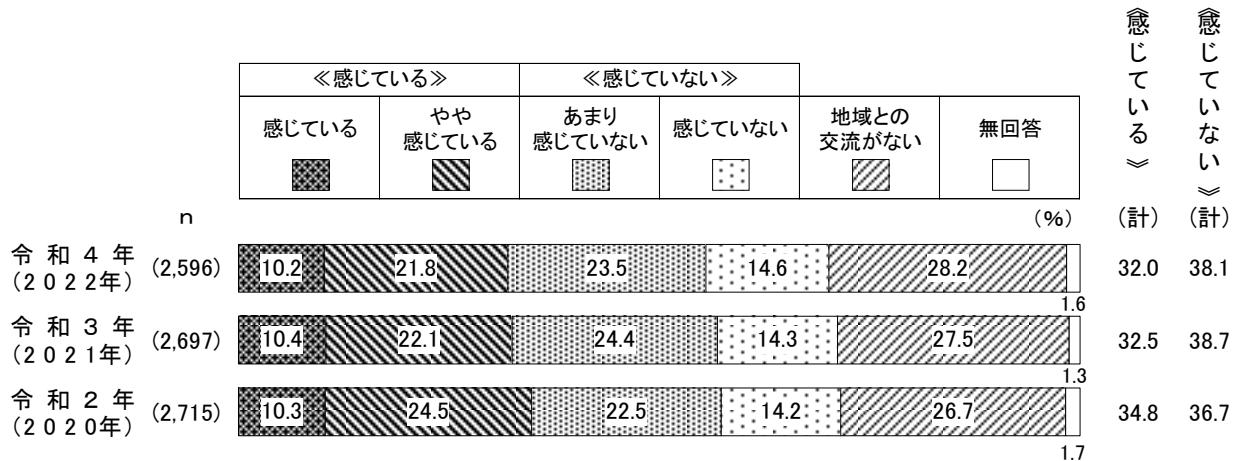
居住地域別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(51.4%)で5割強と多くなっている。(図3-15-3)

## (16) 地域での交流や活動による充実感や生きがい

◇《感じる》が3割強

問26 あなたは、地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで、充実感や生きがいを感じていますか。(〇は1つだけ)

図3-16-1 地域での交流や活動による充実感や生きがい—全体、経年比較

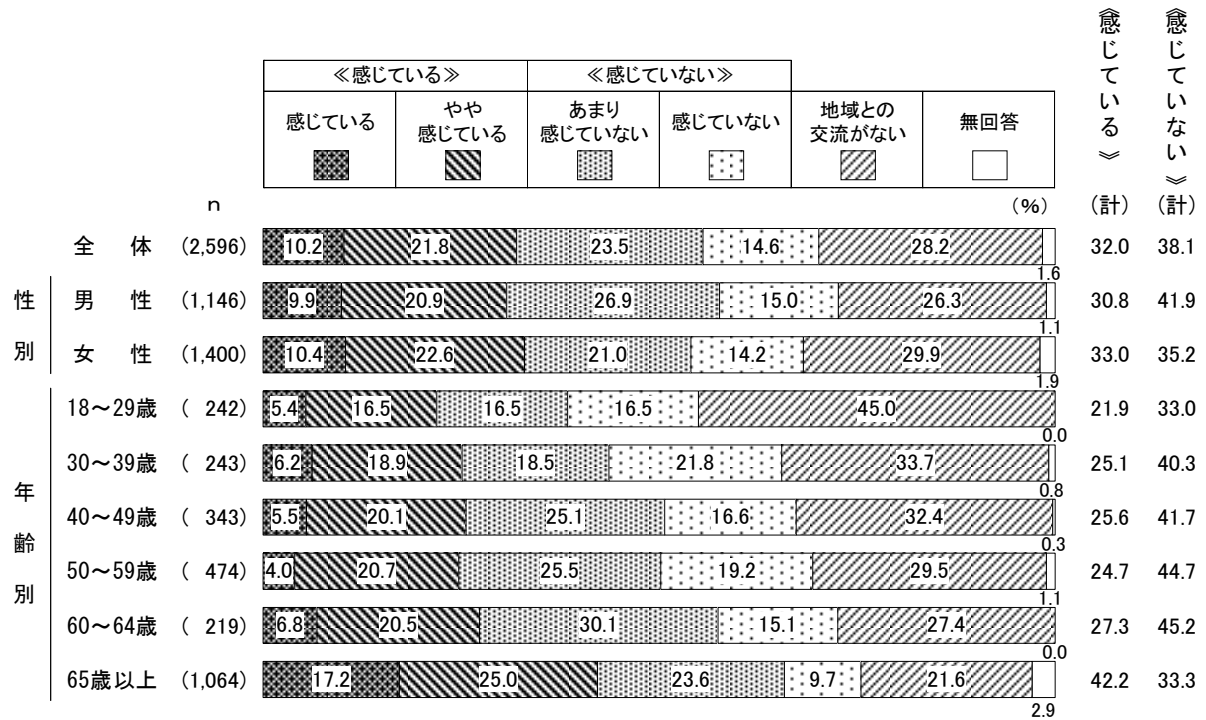


地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じているか聞いたところ、「感じる」(10.2%)と「やや感じている」(21.8%)を合わせた《感じる》(32.0%)は3割強となっている。一方、「あまり感じていない」(23.5%)と「感じていない」(14.6%)を合わせた《感じていない》(38.1%)は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-16-1)

図3-16-2 地域での交流や活動による充実感や生きがい—性別、年齢別

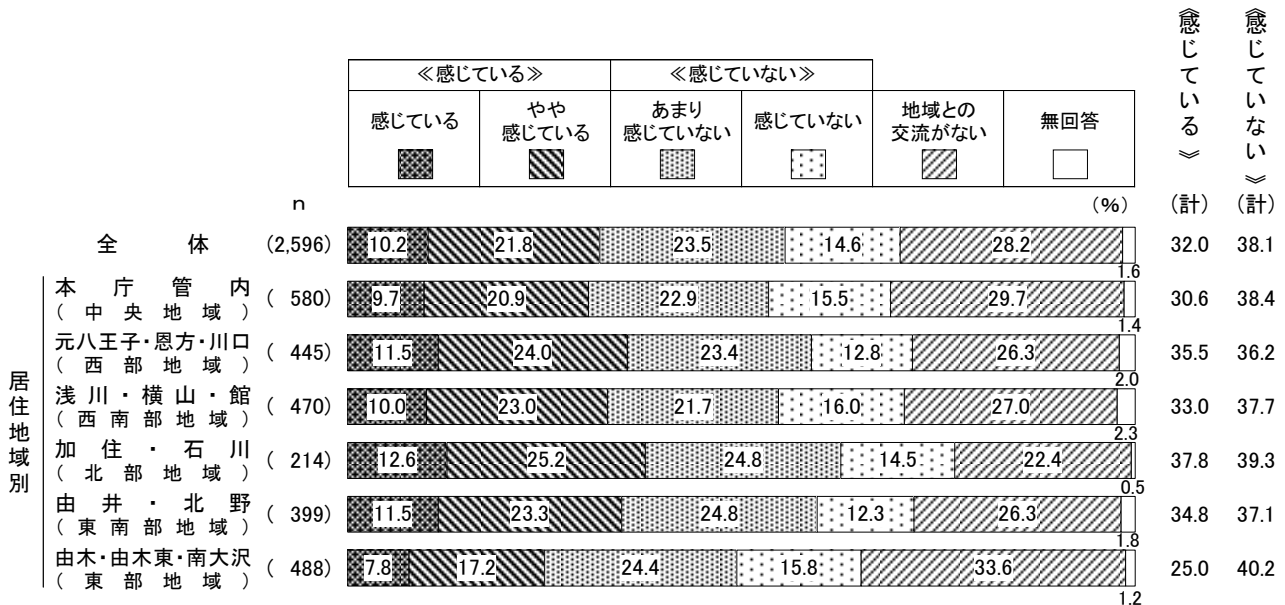


性別にみると、《感じている》は女性（33.0%）が男性（30.8%）より2.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《感じている》は65歳以上（42.2%）で4割強と多くなっている。一方、《感じていない》は50~59歳（44.7%）と60~64歳（45.2%）で4割台半ばと多くなっている。

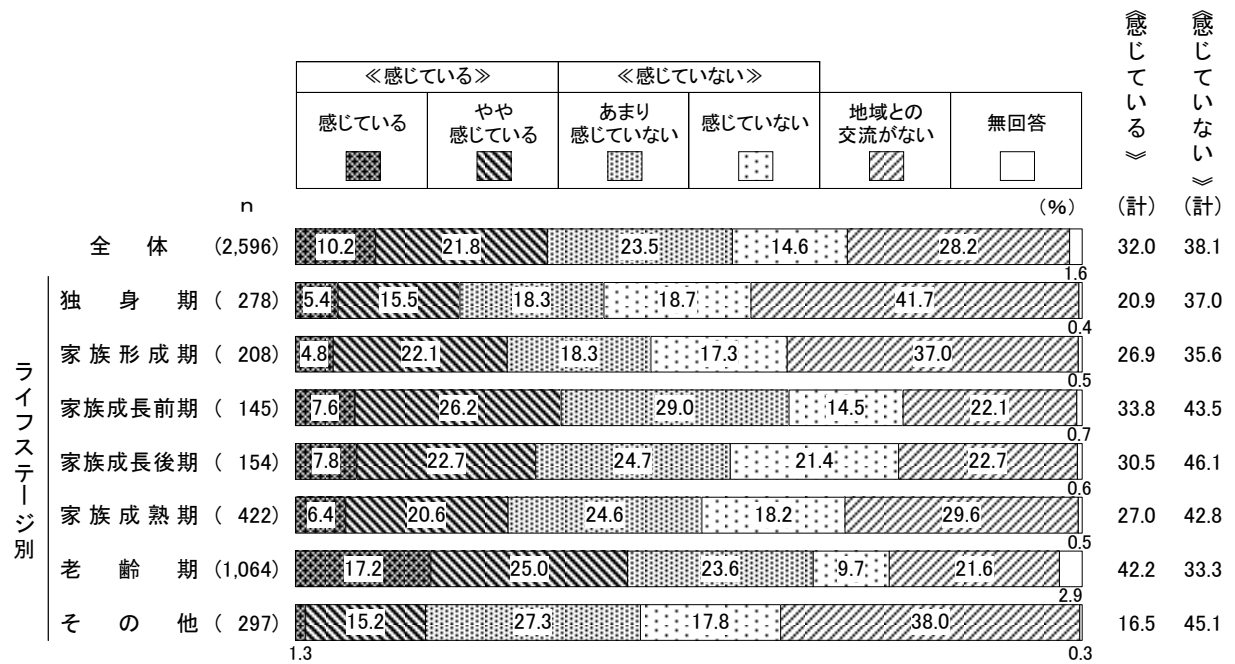
(図3-16-2)

図3-16-3 地域での交流や活動による充実感や生きがい—居住地域別



居住地域別にみると、《感じている》は加住・石川(北部地域)（37.8%）で4割近くと多くなっている。一方、《感じていない》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（40.2%）で約4割と多くなっている。(図3-16-3)

図3-16-4 地域での交流や活動による充実感や生きがい—ライフステージ別



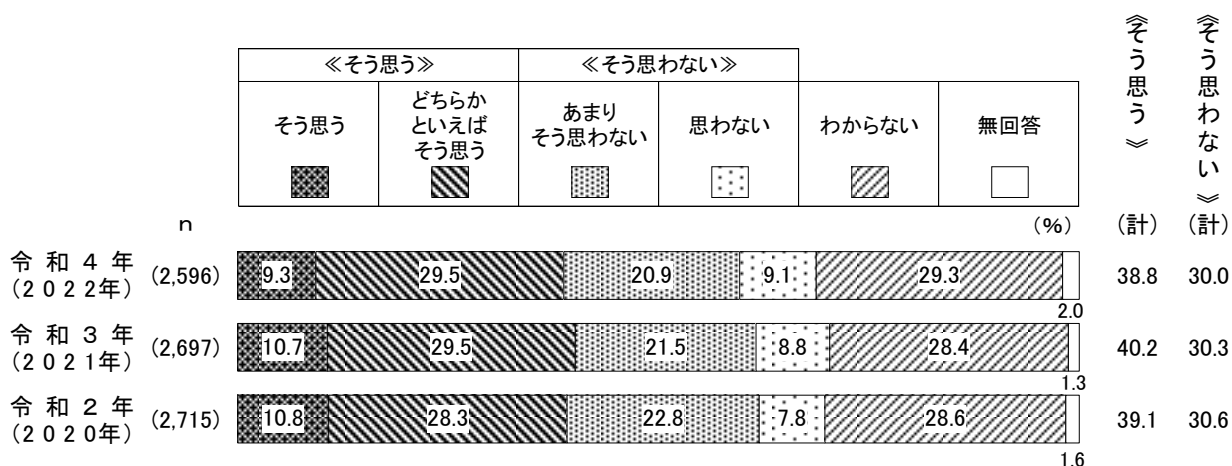
ライフステージ別にみると、《感じている》は老齢期（42.2%）で4割強と多くなっている。一方、《感じていない》は家族成長後期（46.1%）で5割近くと多くなっている。（図3-16-4）

## (17) 地域と子どもたちとのかかわりあい

◇《《そう思う》》が4割近く

問27 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(〇は1つだけ)

図3-17-1 地域と子どもたちとのかかわりあい—全体、経年比較

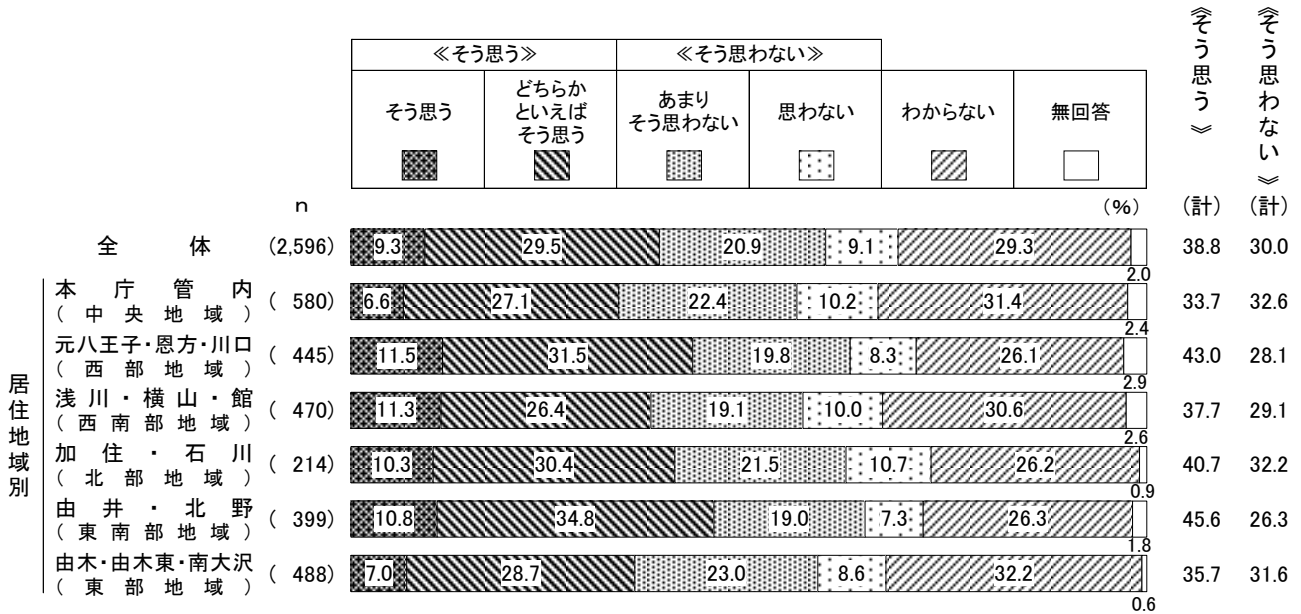


子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.3%)と「どちらかといえばそう思う」(29.5%)を合わせた《《そう思う》》(38.8%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(20.9%)と「思わない」(9.1%)を合わせた《《そう思わない》》(30.0%)は3割となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-17-1)

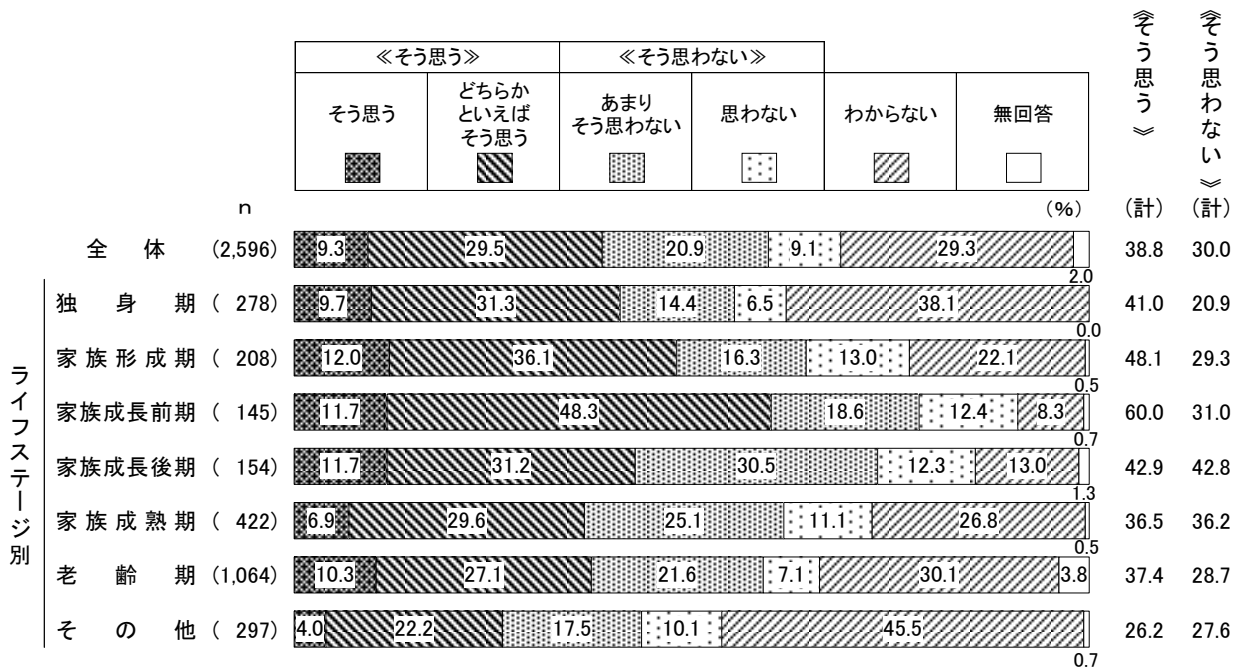
図3-17-2 地域と子どもたちとのかかわりあい—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（45.6%）で4割台半ばと多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（32.6%）、加住・石川（北部地域）（32.2%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（31.6%）で3割強と多くなっている。

(図3-17-2)

図3-17-3 地域と子どもたちとのかかわりあい—ライフステージ別



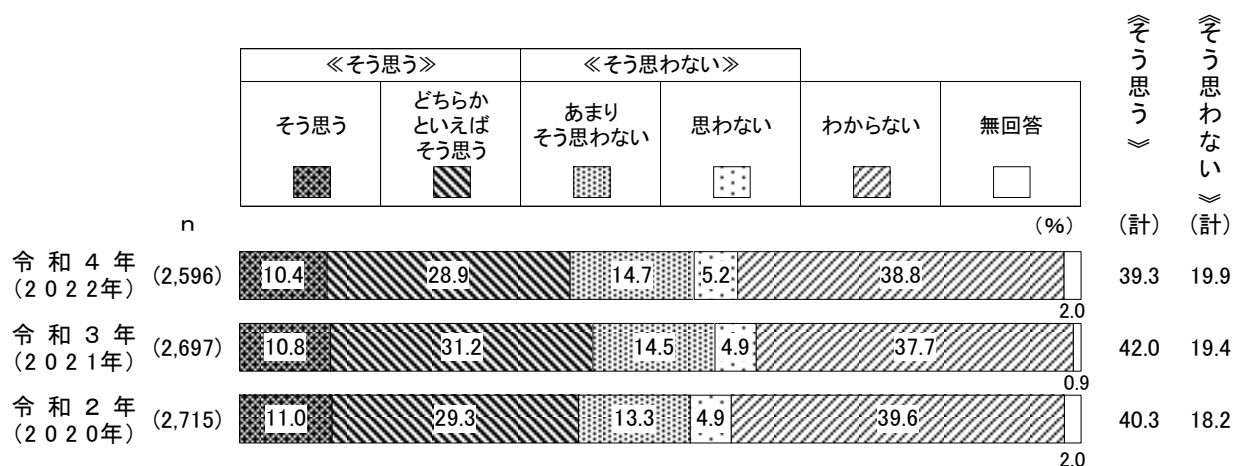
ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（60.0%）で6割と多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成長後期（42.8%）で4割強と多くなっている。(図3-17-3)

## (18) 地域と学校の協力による子どもたちの育み

### ◇《《そう思う》》が4割弱

問28 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-18-1 地域と学校の協力による子どもたちの育み—全体、経年比較

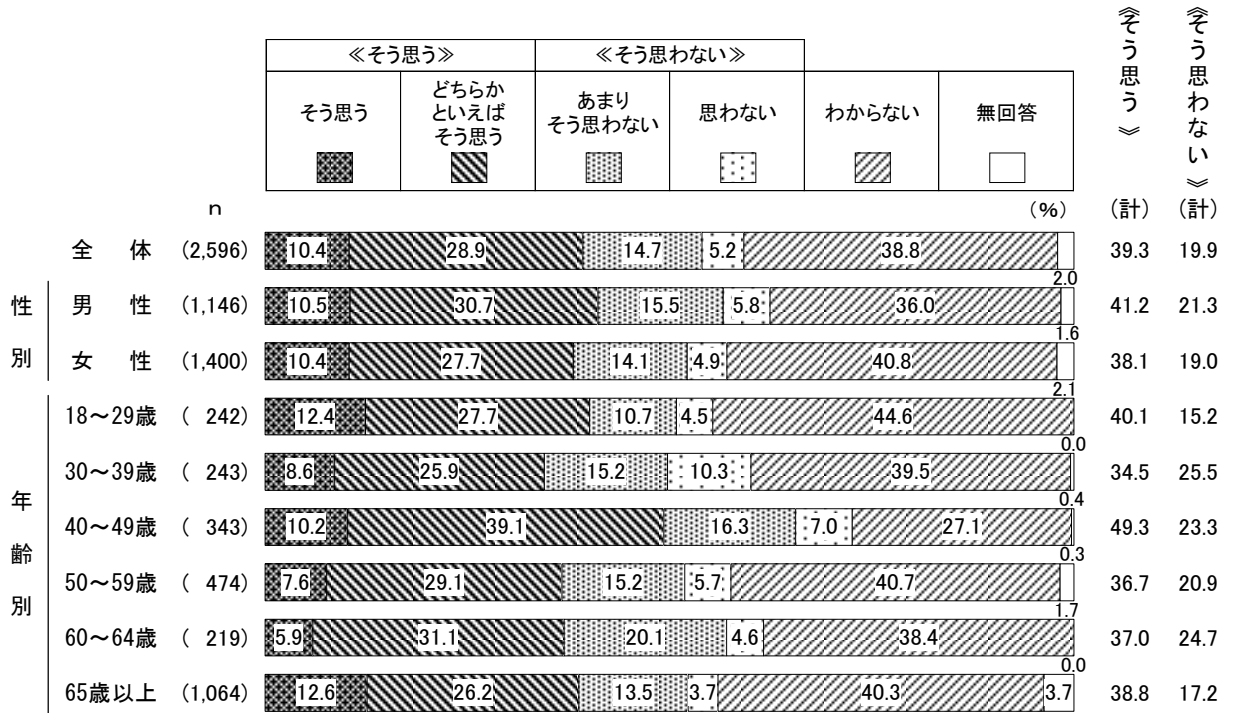


地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.4%)と「どちらかといえばそう思う」(28.9%)を合わせた《《そう思う》》(39.3%)は4割弱となっている。一方、「あまりそう思わない」(14.7%)と「思わない」(5.2%)を合わせた《《そう思わない》》(19.9%)は2割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和3年(2021年)(42.0%)より2.7ポイント減少している。(図3-18-1)



図3-18-2 地域と学校の協力による子どもたちの育み—性別、年齢別

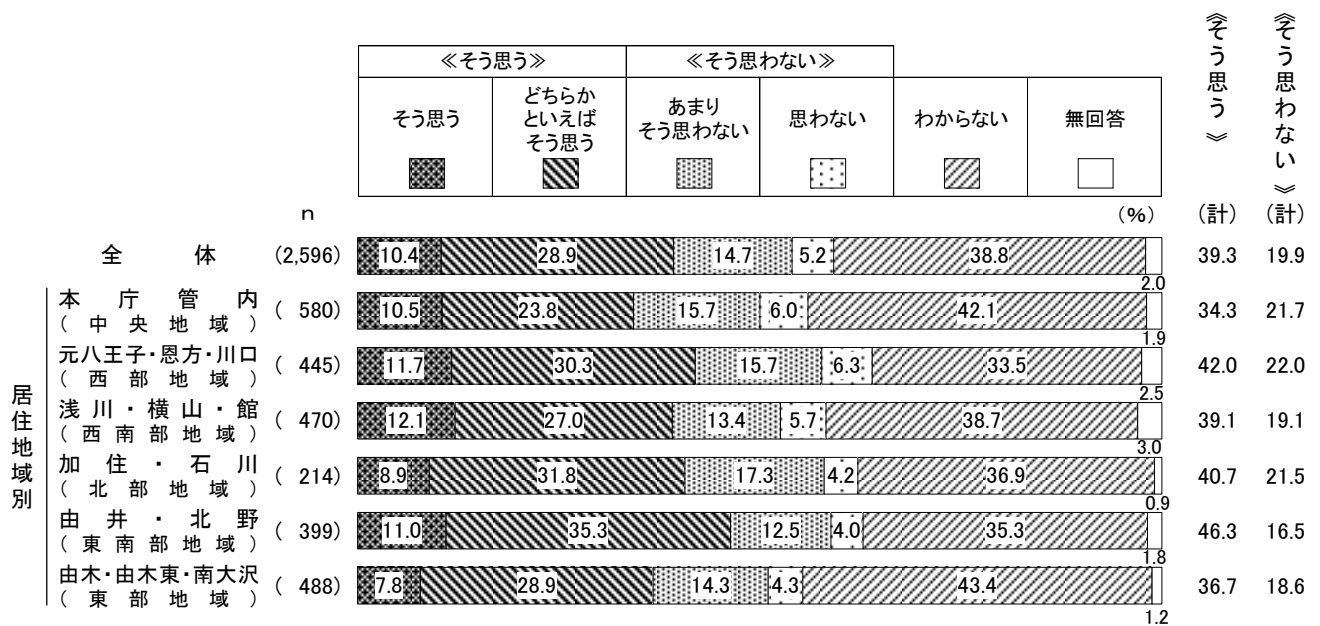


性別にみると、《そう思う》は男性（41.2%）が女性（38.1%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は40~49歳（49.3%）で5割弱と多くなっている。

(図3-18-2)

図3-18-3 地域と学校の協力による子どもたちの育み—居住地域別



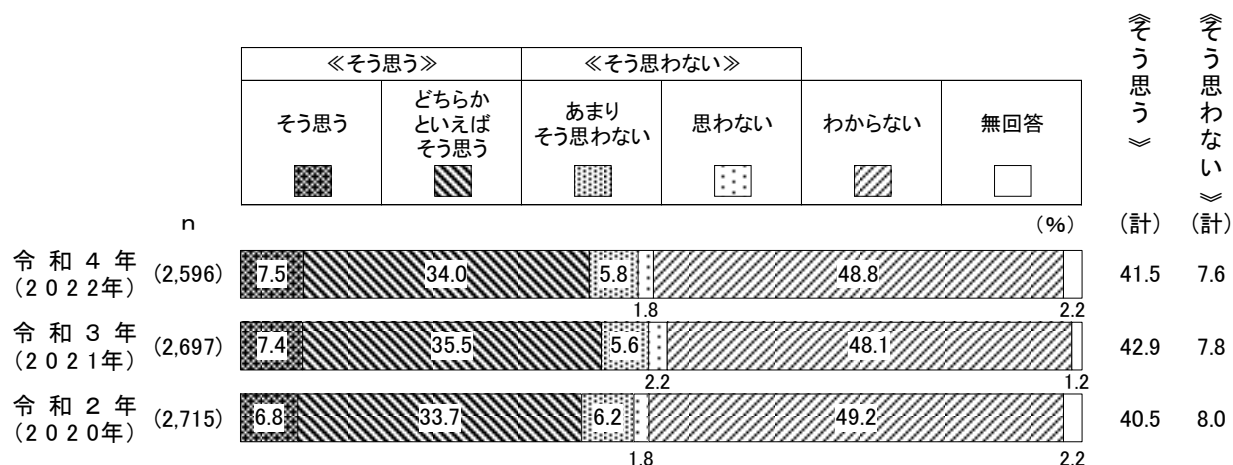
居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（46.3%）で5割近くと多くなっている。(図3-18-3)

## (19) 市などの支援による子育ての状況

◇《《そう思う》》が4割強

問29 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか。(〇は1つだけ)

図3-19-1 市などの支援による子育ての状況—全体、経年比較

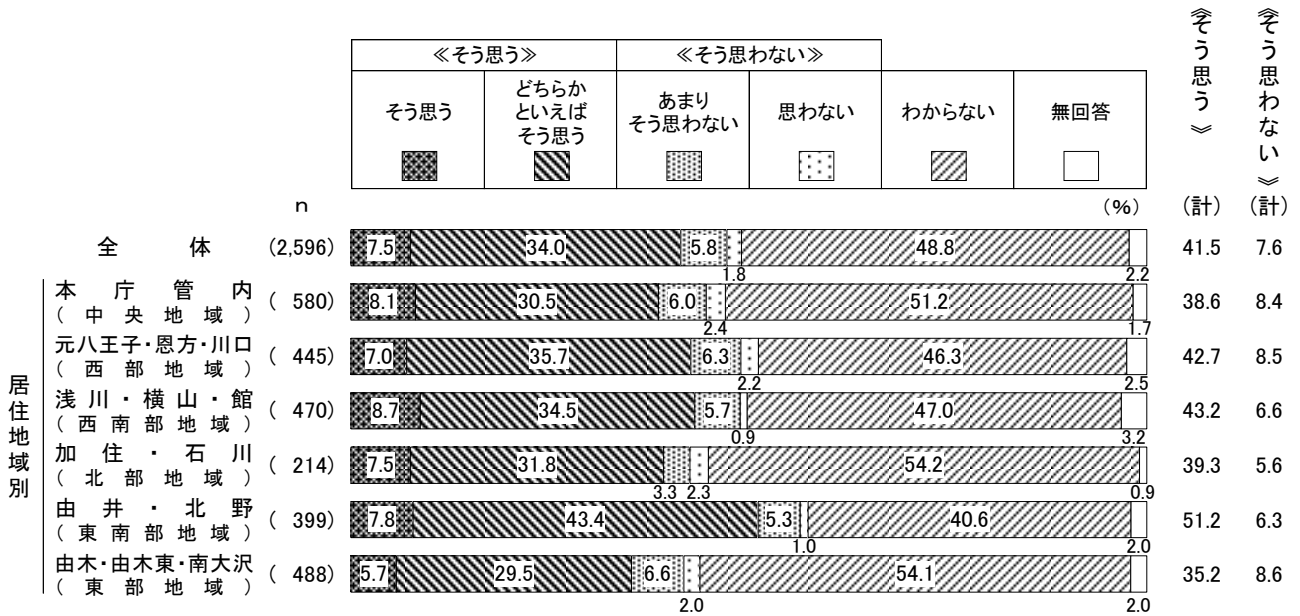


子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか聞いたところ、「そう思う」(7.5%)と「どちらかといえばそう思う」(34.0%)を合わせた《《そう思う》》(41.5%)は4割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(5.8%)と「思わない」(1.8%)を合わせた《《そう思わない》》(7.6%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

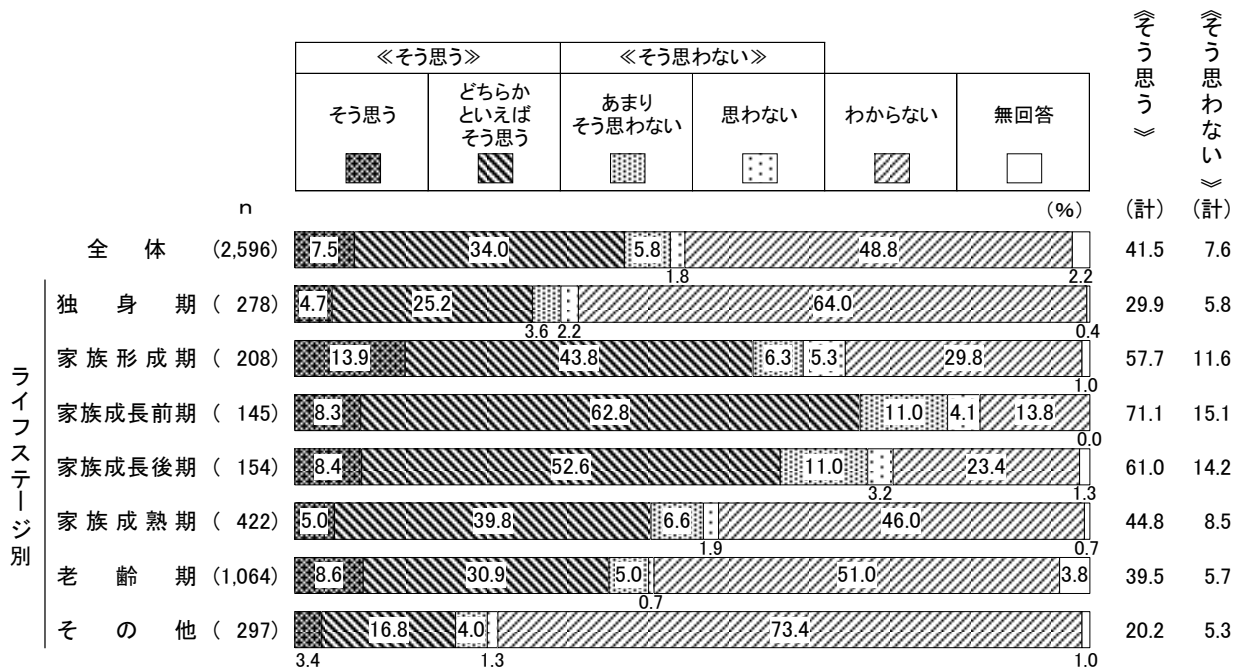
(図3-19-1)

図3-19-2 市などの支援による子育ての状況—居住地地域別



居住地地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（51.2%）で5割強と多くなっている。（図3-19-2）

図3-19-3 市などの支援による子育ての状況—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（71.1%）で7割強、家族成長後期（61.0%）で6割強と多くなっている。（図3-19-3）

## (20) 安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）

（問29で「あまりそう思わない」または「思わない」とお答えの方へ）

問29-1 そのように感じる理由があれば、以下の欄にご自由にお書きください。（自由記述）

子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていくかについて「あまりそう思わない」または「思わない」と答えた197人に、そのように思う理由を自由記述形式で聞いたところ、120人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載した。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

- 特に市にやってもらっている事がないから。児童手当は4ヵ月に1回、後払いで不満。産まれてから1年間（基準月までの月）は月額値は一緒なのだから、一括で良い。4ヵ月に1回と分ける意味がわからない。（女性18～29歳）
- 一人親家庭が子育て出来るような施策をやられていることは把握をしているが、認知されなければ意味がない。広報活動にしっかり力を入れてほしい。（男性18～29歳）
- 何を支援してくれているのか不明。公園も酒の空き缶やタバコの吸い殻があり、子どもが触ってしまう。（女性30～39歳）
- 児童館が古い。素敵なコミュニティーカフェが必要。（女性30～39歳）
- やむを得ないことではあるが、コロナ禍によりプレママ・パパ講座等も中止や規模縮小となり、市以外の事業者による取組も特に感じられなかった為。（男性30～39歳）
- コロナによる収入減少があっても前年、前々年の年収で引っ掛かる為に、今貧困に陥っても子供の手当てなどの支給対象にならず、手当てが何もない。（女性40～49歳）
- 特別な支援があったり連絡があったりするわけでないので、何も感じる機会がない。実家のある江戸川区では定期的に連絡や申請等の連絡を貰えるので。（男性40～49歳）
- 医療費（200円）が高校生までであれば良いと思う。子供に持病があり通院しているため、毎回検査のための医療費が高いので。（女性50～59歳）
- 母子家庭などへの資金援助などは、もっと手厚くてもいいのでは？また、発達障害などの子育て支援にも、もう少し柔軟性があってほしいと思う。たとえば、親同士のコミュニティーなどに、もう少し市が介入してもいいと思う。（女性50～59歳）
- 公園で高いフェンスがついている所があるが、なぜかボール使用禁止。何かトラブルがあったのかもしれないけれど、公園と名がついていてフェンスもかなり高いのに残念だなあと感じています。（女性50～59歳）
- 子供食堂やヤングケアラーなどの社会問題について、市において改善の取組が聞こえてこない。（男性50～59歳）
- 子育て支援制度だけ見れば、それなりだとは思いますが、例えば旧来の集落に新しい住宅ができて子供たちが入ってきて、道路や環境整備が昔のままだし交通量も増えている。私見ですが、インフラ等で安全に対応できているのか、不安を感じる時がある。（男性50～59歳）
- 子どもたちに関わる犯罪などが多く、親にとって安心して子育てができる環境だとは言えないと思う。（男性65歳以上）

## (21) 市民協働の進捗状況

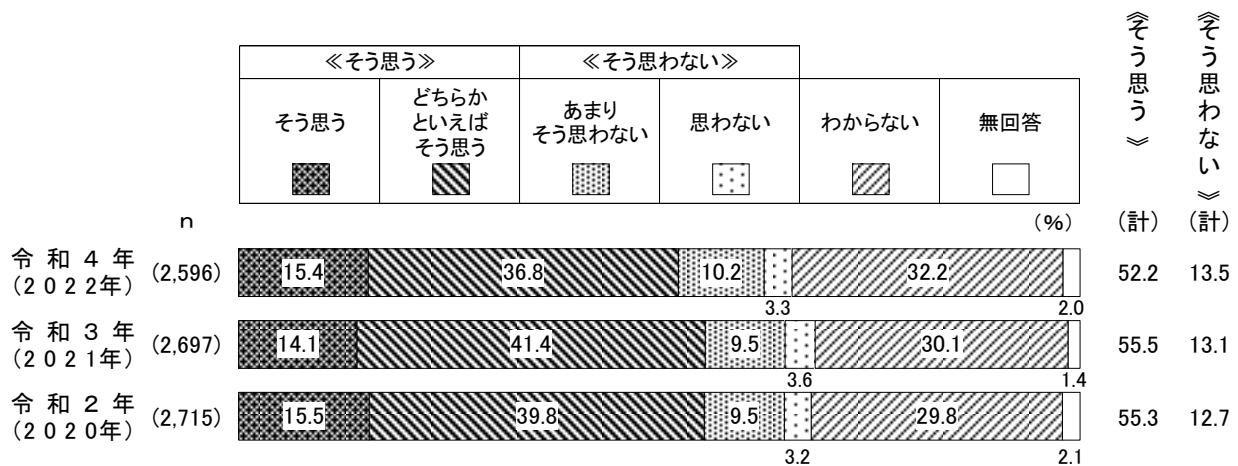
◇《《そう思う》》が5割強

問30 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。(〇は1つだけ)

※市民協働によるまちづくりとは・・・

- 八王子まつり、いちょう祭り、環境フェスティバルなどを市民と市が協力して開催
- 町会・自治会等が主体となって行う防犯・防災活動や環境美化活動
- 公園や道路の維持活動（清掃や除草などのボランティア活動）を地域の住民の方が担う  
アドプト制度
- 各種審議会や市の計画策定などに参加していただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント（意見募集）の実施 など

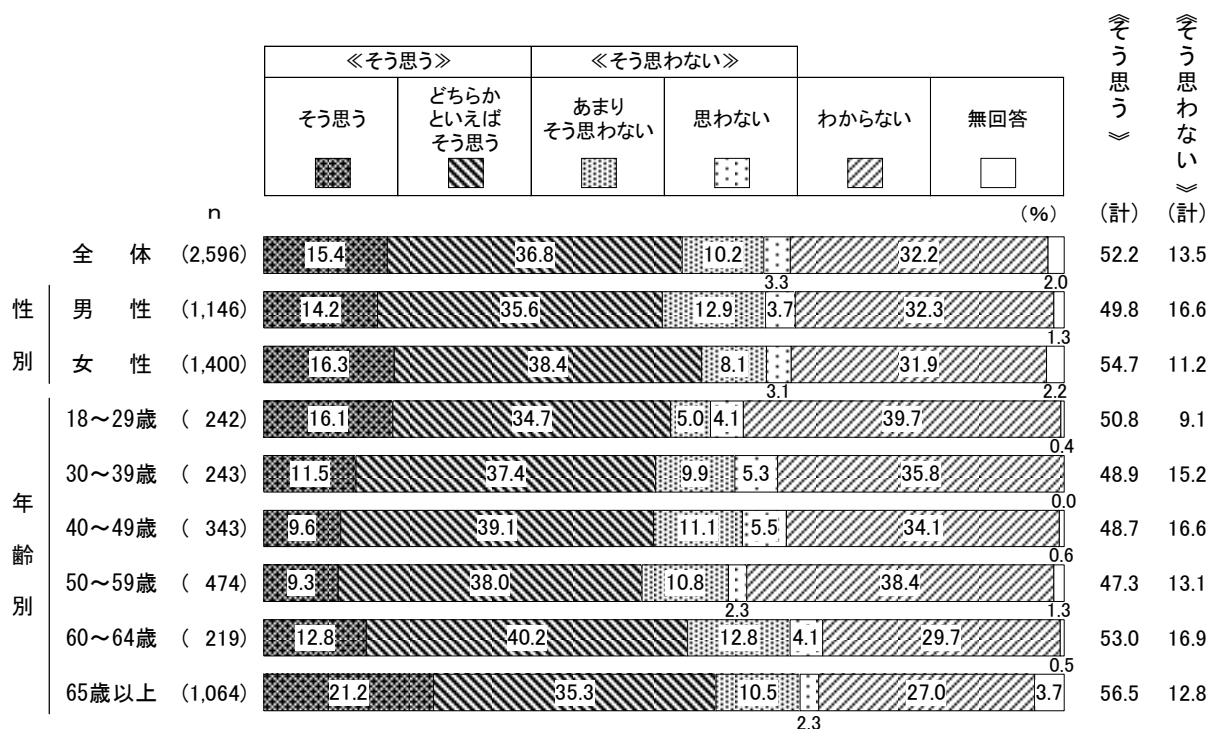
図3-21-1 市民協働の進捗状況－全体、経年比較



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」（15.4%）と「どちらかといえばそう思う」（36.8%）を合わせた《《そう思う》》（52.2%）は5割強となっている。一方、「あまりそう思わない」（10.2%）と「思わない」（3.3%）を合わせた《《そう思わない》》（13.5%）は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和3年（2021年）（55.5%）より3.3ポイント減少している。（図3-21-1）

図3-21-2 市民協働の進捗状況—性別、年齢別

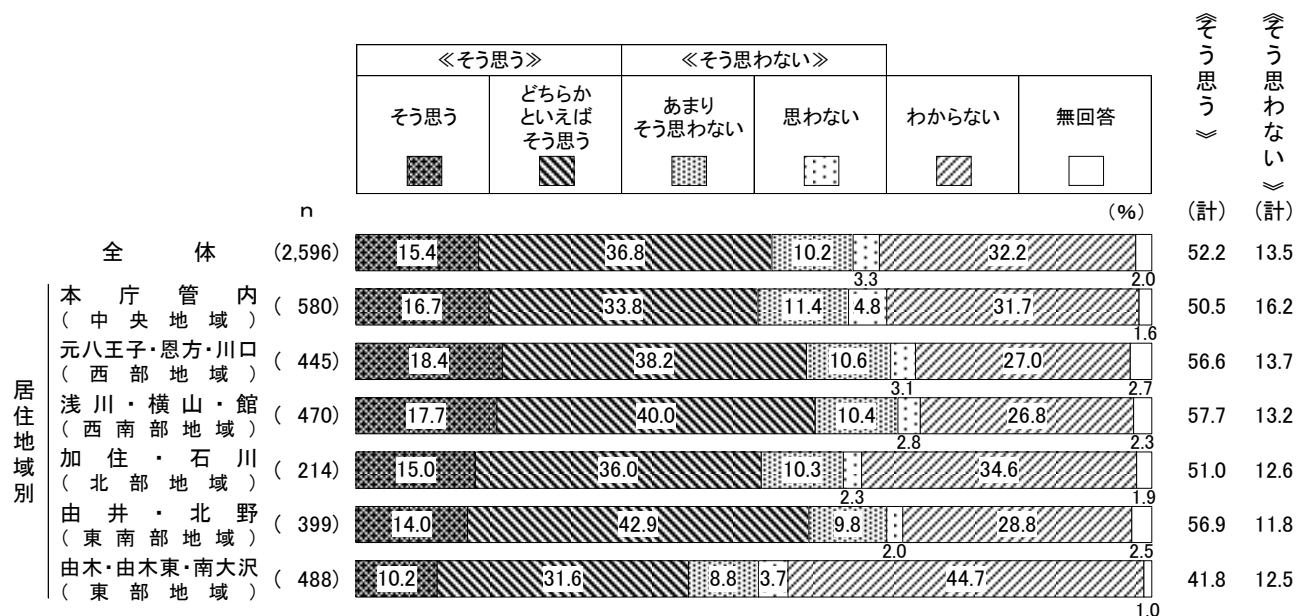


性別にみると、《そう思う》は女性（54.7%）が男性（49.8%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上（56.5%）で6割近くと多くなっている。

(図3-21-2)

図3-21-3 市民協働の進捗状況—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は浅川・横山・館（西南部地域）（57.7%）、由井・北野（東南部地域）（56.9%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（56.6%）で6割近くと多くなっている。

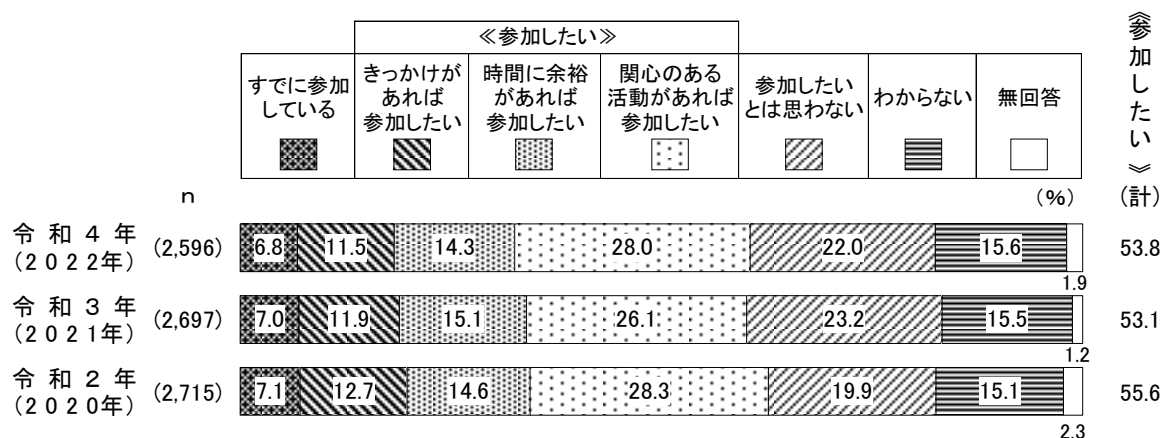
(図3-21-3)

## (22) 市民協働によるまちづくりへの参加意向

◇《参加したい》が5割強

問31 あなたは、問30で例示したような市民協働によるまちづくりに参加したいと思えますか。(○は1つだけ)

図3-22-1 市民協働によるまちづくりへの参加意向—全体、経年比較

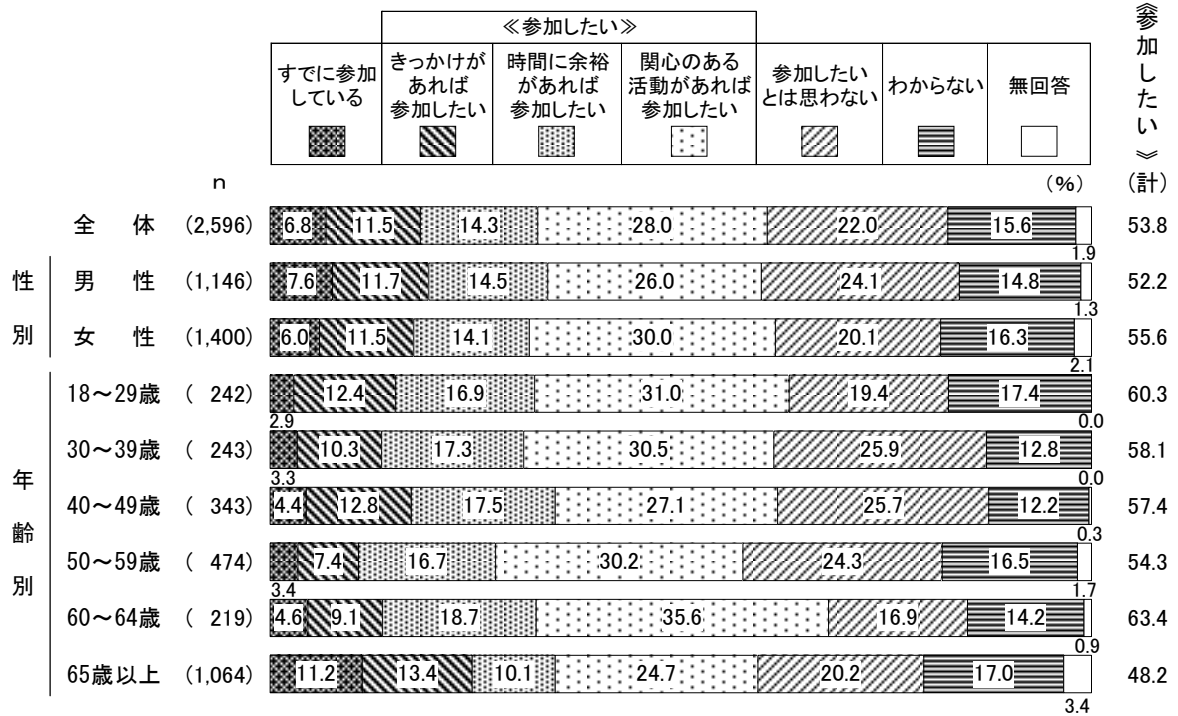


市民協働によるまちづくりに参加したいと思うか聞いたところ、「すでに参加している」(6.8%)は1割未満となっている。また、「きっかけがあれば参加したい」(11.5%)、「時間に余裕があれば参加したい」(14.3%)、「関心のある活動があれば参加したい」(28.0%)の3つを合わせた《参加したい》(53.8%)は5割強となっている。一方、「参加したいとは思わない」(22.0%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-22-1)

図3-22-2 市民協働によるまちづくりへの参加意向—性別、年齢別

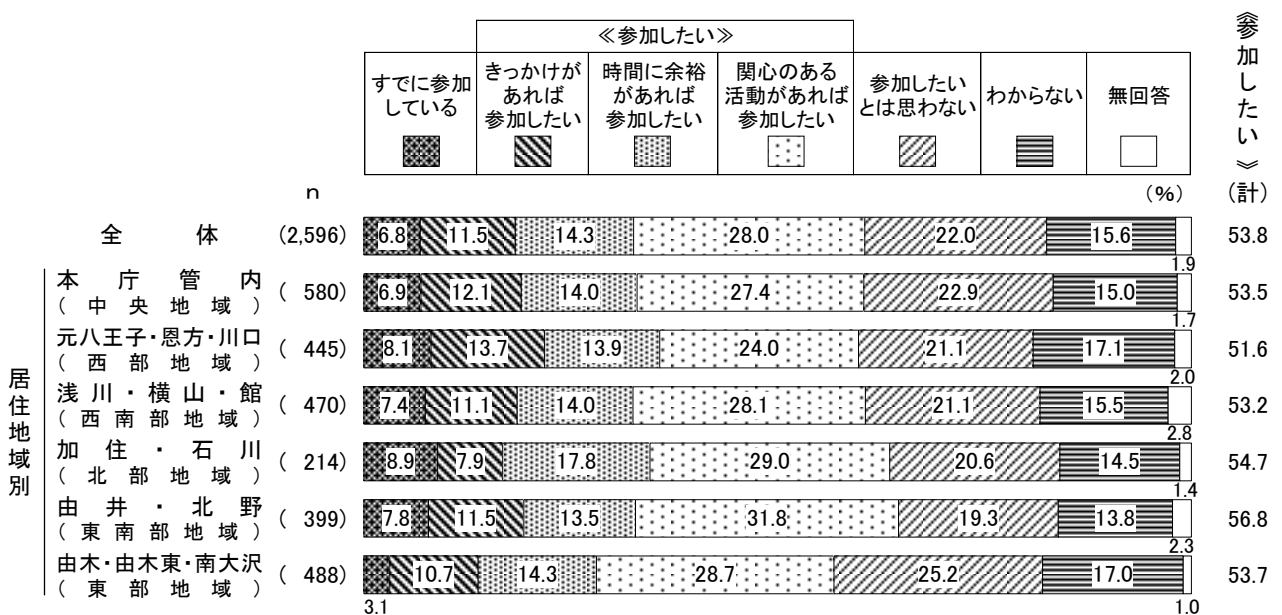


性別にみると、《参加したい》は女性（55.6%）が男性（52.2%）より3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《参加したい》は60～64歳（63.4%）で6割強と多くなっている。

(図3-22-2)

図3-22-3 市民協働によるまちづくりへの参加意向—居住地域別



居住地域別にみると、《参加したい》は由井・北野（東南部地域）（56.8%）で6割近くと多くなっている。（図3-22-3）



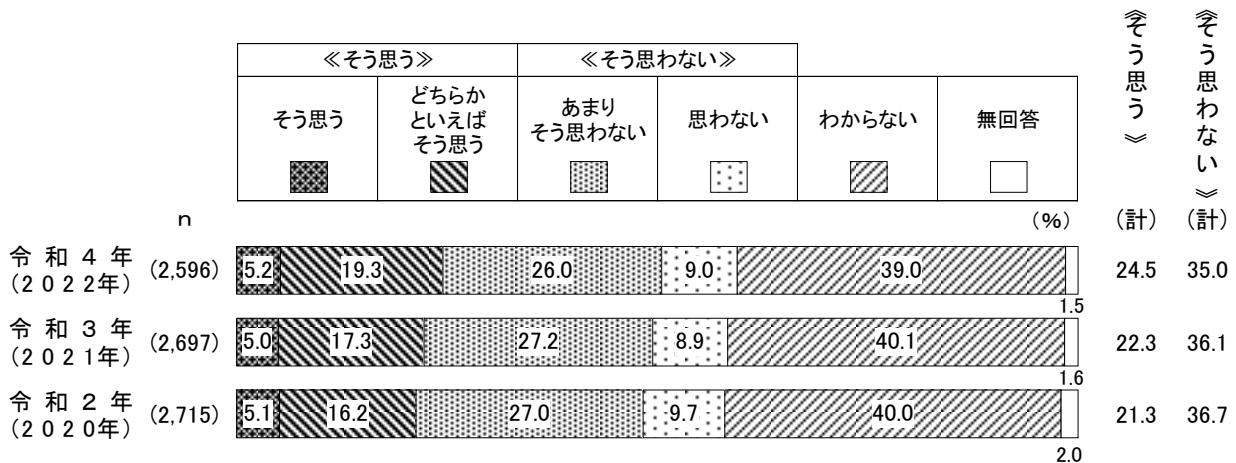
## (23) 大学等のまちづくりへの活用

◇《《そう思う》》が2割台半ば

問32 あなたは、市内およびその周辺地域に立地している大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力が、まちづくりに活かされていると思いますか。

(○は1つだけ)

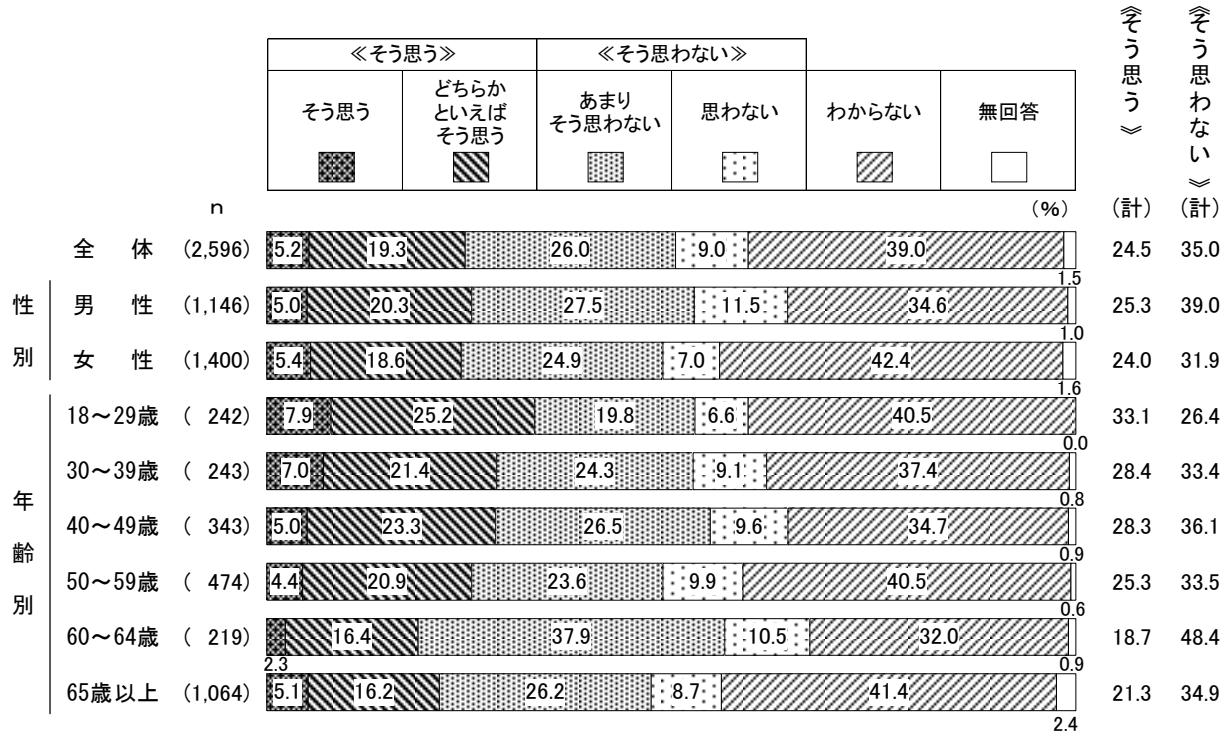
図3-23-1 大学等のまちづくりへの活用—全体、経年比較



大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.2%)と「どちらかといえばそう思う」(19.3%)を合わせた《《そう思う》》(24.5%)は2割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(26.0%)と「思わない」(9.0%)を合わせた《《そう思わない》》(35.0%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和3年(2021年)(22.3%)より2.2ポイント増加している。(図3-23-1)

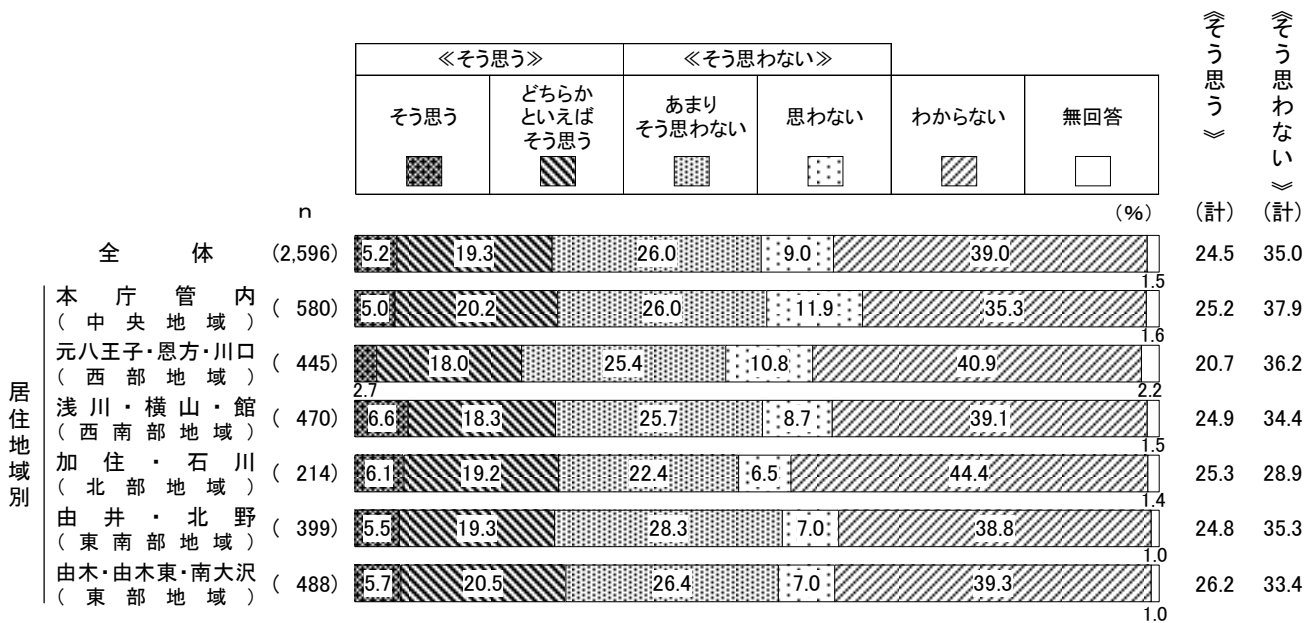
図3-23-2 大学等のまちづくりへの活用—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（39.0%）が女性（31.9%）より7.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（33.1%）で3割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（48.4%）で5割近くと多くなっている。（図3-23-2）

図3-23-3 大学等のまちづくりへの活用—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（26.2%）で3割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（37.9%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（36.2%）で4割近くと多くなっている。（図3-23-3）

## (24) この1年間の文化芸術活動への参加頻度

◇「年1回程度」が1割強

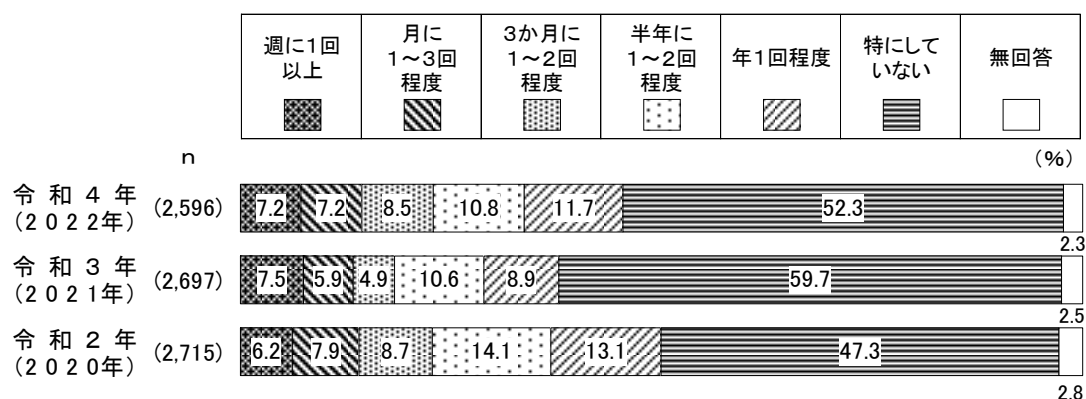
問33 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（○は1つだけ）

※文化芸術活動とは・・・

- 音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズなど）
- ポップス（J-POP（日本の若者向けポピュラー音楽）など）
- 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）
- メディア芸術（映画、マンガ、アニメーション、メディアアートなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、落語、車人形、雅楽、能楽など）
- 歴史的な建物や遺跡（建造物、史跡、名勝など）
- 文学（小説、詩、短歌、俳句など）
- 生活文化（茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）
- 演劇（現代演劇、ミュージカル、人形劇など）
- 舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）
- 芸能（落語、講談、浪曲、漫才など）

など

図3-24-1 この1年間の文化芸術活動への参加頻度－全体、経年比較

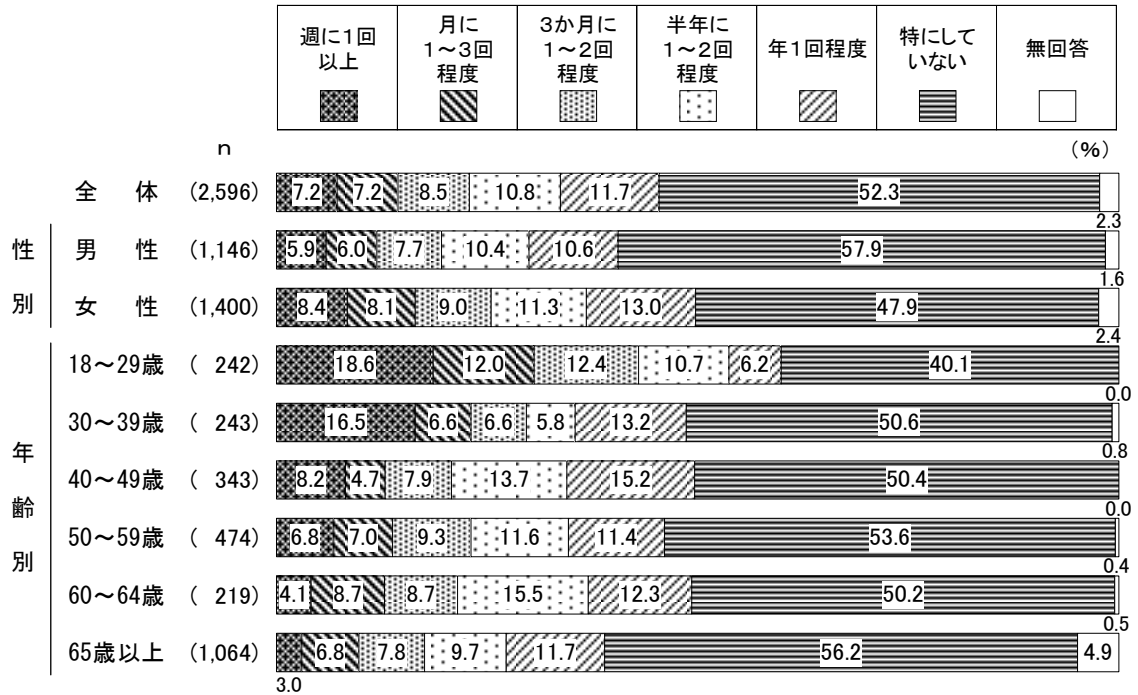


この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか聞いたところ、「年1回程度」（11.7%）が1割強となっている。一方、「特にしていない」（52.3%）は5割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「3か月に1～2回程度」は令和3年（2021年）（4.9%）より3.6ポイント、「年1回程度」は令和3年（2021年）（8.9%）より2.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「特にしていない」は令和3年（2021年）（59.7%）より7.4ポイント減少している。

（図3-24-1）

図3-24-2 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—性別、年齢別

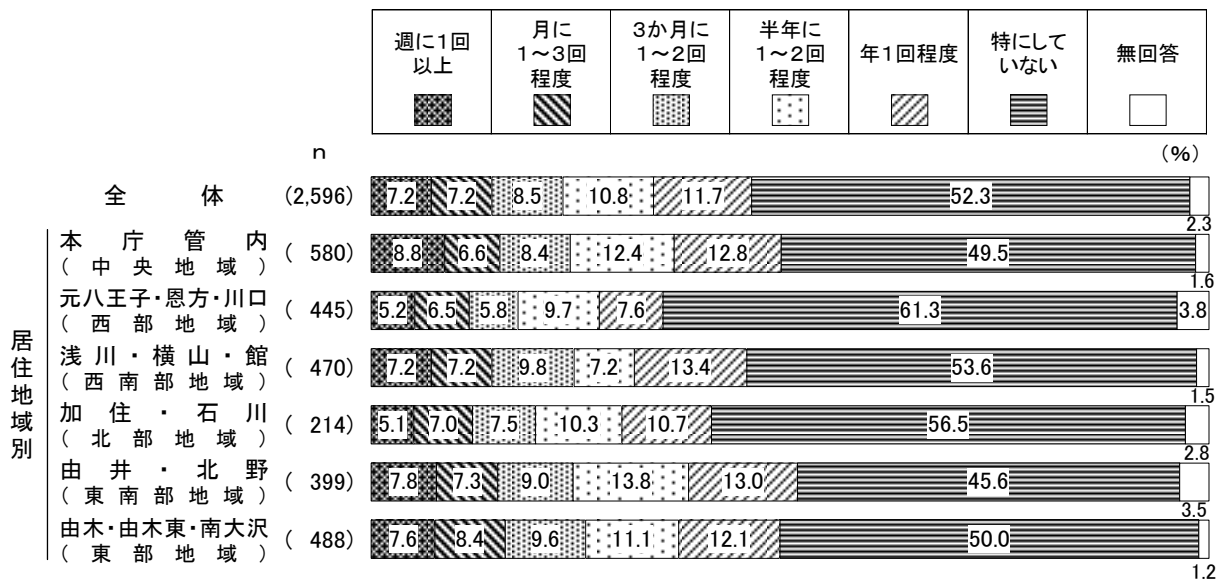


性別にみると、「特にしていない」は男性（57.9%）が女性（47.9%）より10.0ポイント高くなっている。一方、「週に1回以上」は女性（8.4%）が男性（5.9%）より2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「特にしていない」は65歳以上（56.2%）で6割近くと多くなっている。

(図3-24-2)

図3-24-3 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—居住地域別



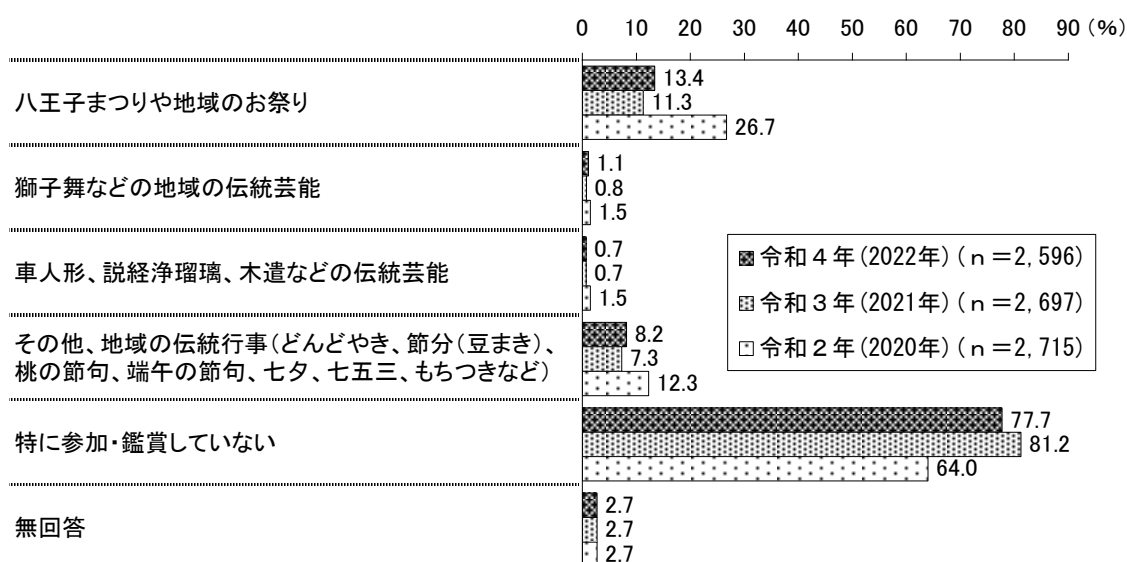
居住地域別にみると、「特にしていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（61.3%）で6割強と多くなっている。(図3-24-3)

## (25) この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が1割強

問34 あなたは、この1年間に、次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（〇はいくつでも）

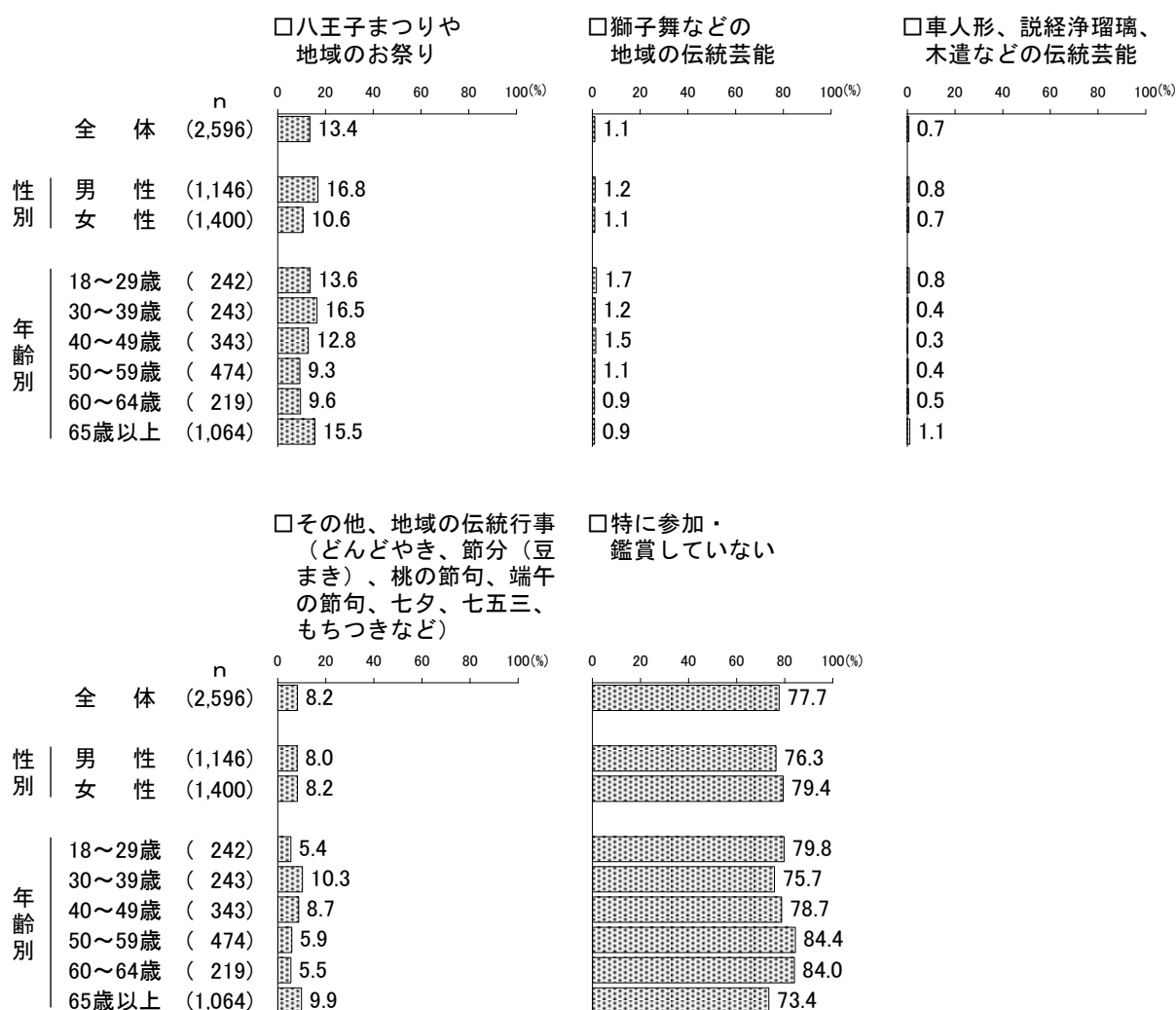
図3-25-1 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体、経年比較



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」(13.4%)が1割強で最も多くなっている。次いで「その他、地域の伝統行事(どんとやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」(8.2%)、「獅子舞などの地域の伝統芸能」(1.1%)、「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」(0.7%)の順となっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」(77.7%)は8割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「八王子まつりや地域のお祭り」は令和3年(2021年)(11.3%)より2.1ポイント増加している。一方、「特に参加・鑑賞していない」は令和3年(2021年)(81.2%)より3.5ポイント減少している。(図3-25-1)

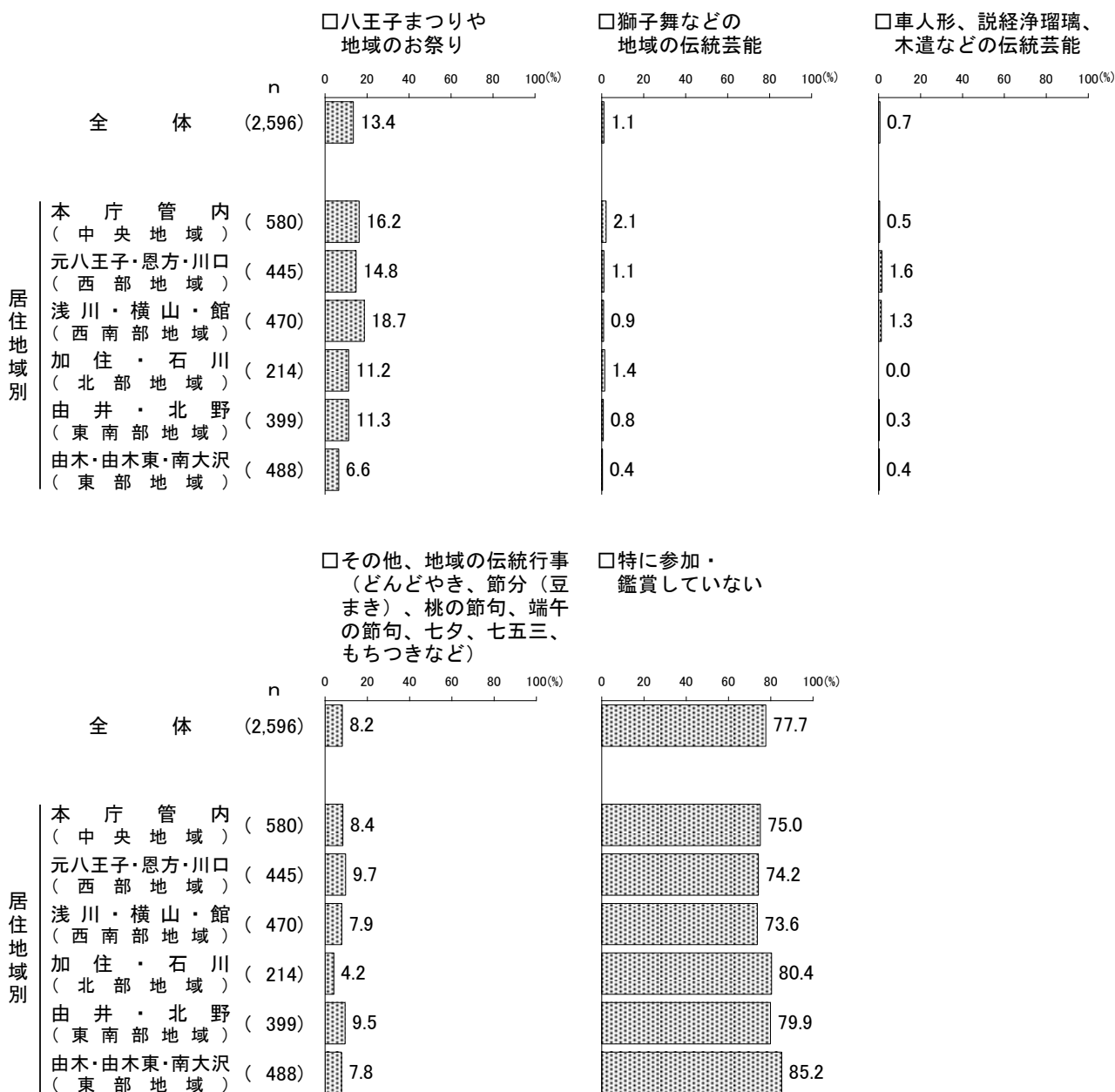
図3-25-2 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－性別、年齢別



性別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は男性（16.8%）が女性（10.6%）より6.2ポイント高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は女性（79.4%）が男性（76.3%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（16.5%）で2割近くとなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は50～59歳（84.4%）と60～64歳（84.0%）で8割台半ばと多くなっている。（図3-25-2）

図3-25-3 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況—居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は浅川・横山・館（西南部地域）（18.7%）と本庁管内（中央地域）（16.2%）で2割近くとなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（85.2%）で8割台半ばと多くなっている。（図3-25-3）

## (26) 日本遺産認定の周知度

◇《認定されたことを知っている》が6割近く

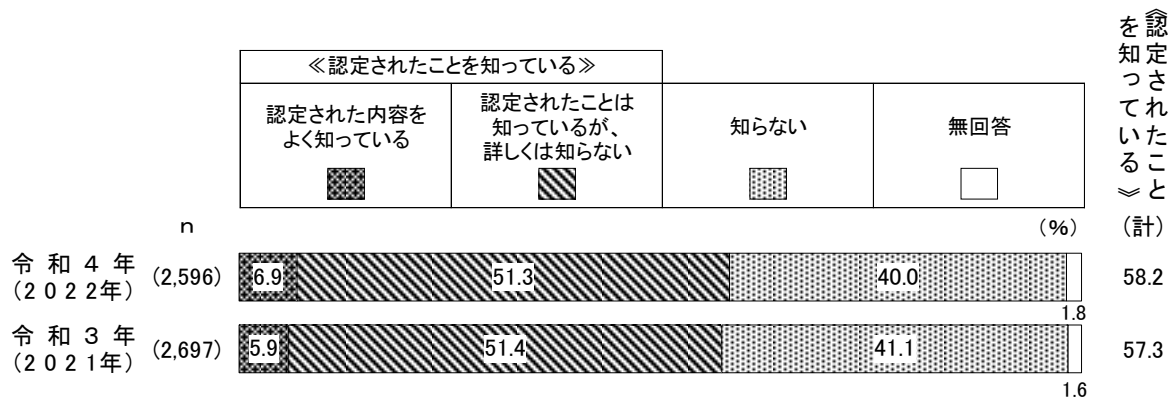
問35 八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っていますか。(○は1つだけ)

※「日本遺産」とは・・・

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを国が認定する制度です。日本全国で、104のストーリーが「日本遺産」に認定されており、都内で唯一認定されているのが、八王子市のストーリー『靈氣満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～』です。

このストーリーは、養蚕や織物が盛んだったことから「桑都」と称された八王子の発展の歴史を、靈山・高尾山への人々の祈りをテーマにしてつづられています。

図3-26-1 日本遺産認定の周知度－全体、経年比較



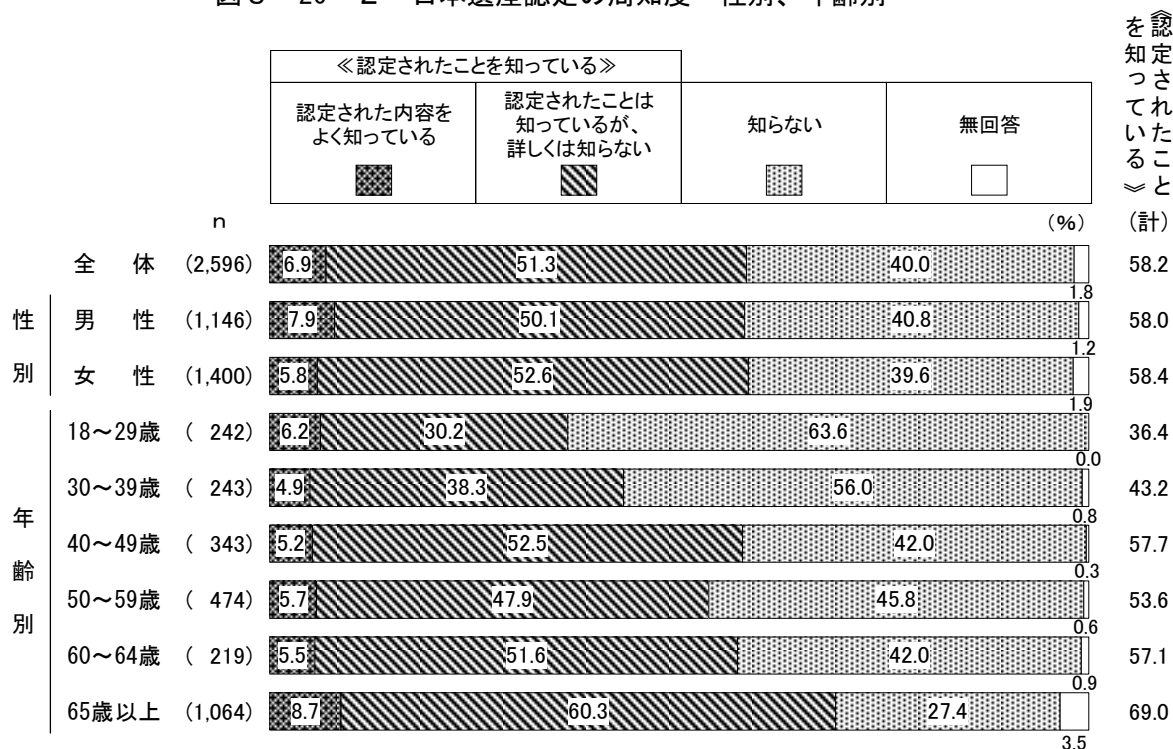
八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っているか聞いたところ、「認定された内容をよく知っている」(6.9%)と「認定されたことは知っているが、詳しくは知らない」(51.3%)を合わせた《認定されたことを知っている》(58.2%)は6割近くとなっている。一方、「知らない」(40.0%)は4割となっている。

前回の調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-26-1)



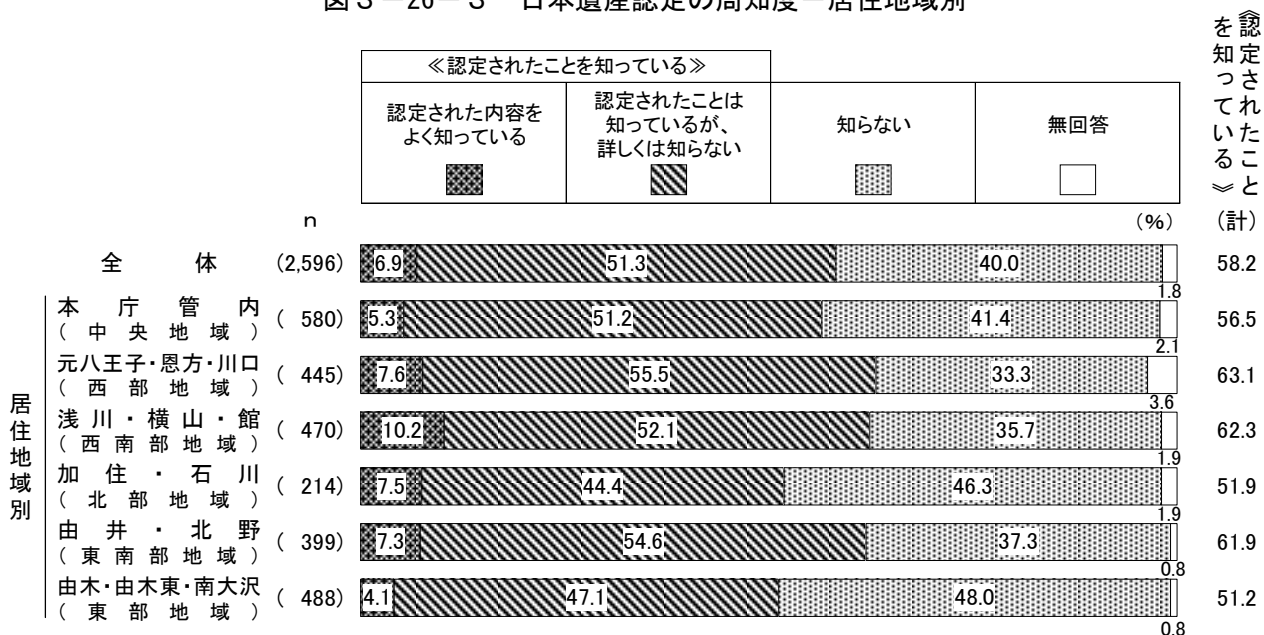
図3-26-2 日本遺産認定の周知度—性別、年齢別



性別にみると、「認定された内容をよく知っている」は男性（7.9%）が女性（5.8%）より2.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《認定されたことを知っている》は65歳以上（69.0%）で7割弱と多くなっている。一方、「知らない」は18～29歳（63.6%）で6割強と多くなっている。（図3-26-2）

図3-26-3 日本遺産認定の周知度—居住地域別



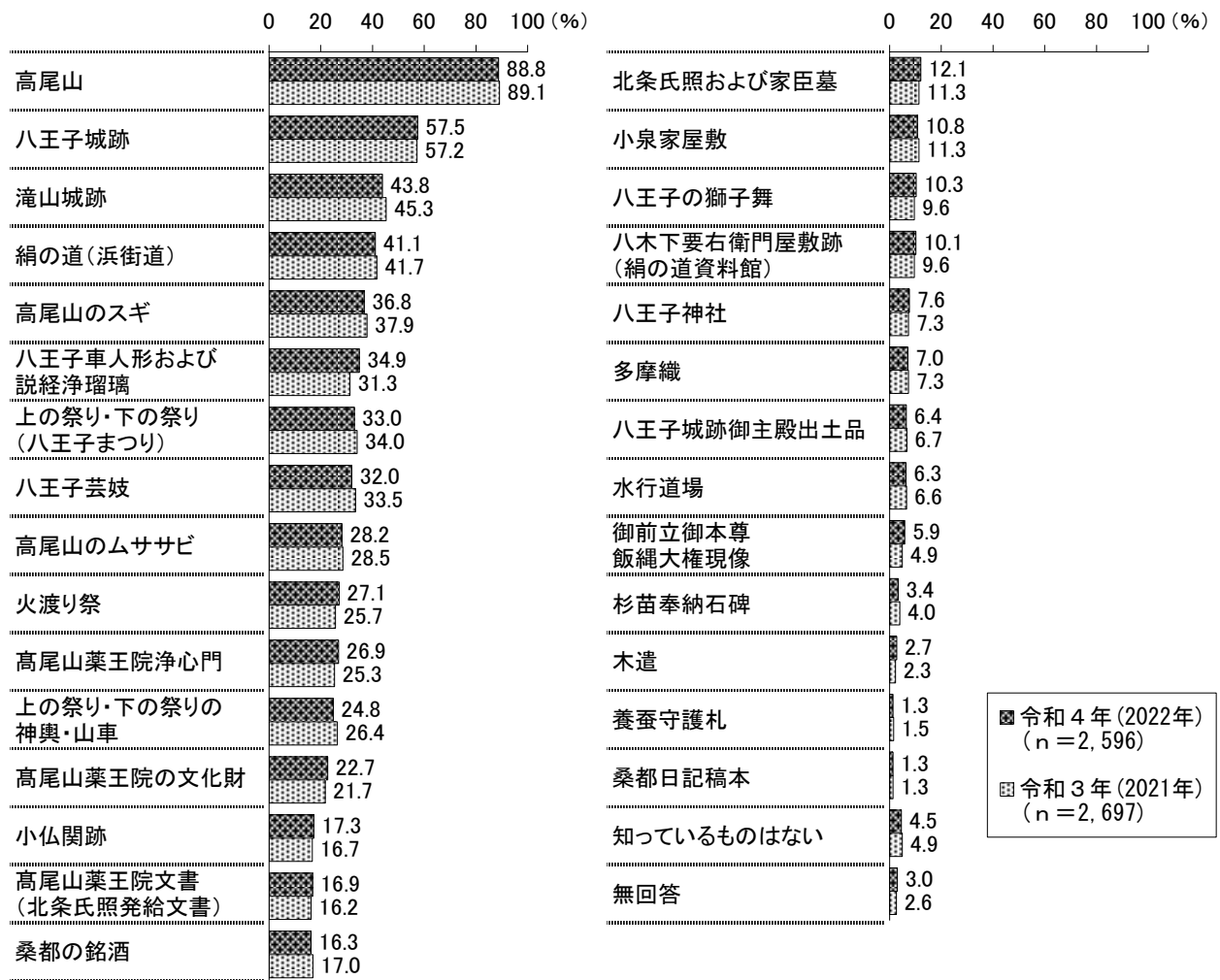
居住地域別にみると、《認定されたことを知っている》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（63.1%）、浅川・横山・館（西南部地域）（62.3%）、由井・北野（東南部地域）（61.9%）で6割強と多くなっている。（図3-26-3）

## (27) 日本遺産構成文化財の周知度

◇「高尾山」が9割近く

問36 八王子市の『日本遺産』の構成文化財（29件）のうち、知っているものは何がありますか。（○はいくつでも）

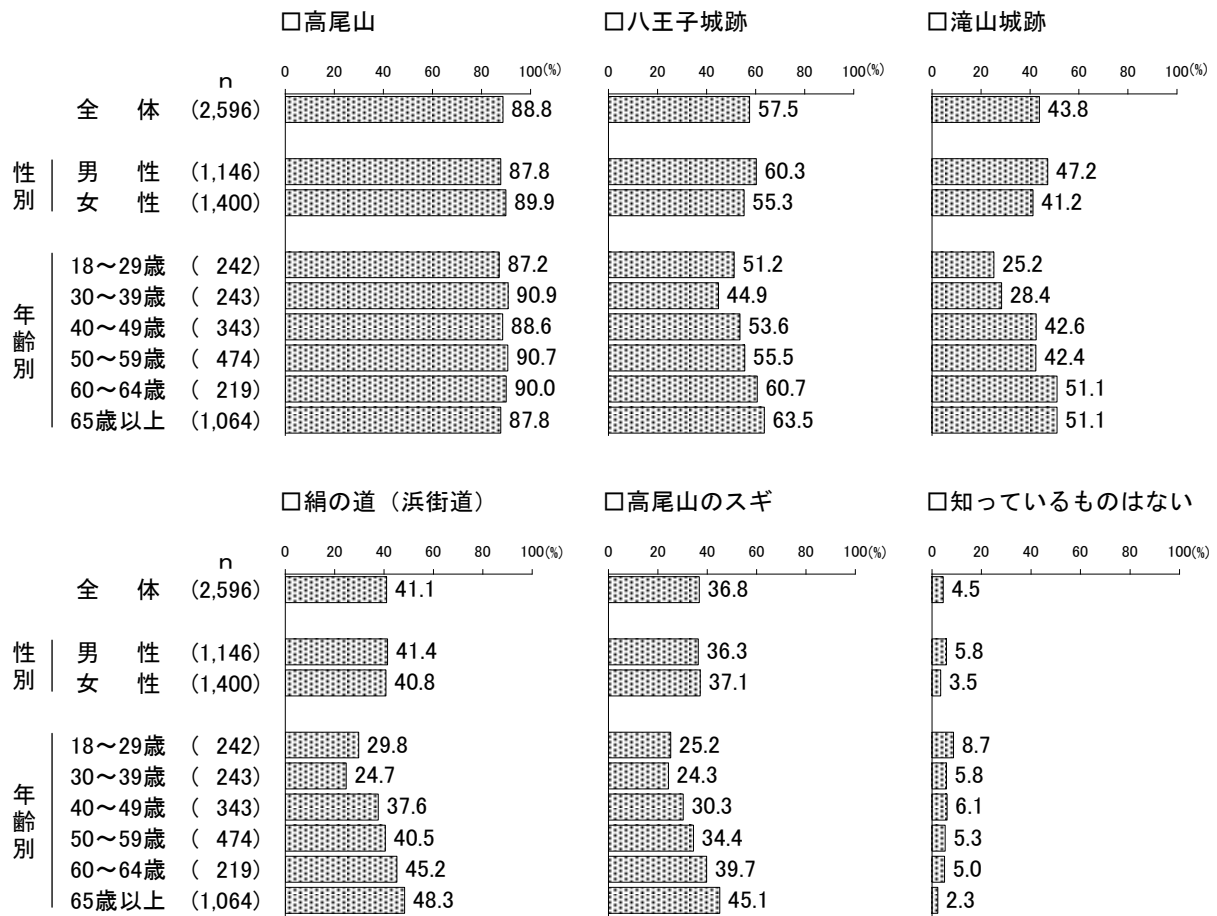
図3-27-1 日本遺産構成文化財の周知度－全体、経年比較



八王子市の『日本遺産』の構成文化財（29件）のうち、知っているものを聞いたところ、「高尾山」（88.8%）が9割近くで最も多くなっている。次いで「八王子城跡」（57.5%）、「滝山城跡」（43.8%）、「絹の道（浜街道）」（41.1%）、「高尾山のスギ」（36.8%）などの順となっている。一方、「知っているものはない」（4.5%）は1割未満となっている。

前回の調査と比較すると、「八王子車人形および説経浄瑠璃」は令和3年（2021年）（31.3%）より3.6ポイント増加している。（図3-27-1）

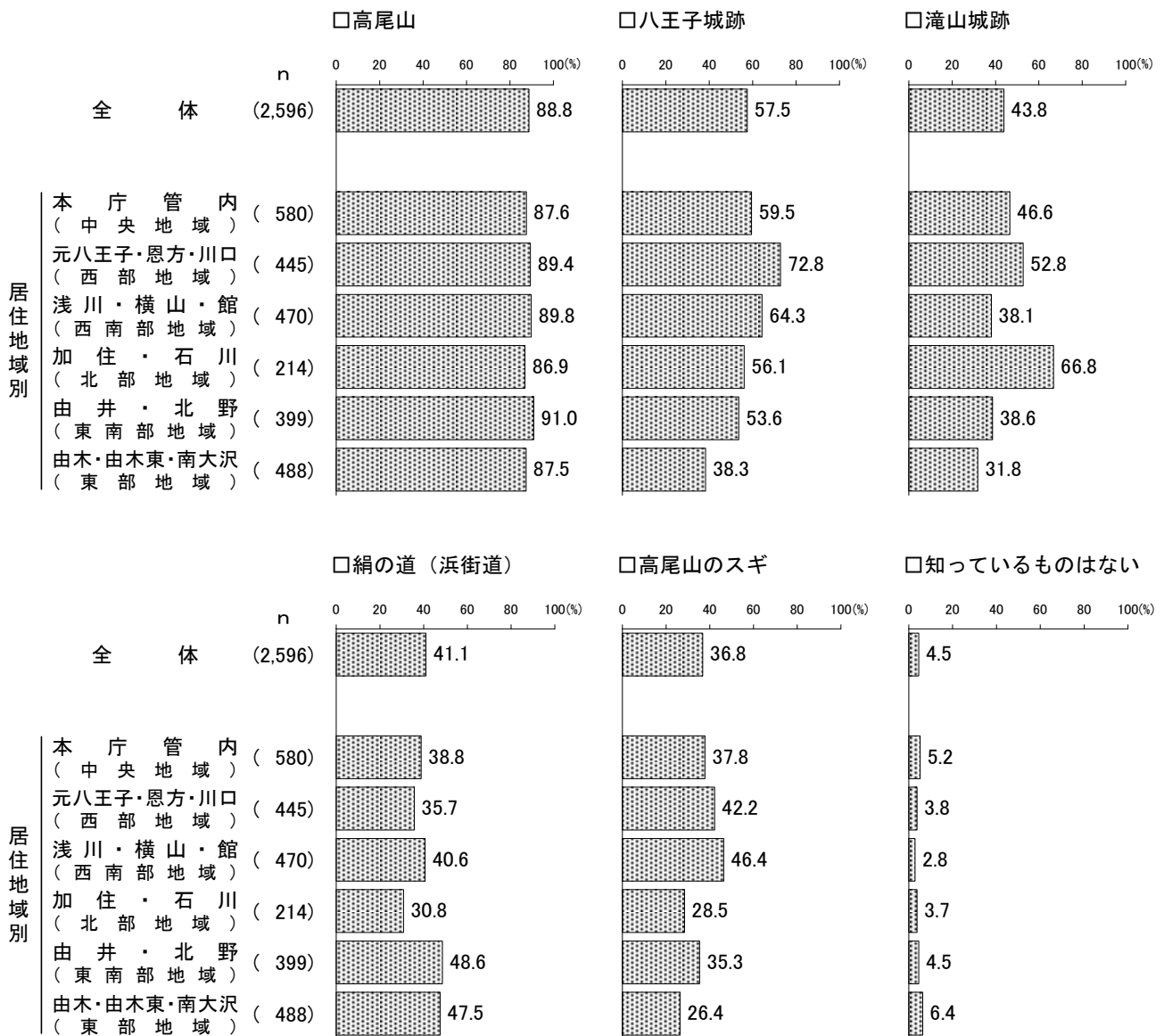
図3-27-2 日本遺産構成文化財の周知度—性別、年齢別（上位5位+「知っているものはない」）



性別にみると、「滝山城跡」は男性（47.2%）が女性（41.2%）より6.0ポイント、「八王子城跡」は男性（60.3%）が女性（55.3%）より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「高尾山」は女性（89.9%）が男性（87.8%）より2.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子城跡」は65歳以上（63.5%）で6割強と多くなっている。「滝山城跡」は60~64歳と65歳以上（ともに51.1%）で5割強と多くなっている。「絹の道（浜街道）」は65歳以上（48.3%）で5割近くと多くなっている。（図3-27-2）

図3-27-3 日本遺産構成文化財の周知度—居住地域別（上位5位+「知っているものはない」）



居住地域別にみると、「高尾山」は由井・北野（東南部地域）（91.0%）で9割強と多くなっている。「八王子城跡」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（72.8%）で7割強と多くなっている。「滝山城跡」は加住・石川（北部地域）（66.8%）で7割近くと多くなっている。（図3-27-3）

## (28) 海外友好交流都市の周知度

◇《知っている》が3割強

問37 あなたは、市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っていますか。

(○は1つだけ)

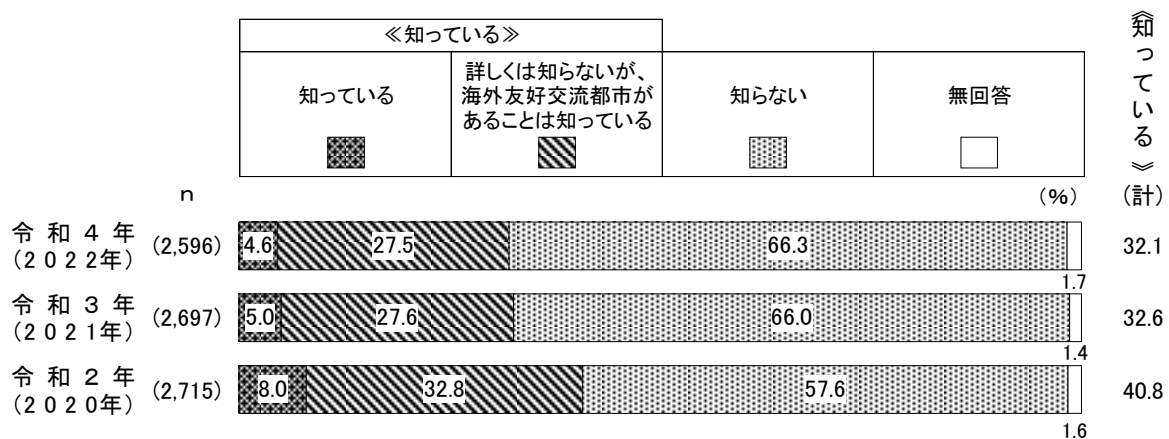
※「海外友好交流都市との交流」とは・・・

○平成18年(2006年)の市制施行90周年を機に、幅広い市民交流が実現できるよう、市は中国・泰安(たいあん)市、台湾・高雄(たかお)市、韓国・始興(しふん)市の3都市との間で友好交流協定を締結し、文化・教育・スポーツなど様々な面で交流を実施しています。

交流実績：海外友好交流都市写真展、八王子まつりへの出演、サッカー交流 など

○また、市制100周年の節目である平成29年(2017年)に、本市中町出身の医師・肥沼 信次(こえぬまのぶつぐ)博士ゆかりのドイツ・ヴリーツェン市と新たな友好交流協定を締結しました。

図3-28-1 海外友好交流都市の周知度－全体、経年比較

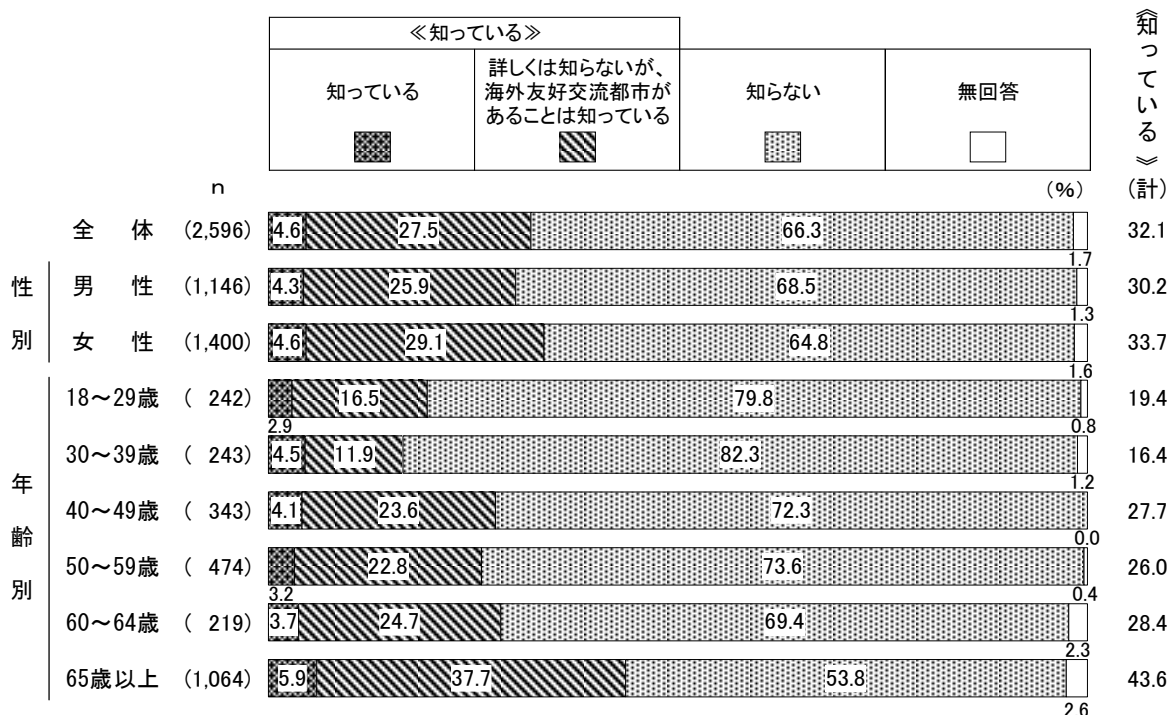


市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(4.6%)と「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」(27.5%)を合わせた《知っている》(32.1%)は3割強となっている。一方、「知らない」(66.3%)は7割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-28-1)

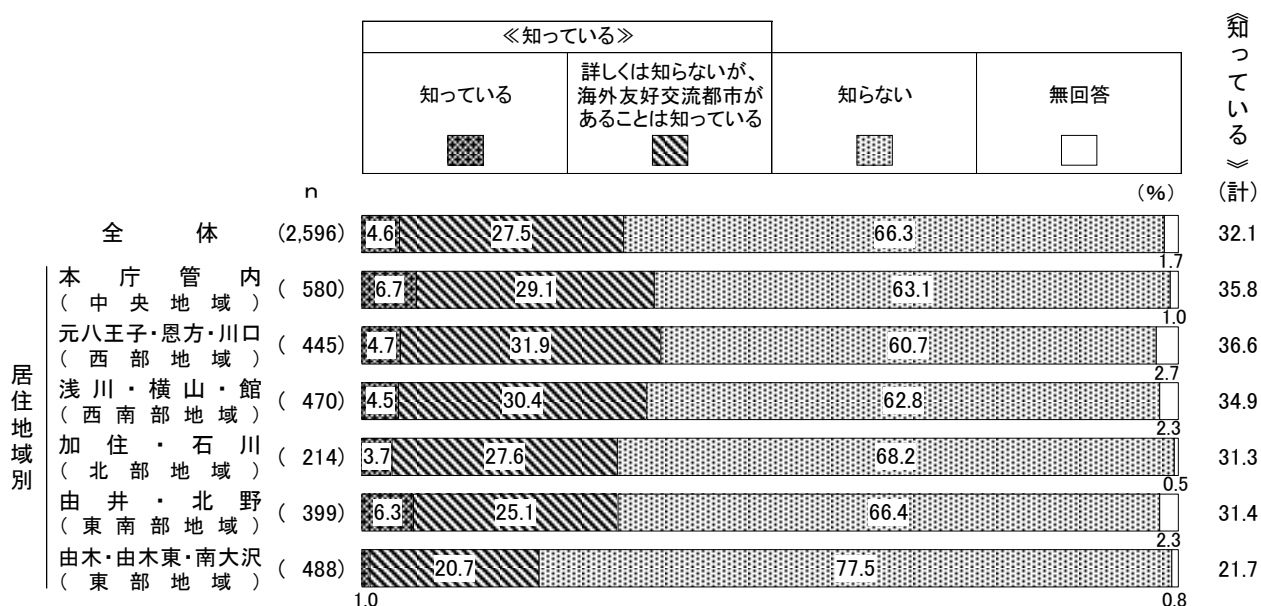
図3-28-2 海外友好交流都市の周知度－性別、年齢別



性別にみると、《知っている》は女性（33.7%）が男性（30.2%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《知っている》は65歳以上（43.6%）で4割強と多くなっている。一方、「知らない」は30～39歳（82.3%）で8割強と多くなっている。（図3-28-2）

図3-28-3 海外友好交流都市の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、《知っている》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（36.6%）で4割近くと多くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（77.5%）で8割近くと多くなっている。（図3-28-3）

## (29) 障害のある方への理解や配慮

◇《している》が7割近く

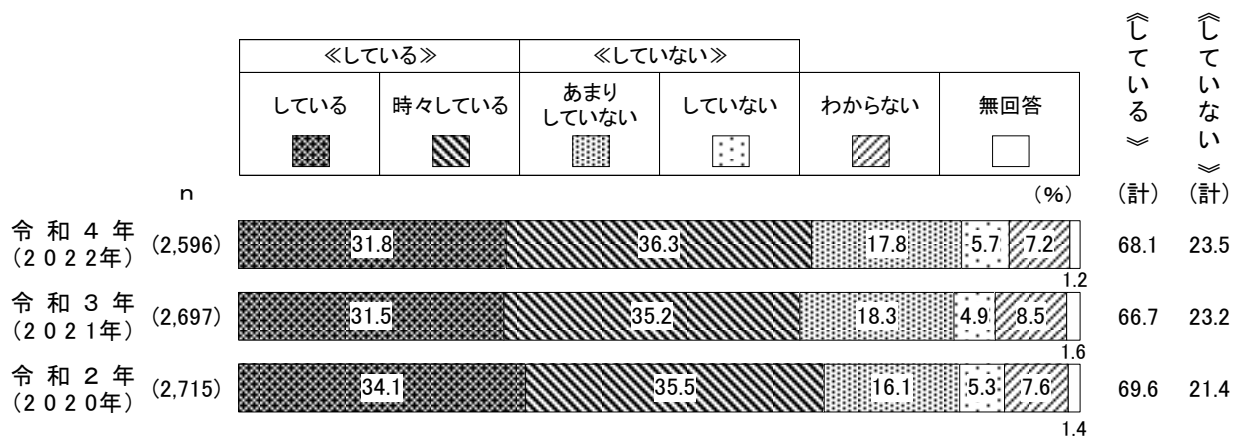
問38 あなたは、日ごろ障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

(○は1つだけ)

※「適切な配慮」とは・・・

- 困っている様子の方を見かけたら、声をかける。
- ゆっくりわかりやすく話すなどしたり、筆談したりするなど障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。
- 優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどを必要としている方の妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、内部障害、難病など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。) など

図3-29-1 障害のある方への理解や配慮—全体、経年比較

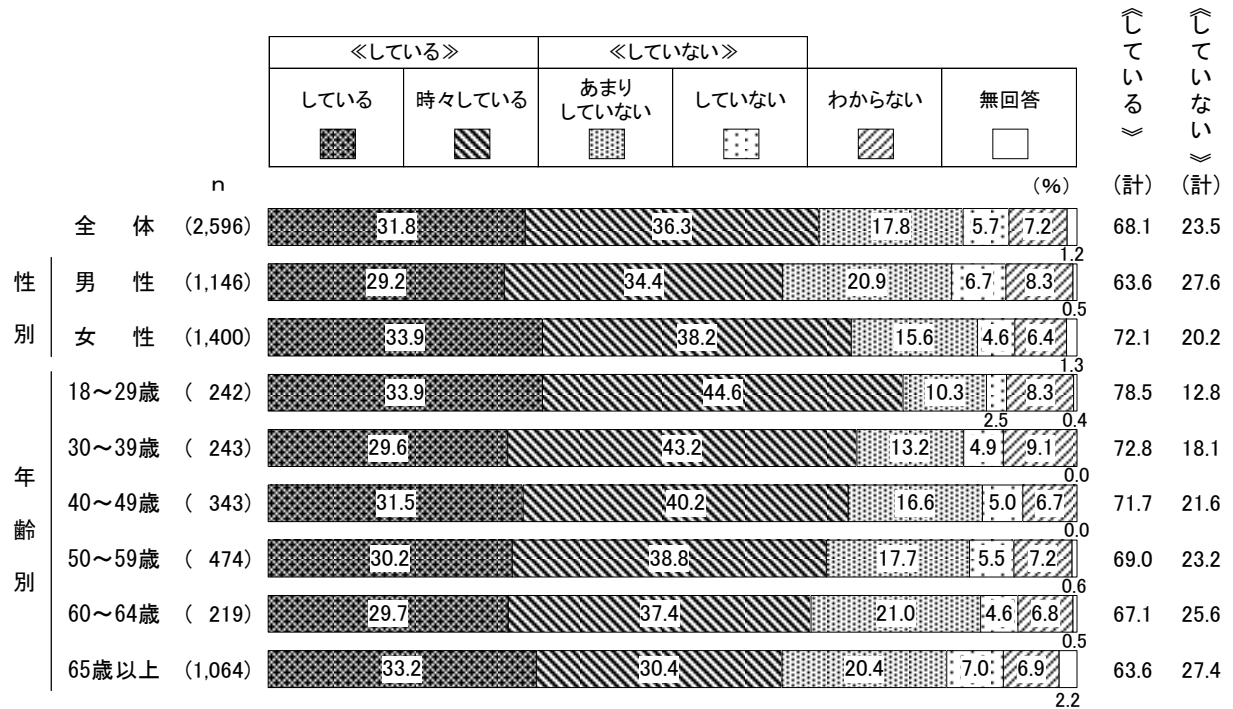


日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」(31.8%)と「時々している」(36.3%)を合わせた《している》(68.1%)は7割近くとなっている。一方、「あまりしていない」(17.8%)と「していない」(5.7%)を合わせた《していない》(23.5%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-29-1)

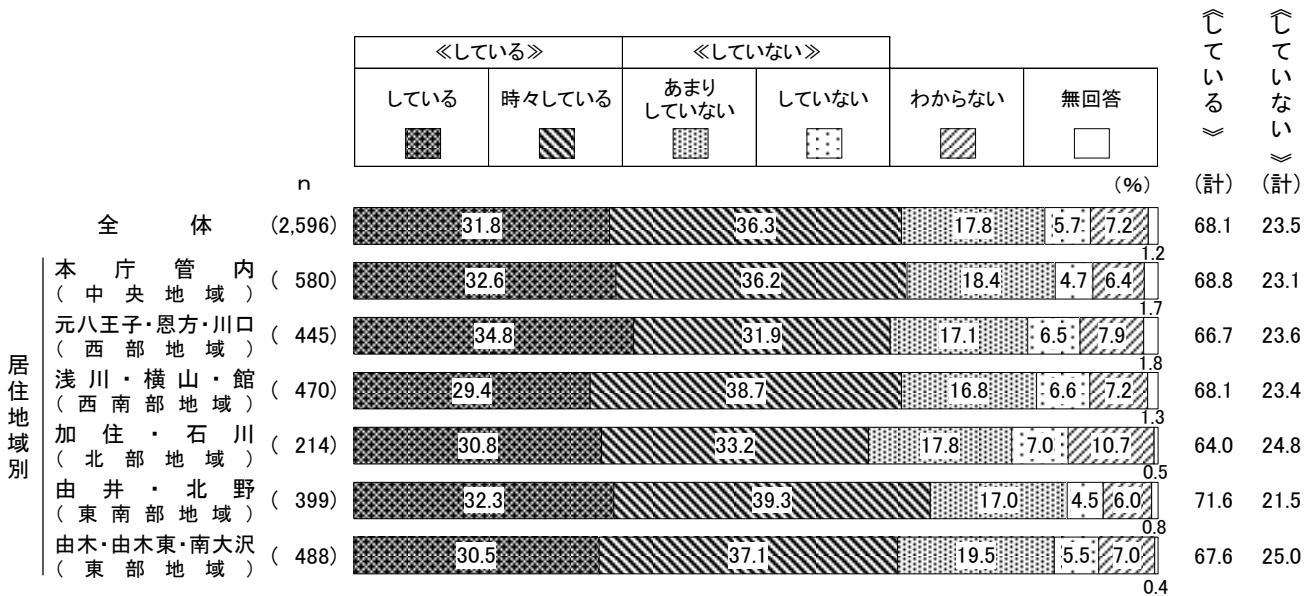
図3-29-2 障害のある方への理解や配慮—性別、年齢別



性別にみると、《している》は女性（72.1%）が男性（63.6%）より8.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《している》は年代が低くなるほど割合が高く、18～29歳（78.5%）で8割近くと多くなっている。（図3-29-2）

図3-29-3 障害のある方への理解や配慮—居住地域別



居住地域別にみると、《している》は由井・北野（東南部地域）（71.6%）で7割強と多くなっている。（図3-29-3）



### (30) 高齢者あんしん相談センターの周知度

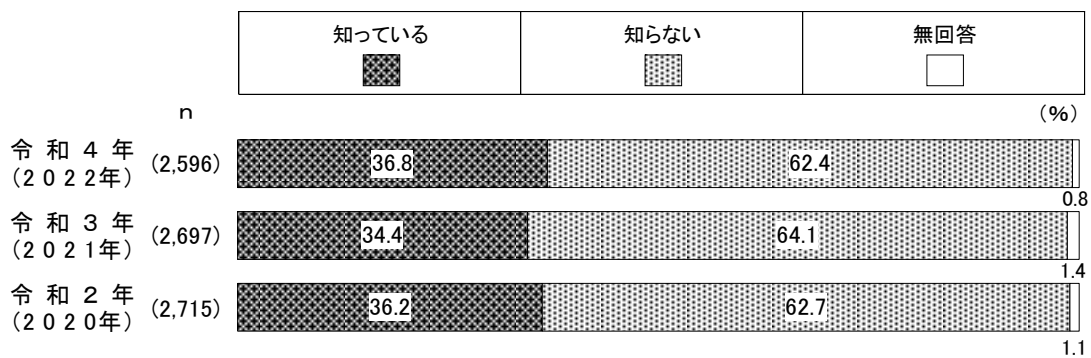
◇「知っている」が4割近く

問39 あなたは、「高齢者あんしん相談センター」を知っていますか。(○は1つだけ)

※高齢者あんしん相談センターとは・・・

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らせるよう、地域の身近な相談窓口として市内に21か所設置している施設です。介護保険法に規定された地域包括支援センターのことで、八王子市では親しみやすいようこの愛称を付けています。

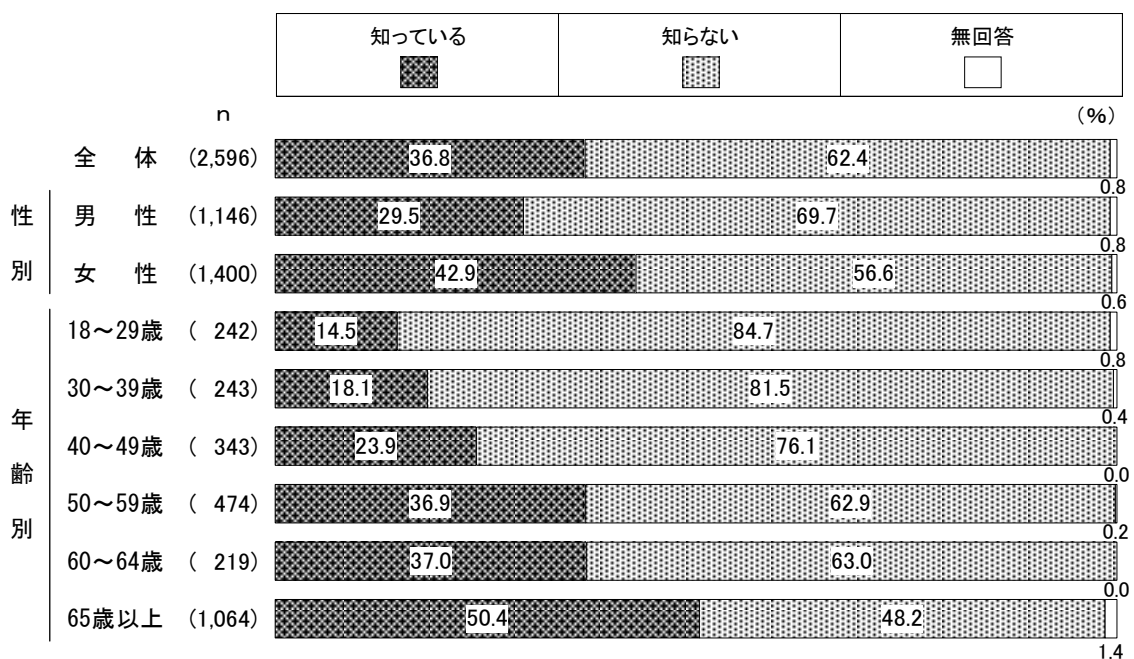
図3-30-1 高齢者あんしん相談センターの周知度－全体、経年比較



高齢者あんしん相談センターを知っているか聞いたところ、「知っている」(36.8%)が4割近く、「知らない」(62.4%)は6割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「知っている」は令和3年(2021年)(34.4%)より2.4ポイント増加している。(図3-30-1)

図 3-30-2 高齢者あんしん相談センターの周知度—性別、年齢別

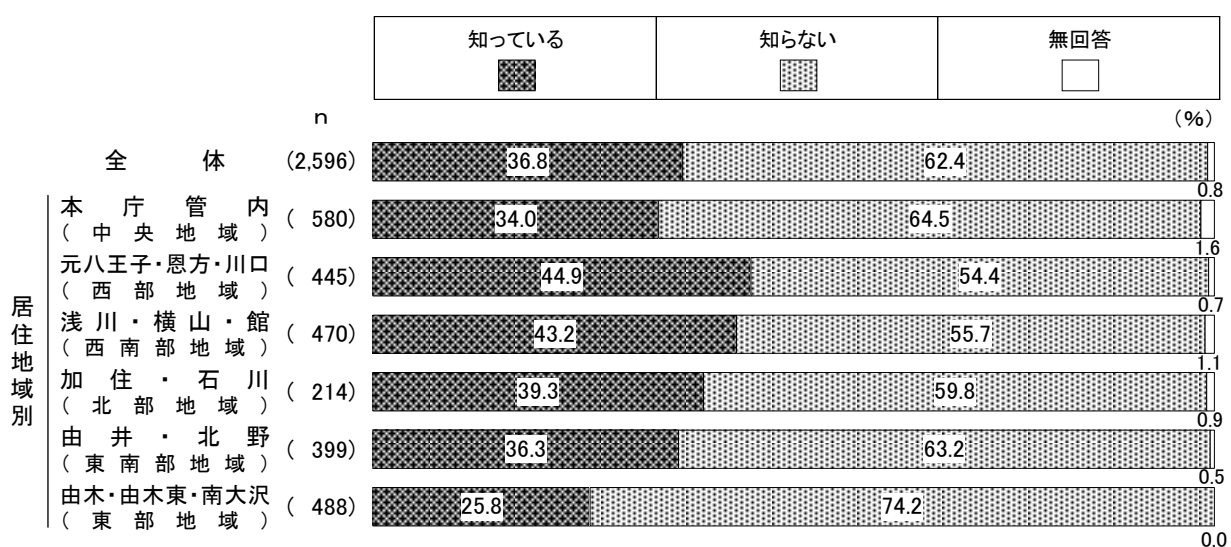


性別にみると、「知っている」は女性（42.9%）が男性（29.5%）より13.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（50.4%）で約5割と多くなっている。一方、「知らない」は18~29歳（84.7%）で8割台半ばと多くなっている。

（図 3-30-2）

図 3-30-3 高齢者あんしん相談センターの周知度—居住地域別



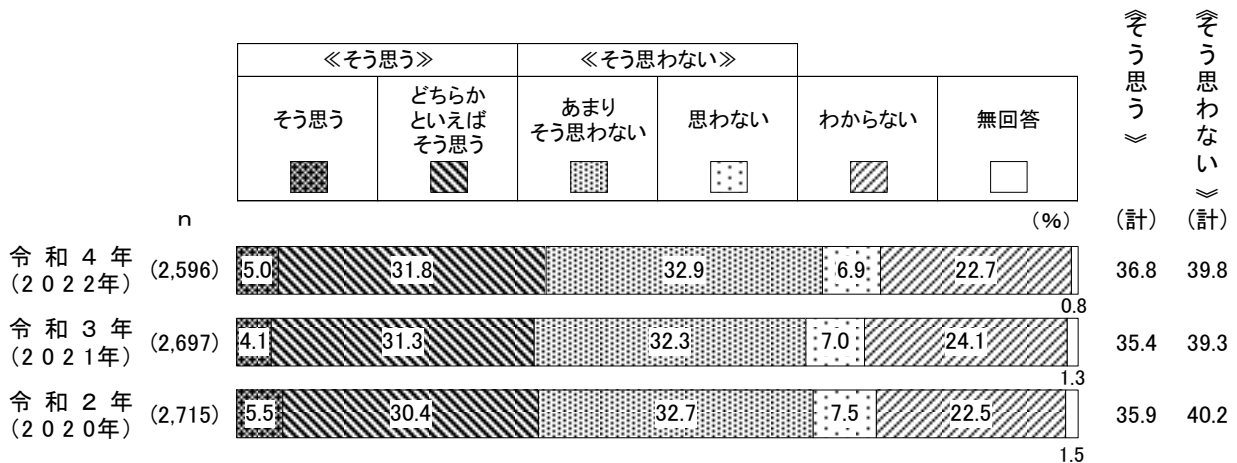
居住地域別にみると、「知っている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（44.9%）で4割台半ばと多くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（74.2%）で7割台半ばと多くなっている。（図 3-30-3）

### (31) 誰もが安全で快適に暮らせるまち

◇《《そう思う》》が4割近く

問40 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。(〇は1つだけ)

図3-31-1 誰もが安全で快適に暮らせるまち—全体、経年比較

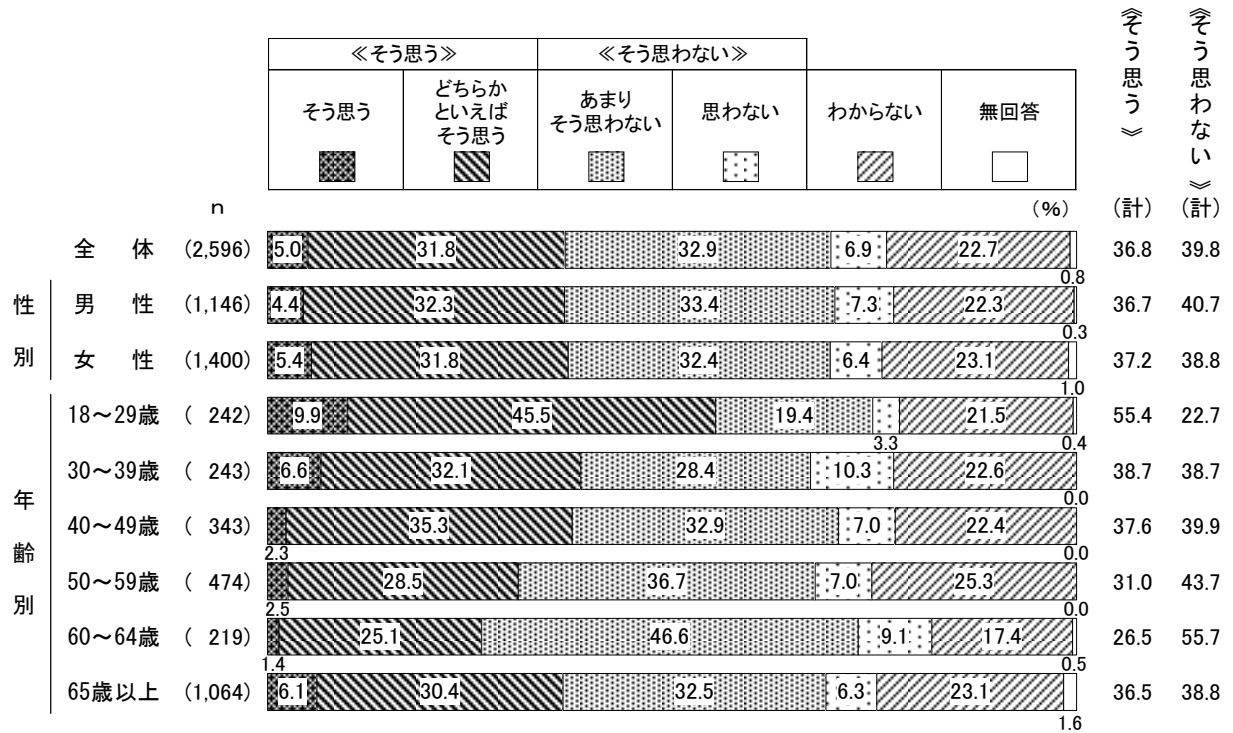


市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.0%)と「どちらかといえばそう思う」(31.8%)を合わせた《《そう思う》》(36.8%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(32.9%)と「思わない」(6.9%)を合わせた《《そう思わない》》(39.8%)は4割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-31-1)

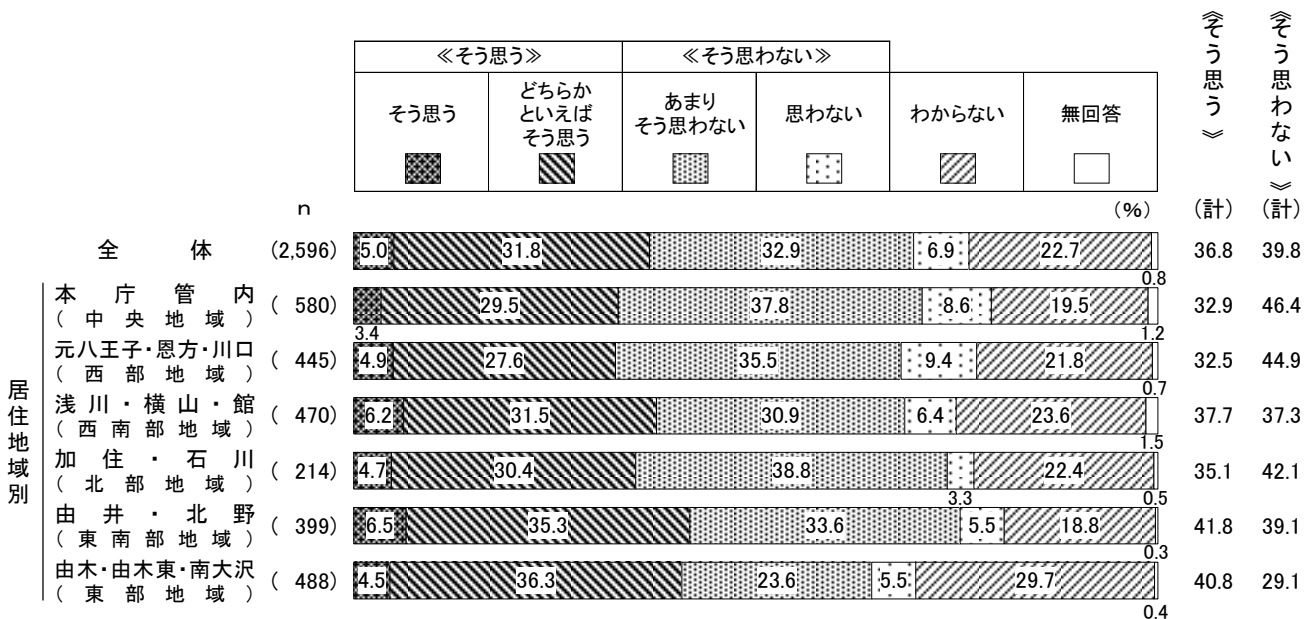
図3-31-2 誰もが安全で快適に暮らせるまち—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（55.4%）で5割台半ばと多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（55.7%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-31-2）

図3-31-3 誰もが安全で快適に暮らせるまち—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（41.8%）で4割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（46.4%）で5割近くと多くなっている。

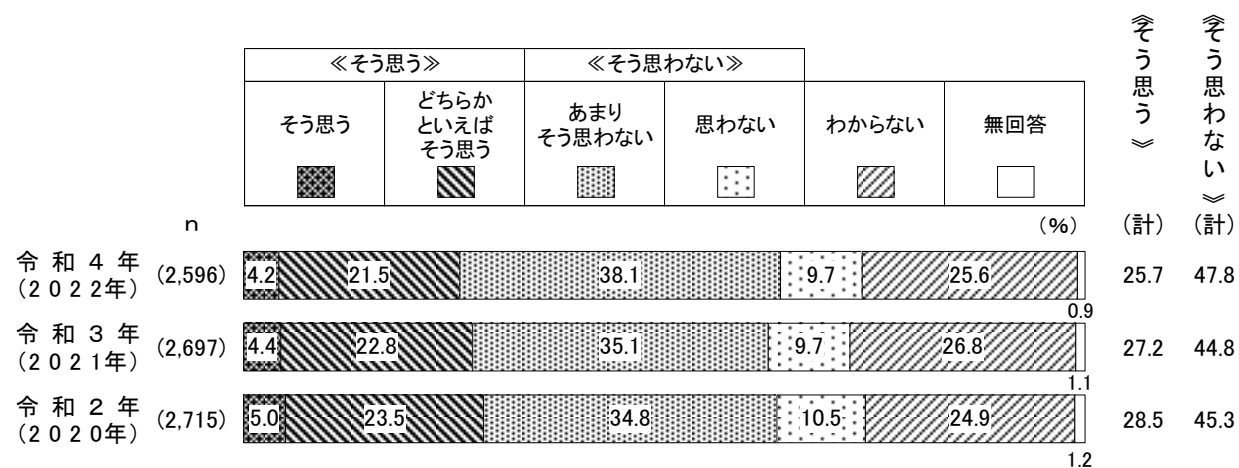
（図3-31-3）

## (32) 市内の交通渋滞緩和

◇《《そう思う》》が2割台半ば

問41 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

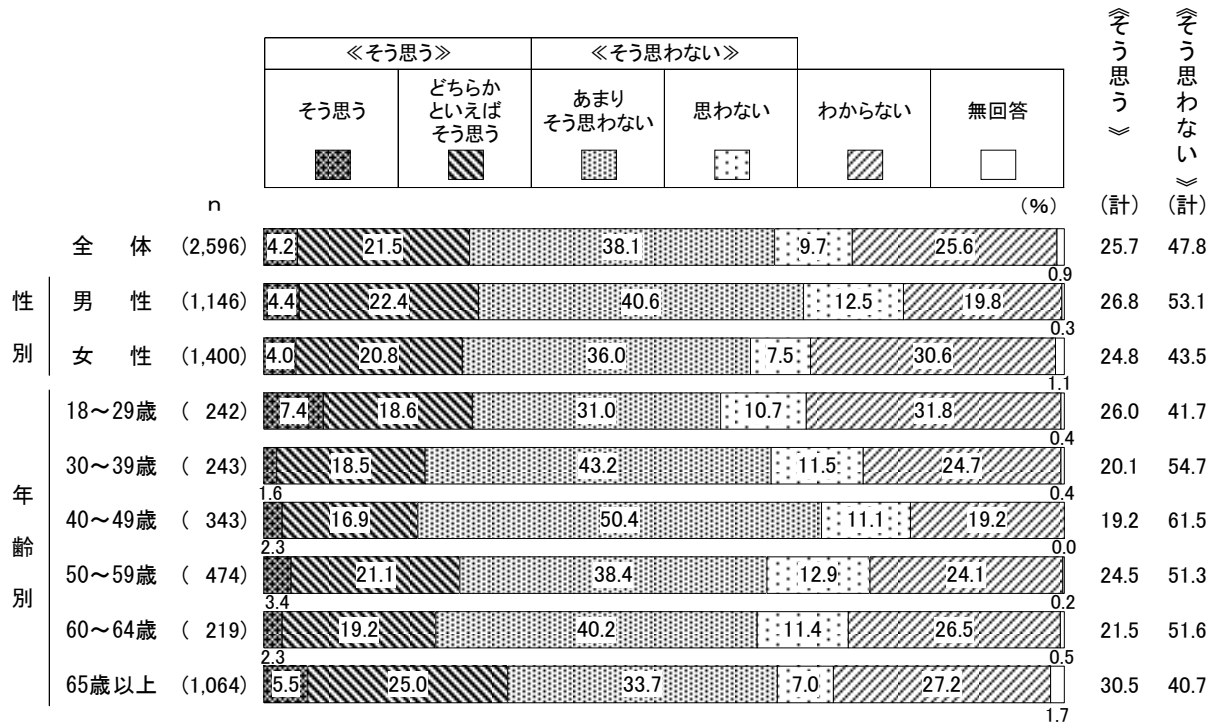
図3-32-1 市内の交通渋滞緩和—全体、経年比較



市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.2%)と「どちらかといえばそう思う」(21.5%)を合わせた《《そう思う》》(25.7%)は2割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(38.1%)と「思わない」(9.7%)を合わせた《《そう思わない》》(47.8%)は5割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和3年(2021年)(44.8%)より3.0ポイント増加している。(図3-32-1)

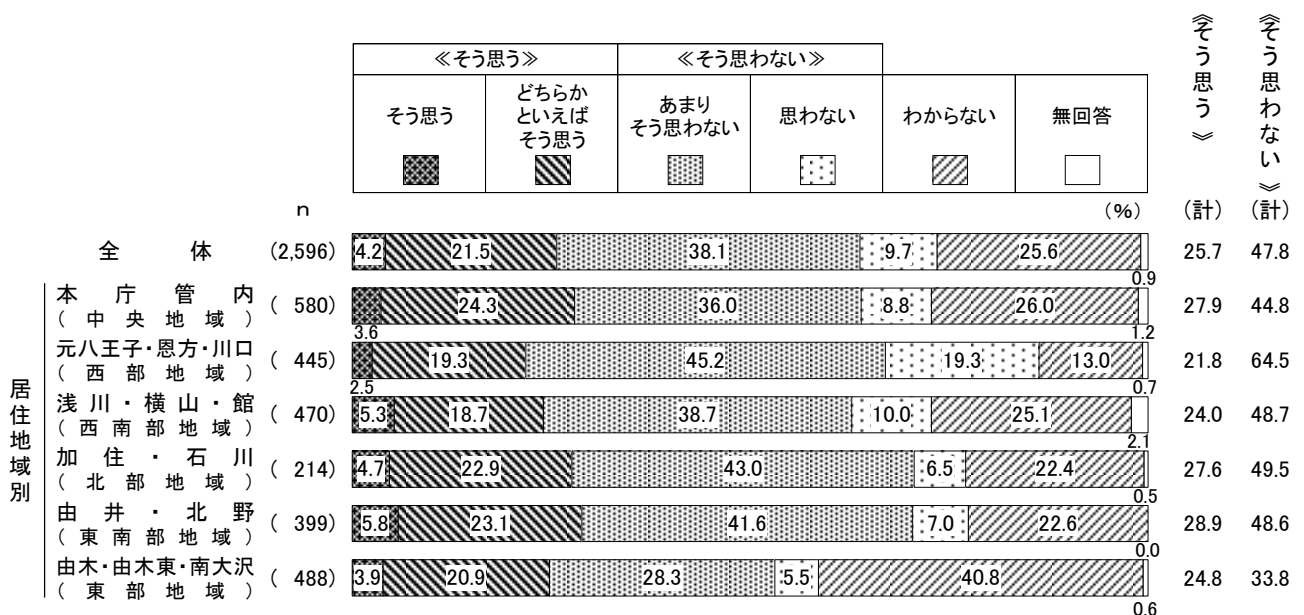
図 3-32-2 市内の交通渋滞緩和—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（53.1%）が女性（43.5%）より9.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上（30.5%）で約3割と多くなっている。一方、《そう思わない》は40～49歳（61.5%）で6割強と多くなっている。（図3-32-2）

図 3-32-3 市内の交通渋滞緩和—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（28.9%）、本庁管内（中央地域）（27.9%）、加住・石川（北部地域）（27.6%）で3割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（64.5%）で6割台半ばと多くなっている。

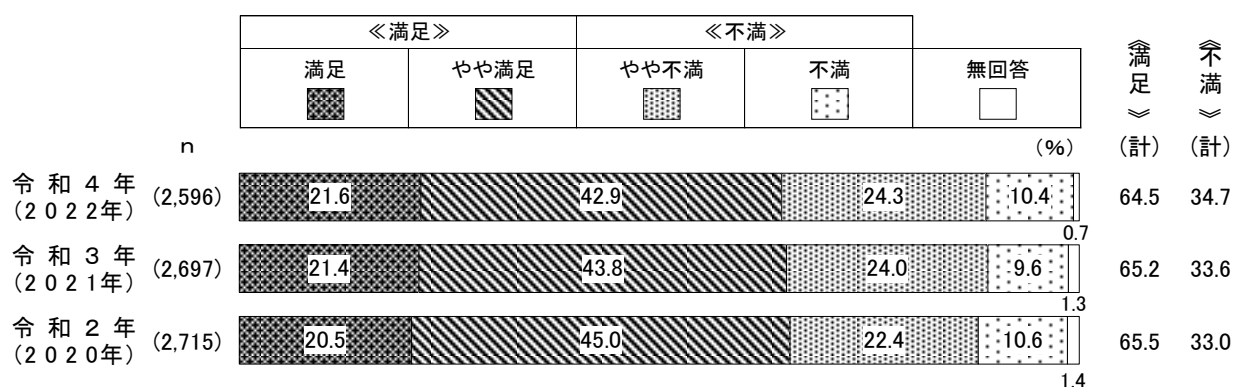
（図3-32-3）

### (33) 公共交通の利便性の満足度

◇《満足》が6割台半ば

問42 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

図3-33-1 公共交通の利便性の満足度—全体、経年比較

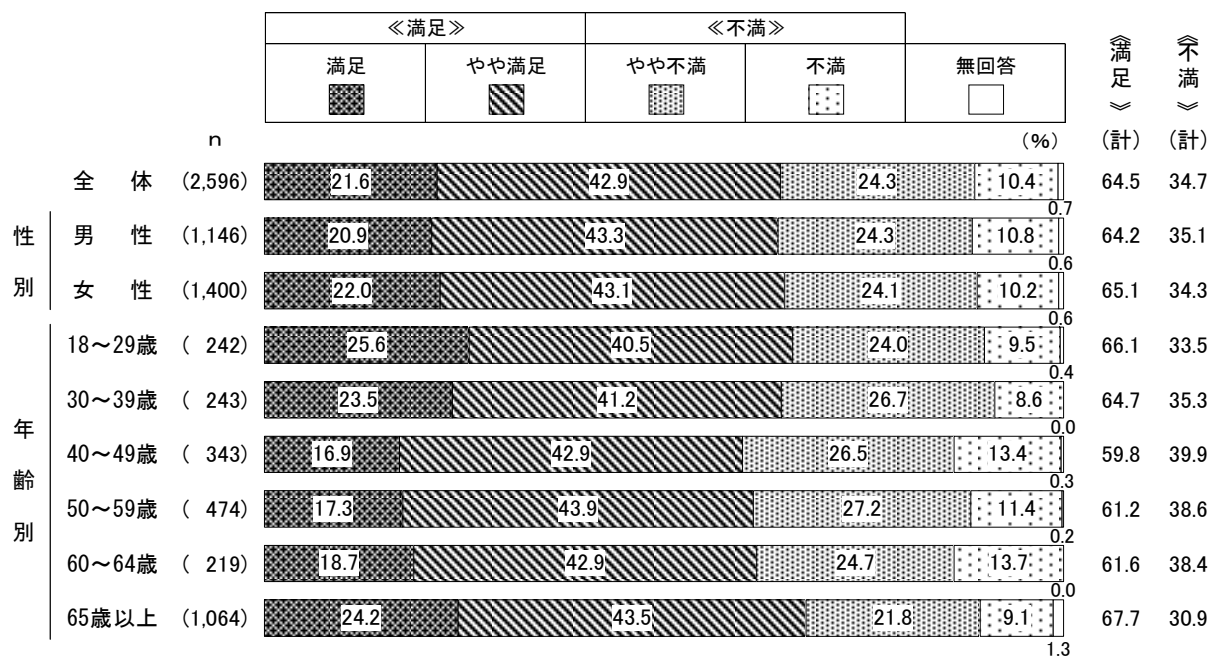


地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（21.6%）と「やや満足」（42.9%）を合わせた《満足》（64.5%）は6割台半ばとなっている。一方、「やや不満」（24.3%）と「不満」（10.4%）を合わせた《不満》（34.7%）は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年（2021年）と大きな傾向の違いはみられない。

（図3-33-1）

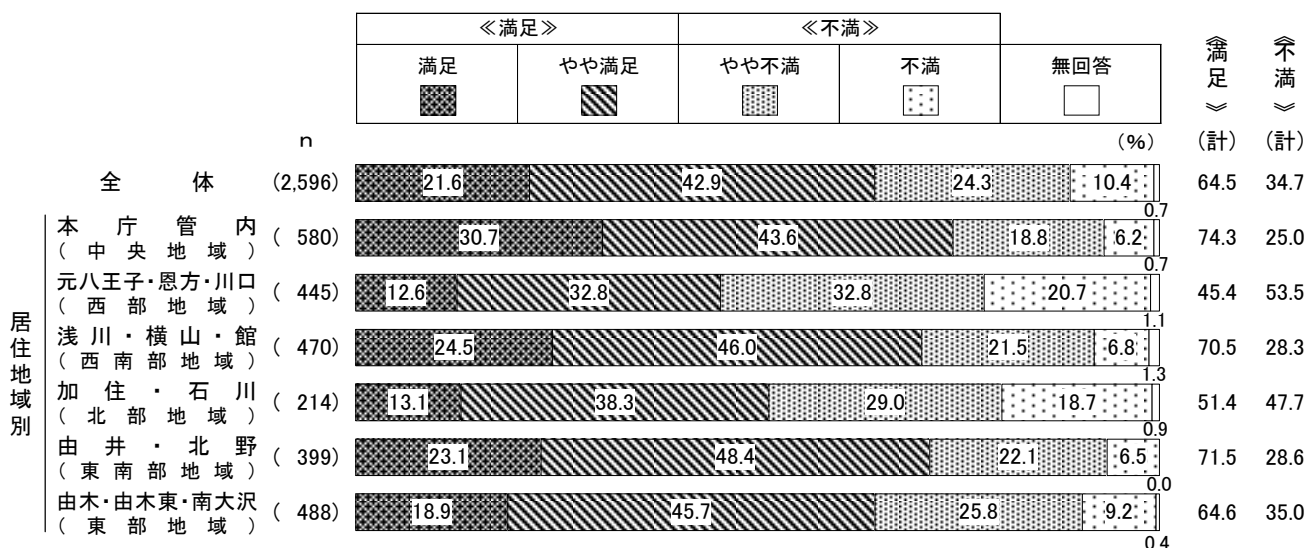
図3-33-2 公共交通の利便性の満足度－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《満足》は18～29歳（66.1%）と65歳以上（67.7%）で7割近くと多くなっている。一方、《不満》は40～49歳（39.9%）で4割弱と多くなっている。（図3-33-2）

図3-33-3 公共交通の利便性の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）（74.3%）で7割台半ばと多くなっている。一方、《不満》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（53.5%）で5割強と多くなっている。

（図3-33-3）



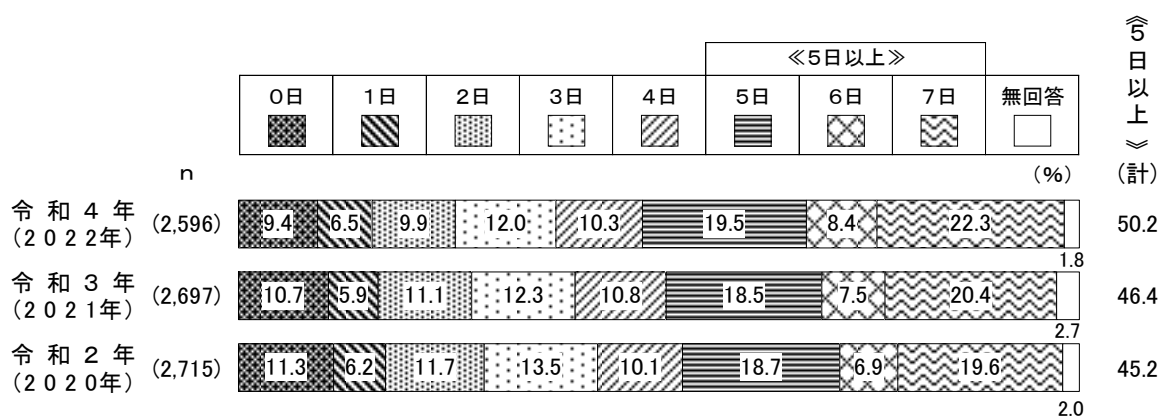
### (34) 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数

◇《5日以上》が約5割

問43 1週間のうち、あなたが10分以上続けて歩く日は何日ありますか。(〇は1つだけ)

※歩くとは仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩などを含みます。

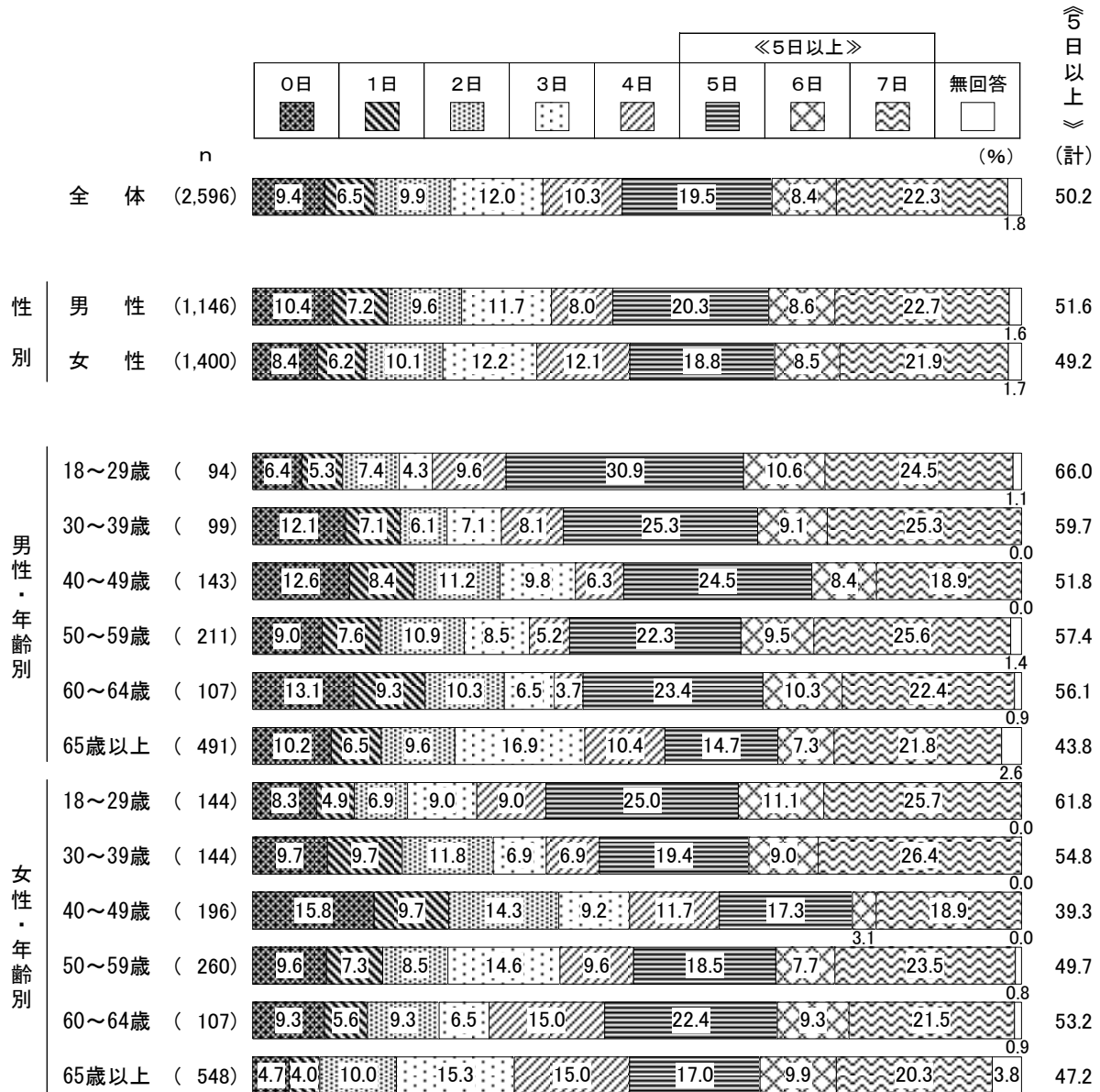
図3-34-1 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数—全体、経年比較



1週間のうち、10分以上続けて歩く日は何日あるか聞いたところ、「7日」(22.3%)が2割強で最も多く、これに「5日」(19.5%)と「6日」(8.4%)を合わせた《5日以上》(50.2%)は約5割となっている。一方、「0日」(9.4%)は1割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、《5日以上》は令和3年(2021年)(46.4%)より3.8ポイント増加している。(図3-34-1)

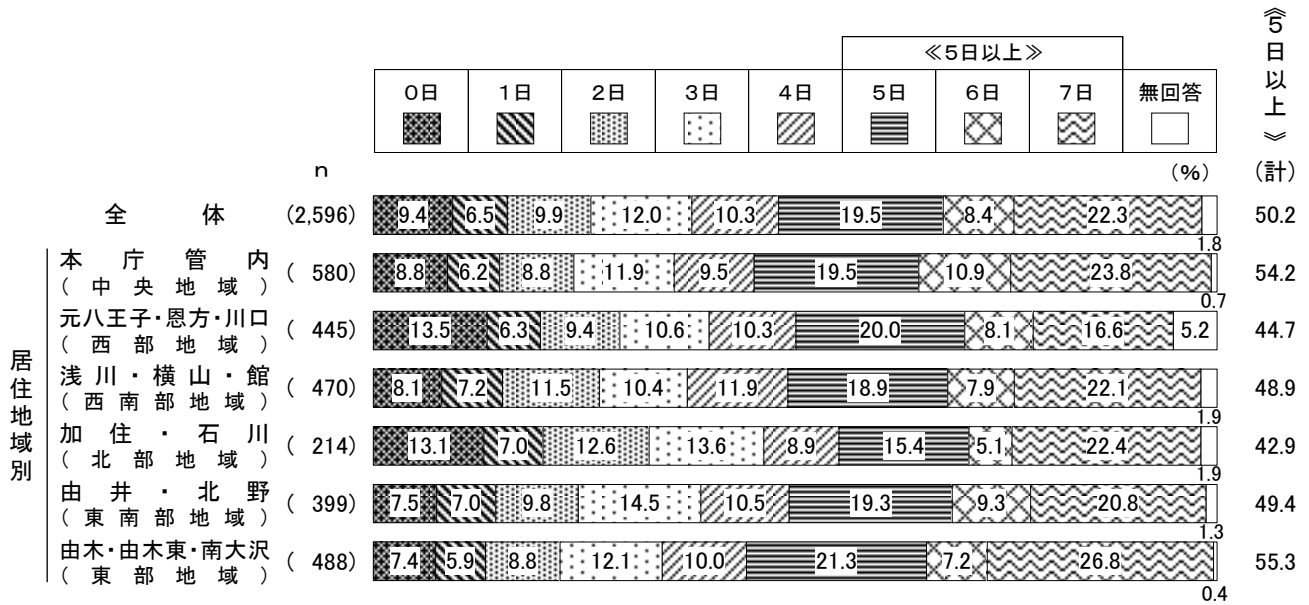
図3-34-2 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数—性別、性・年齢別



性別にみると、《5日以上》は男性（51.6%）が女性（49.2%）より2.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《5日以上》は男性18~29歳（66.0%）で7割近くと多くなっている。一方、「0日」は女性40~49歳（15.8%）で1割台半ばとなっている。（図3-34-2）

図 3-34-3 1週間のうち、10分間以上続けて歩く日数—居住地域別



居住地域別にみると、《5日以上》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（55.3%）と本庁管内（中央地域）（54.2%）で5割台半ばと多くなっている。（図 3-34-3）

### (35) 1日の平均的な歩行時間と平均歩数

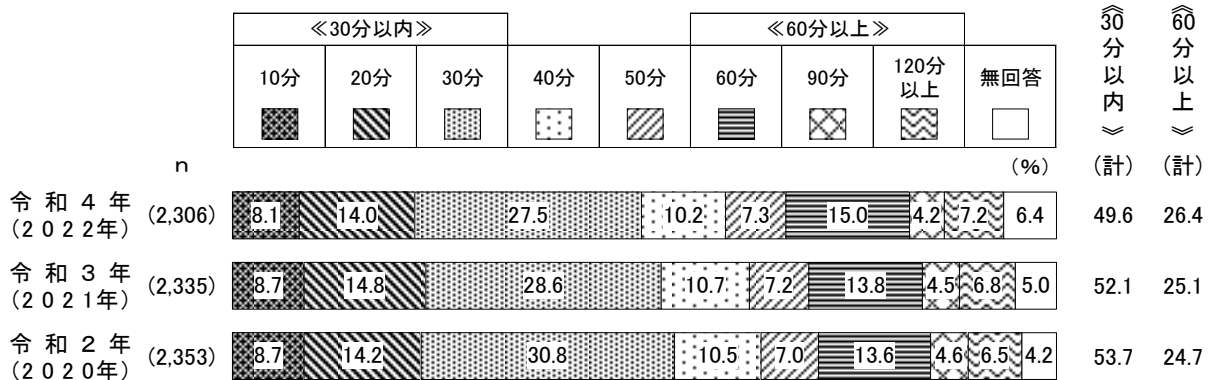
◇《30分以内》が5割弱

(問43で「1日」～「7日」とお答えの方へ)

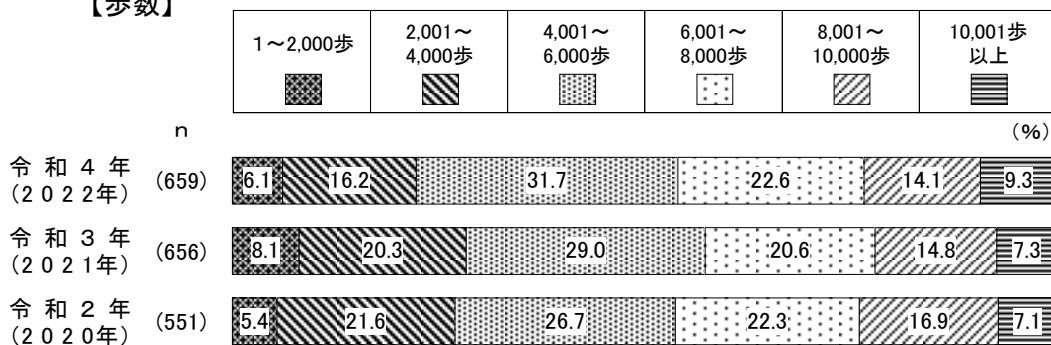
問43-1 10分以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度ですか。  
(○は1つだけ) また歩数計を所持している方は歩数を記入してください。

図3-35-1 1日の平均的な歩行時間と平均歩数-全体、経年比較

#### 【歩行時間】



#### 【歩数】



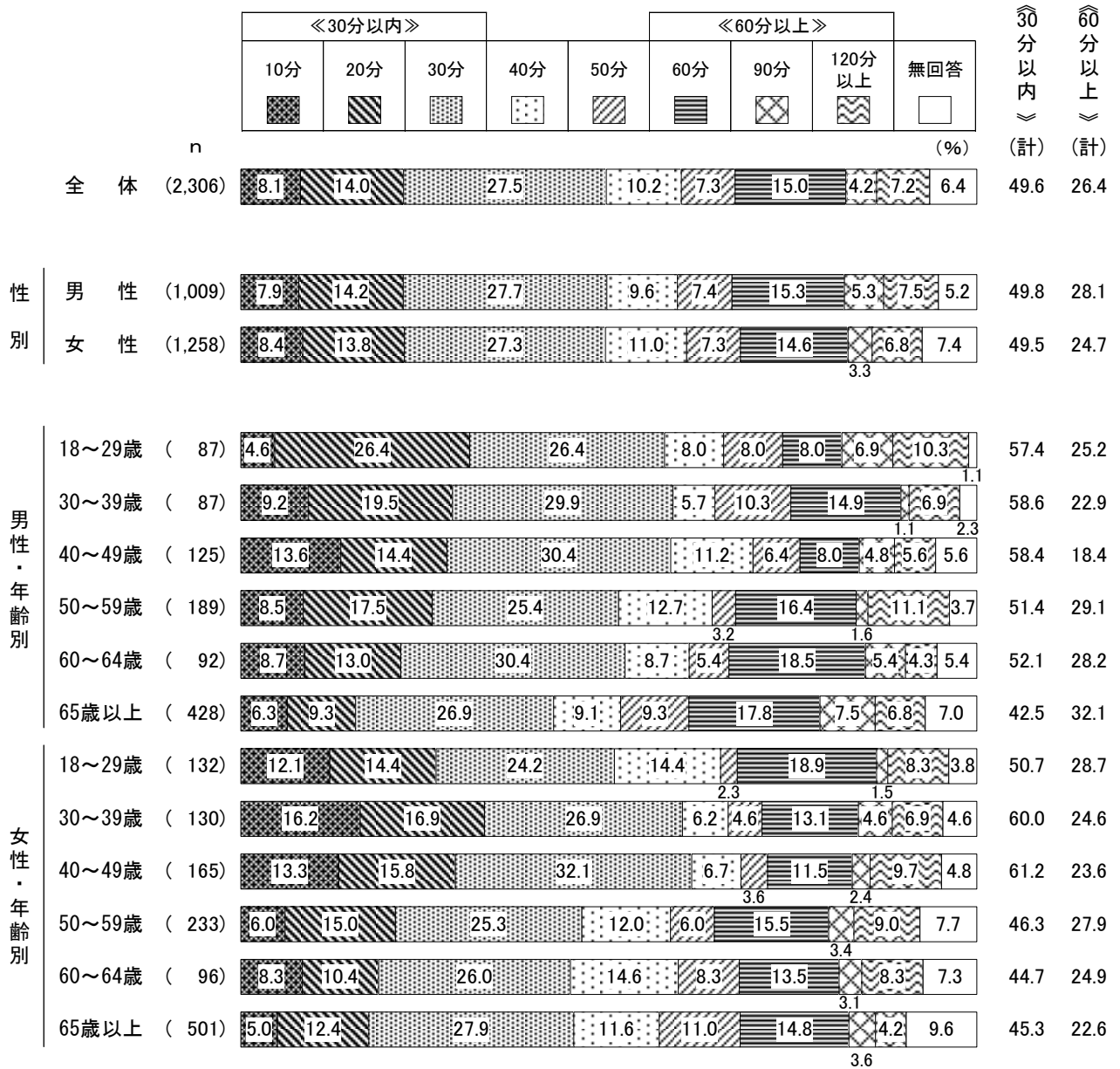
10分以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度か聞いたところ、「30分」(27.5%)が3割近くで最も多く、これに「10分」(8.1%)と「20分」(14.0%)を合わせた《30分以内》(49.6%)は5割弱となっている。また、「60分」(15.0%)、「90分」(4.2%)、「120分以上」(7.2%)の3つを合わせた《60分以上》(26.4%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《30分以内》は令和3年(2021年)(52.1%)より2.5ポイント減少している。

1日の平均歩数について聞いたところ、「4,001~6,000歩」(31.7%)が3割強で最も多く、次いで「6,001~8,000歩」(22.6%)、「2,001~4,000歩」(16.2%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「4,001~6,000歩」は令和3年(2021年)(29.0%)より2.7ポイント、「6,001~8,000歩」は令和3年(2021年)(20.6%)より2.0ポイント、「10,001歩以上」は令和3年(2021年)(7.3%)より2.0ポイント、それぞれ増加している。(図3-35-1)

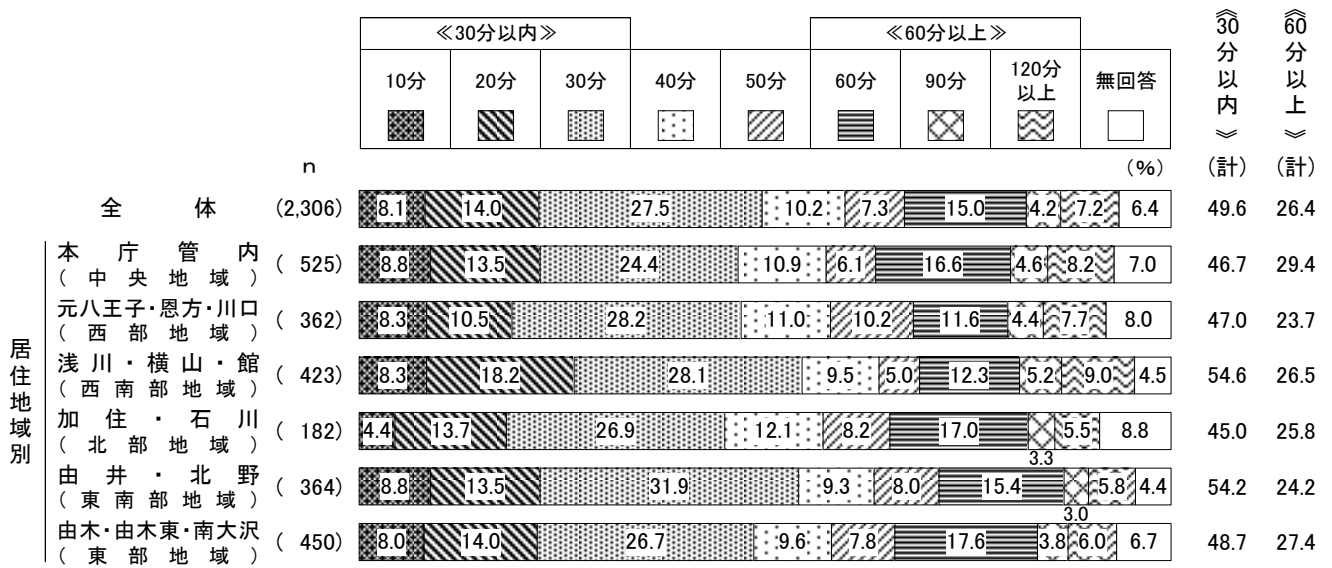
図3-35-2 1日の平均的な歩行時間—性別、性・年齢別



性別にみると、《60分以上》は男性（28.1%）が女性（24.7%）より3.4ポイント高くなっている。

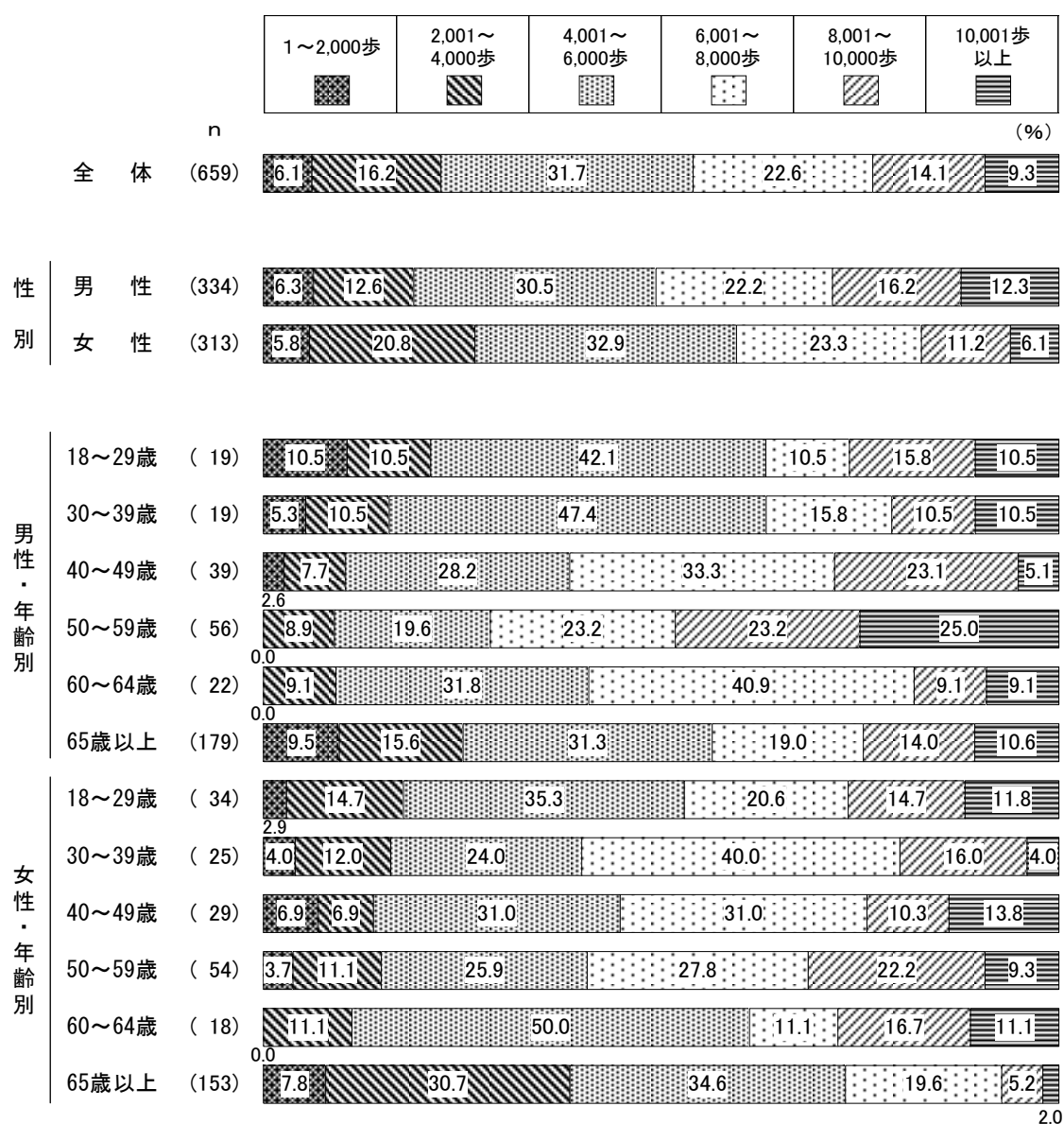
性・年齢別にみると、《30分以内》は女性40～49歳（61.2%）で6割強と多くなっている。一方、《60分以上》は男性65歳以上（32.1%）で3割強と多くなっている。（図3-35-2）

図 3-35-3 1日の平均的な歩行時間—居住地域別



居住地域別にみると、「30分以内」は浅川・横山・館（西南部地域）（54.6%）と由井・北野（東南部地域）（54.2%）で5割台半ばと多くなっている。一方、「60分以上」は本庁管内（中央地域）（29.4%）で3割弱と多くなっている。（図 3-35-3）

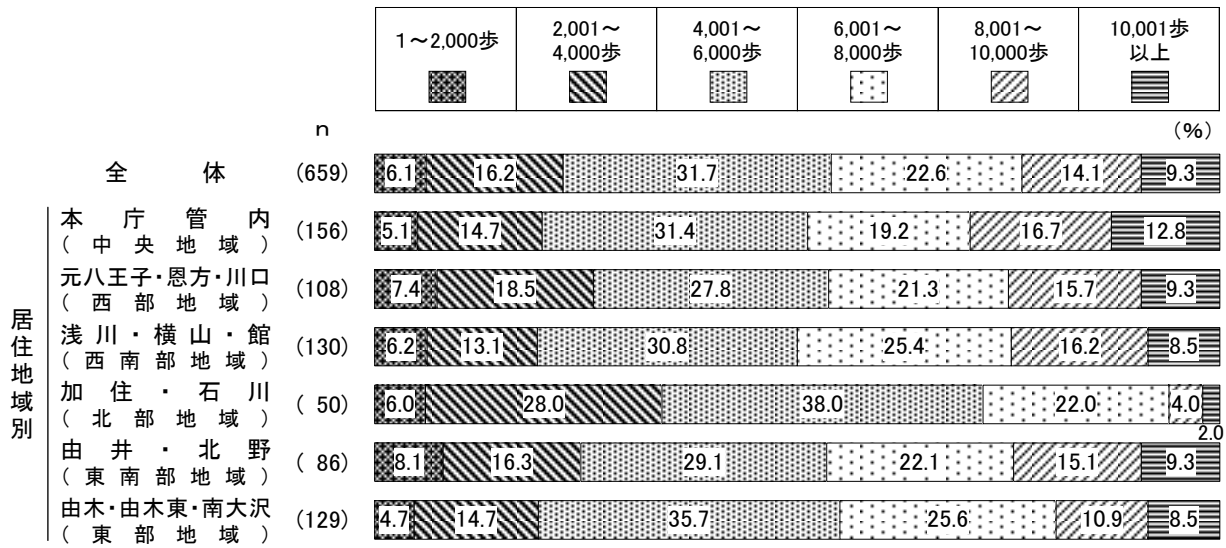
図 3-35-4 1日の平均歩数－性別、性・年齢別



性別にみると、「2,001~4,000歩」は女性（20.8%）が男性（12.6%）より8.2ポイント高くなっている。一方、「10,001歩以上」は男性（12.3%）が女性（6.1%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「2,001~4,000歩」は女性65歳以上（30.7%）で約3割と多くなっている。「4,001~6,000歩」は女性18~29歳（35.3%）と女性65歳以上（34.6%）で3割台半ばと多くなっている。「6,001~8,000歩」は男性40~49歳（33.3%）で3割強と多くなっている。（図3-35-4）

図3-35-5 1日の平均歩数—居住地域別



居住地域別にみると、「2,001～4,000歩」は加住・石川(北部地域) (28.0%)で3割近くと多くなっている。「4,001～6,000歩」は加住・石川(北部地域) (38.0%)で4割近くと多くなっている。

(図3-35-5)



### (36) 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的

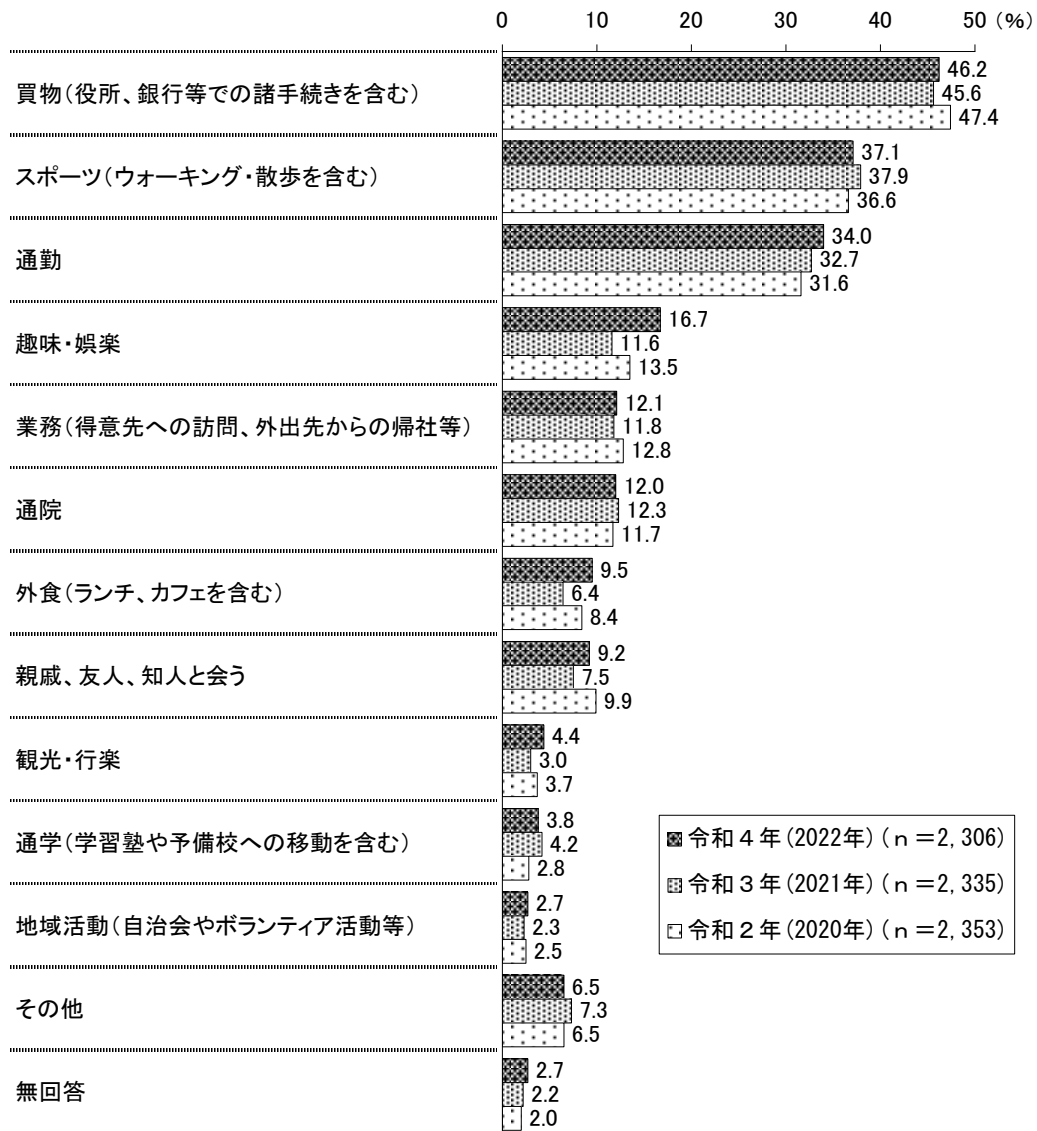
◇「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」が5割近く

(問43で「1日」～「7日」とお答えの方へ)

問43-2 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的についてお答えください。

(○はいくつでも)

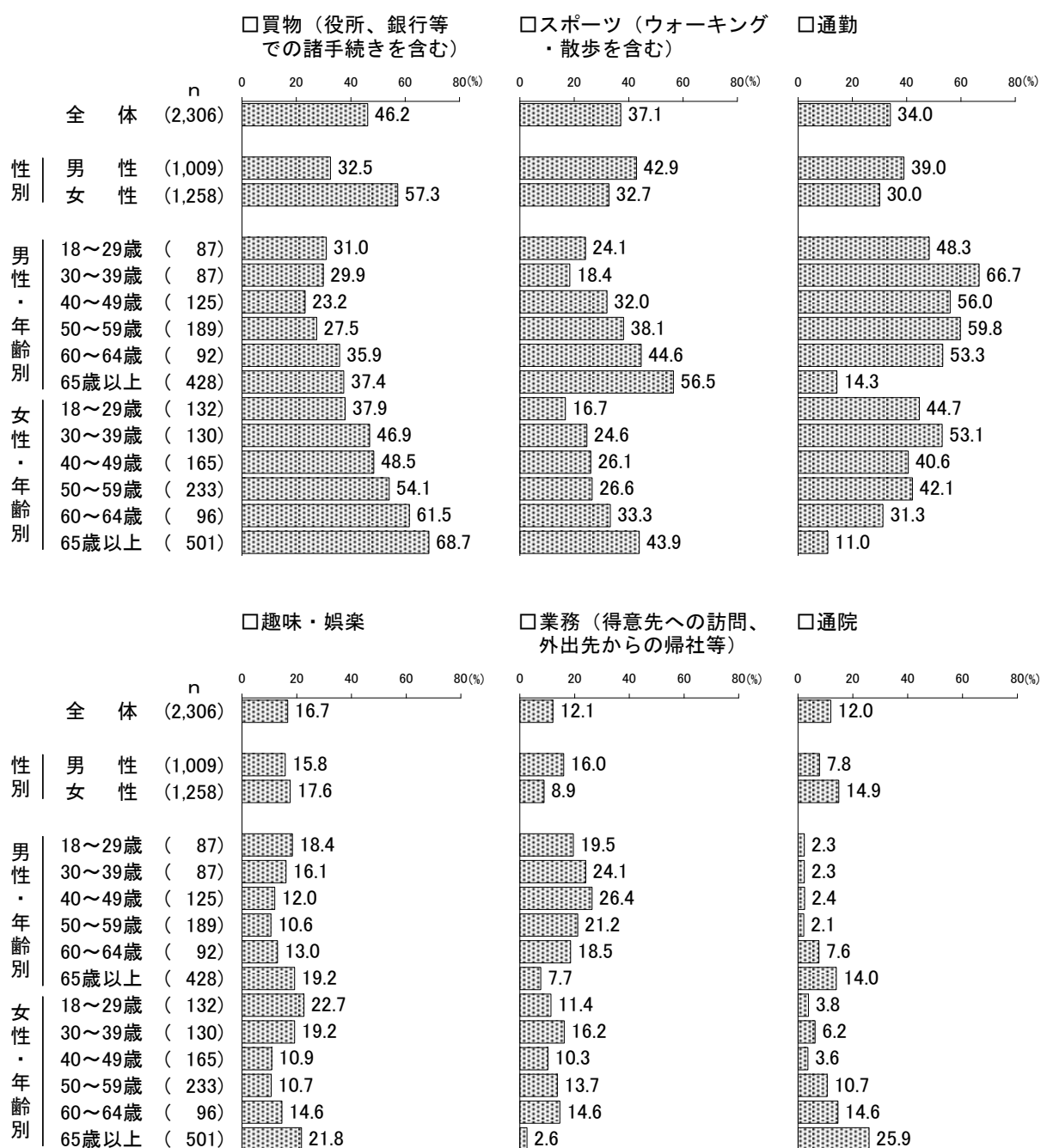
図3-36-1 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的-全体、経年比較



1週間のうち、10分間以上続けて歩く日があると回答した2,306人に、主な外出目的について聞いたところ、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」(46.2%)が5割近くで最も多くなっている。次いで「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」(37.1%)、「通勤」(34.0%)、「趣味・娯楽」(16.7%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「趣味・娯楽」は令和3年(2021年)(11.6%)より5.1ポイント、「外食(ランチ、カフェを含む)」は令和3年(2021年)(6.4%)より3.1ポイント、それぞれ増加している。(図3-36-1)

図3-36-2 10分以上続けて歩く日の主な外出目的一性別、性・年齢別（上位6位）

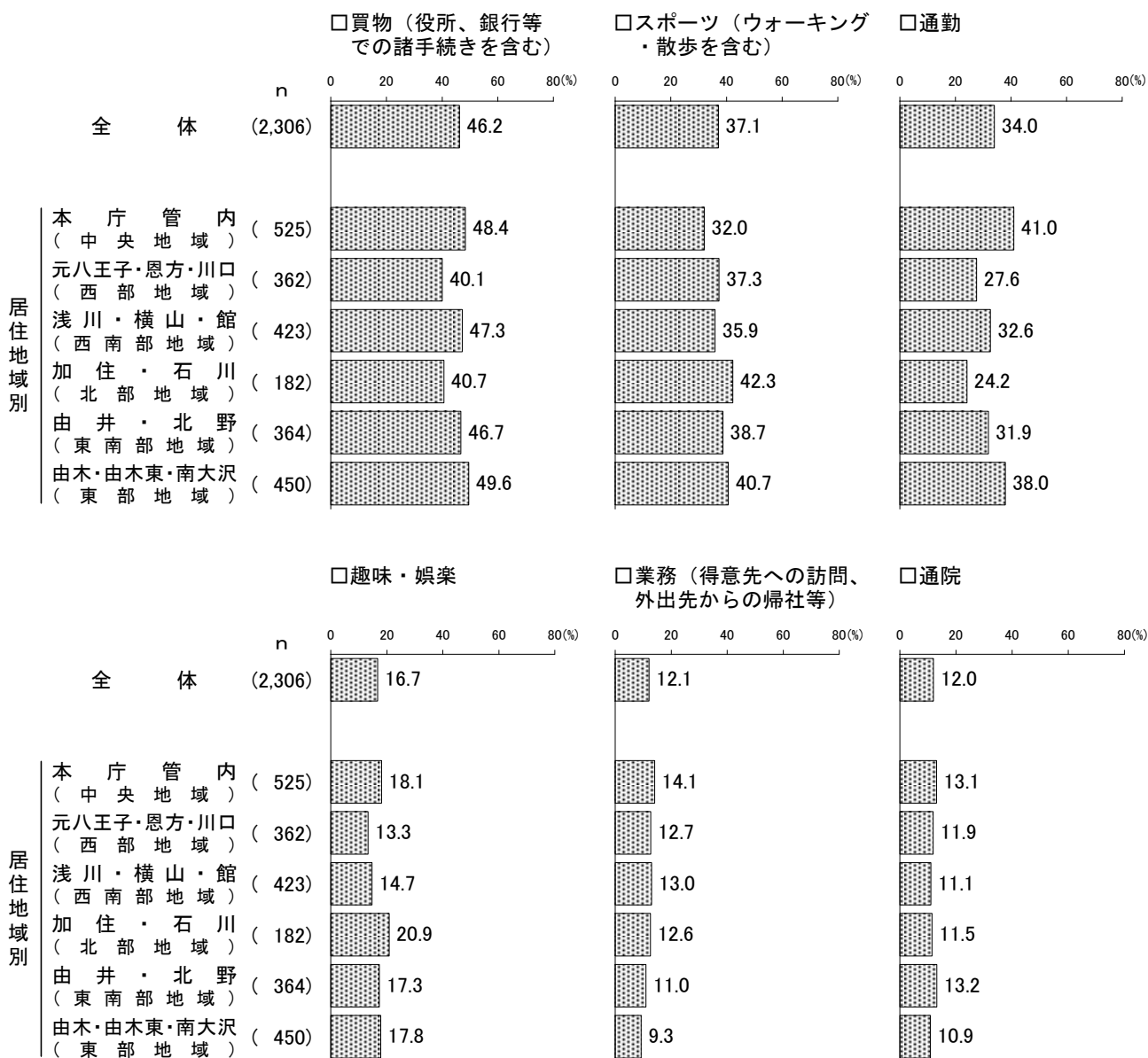


性別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性（57.3%）が男性（32.5%）より24.8ポイント、「通院」は女性（14.9%）が男性（7.8%）より7.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性（42.9%）が女性（32.7%）より10.2ポイント、「通勤」は男性（39.0%）が女性（30.0%）より9.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性65歳以上（68.7%）で7割近くと多くなっている。「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性65歳以上（56.5%）で6割近くと多くなっている。「通勤」は男性30～39歳（66.7%）で7割近くと多くなっている。

（図3-36-2）

図3-36-3 10分以上続けて歩く日の主な外出目的—居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（49.6%）で5割弱と多くなっている。「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は加住・石川（北部地域）（42.3%）で4割強と多くなっている。「通勤」は本庁管内（中央地域）（41.0%）で4割強と多くなっている。（図3-36-3）

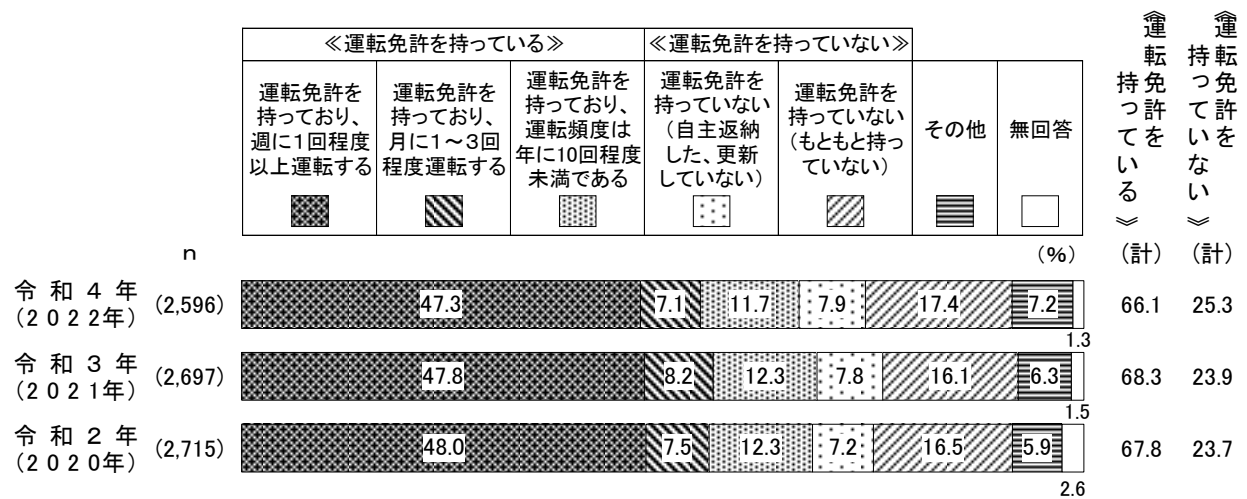
### (37) 運転免許保有状況と運転頻度

◇「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」が5割近く

問44 あなたの運転免許の保有状況と自動車の運転頻度についてお答えください。

(○は1つだけ)

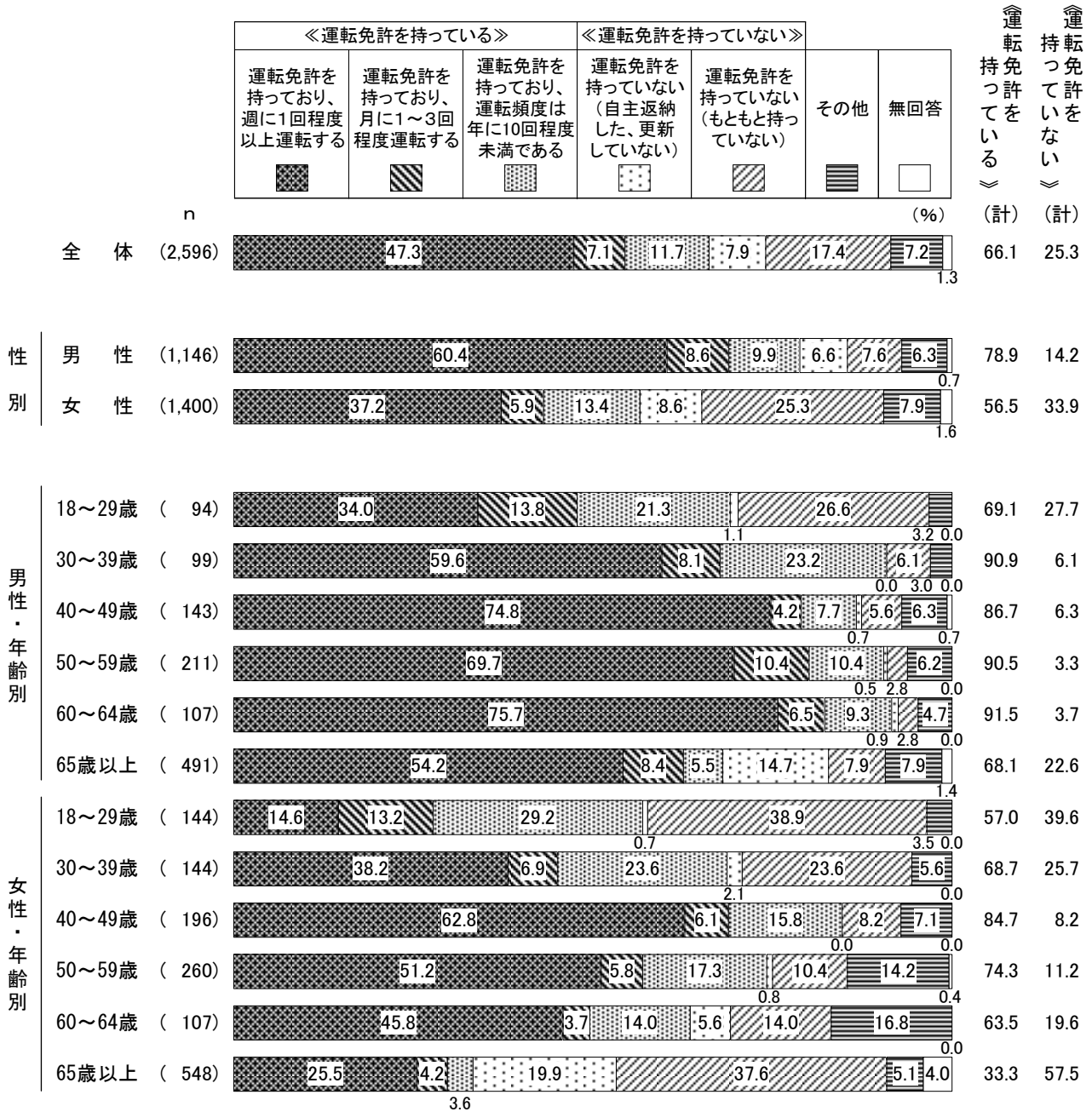
図3-37-1 運転免許保有状況と運転頻度－全体、経年比較



運転免許の保有状況と自動車の運転頻度について聞いたところ、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」(47.3%)が5割近くで最も多く、これに「運転免許を持っており、月に1～3回程度運転する」(7.1%)と「運転免許を持っており、運転頻度は年に10回程度未満である」(11.7%)を合わせた《運転免許を持っている》(66.1%)は7割近くとなっている。一方、「運転免許を持っていない(自主返納した、更新していない)」(7.9%)と「運転免許を持っていない(もともと持っていない)」(17.4%)を合わせた《運転免許を持っていない》(25.3%)は2割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、《運転免許を持っている》は令和3年(2021年)(68.3%)より2.2ポイント減少している。(図3-37-1)

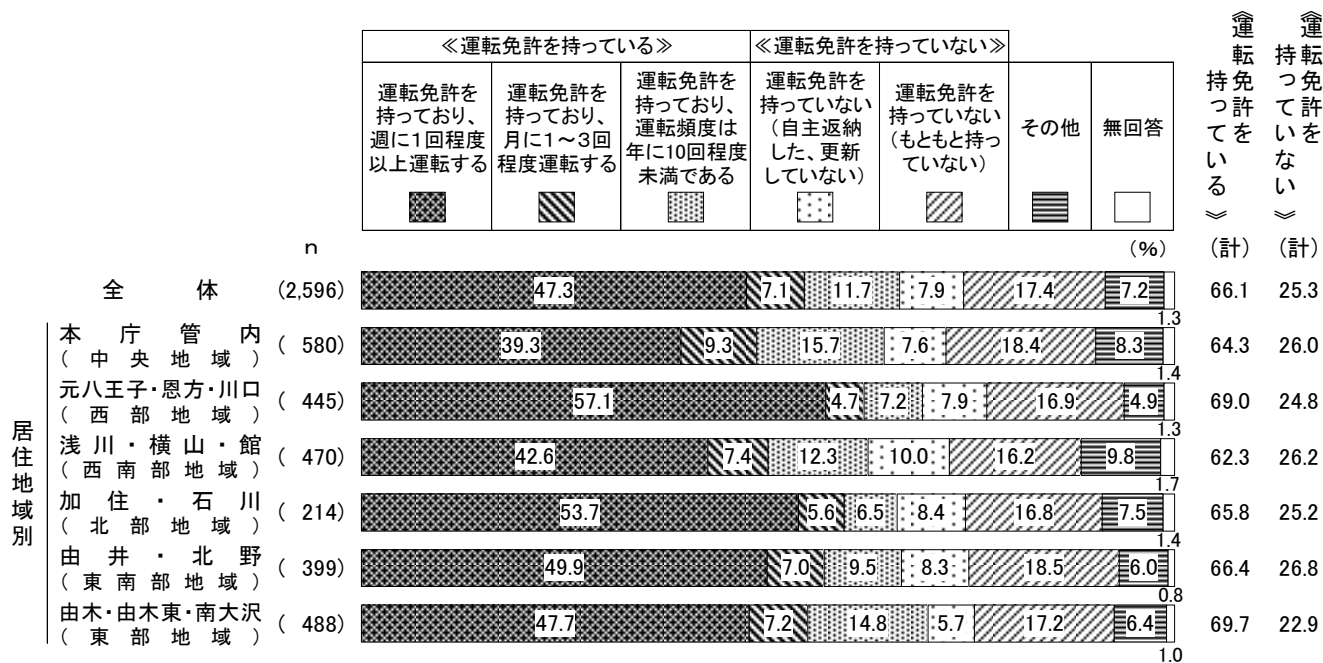
図3-37-2 運転免許保有状況と運転頻度—性別、性・年齢別



性別にみると、《運転免許を持っている》は男性（78.9%）が女性（56.5%）より22.4ポイント、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性（60.4%）が女性（37.2%）より23.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性40～49歳（74.8%）と男性60～64歳（75.7%）で7割台半ばと多くなっている。《運転免許を持っている》は男性60～64歳（91.5%）で9割強と多くなっている。一方、《運転免許を持っていない》は女性65歳以上（57.5%）で6割近くと多くなっている。（図3-37-2）

図3-37-3 運転免許保有状況と運転頻度－居住地域別



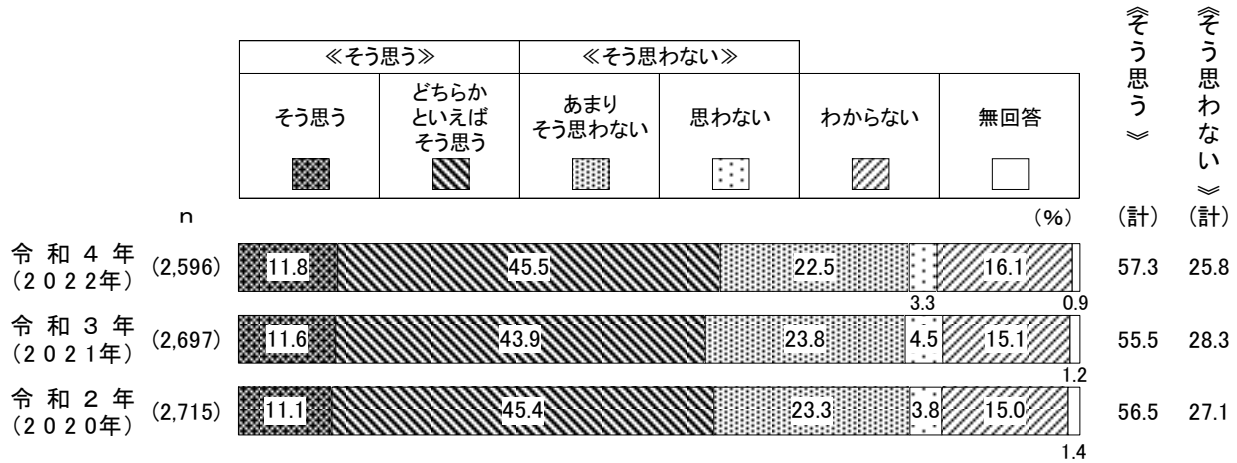
居住地域別にみると、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（57.1%）で6割近くと多くなっている。《運転免許を持っている》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（69.7%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（69.0%）で7割弱と多くなっている。（図3-37-3）

### (38) 都市の美観が保持されたまち

◇《《そう思う》》が6割近く

問45 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(○は1つだけ)

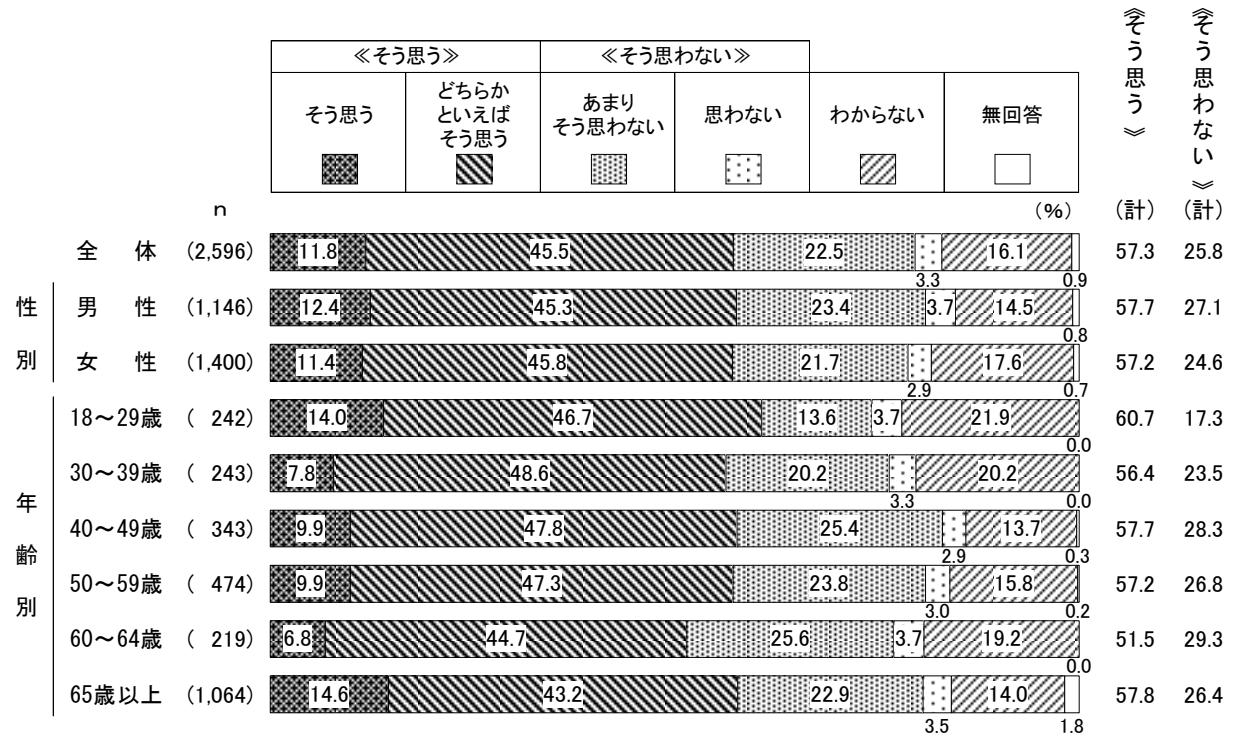
図3-38-1 都市の美観が保持されたまち—全体、経年比較



都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(11.8%)と「どちらかといえばそう思う」(45.5%)を合わせた《《そう思う》》(57.3%)は6割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(22.5%)と「思わない」(3.3%)を合わせた《《そう思わない》》(25.8%)は2割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和3年(2021年)(28.3%)より2.5ポイント減少している。(図3-38-1)

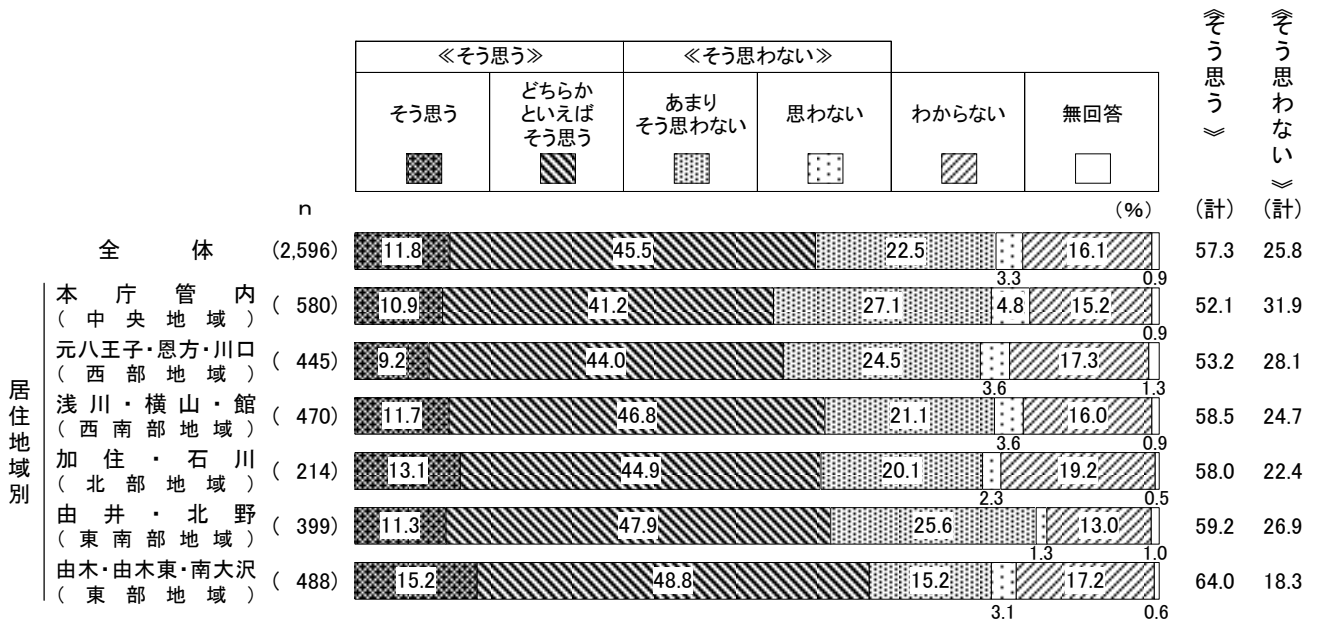
図3-38-2 都市の美観が保持されたまち－性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（27.1%）が女性（24.6%）より2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（60.7%）で約6割と多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（29.3%）で3割弱と多くなっている。（図3-38-2）

図3-38-3 都市の美観が保持されたまち－居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.0%）で6割台半ばと多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（31.9%）で3割強と多くなっている。（図3-38-3）

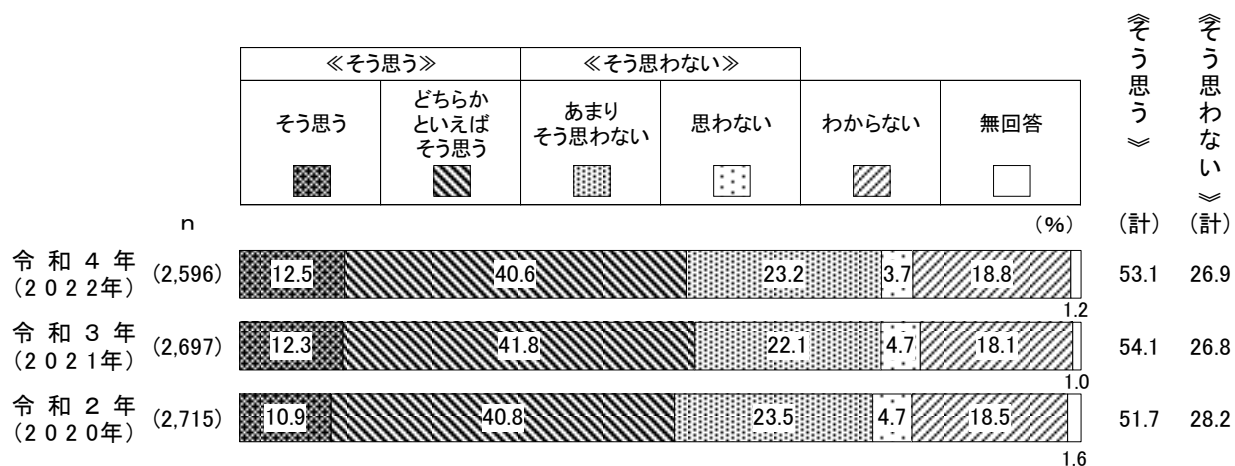


### (39) 自然、歴史、文化が活かされた景観

#### ◇《《そう思う》が5割強

問46 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思いますか。(〇は1つだけ)

図3-39-1 自然、歴史、文化が活かされた景観—全体、経年比較

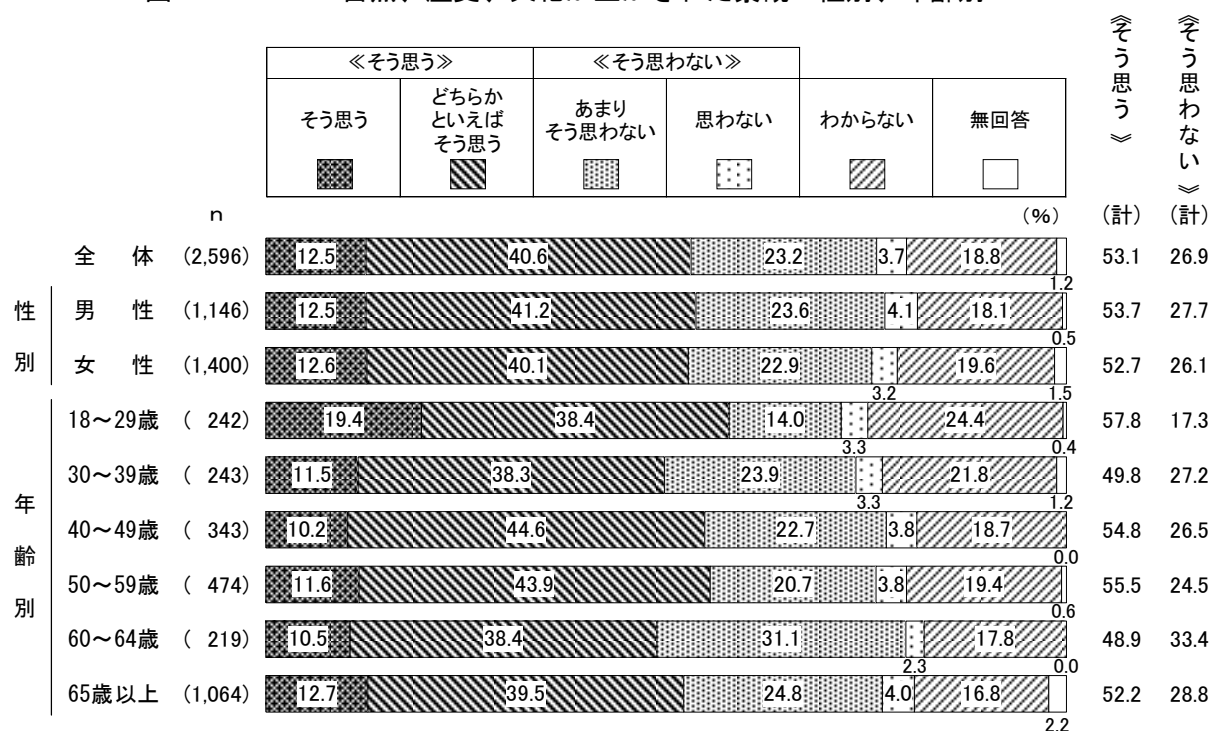


市の豊かな自然、歴史、文化などが、住んでいる地域やまちの景観に活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.5%)と「どちらかといえばそう思う」(40.6%)を合わせた《《そう思う》》(53.1%)は5割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(23.2%)と「思わない」(3.7%)を合わせた《《そう思わない》》(26.9%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-39-1)

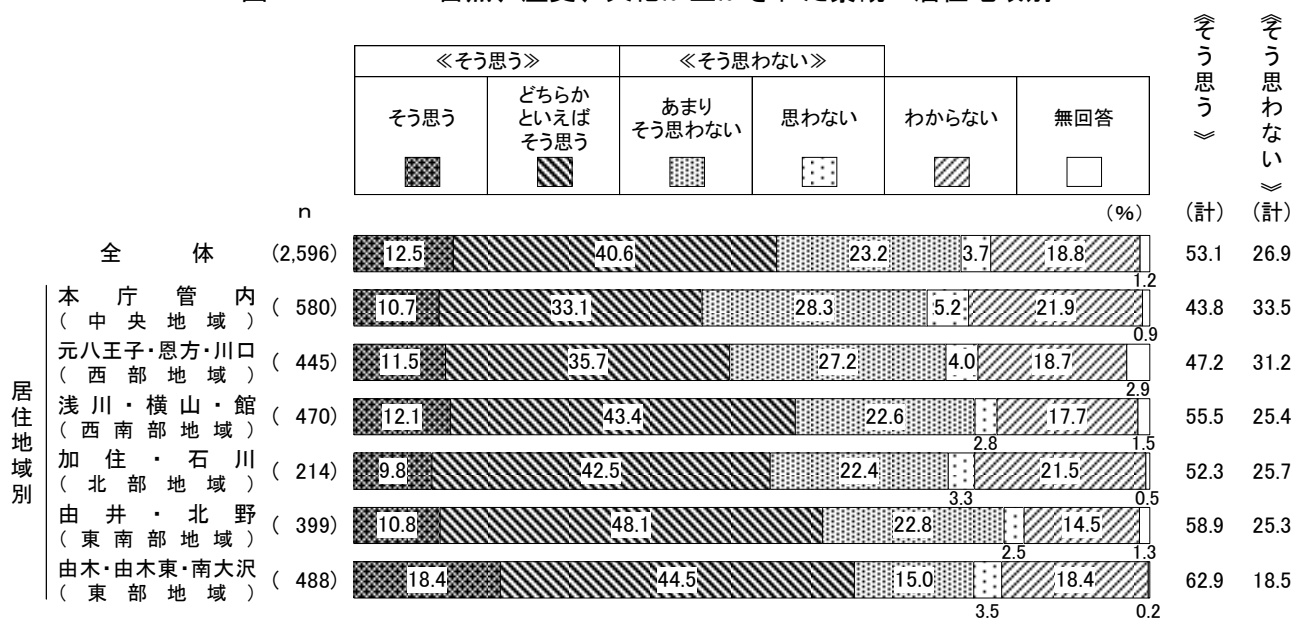
図3-39-2 自然、歴史、文化が活かされた景観—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（57.8%）で6割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（33.4%）で3割強と多くなっている。（図3-39-2）

図3-39-3 自然、歴史、文化が活かされた景観—居住地域別



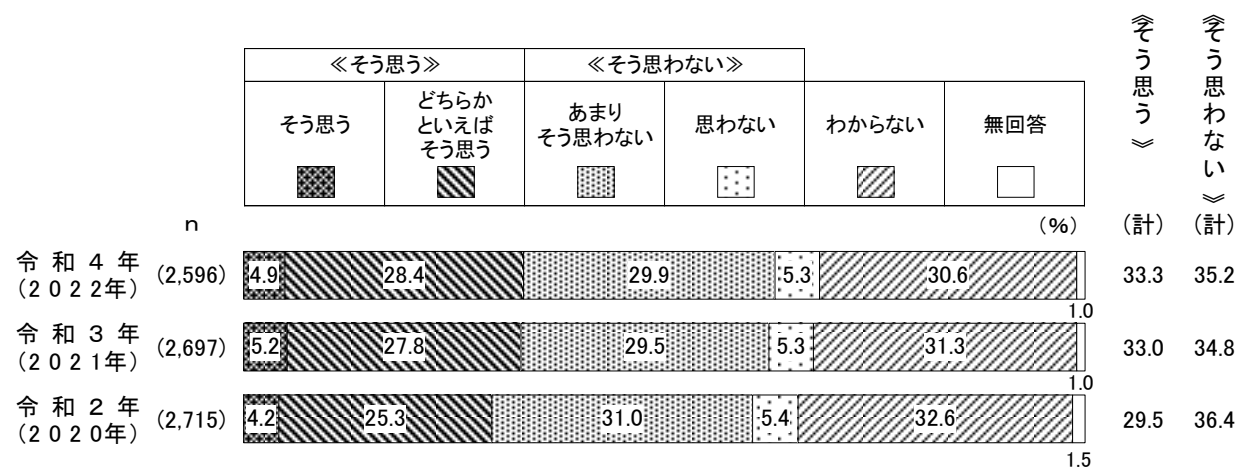
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（62.9%）で6割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（33.5%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（31.2%）で3割強と多くなっている。（図3-39-3）

## (40) 市内の産業活動

### ◇《《そう思う》》が3割強

問47 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-40-1 市内の産業活動—全体、経年比較

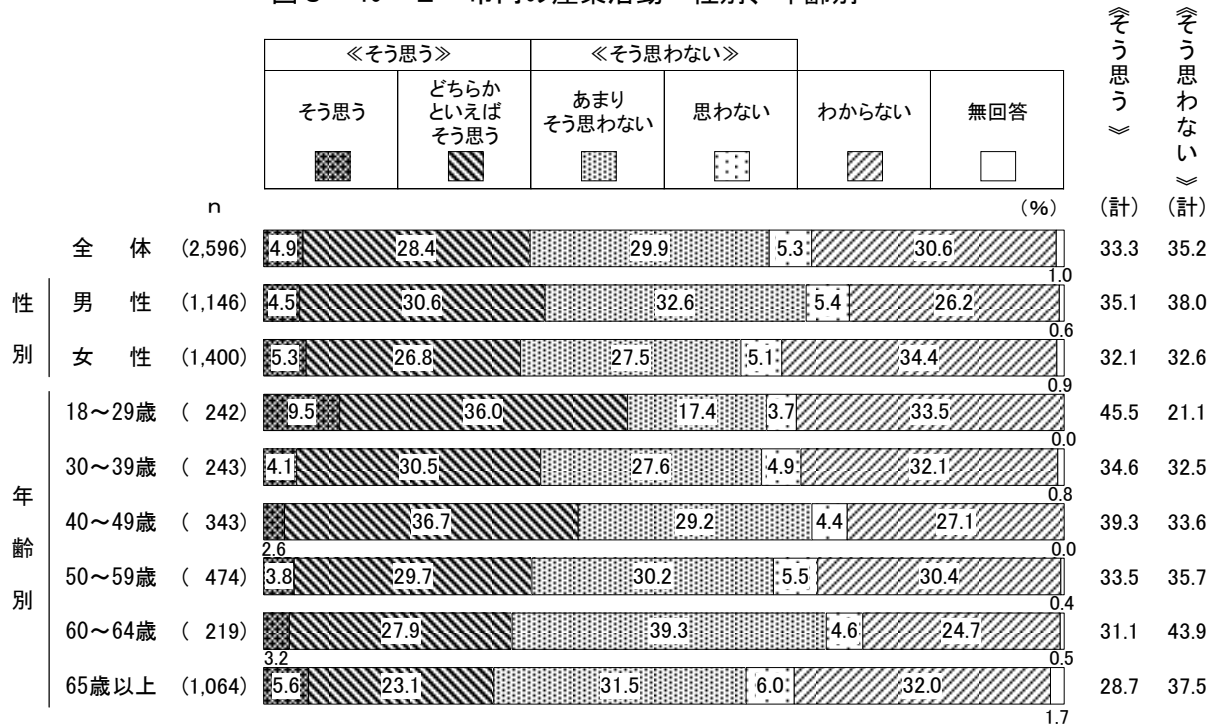


商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.9%)と「どちらかといえばそう思う」(28.4%)を合わせた《《そう思う》》(33.3%)は3割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(29.9%)と「思わない」(5.3%)を合わせた《《そう思わない》》(35.2%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-40-1)

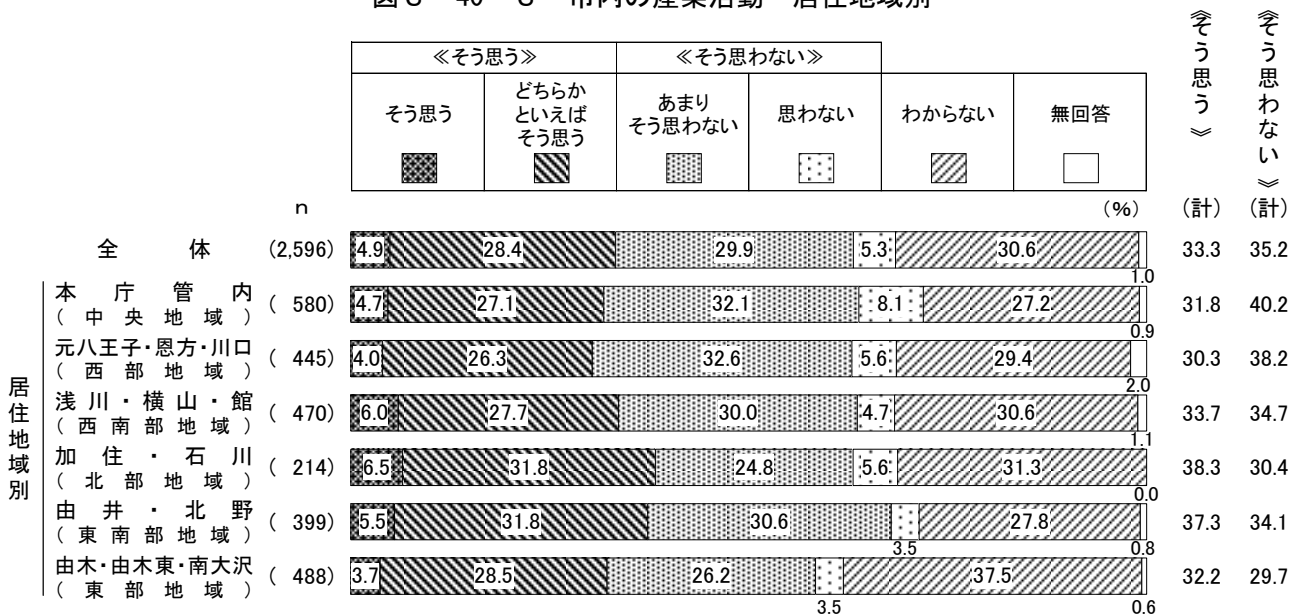
図3-40-2 市内の産業活動—性別、年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（35.1%）が女性（32.1%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（45.5%）で4割台半ばと多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（43.9%）で4割強と多くなっている。（図3-40-2）

図3-40-3 市内の産業活動—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は加住・石川(北部地域)（38.3%）と由井・北野(東南部地域)（37.3%）で4割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内(中央地域)（40.2%）で約4割と多くなっている。（図3-40-3）

## (41) 地球環境への配慮

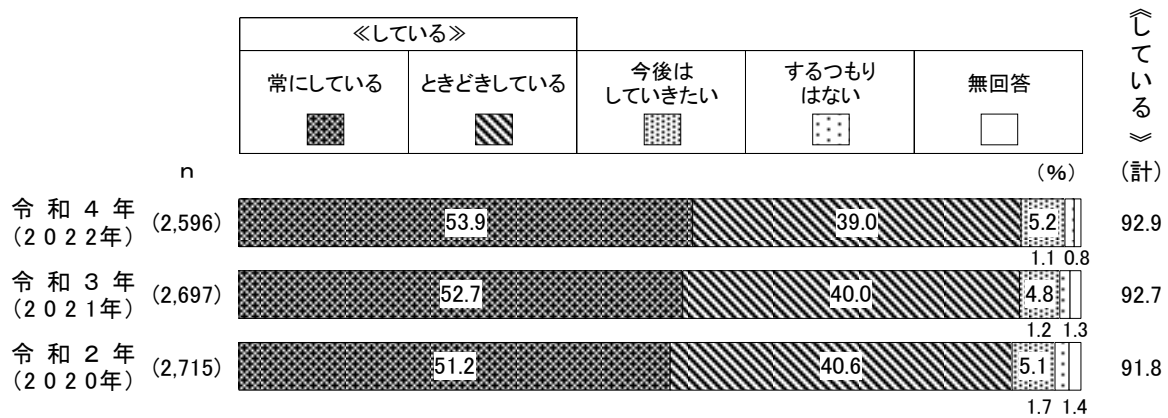
◇《《している》》が9割強

問48 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。(〇は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・

- 過度な冷暖房の使用を控える
- マイカーの使用を控える
- 電気をこまめに消す
- 省エネ製品を利用する
- 冷蔵庫の開閉に気を使う
- 買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ごみと資源物を分別し、適正に排出する
- など

図3-41-1 地球環境への配慮－全体、経年比較

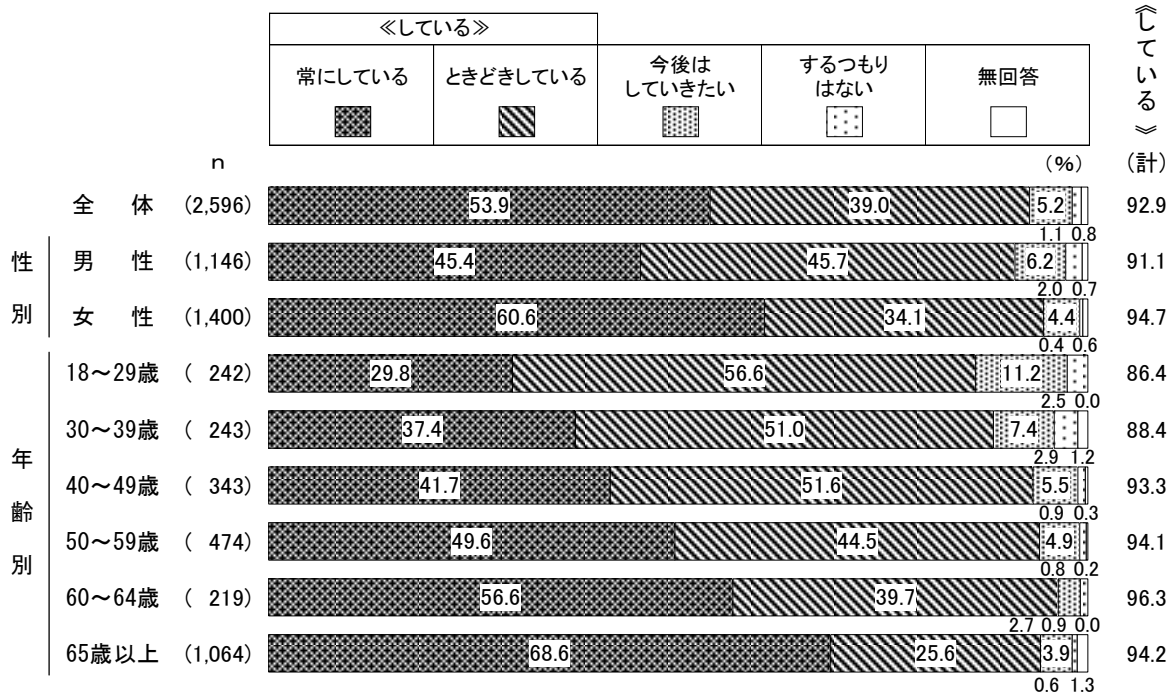


ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」(53.9%)と「ときどきしている」(39.0%)を合わせた《《している》》(92.9%)は9割強となっている。また、「今後はしていきたい」(5.2%)と「するつもりはない」(1.1%)はともに1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-41-1)

図3-41-2 地球環境への配慮—性別、年齢別

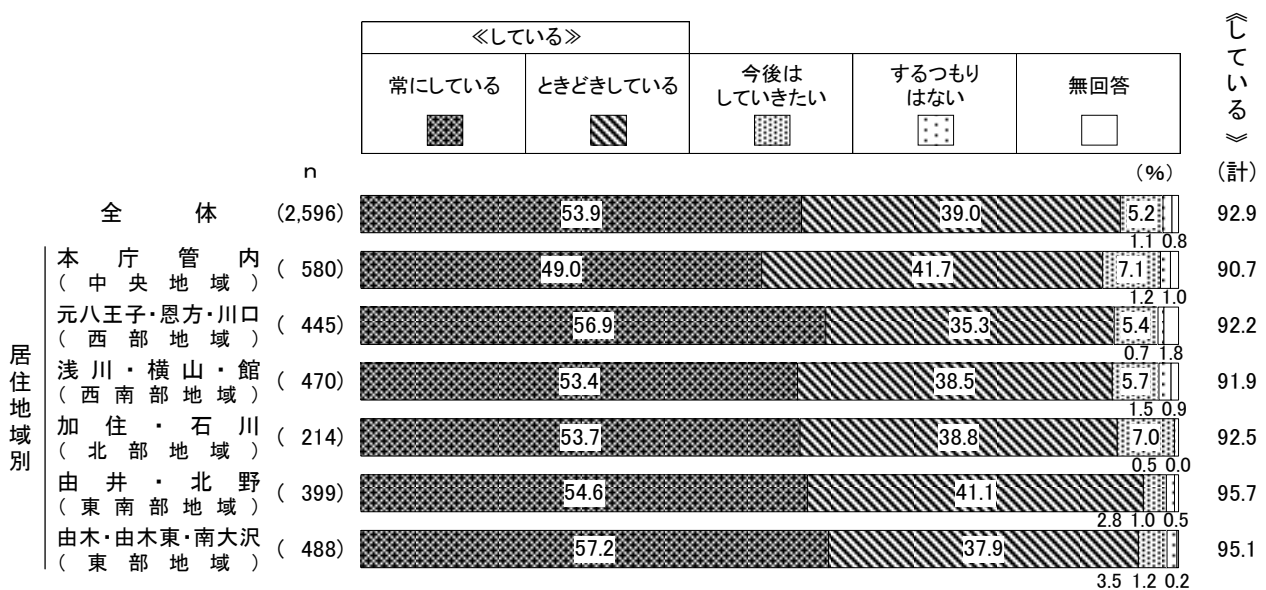


性別にみると、「《している》」は女性（94.7%）が男性（91.1%）より3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常にしている」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（68.6%）で7割近くと多くなっている。「《している》」は60～64歳（96.3%）で10割近くと多くなっている。

(図3-41-2)

図3-41-3 地球環境への配慮—居住地域別



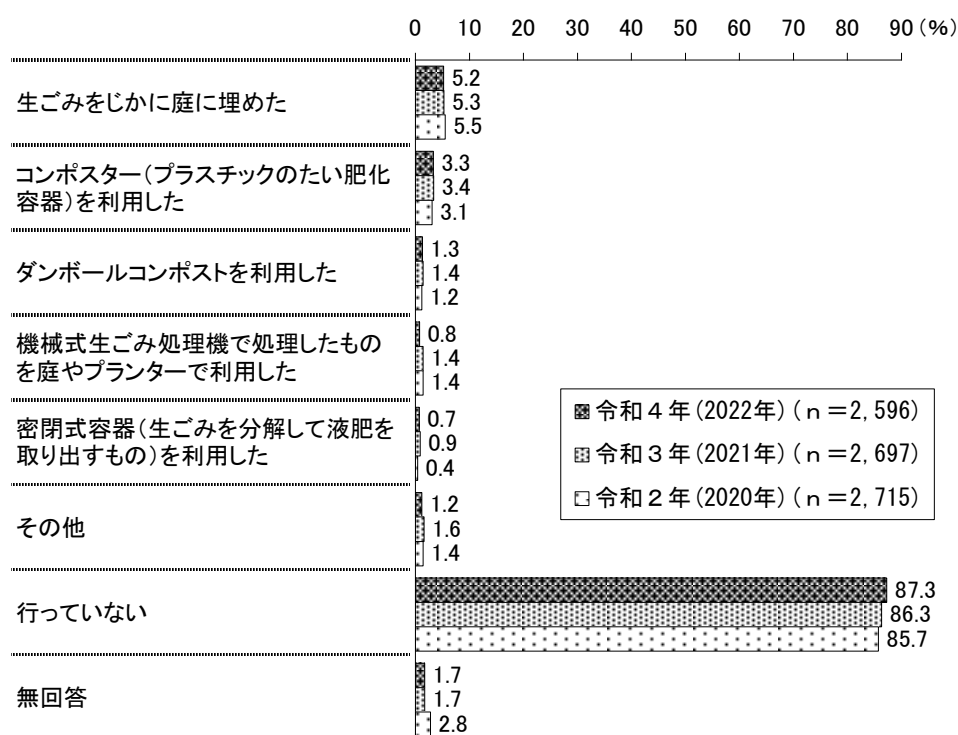
居住地域別にみると、「《している》」は由井・北野（東南部地域）（95.7%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（95.1%）で9割台半ばと多くなっている。（図3-41-3）

## (42) この1年間に行った生ごみのたい肥化

◇「行っていない」が9割近く

問49 あなたの世帯は、この1年間に、何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。(〇はいくつでも)

図3-42-1 この1年間に行った生ごみのたい肥化—全体、経年比較

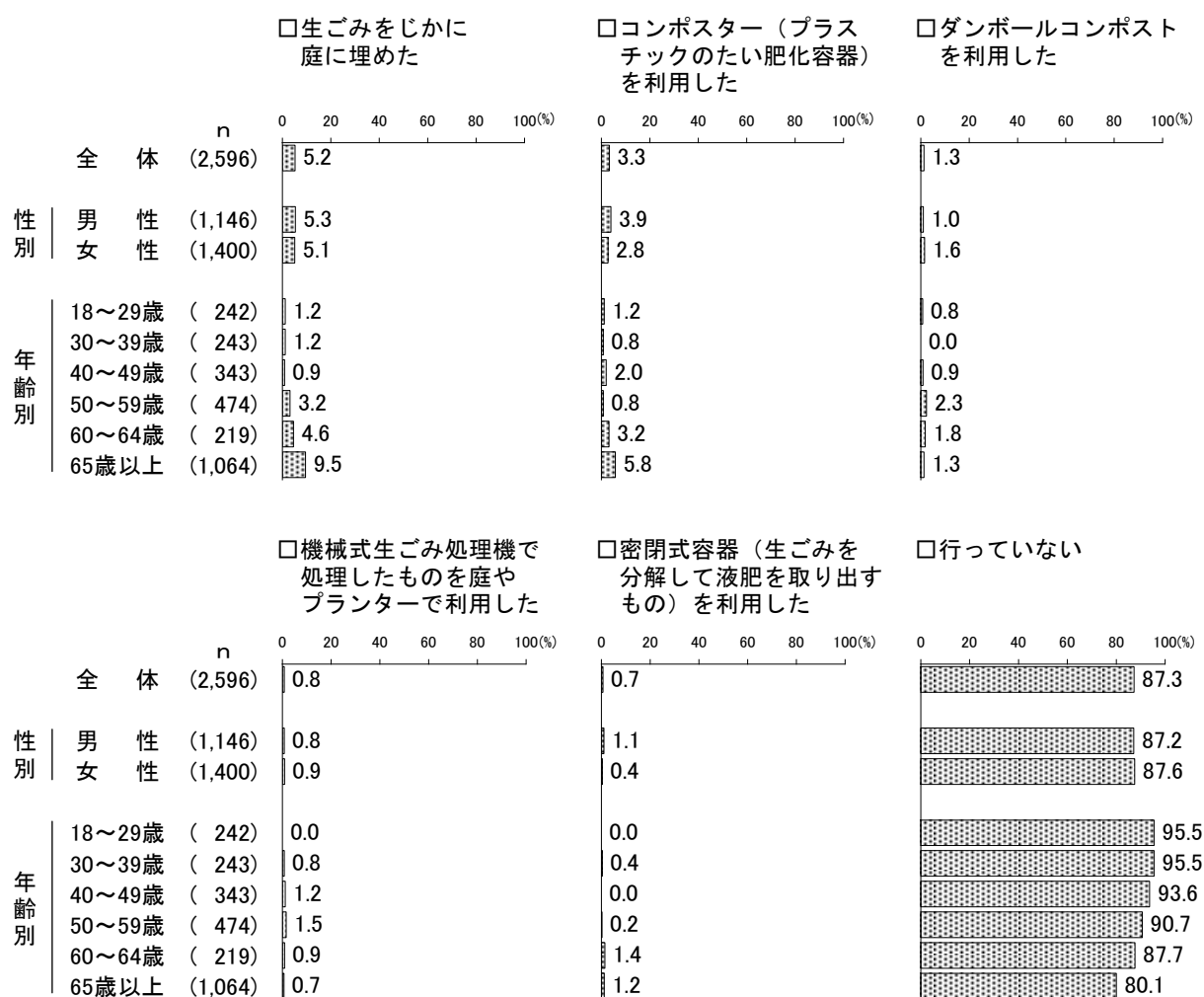


この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、「行っていない」(87.3%)が9割近くとなっている。行った中では、「生ごみをじかに庭に埋めた」(5.2%)、「コンポスター(プラスチックのたい肥化容器)を利用した」(3.3%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-42-1)

図3-42-2 この1年間に行った生ごみのたい肥化—性別、年齢別（「その他」を除く）



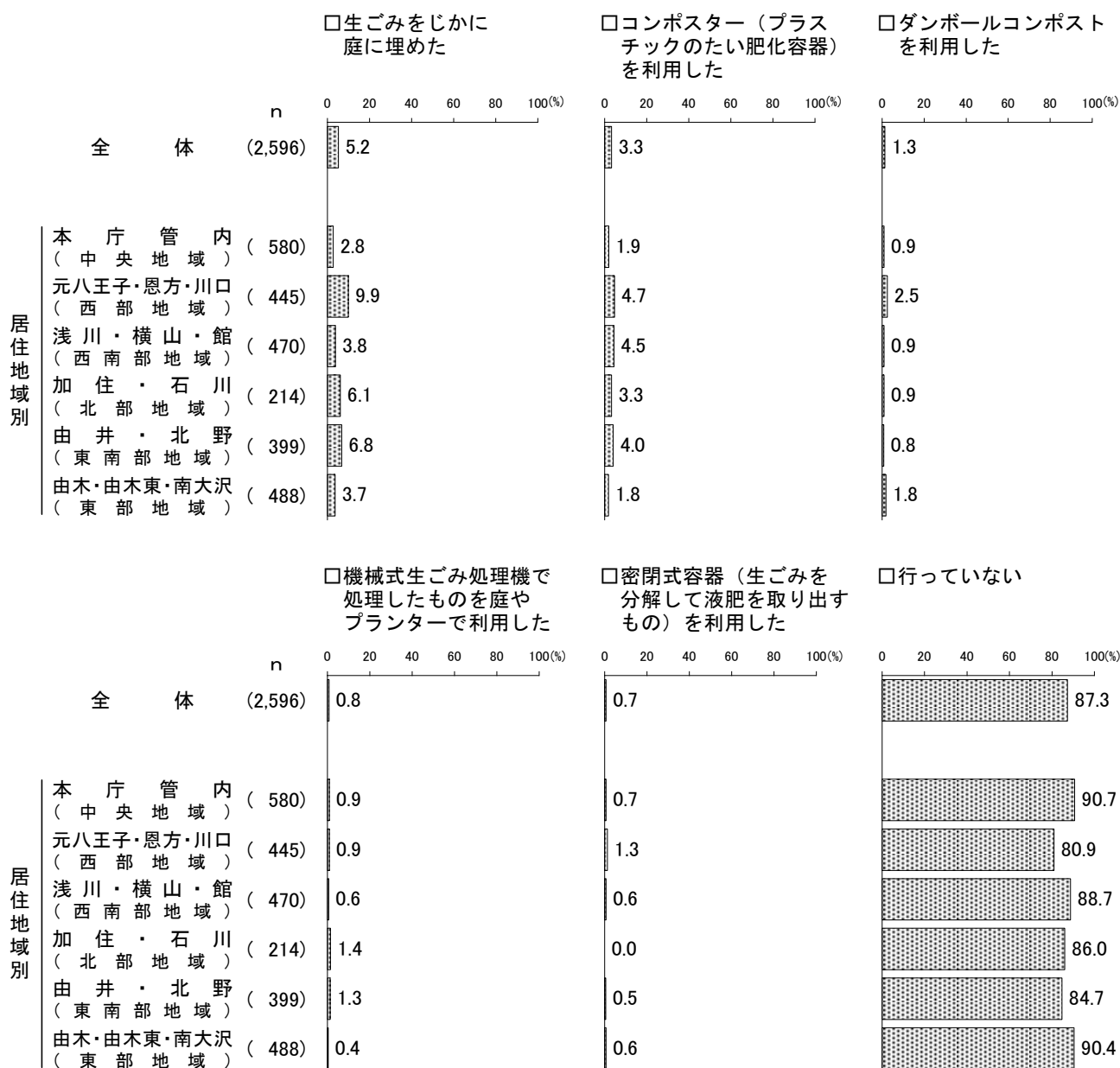
性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は65歳以上（9.5%）で1割弱となっている。一方、「行っていない」は18～29歳と30～39歳（ともに95.5%）で9割台半ばと多くなっている。

（図3-42-2）



図3-42-3 この1年間に行った生ごみのたい肥化—居住地域別（「その他」を除く）



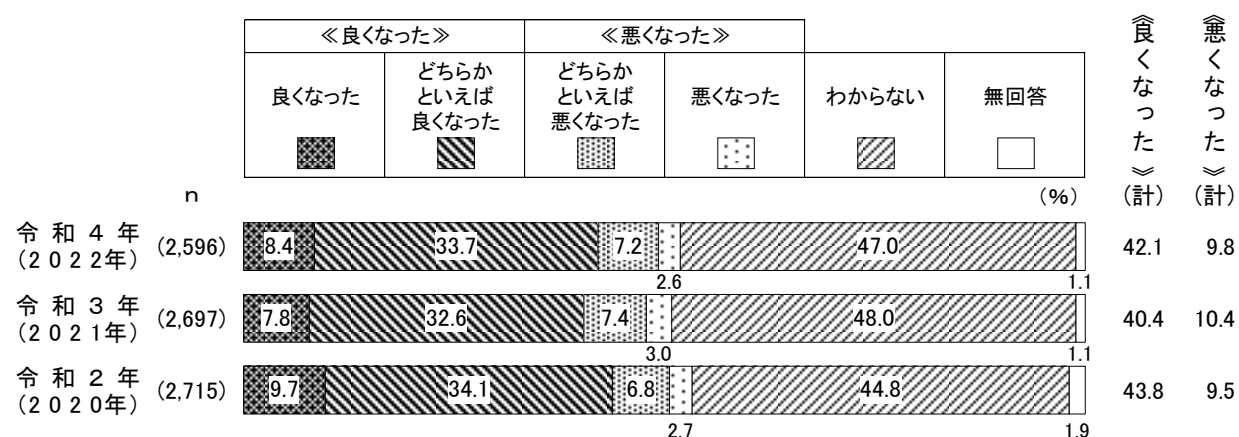
居住地域別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（9.9%）で1割弱となっている。一方、「行っていない」は本庁管内（中央地域）（90.7%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（90.4%）で約9割と多くなっている。（図3-42-3）

### (43) 市の生活環境

◇《良くなった》が4割強

問50 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が、以前と比べてどうなったと思いますか。（○は1つだけ）

図3-43-1 市の生活環境—全体、経年比較

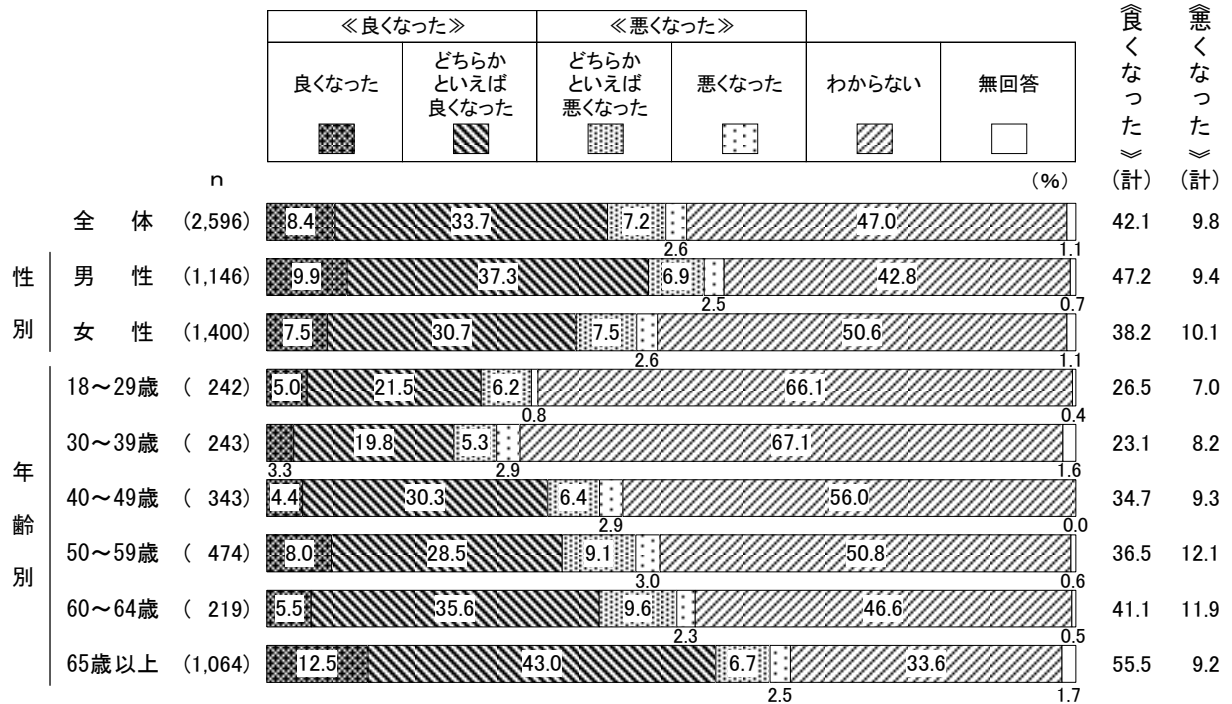


市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べてどうなったと思うか聞いたところ、「良くなった」（8.4%）と「どちらかといえば良くなった」（33.7%）を合わせた《良くなった》（42.1%）は4割強となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（7.2%）と「悪くなった」（2.6%）を合わせた《悪くなった》（9.8%）は1割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年（2021年）と大きな傾向の違いはみられない。

（図3-43-1）

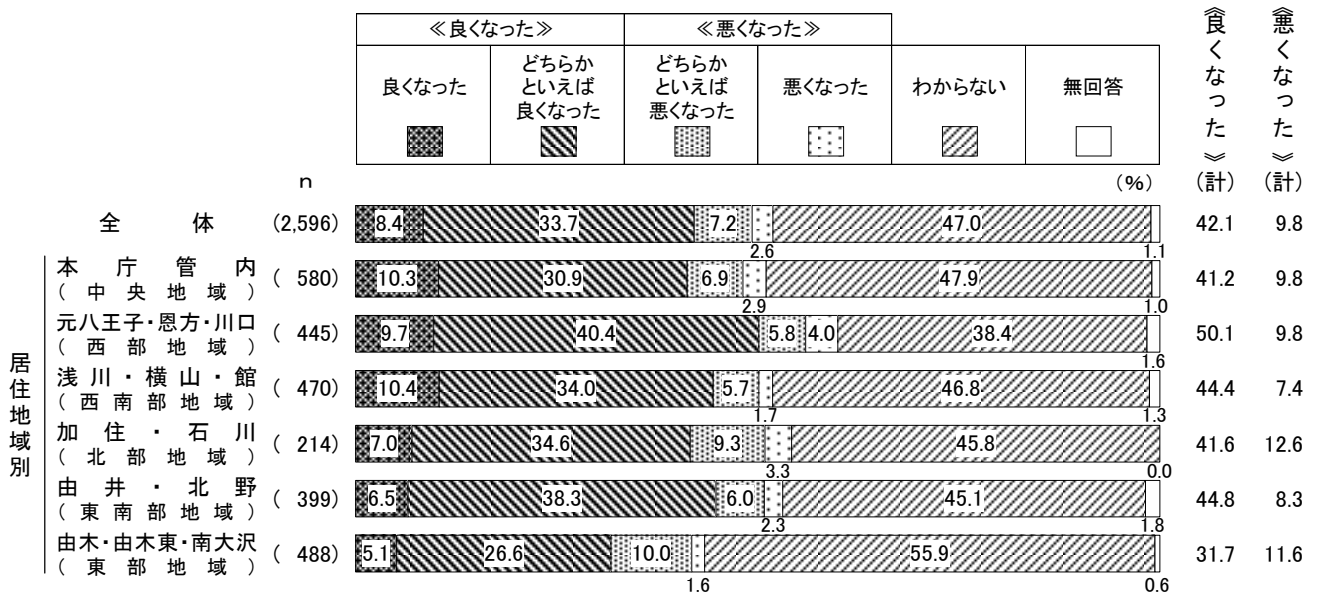
図3-43-2 市の生活環境—性別、年齢別



性別にみると、《良くなった》は男性（47.2%）が女性（38.2%）より9.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《良くなった》は65歳以上（55.5%）で5割台半ば、60～64歳（41.1%）で4割強と多くなっている。（図3-43-2）

図3-43-3 市の生活環境—居住地域別



居住地域別にみると、《良くなった》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.1%）で約5割と多くなっている。（図3-43-3）

## (44) 「生物多様性」の周知度

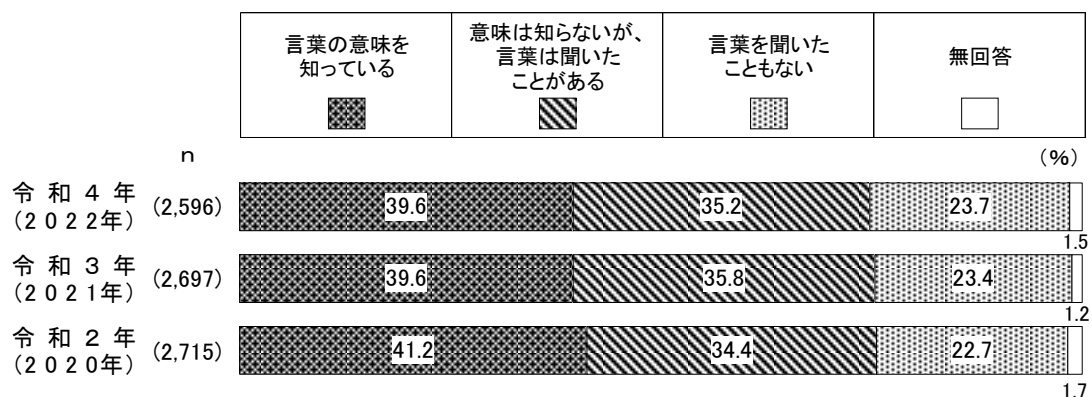
◇「言葉の意味を知っている」が4割弱

問51 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより、地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

図3-44-1 「生物多様性」の周知度－全体、経年比較

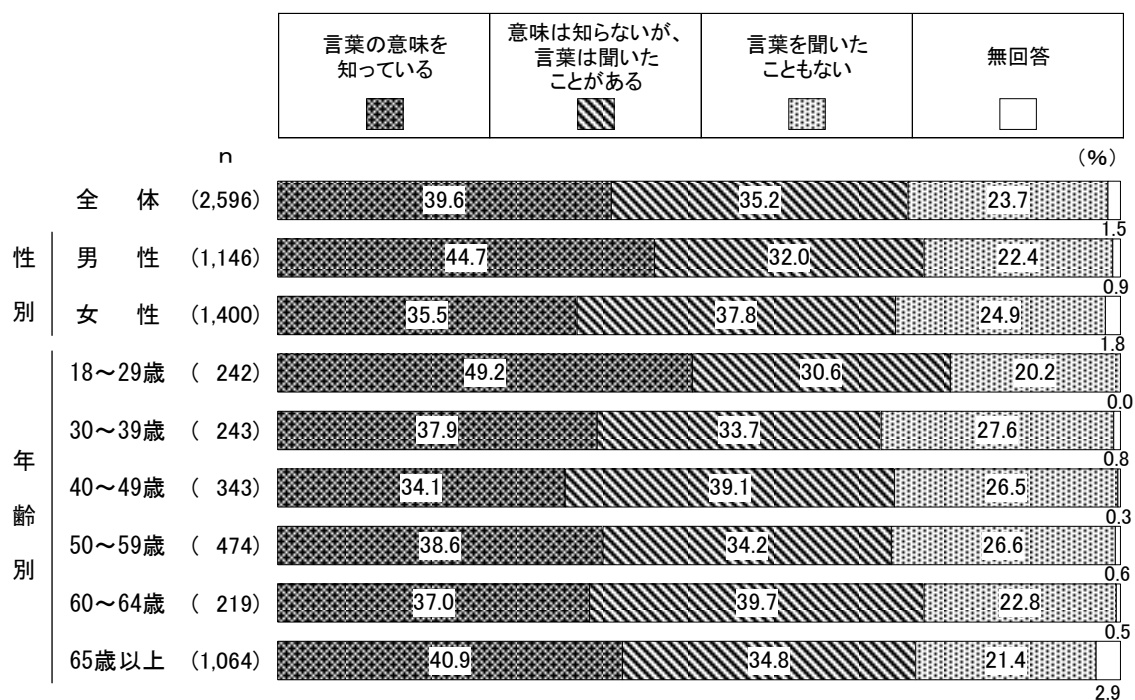


「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(39.6%)が4割弱、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(35.2%)は3割台半ばとなっている。一方、「言葉を聞いたこともない」(23.7%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-44-1)

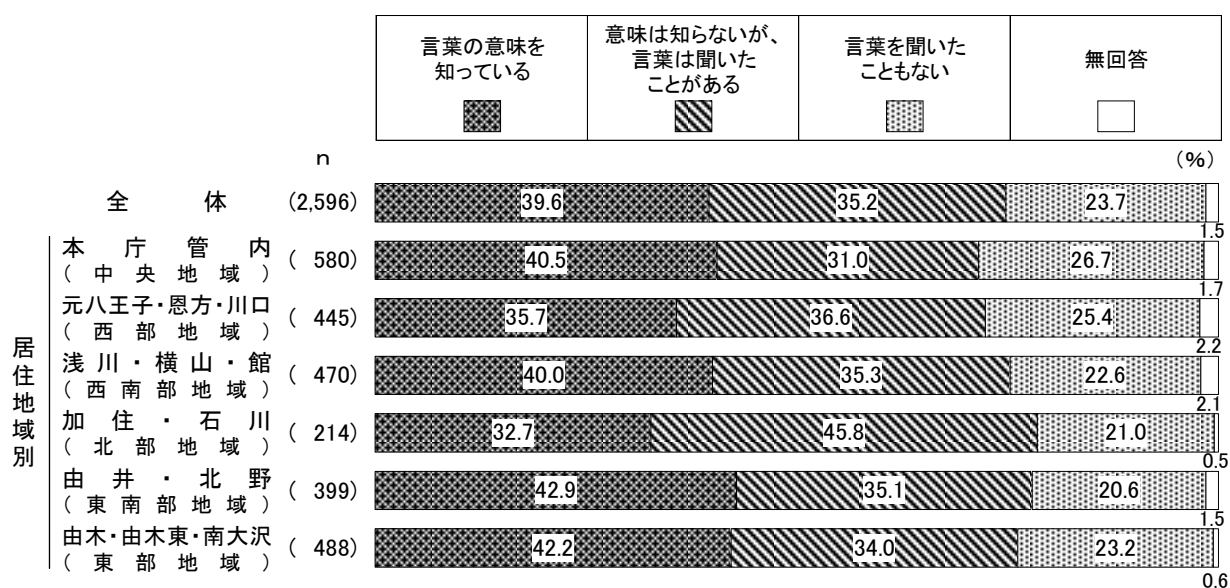
図3-44-2 「生物多様性」の周知度－性別、年齢別



性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（44.7%）が女性（35.5%）より9.2ポイント高くなっている。一方、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は女性（37.8%）が男性（32.0%）より5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は18～29歳（49.2%）で5割弱と多くなっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は40～49歳（39.1%）と60～64歳（39.7%）で4割弱と多くなっている。（図3-44-2）

図3-44-3 「生物多様性」の周知度－居住地域別



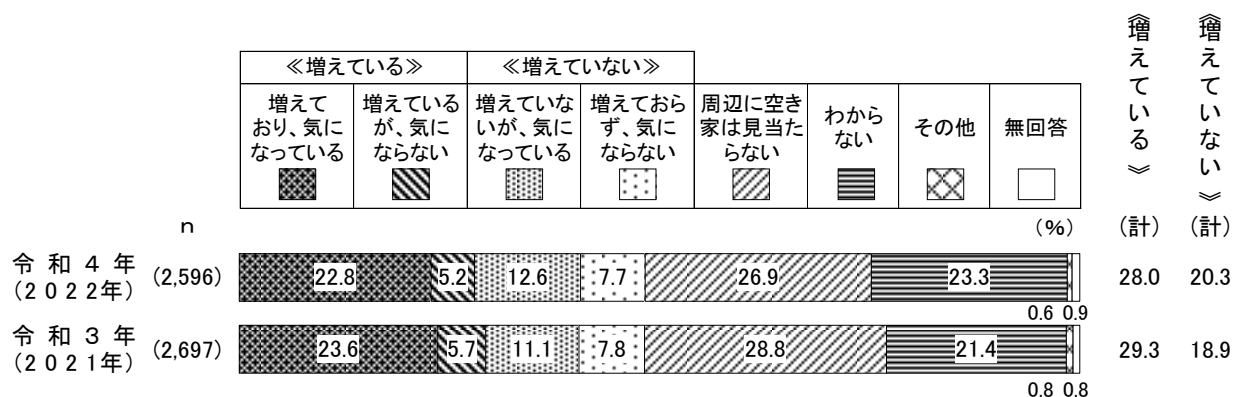
居住地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は由井・北野（東南部地域）（42.9%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（42.2%）で4割強と多くなっている。（図3-44-3）

## (45) 居住地域での空き家の状況

◇「増えており、気になっている」が2割強

問52 あなたのお住まいの地域での空き家（販売中の住宅を除く）の状況について、どのように感じていますか。（○は1つだけ）

図3-45-1 居住地域での空き家の状況—全体、経年比較

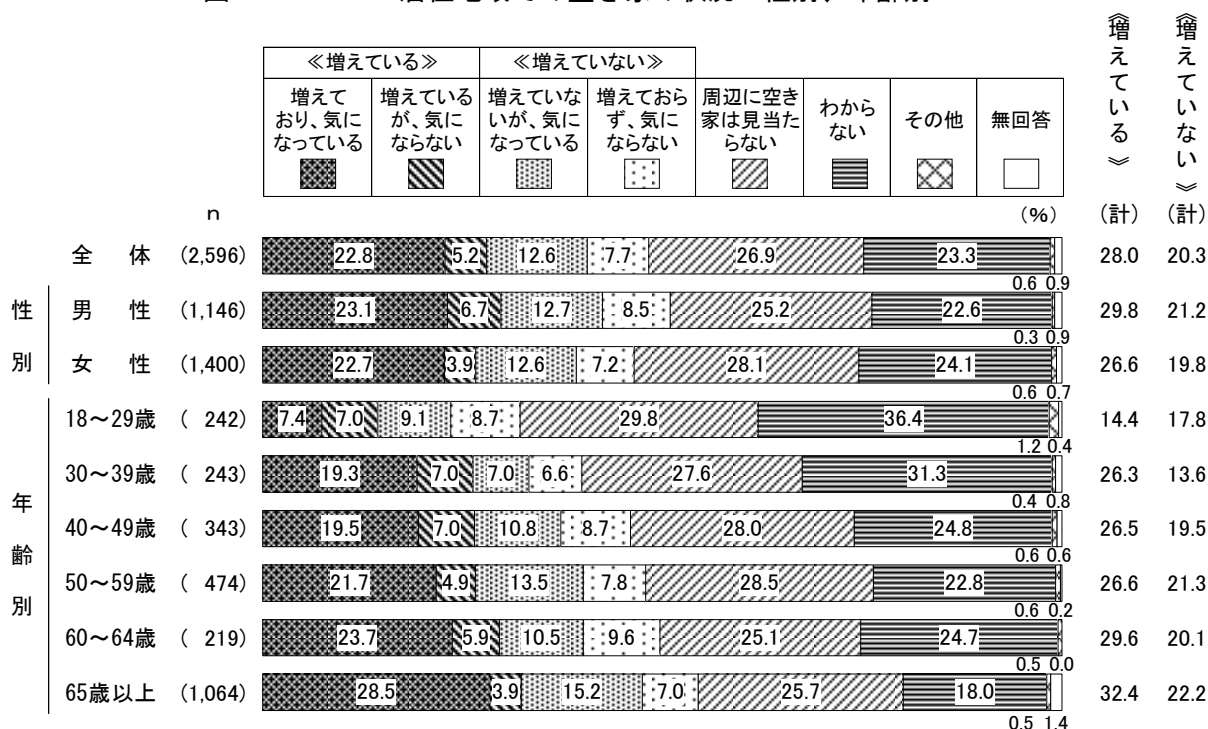


居住地域での空き家の状況について聞いたところ、「増えており、気になっている」(22.8%)と「増えているが、気にならない」(5.2%)を合わせた《増えている》(28.0%)は3割近くとなっている。一方、「増えていないが、気になっている」(12.6%)と「増えておらず、気にならない」(7.7%)を合わせた《増えていない》(20.3%)は約2割となっている。また、「周辺に空き家は見当たらない」(26.9%)は3割近くとなっている。

前回の調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-45-1)

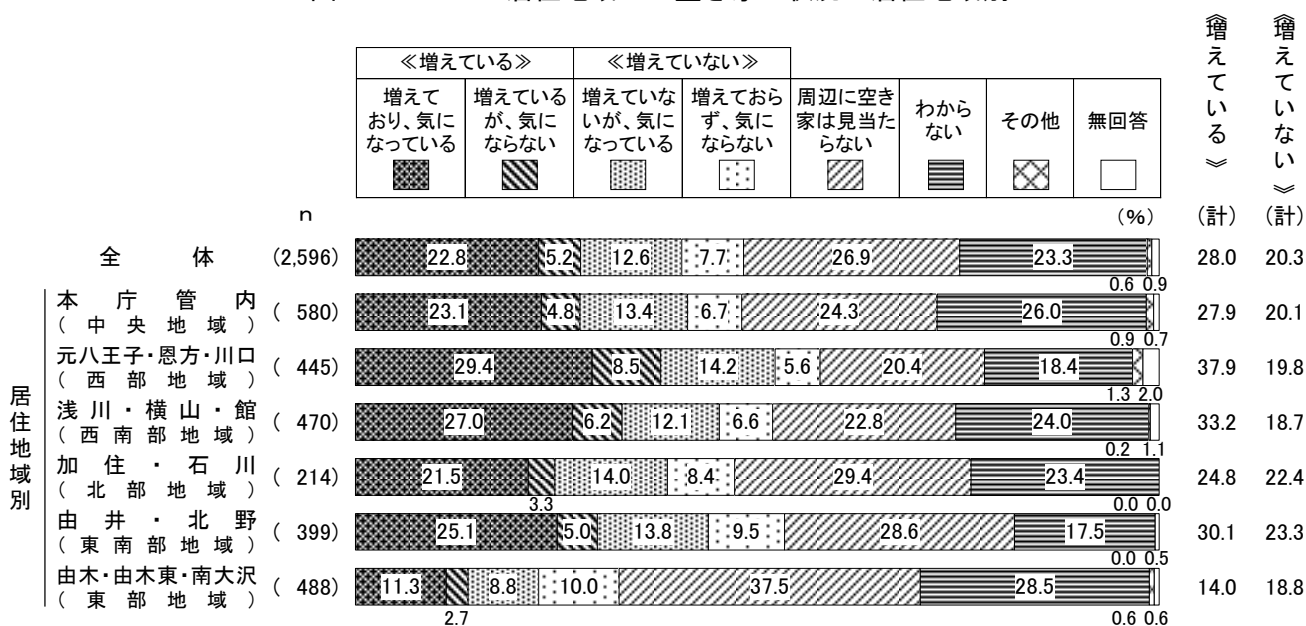
図3-45-2 居住地域での空き家の状況－性別、年齢別



性別にみると、《増えている》は男性（29.8%）が女性（26.6%）より3.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《増えている》は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（32.4%）で3割強と多くなっている。（図3-45-2）

図3-45-3 居住地域での空き家の状況－居住地域別



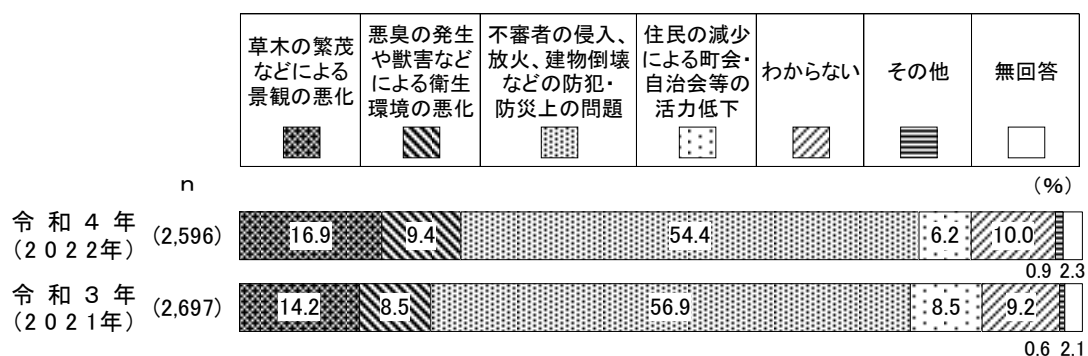
居住地域別にみると、《増えている》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（37.9%）で4割近くと多くなっている。（図3-45-3）

## (46) 空き家が増えることでの心配事

◇「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」が5割台半ば

問53 あなたのお住まいの地域に空き家が増えることによって、一番心配なことは何ですか。  
(○は1つだけ)

図3-46-1 空き家が増えることでの心配事—全体、経年比較

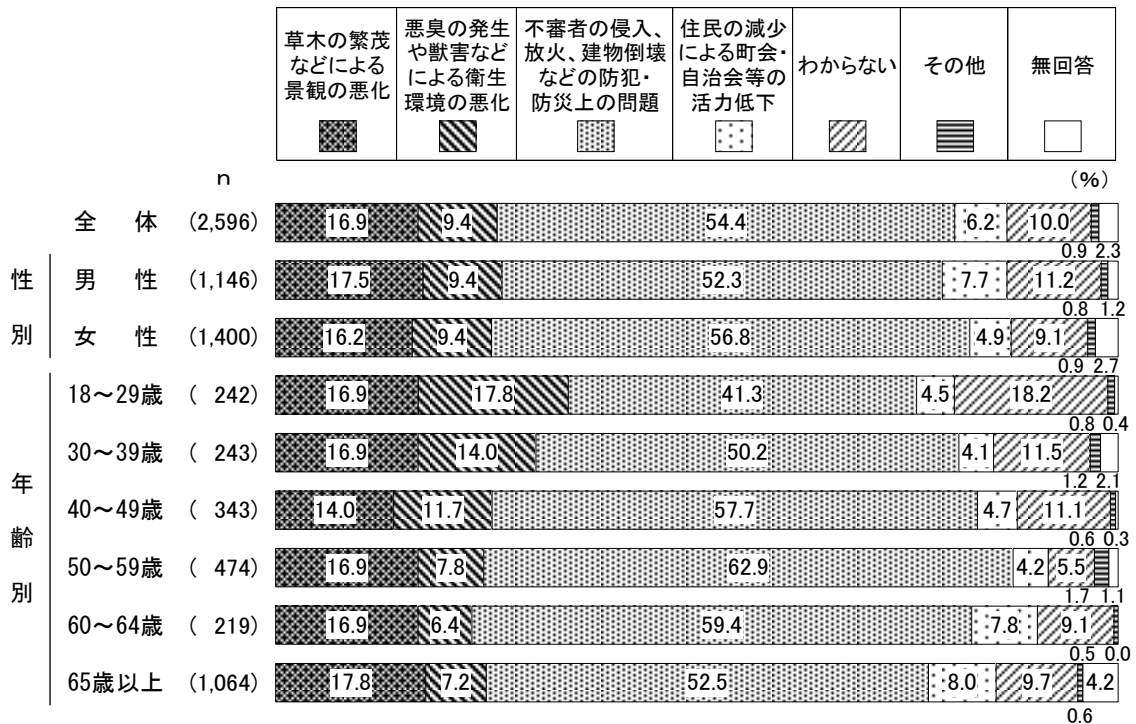


居住地域に空き家が増えることによって、一番心配なことを聞いたところ、「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」(54.4%)が5割台半ばで最も多くなっている。次いで「草木の繁茂などによる景観の悪化」(16.9%)、「悪臭の発生や獣害などによる衛生環境の悪化」(9.4%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「草木の繁茂などによる景観の悪化」は令和3年(2021年)(14.2%)より2.7ポイント増加している。一方、「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」は令和3年(2021年)(56.9%)より2.5ポイント、「住民の減少による町会・自治会等の活力低下」は令和3年(2021年)(8.5%)より2.3ポイント、それぞれ減少している。(図3-46-1)



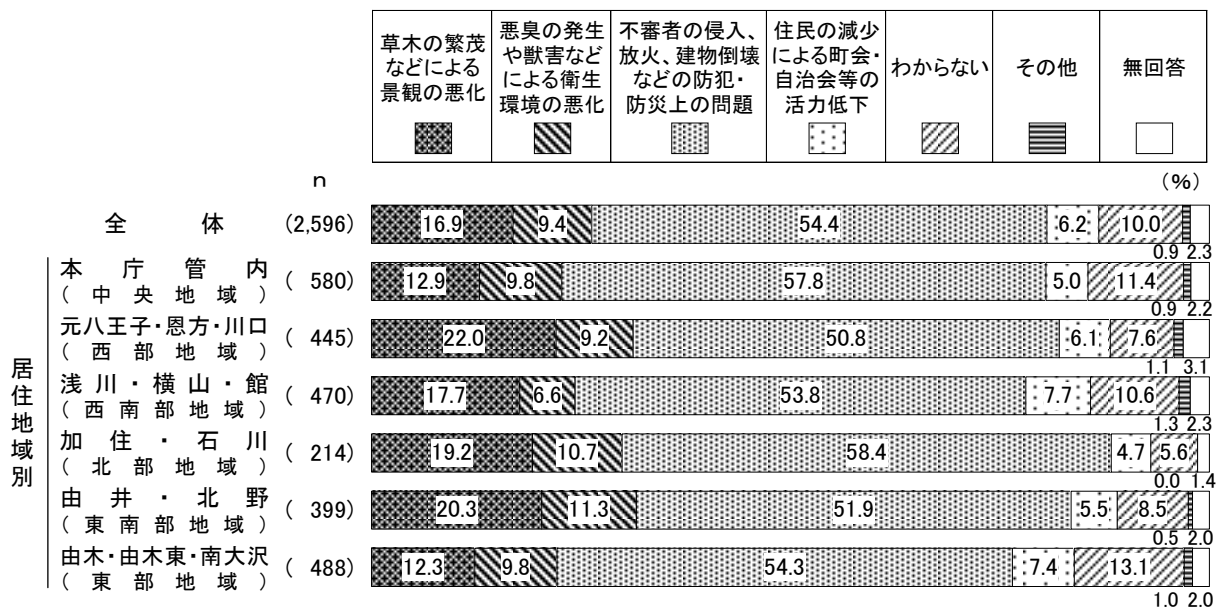
図3-46-2 空き家が増えることでの心配事—性別、年齢別



性別にみると、「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」は女性（56.8%）が男性（52.3%）より4.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」は50~59歳（62.9%）で6割強と多くなっている。（図3-46-2）

図3-46-3 空き家が増えることでの心配事—居住地域別



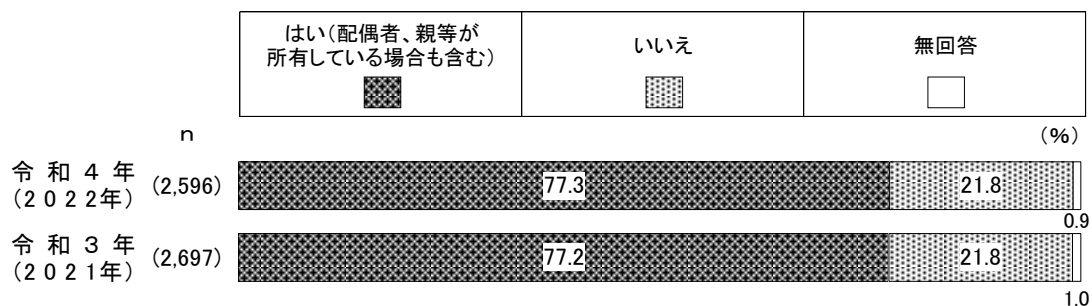
居住地域別にみると、「草木の繁茂などによる景観の悪化」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（22.0%）で2割強と多くなっている。「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」は加住・石川（北部地域）（58.4%）と本庁管内（中央地域）（57.8%）で6割近くと多くなっている。（図3-46-3）

## (47) 持ち家の有無

◇「はい（配偶者、親等が所有している場合も含む）」が8割近く

問54 あなたのお住まいは持ち家ですか。（○は1つだけ）

図3-47-1 持ち家の有無－全体、経年比較

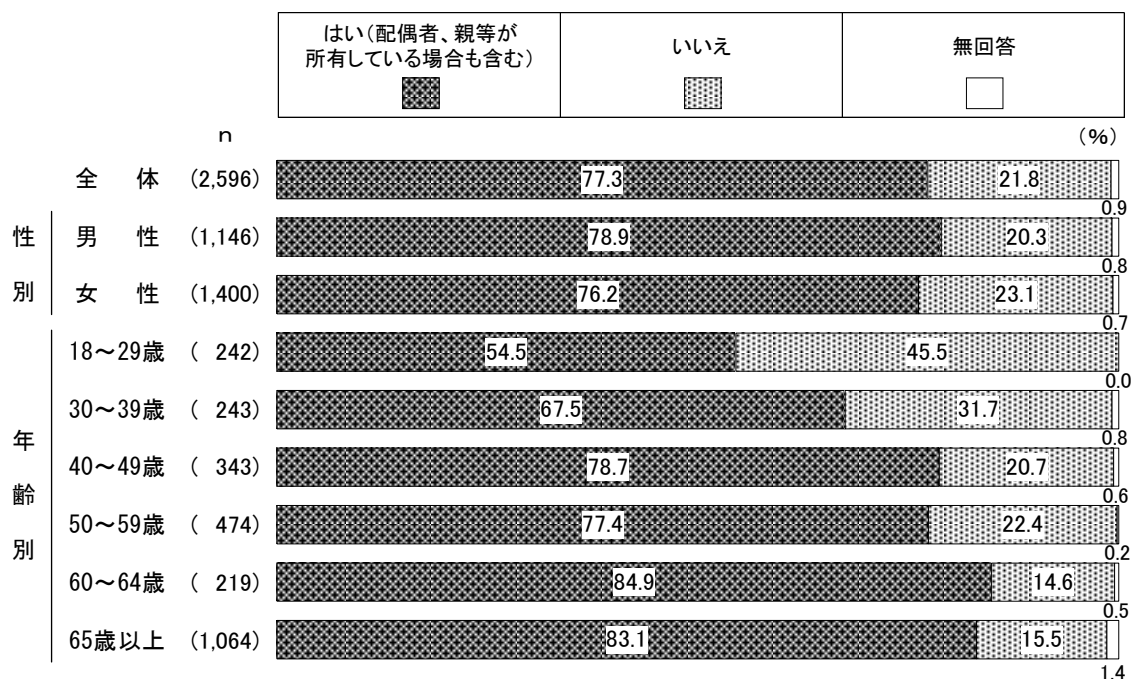


持ち家の有無を聞いたところ、「はい（配偶者、親等が所有している場合も含む）」（77.3%）が8割近く、「いいえ」（21.8%）は2割強となっている。

前回の調査と比較すると、令和3年（2021年）と大きな傾向の違いはみられない。

（図3-47-1）

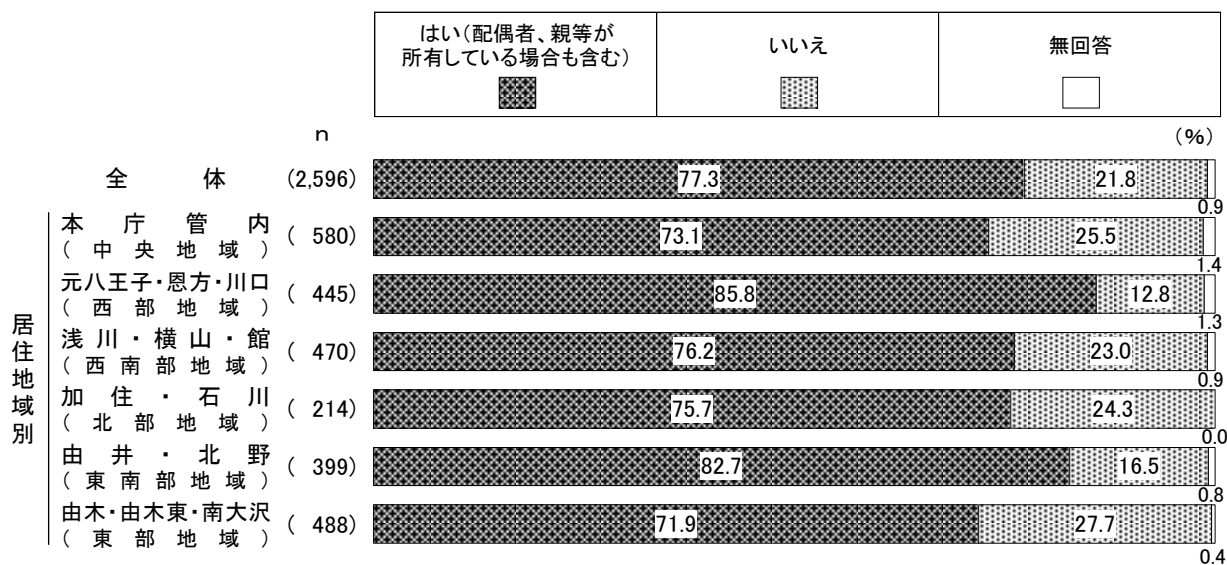
図3-47-2 持ち家の有無－性別、年齢別



性別にみると、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」は男性(78.9%)が女性(76.2%)より2.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」は60～64歳(84.9%)で8割台半ばと多くなっている。一方、「いいえ」は18～29歳(45.5%)で4割台半ばと多くなっている。(図3-47-2)

図3-47-3 持ち家の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(85.8%)で8割台半ばと多くなっている。一方、「いいえ」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(27.7%)で3割近くと多くなっている。(図3-47-3)

## (48) 住まいの相続・継承の見通し

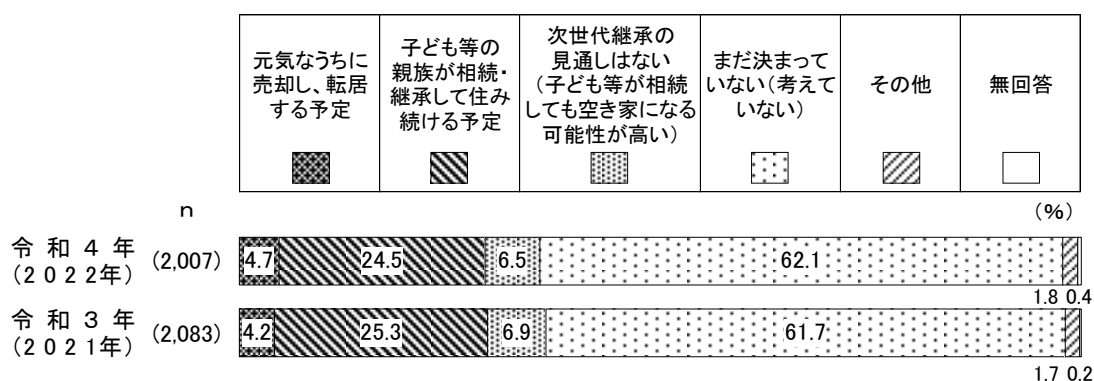
◇「まだ決まっていない(考えていない)」が6割強

(問54で「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」とお答えの方へ)

問54-1 あなたのお住まいについて、相続・継承の見通しはどうなっていますか。

(○は1つだけ)

図3-48-1 住まいの相続・継承の見通し-全体、経年比較

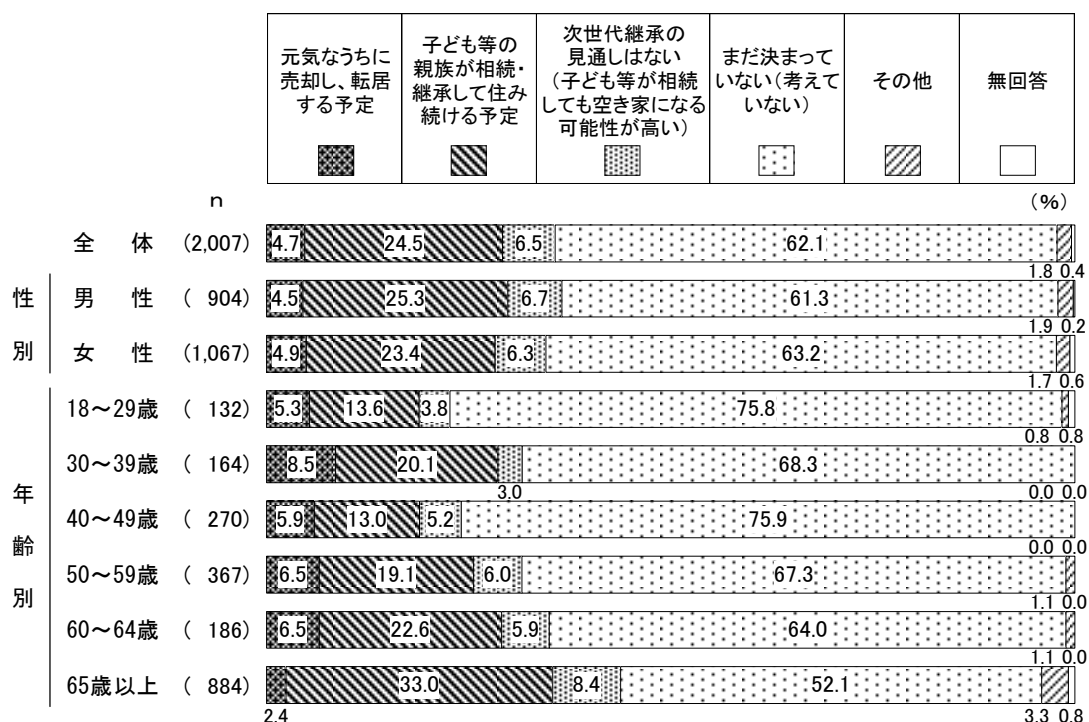


持ち家の有無で、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」と回答した2,007人に、相続・継承の見通しを聞いたところ、「まだ決まっていない(考えていない)」(62.1%)が6割強で最も多くなっている。次いで「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」(24.5%)、「次世代継承の見通しはない(子ども等が相続しても空き家になる可能性が高い)」(6.5%)、「元気なうちに売却し、転居する予定」(4.7%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-48-1)

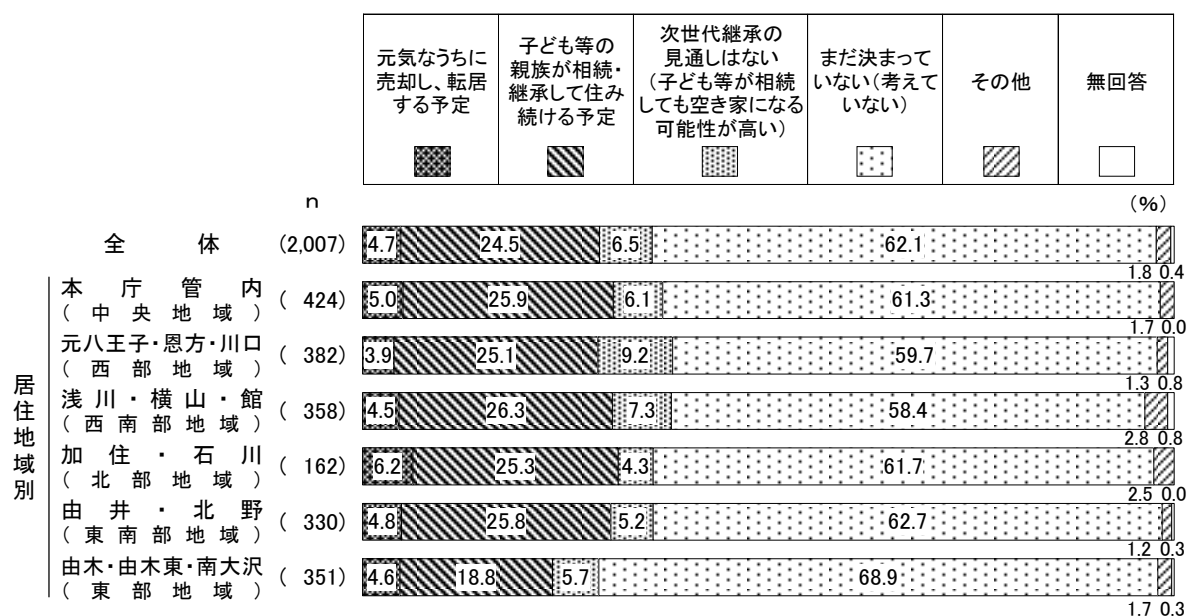
図3-48-2 住まいの相続・継承の見通し—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」は65歳以上（33.0%）で3割強と多くなっている。「まだ決まっていない（考えていない）」は18~29歳（75.8%）と40~49歳（75.9%）で7割台半ばと多くなっている。（図3-48-2）

図3-48-3 住まいの相続・継承の見通し—居住地域別



居住地域別にみると、「まだ決まっていない（考えていない）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（68.9%）で7割近くと多くなっている。（図3-48-3）

## (49) 男女共同参画の実現

◇《《そう思う》》は、「家庭」が6割近く、「職場」が5割近く

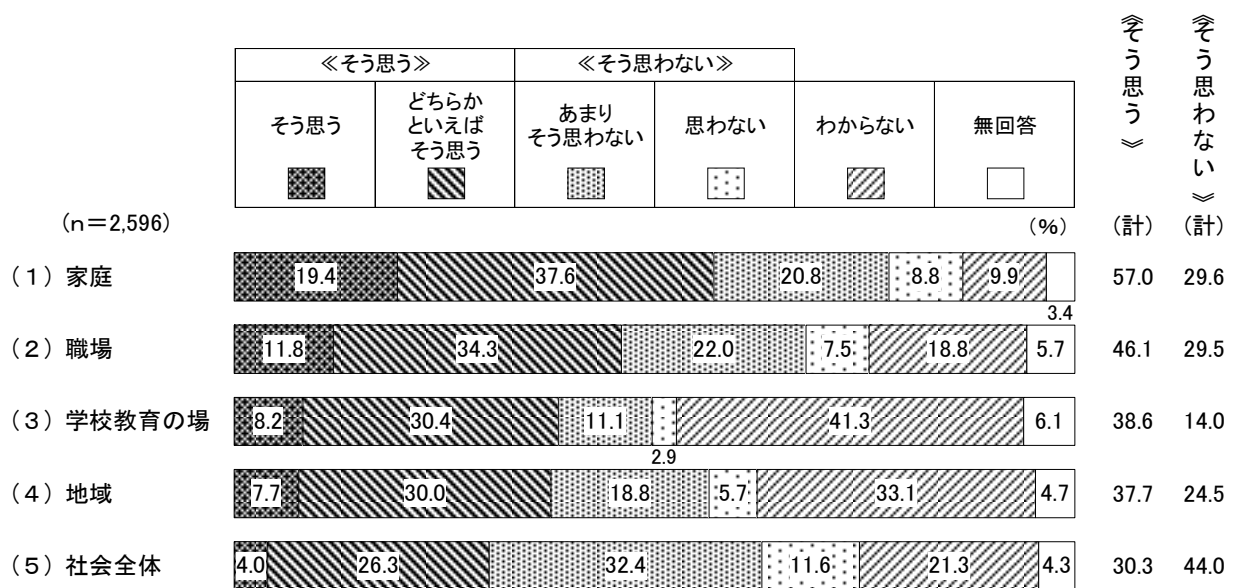
問55 あなたは、次の(1)～(5)の分野で男女共同参画が実現していると思いますか。それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

### ※固定的な性別役割分担意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「男性は主要な業務、女性は補助的業務」など、性別によって役割を固定する考え方のことをいう。

図3-49-1 男女共同参画の実現—全体

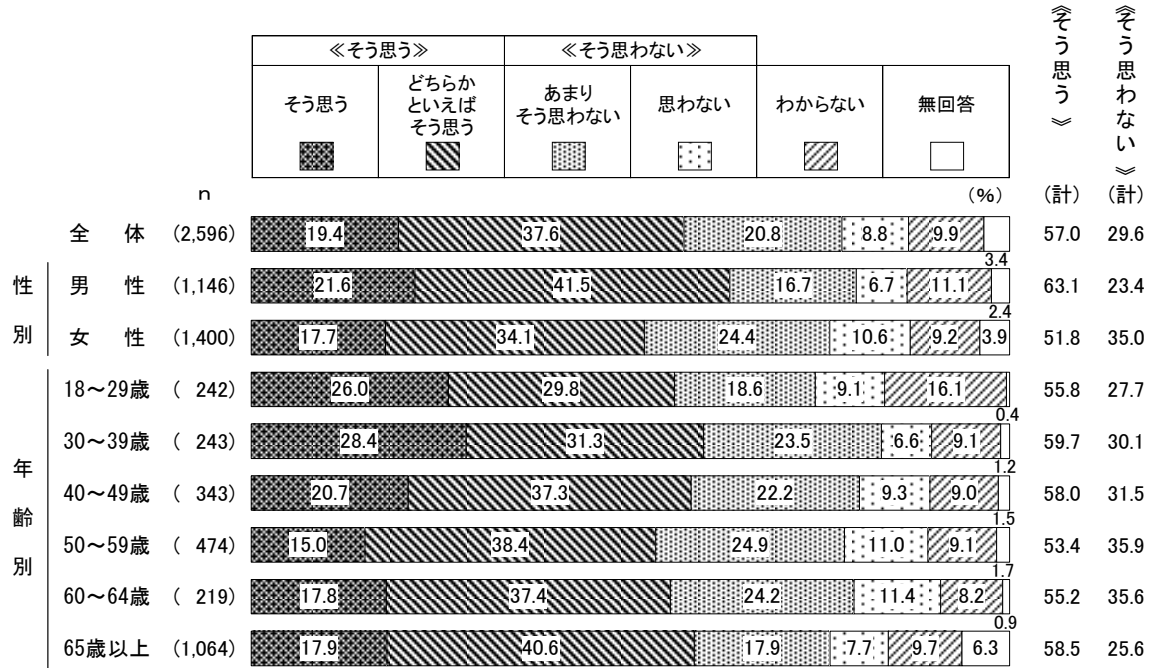


(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

各分野において、男女共同参画が実現していると思うか聞いたところ、「《《そう思う》》と「《《どちらかといえばそう思う》》を合わせた《《そう思う》》は、(1) 家庭 (57.0%) が6割近くで最も多くなっている。次いで(2) 職場 (46.1%)、(3) 学校教育の場 (38.6%) などの順となっている。

一方、「《《あまりそう思わない》》と「《《思わない》》を合わせた《《そう思わない》》は、(5) 社会全体 (44.0%) が4割台半ばで最も多くなっている。次いで(1) 家庭 (29.6%)、(2) 職場 (29.5%) などの順となっている。(図3-49-1)

図3-49-2 男女共同参画の実現—性別、年齢別 (1) 家庭

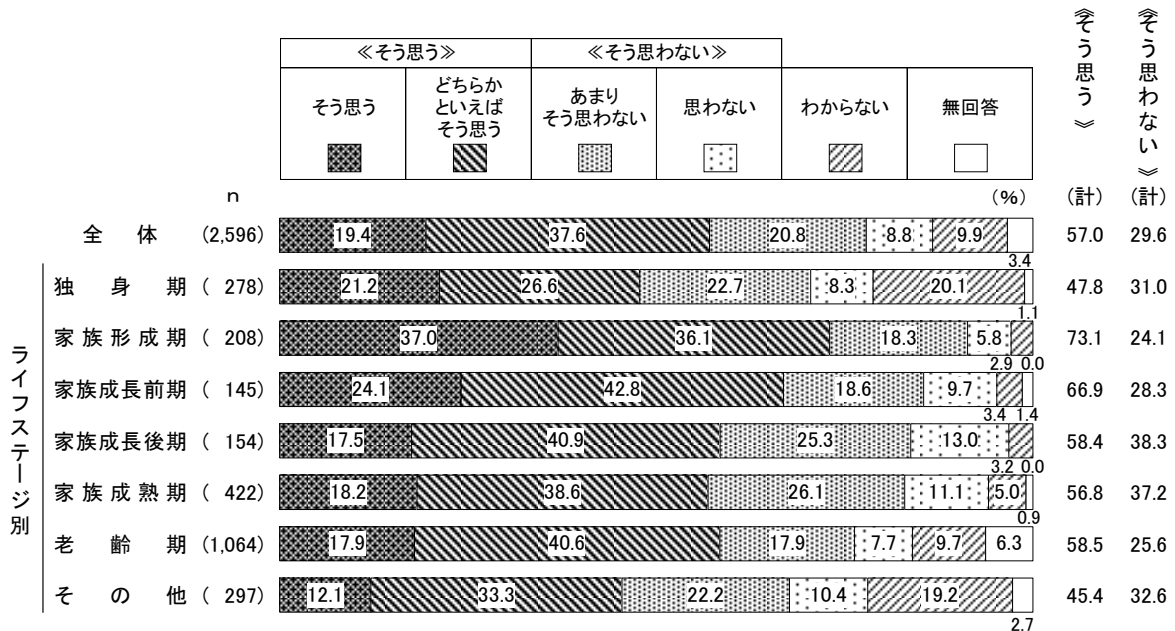


家庭について、性別にみると、《そう思う》は男性（63.1%）が女性（51.8%）より11.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は30~39歳（59.7%）で6割弱と多くなっている。一方、《そう思わない》は50~59歳（35.9%）と60~64歳（35.6%）で3割台半ばと多くなっている。

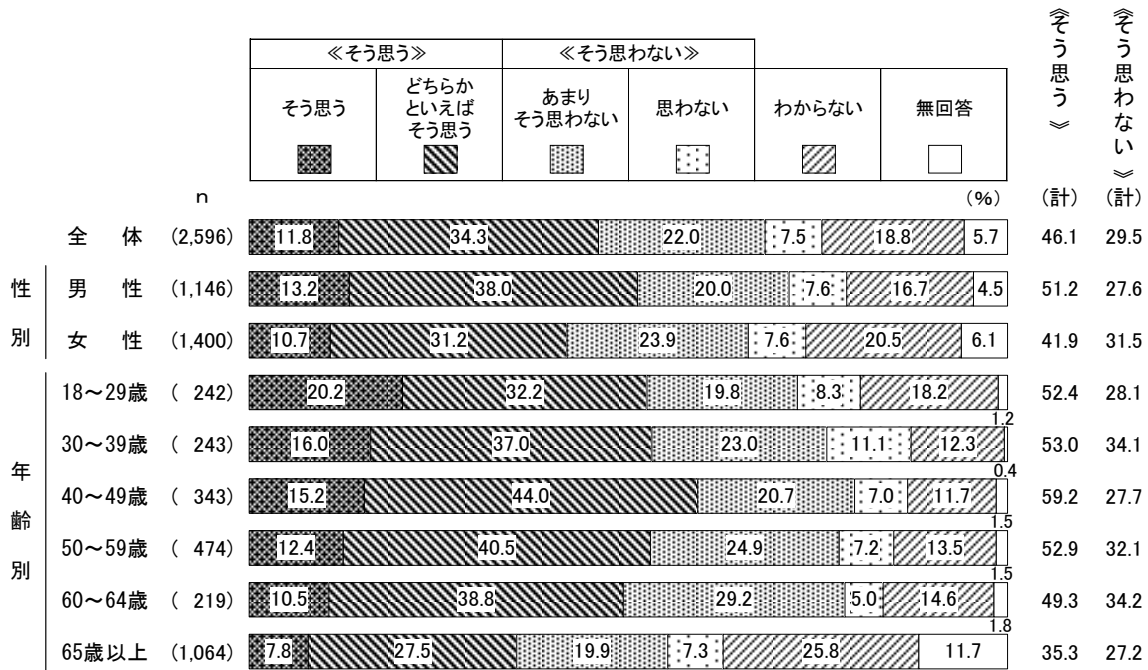
(図3-49-2)

図3-49-3 男女共同参画の実現—ライフステージ別 (1) 家庭



家庭について、ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族形成期（73.1%）で7割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成長後期（38.3%）と家族成熟期（37.2%）で4割近くと多くなっている。(図3-49-3)

図3-49-4 男女共同参画の実現—性別、年齢別 (2) 職場

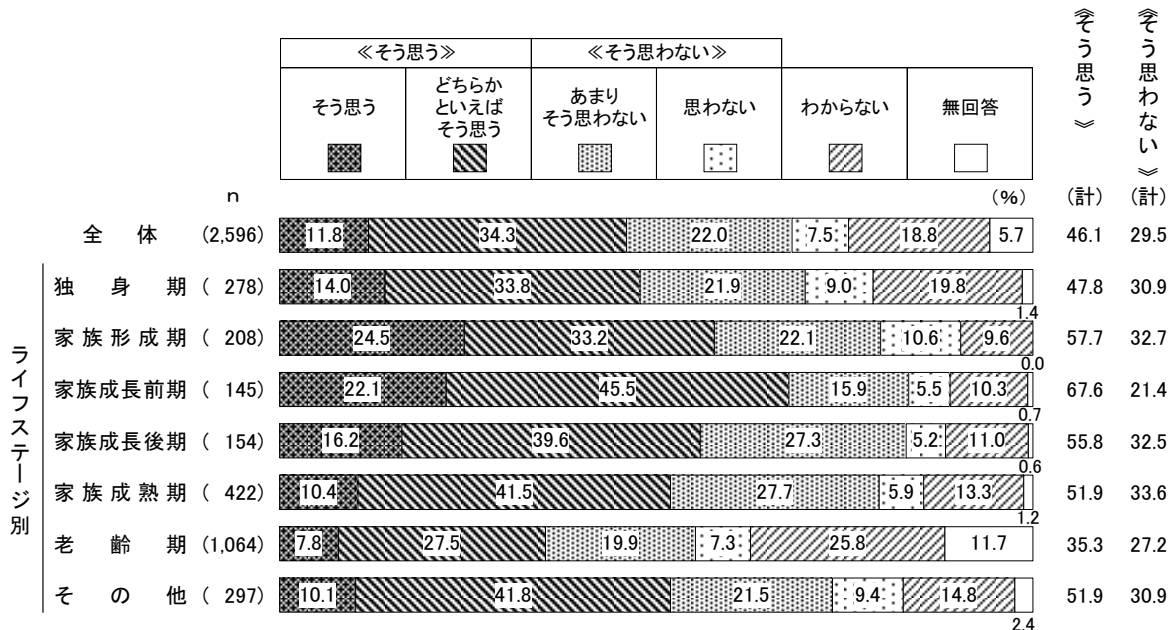


職場について、性別にみると、《《そう思う》》は男性（51.2%）が女性（41.9%）より9.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《《そう思う》》は40~49歳（59.2%）で6割弱と多くなっている。一方、《《そう思わない》》は30~39歳（34.1%）と60~64歳（34.2%）で3割台半ばと多くなっている。

(図3-49-4)

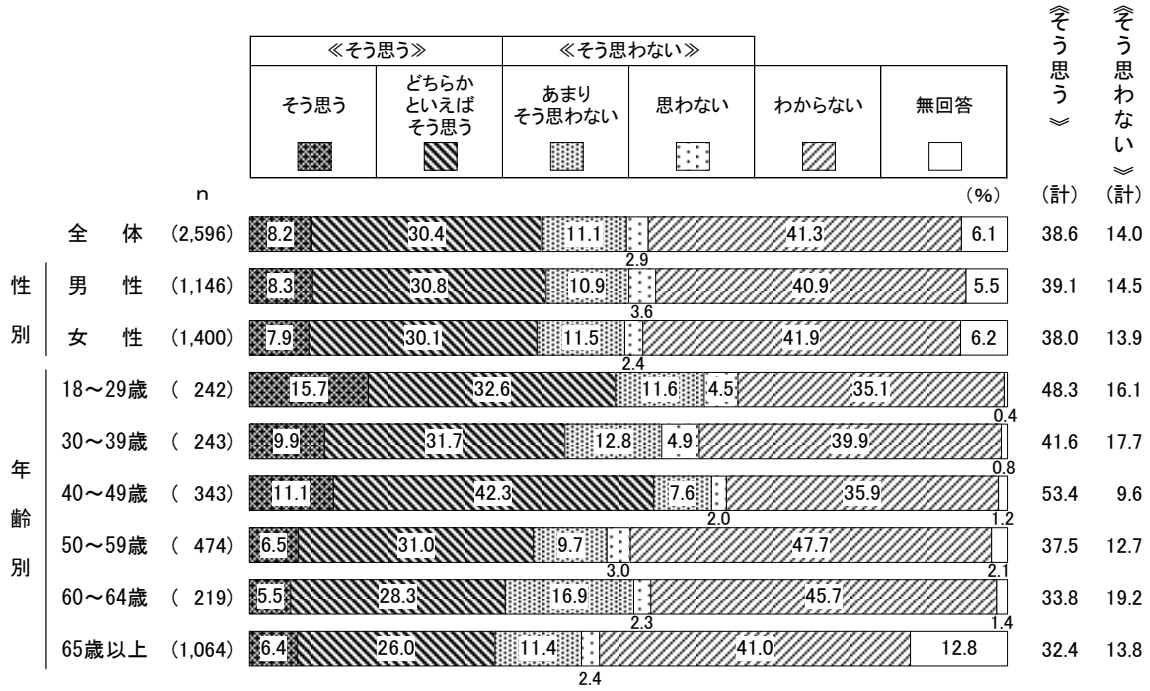
図3-49-5 男女共同参画の実現—ライフステージ別 (2) 職場



職場について、ライフステージ別にみると、《《そう思う》》は家族成長前期（67.6%）で7割近くと多くなっている。一方、《《そう思わない》》は家族成熟期（33.6%）、家族形成期（32.7%）、家族成長後期（32.5%）で3割強と多くなっている。（図3-49-5）



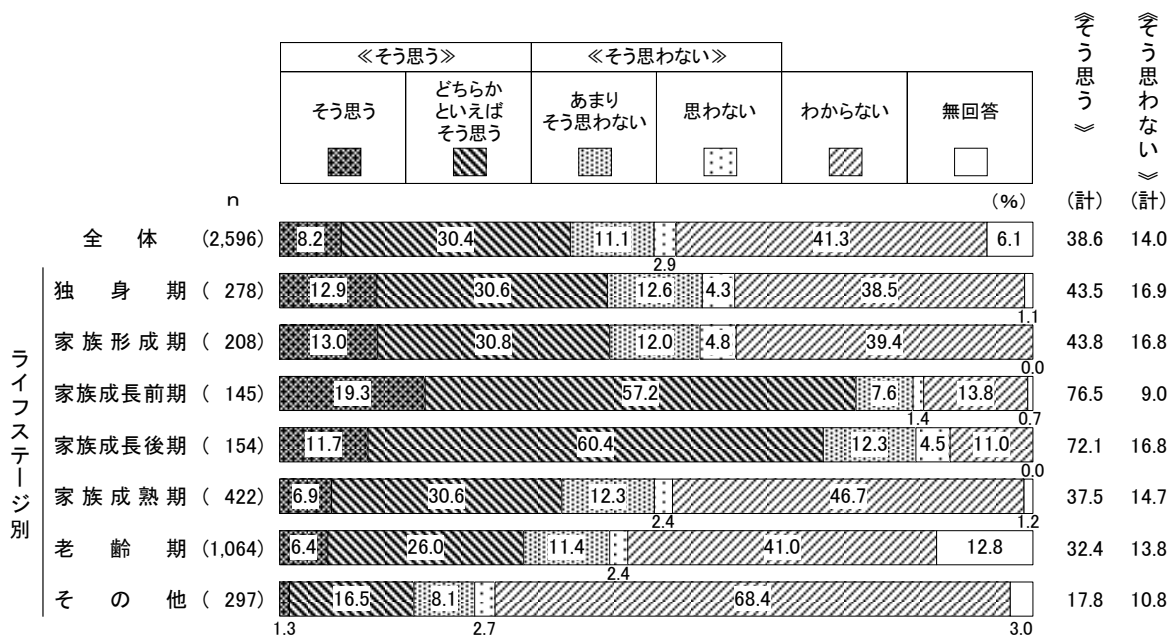
図3-49-6 男女共同参画の実現—性別、年齢別 (3) 学校教育の場



学校教育の場について、性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

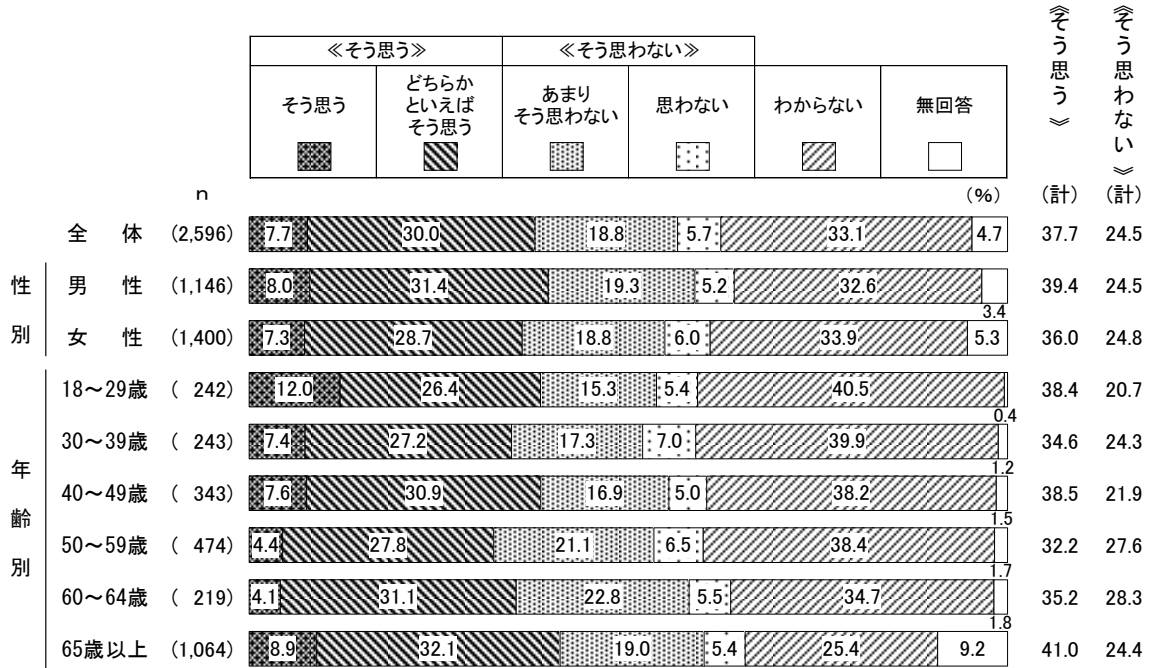
年齢別にみると、《そう思う》は40~49歳（53.4%）で5割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は60~64歳（19.2%）で2割弱となっている。（図3-49-6）

図3-49-7 男女共同参画の実現—ライフステージ別 (3) 学校教育の場



学校教育の場について、ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（76.5%）で8割近く、家族成長後期（72.1%）で7割強と多くなっている。（図3-49-7）

図3-49-8 男女共同参画の実現—性別、年齢別 (4) 地域

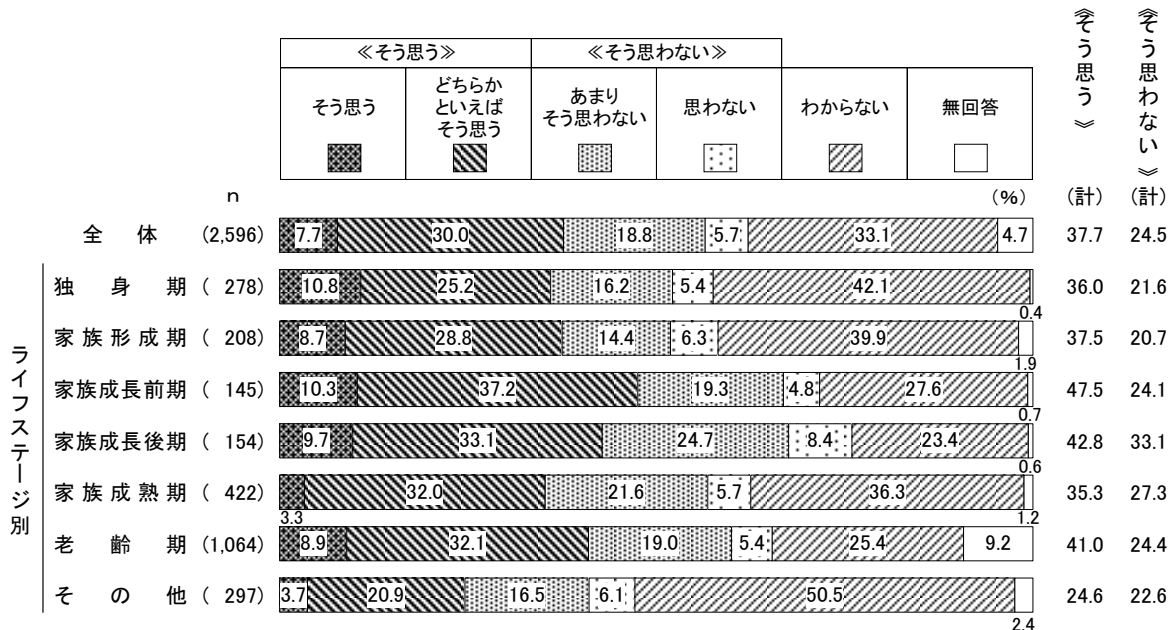


地域について、性別にみると、《《そう思う》》は男性（39.4%）が女性（36.0%）より3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《《そう思う》》は65歳以上（41.0%）で4割強と多くなっている。一方、《《そう思わない》》は50~59歳（27.6%）と60~64歳（28.3%）で3割近くと多くなっている。

(図3-49-8)

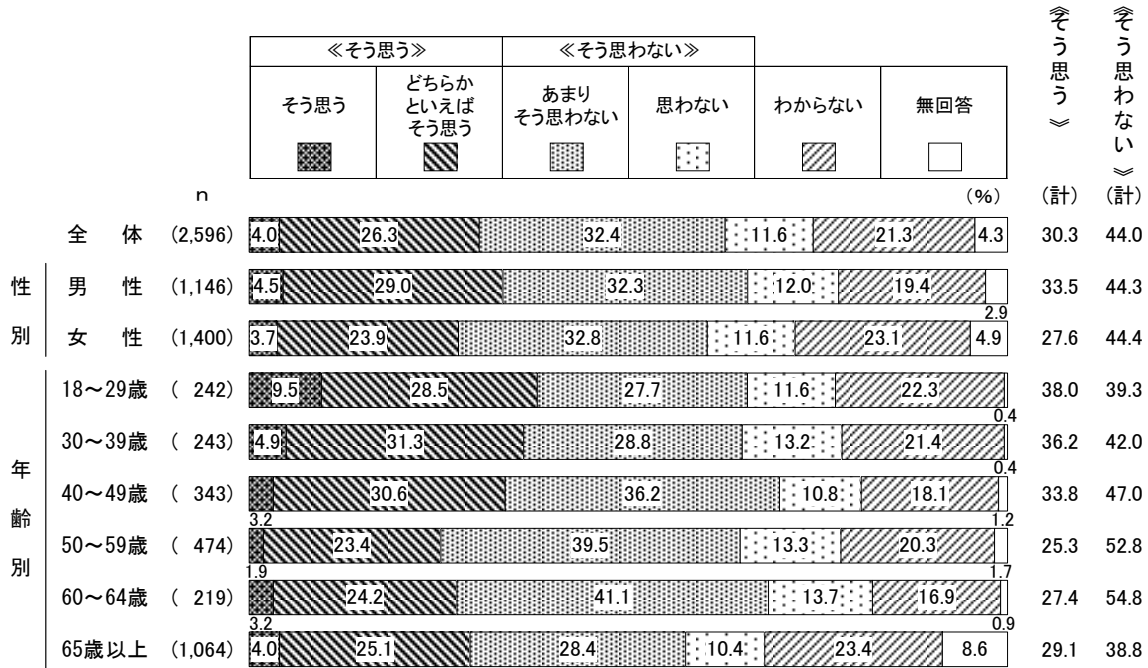
図3-49-9 男女共同参画の実現—ライフステージ別 (4) 地域



地域について、ライフステージ別にみると、《《そう思う》》は家族成長前期（47.5%）で5割近くと多くなっている。一方、《《そう思わない》》は家族成長後期（33.1%）で3割強と多くなっている。

(図3-49-9)

図3-49-10 男女共同参画の実現—性別、年齢別 (5) 社会全体

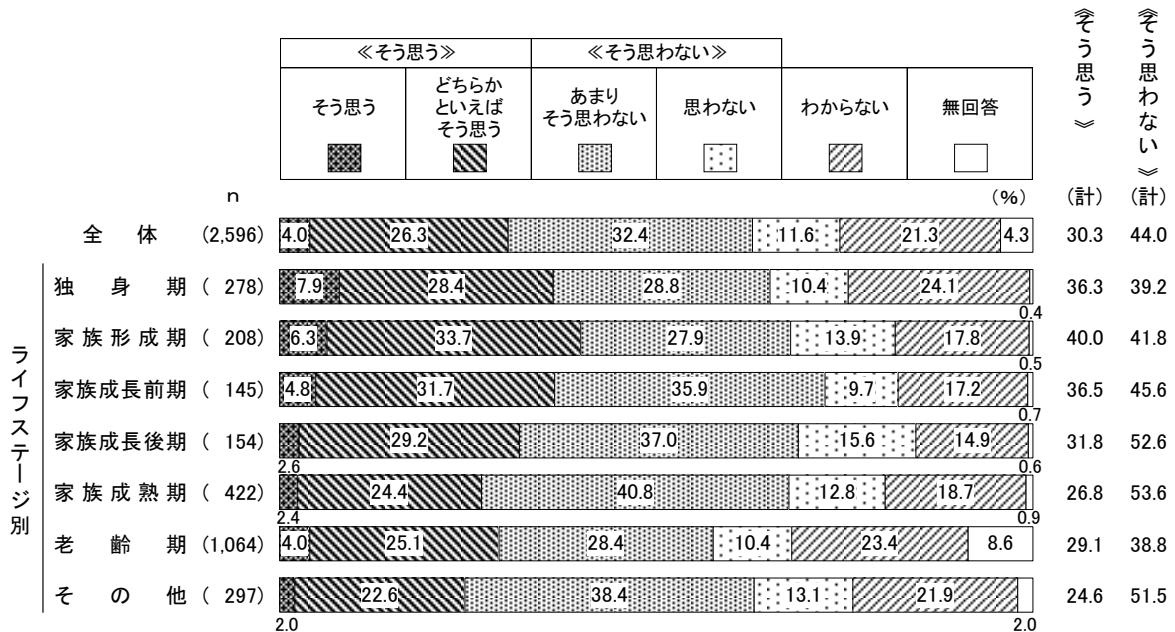


社会全体について、性別にみると、《そう思う》は男性（33.5%）が女性（27.6%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18~29歳（38.0%）と30~39歳（36.2%）で4割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は60~64歳（54.8%）で5割台半ばと多くなっている。

(図3-49-10)

図3-49-11 男女共同参画の実現—ライフステージ別 (5) 社会全体



社会全体について、ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族形成期（40.0%）で4割と多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成熟期（53.6%）、家族成長後期（52.6%）、その他（51.5%）で5割強と多くなっている。(図3-49-11)

## (50) 「性的マイノリティ」の周知度

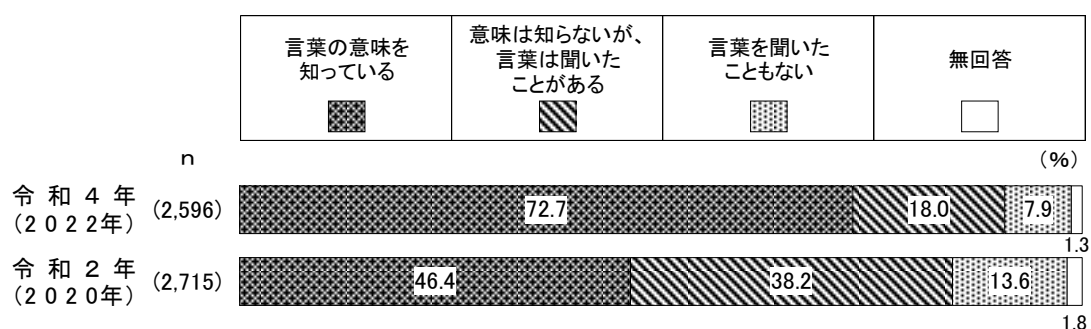
◇「言葉の意味を知っている」が7割強

問56 あなたは、「性的マイノリティ」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

※性的マイノリティとは・・・

性自認が出生時に判定された性と一致しない者又は性的指向が必ずしも異性のみではない者を言います。

図3-50-1 「性的マイノリティ」の周知度—全体、経年比較



(注) 「言葉の意味を知っている」は、令和2年(2020年)では「知っているし、内容も理解している」としていた。

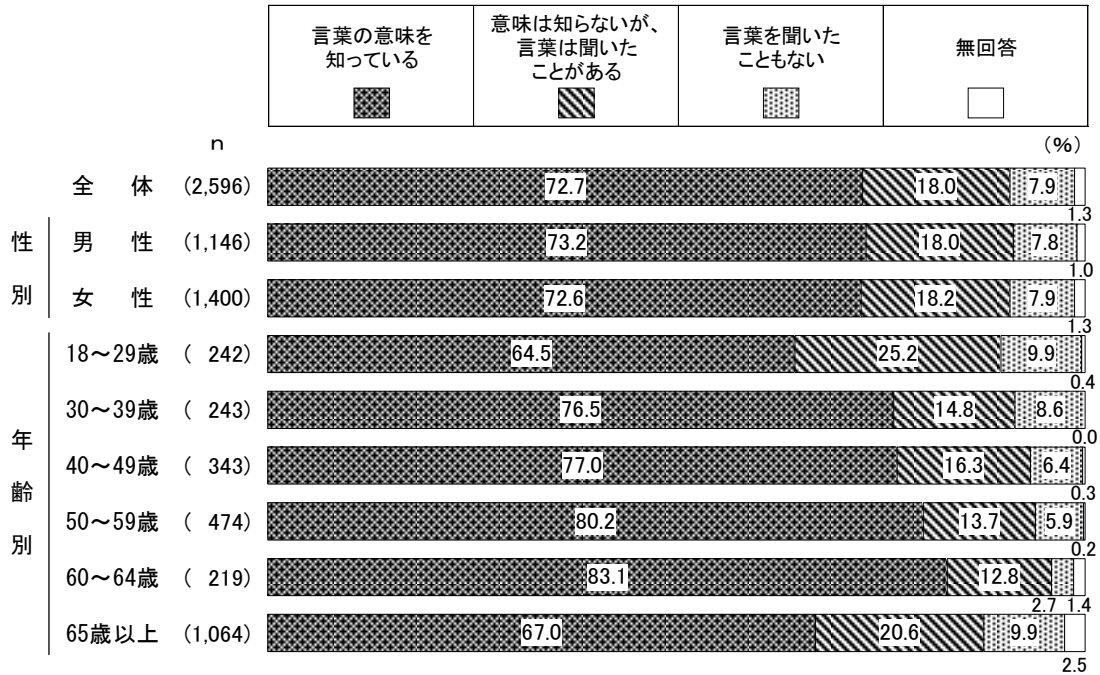
(注) 「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は、令和2年(2020年)では「知っているが、内容を詳しくは知らない」としていた。

(注) 「言葉を聞いたこともない」は、令和2年(2020年)では「知らない」としていた。

「性的マイノリティ」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(72.7%)が7割強、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(18.0%)は2割近くとなっている。一方、「言葉を聞いたこともない」(7.9%)は1割未満となっている。

前回の調査との比較は選択肢が異なるため参考に図示する。(図3-50-1)

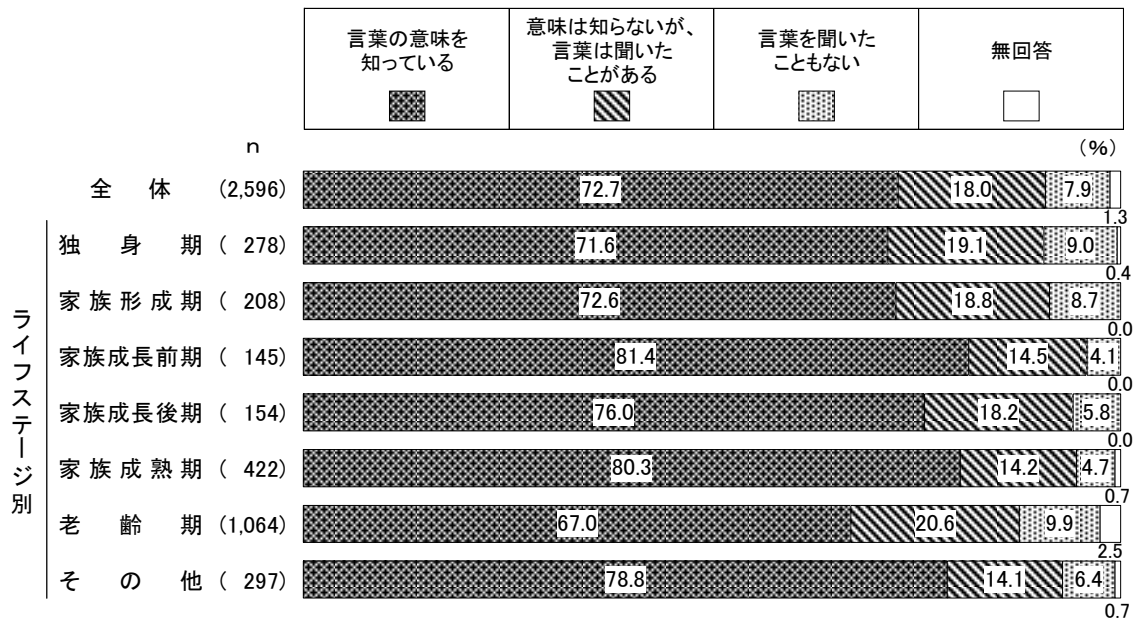
図3-50-2 「性的マイノリティ」の周知度—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は60~64歳（83.1%）で8割強と多くなっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は18~29歳（25.2%）で2割台半ばと多くなっている。（図3-50-2）

図3-50-3 「性的マイノリティ」の周知度—ライフステージ別



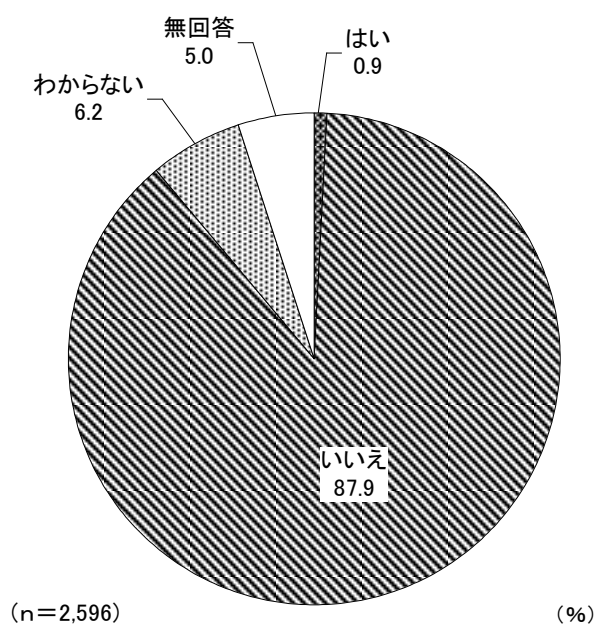
ライフステージ別にみると、「言葉の意味を知っている」は家族成長前期（81.4%）で8割強と多くなっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は老齢期（20.6%）で約2割と多くなっている。（図3-50-3）

## (51) 性的マイノリティの当事者

◇ 「いいえ（性的マイノリティの当事者だと思わない）」が9割近く

問57 あなたは、性的マイノリティの当事者だと思いますか。ただし、答えたくない場合は無記入でも構いません。（○は1つだけ）

図3-51-1 性的マイノリティの当事者－全体

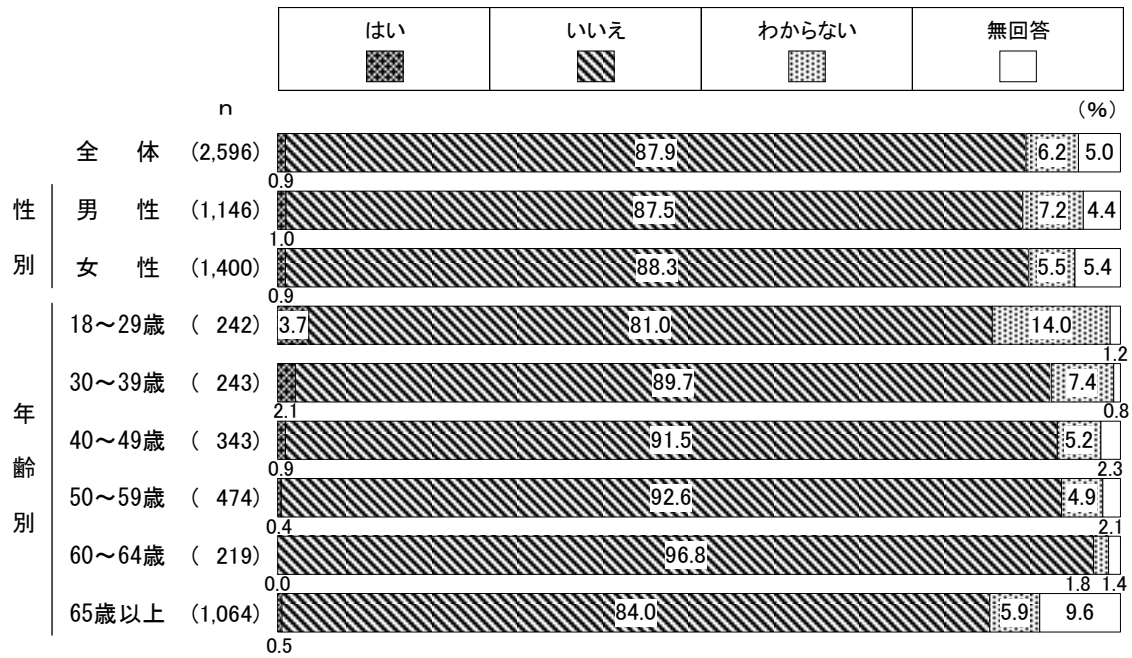


(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

性的マイノリティの当事者だと思うか聞いたところ、「はい」(0.9%)が1割未満、「いいえ」(87.9%)は9割近くとなっている。また、「わからない」(6.2%)は1割未満となっている。

(図3-51-1)

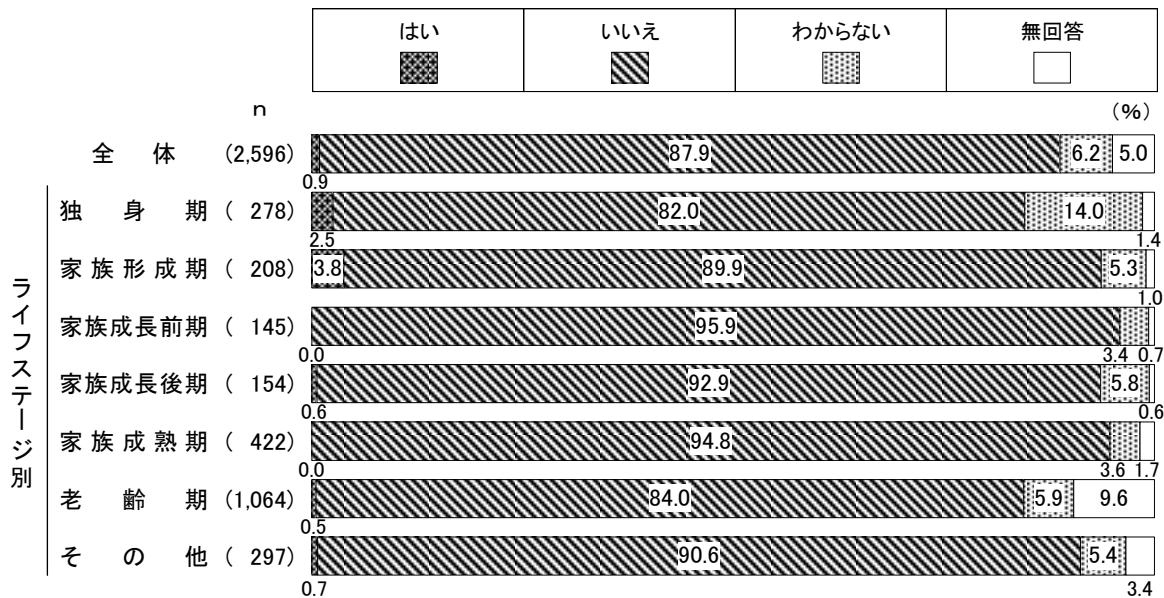
図3-51-2 性的マイノリティの当事者—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「いいえ」は60~64歳（96.8%）で10割近くと多くなっている。「わからない」は18~29歳（14.0%）で1割台半ばとなっている。（図3-51-2）

図3-51-3 性的マイノリティの当事者—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「いいえ」は家族成長前期（95.9%）と家族成熟期（94.8%）で9割台半ばと多くなっている。「わからない」は独身期（14.0%）で1割台半ばとなっている。

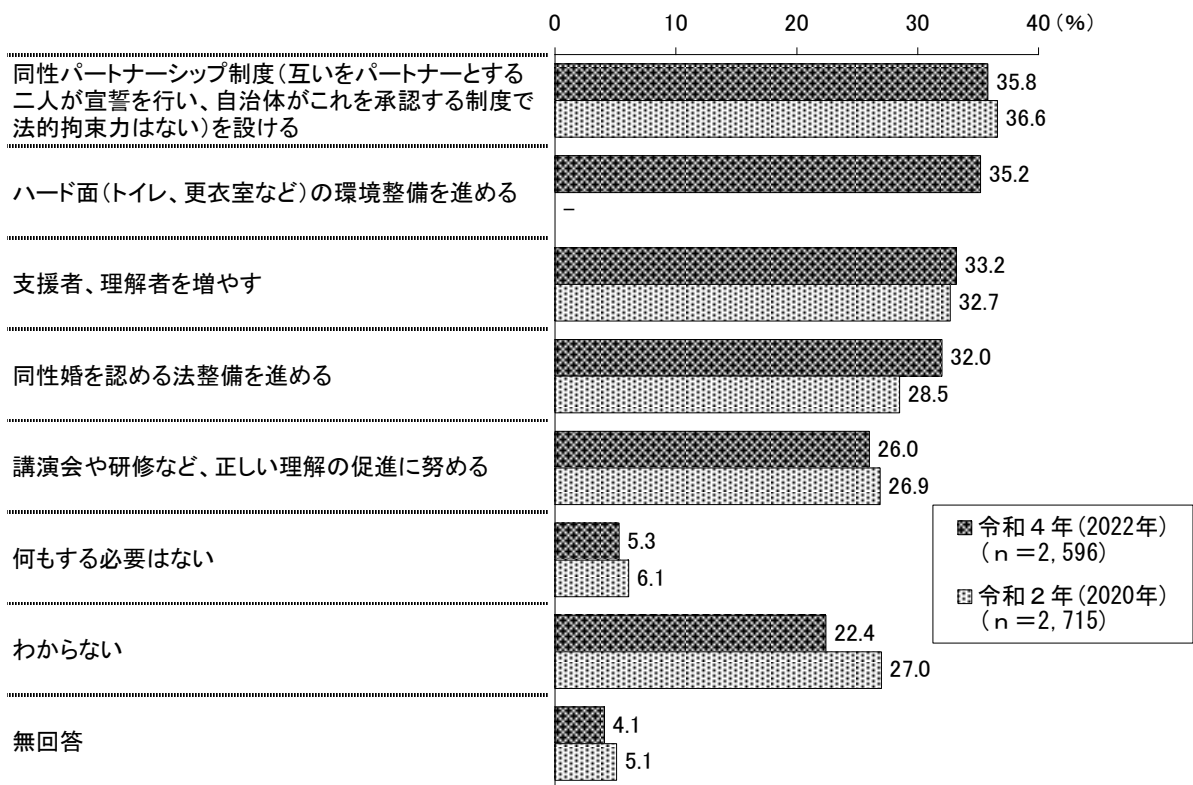
（図3-51-3）

## (52) 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくり

◇「同性パートナーシップ制度を設ける」と「ハード面の環境整備を進める」がともに3割台半ば

問58 性的マイノリティの方々にとって、生活しやすい環境づくりのために必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

図3-52-1 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくりー全体、経年比較



(注)「同性パートナーシップ制度(互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない)を設ける」は、令和2年(2020年)では「同性パートナーシップ制度(自治体が同性カップルを公に認める制度)を設ける」としていた。

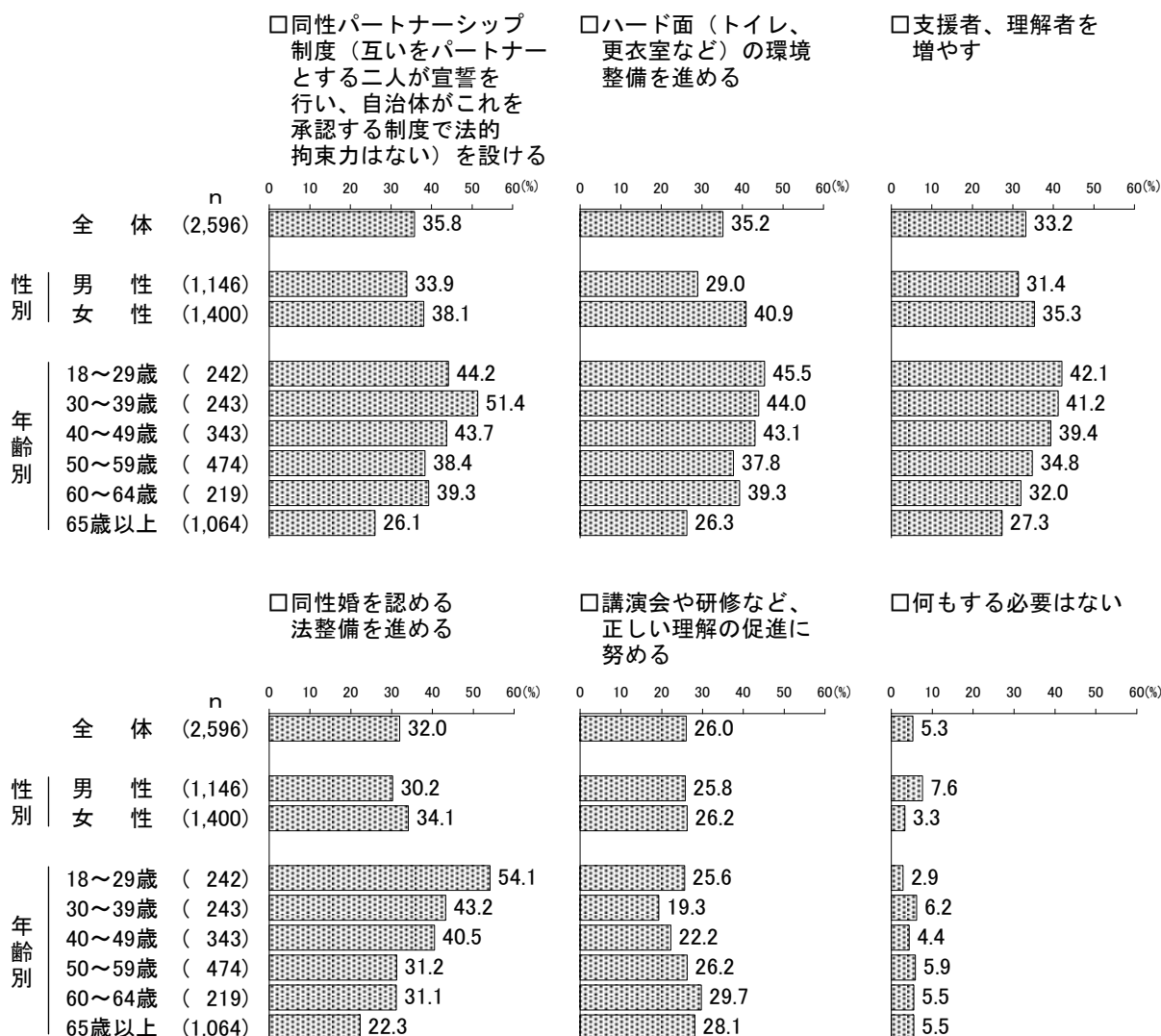
(注)「ハード面(トイレ、更衣室など)の環境整備を進める」は、令和4年(2022年)から追加された選択肢。

性的マイノリティの方々にとって、生活しやすい環境づくりのために必要だと思うことを聞いたところ、「同性パートナーシップ制度(互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない)を設ける」(35.8%)と「ハード面(トイレ、更衣室など)の環境整備を進める」(35.2%)がともに3割台半ばで多くなっている。次いで「支援者、理解者を増やす」(33.2%)、「同性婚を認める法整備を進める」(32.0%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「同性婚を認める法整備を進める」は令和2年(2020年)(28.5%)より3.5ポイント増加している。(図3-52-1)



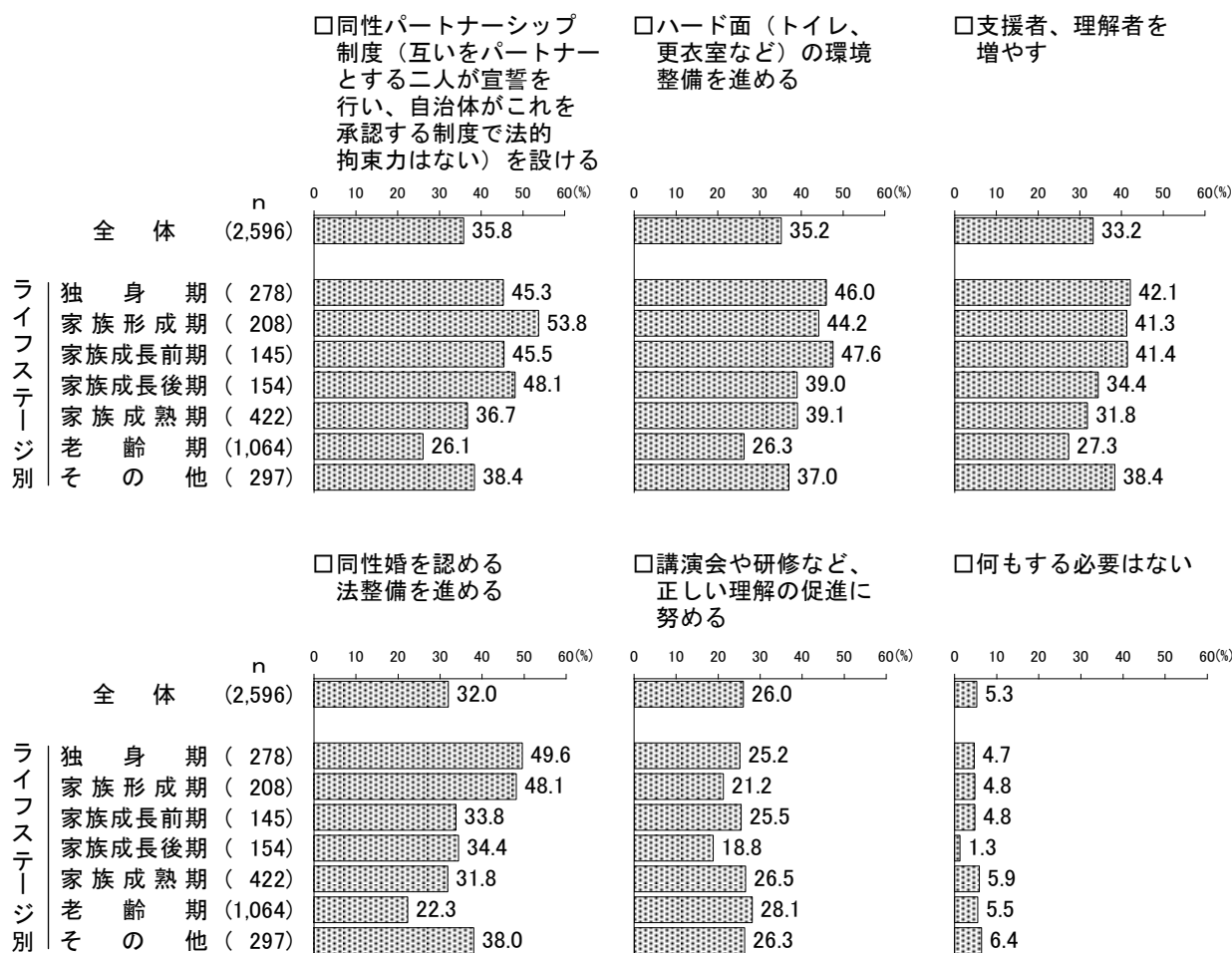
図3-52-2 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくり—性別、年齢別  
 (「わからない」を除く)



性別にみると、「ハード面 (トイレ、更衣室など) の環境整備を進める」は女性 (40.9%) が男性 (29.0%) より11.9ポイント、「同性パートナーシップ制度 (互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない) を設ける」は女性 (38.1%) が男性 (33.9%) より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「何もする必要はない」は男性 (7.6%) が女性 (3.3%) より4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「同性パートナーシップ制度 (互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない) を設ける」は30~39歳 (51.4%) で5割強と多くなっている。「ハード面 (トイレ、更衣室など) の環境整備を進める」は18~29歳 (45.5%) と30~39歳 (44.0%) で4割台半ばと多くなっている。「同性婚を認める法整備を進める」は年代が低くなるほど割合が高く、18~29歳 (54.1%) で5割台半ばと多くなっている。(図3-52-2)

図3-52-3 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくり—ライフステージ別  
 (「わからない」を除く)



ライフステージ別にみると、「同性パートナーシップ制度 (互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない) を設ける」は家族形成期 (53.8%) で5割強と多くなっている。「ハード面 (トイレ、更衣室など) の環境整備を進める」は家族成長前期 (47.6%) と独身期 (46.0%) で5割近くと多くなっている。「同性婚を認める法整備を進める」は独身期 (49.6%) で5割弱と多くなっている。(図3-52-3)

### (53) ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度

◇希望する優先度は「『家庭生活』を優先」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」がともに3割弱

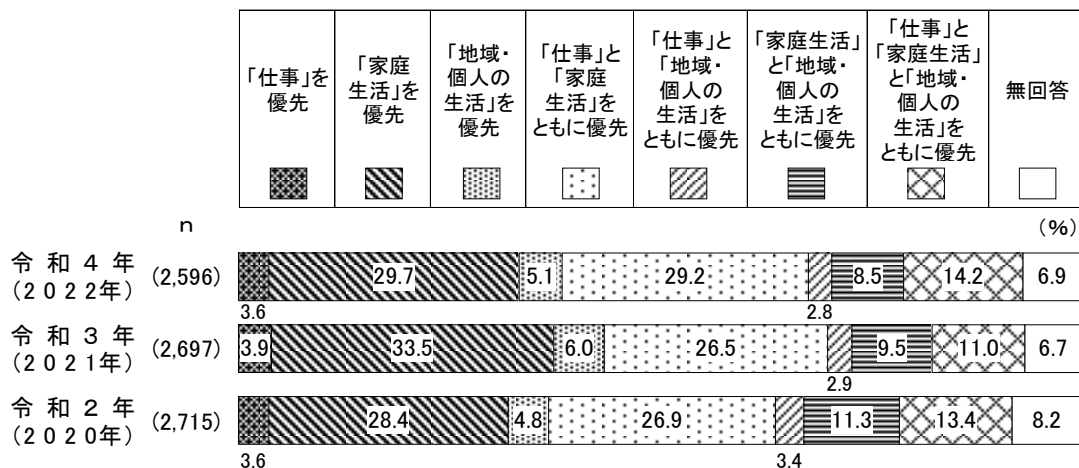
問59 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

（○はそれぞれ1つつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

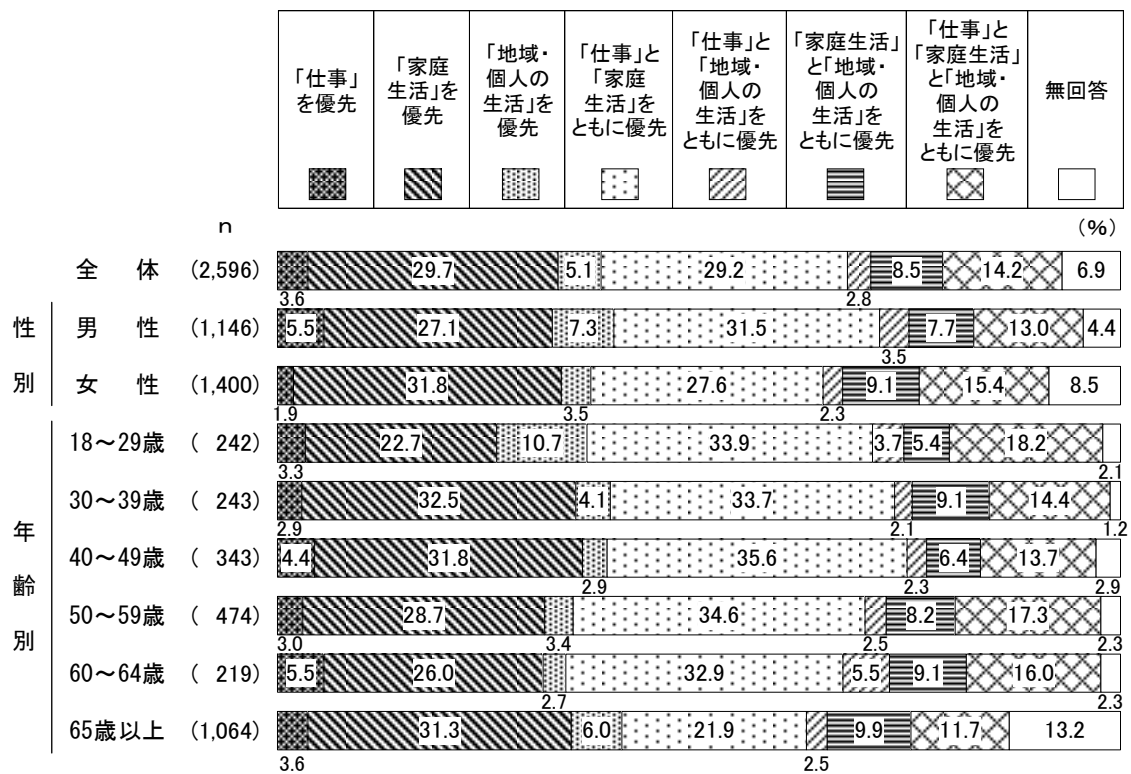
図3-53-1 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（29.7%）と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（29.2%）がともに3割弱で多くなっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（14.2%）、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（8.5%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は令和3年（2021年）（11.0%）より3.2ポイント、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は令和3年（2021年）（26.5%）より2.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「『家庭生活』を優先」は令和3年（2021年）（33.5%）より3.8ポイント減少している。（図3-53-1）

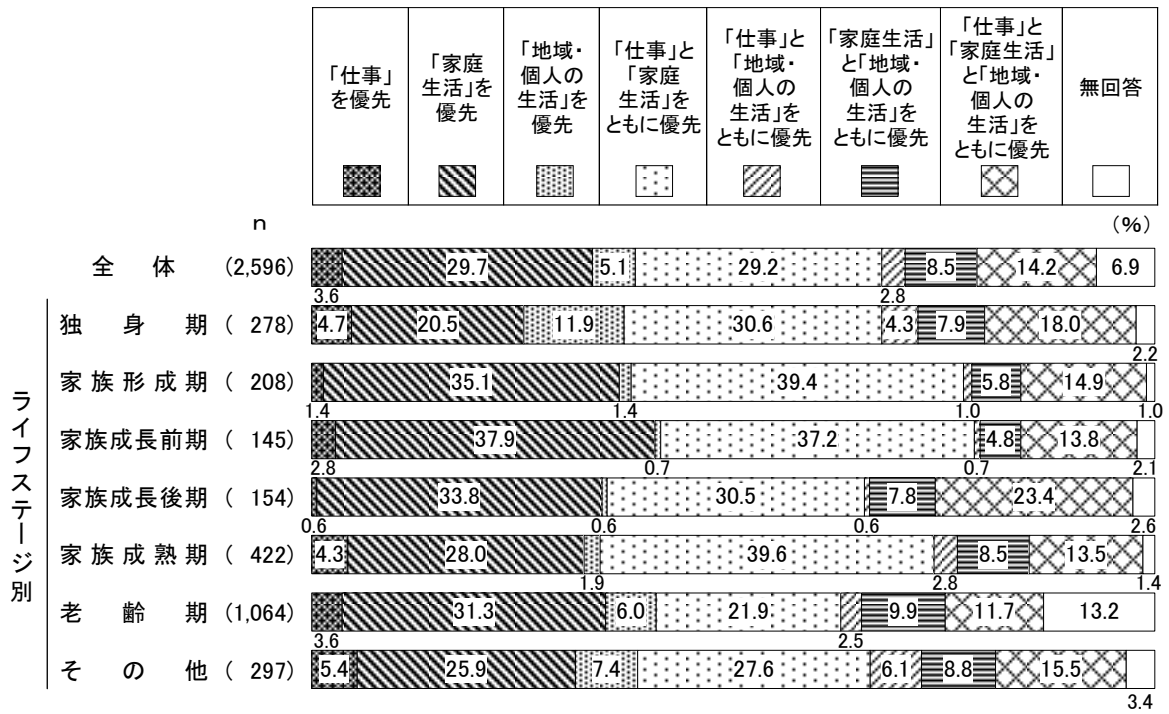
図3-53-2 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—性別、年齢別



性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（31.8%）が男性（27.1%）より4.7ポイント高くなっている。一方、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性（31.5%）が女性（27.6%）より3.9ポイント高くなっている。

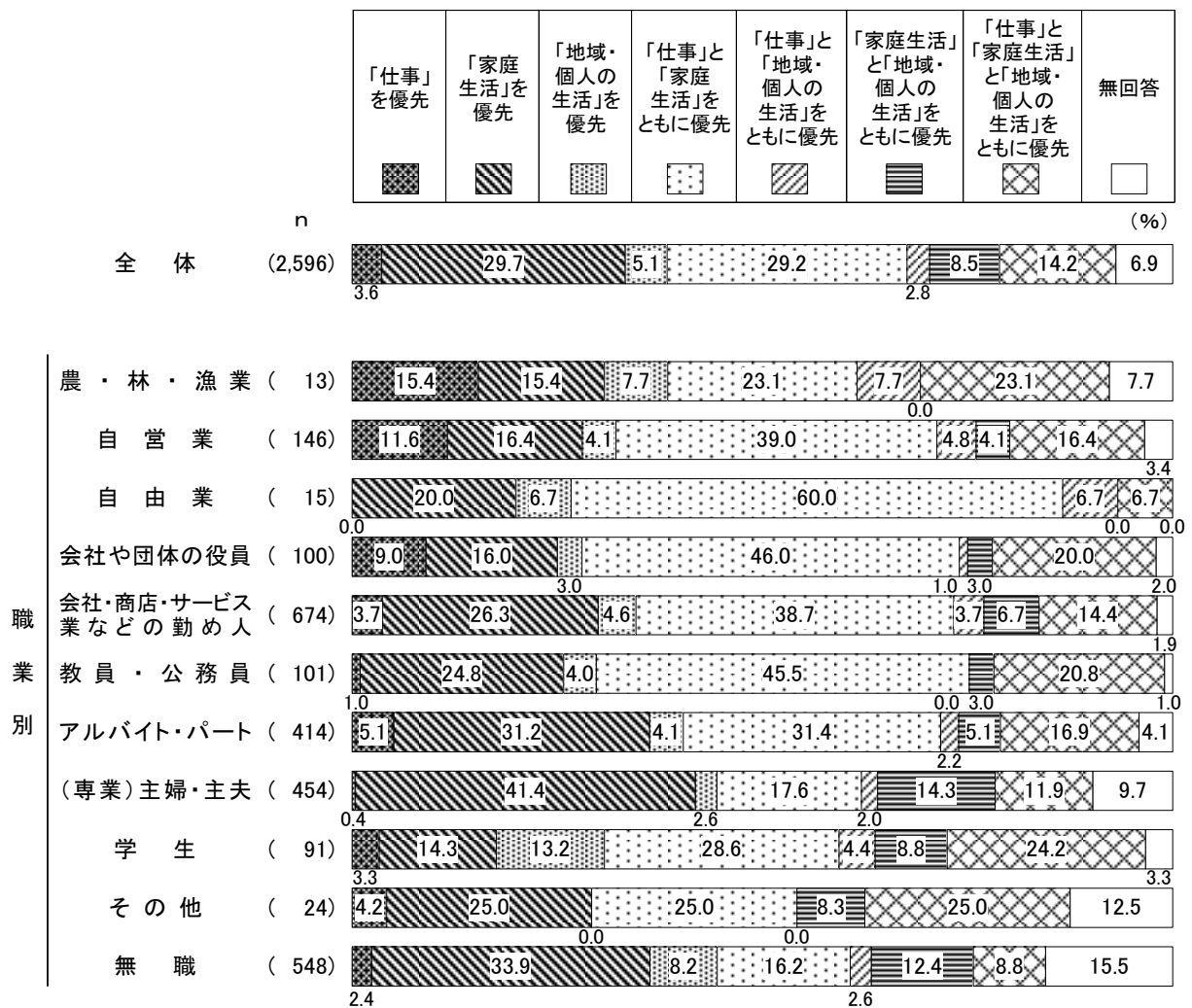
年齢別にみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は40~49歳（35.6%）と50~59歳（34.6%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-53-2）

図3-53-3 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は家族成長前期（37.9%）で4割近くと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成熟期（39.6%）と家族形成期（39.4%）で4割弱と多くなっている。（図3-53-3）

図3-53-4 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－職業別



職業別にみると、「『家庭生活』を優先」は（専業）主婦・主夫（41.4%）で4割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は会社や団体の役員（46.0%）で5割近くと多くなっている。（図3-53-4）

## (54) ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度

◇実際の優先度は「『家庭生活』を優先」が3割強

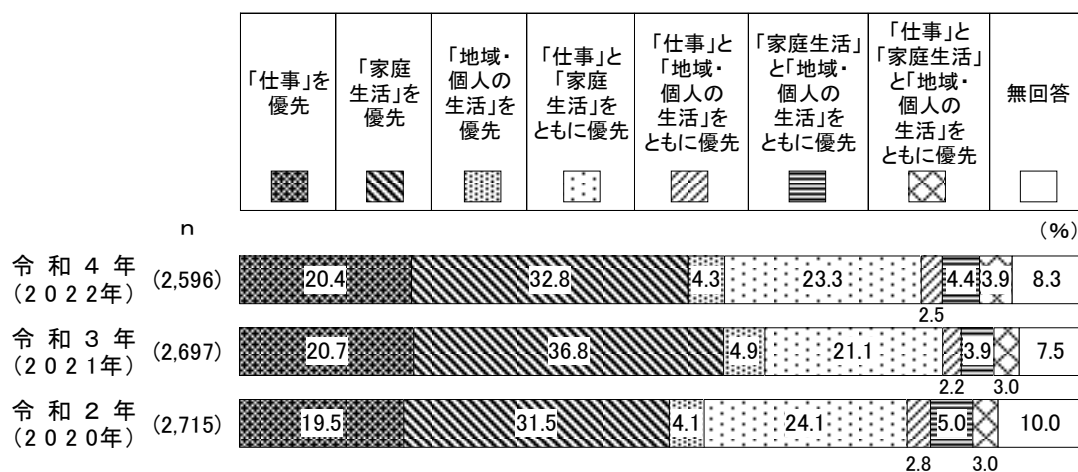
問59 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

（○はそれぞれ1ずつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

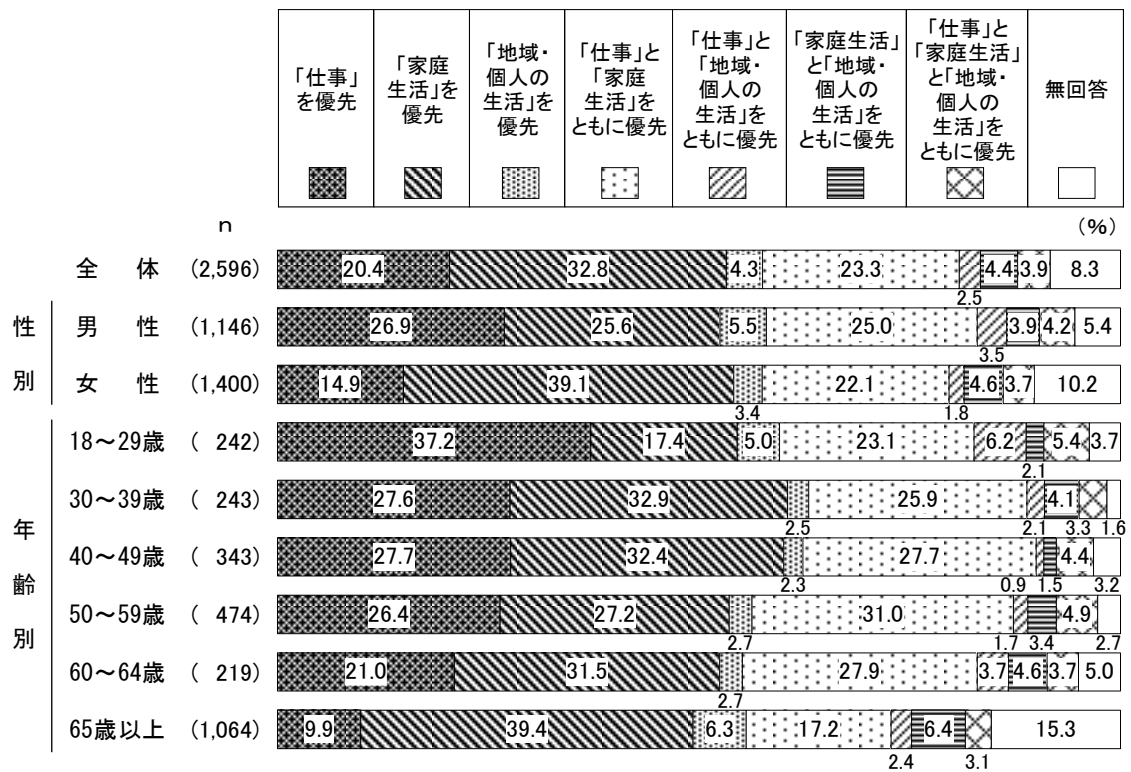
図3-54-1 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（32.8%）が3割強で最も多くなっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（23.3%）、「『仕事』を優先」（20.4%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は令和3年（2021年）（21.1%）より2.2ポイント増加している。一方、「『家庭生活』を優先」は令和3年（2021年）（36.8%）より4.0ポイント減少している。（図3-54-1）

図3-54-2 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度—性別、年齢別

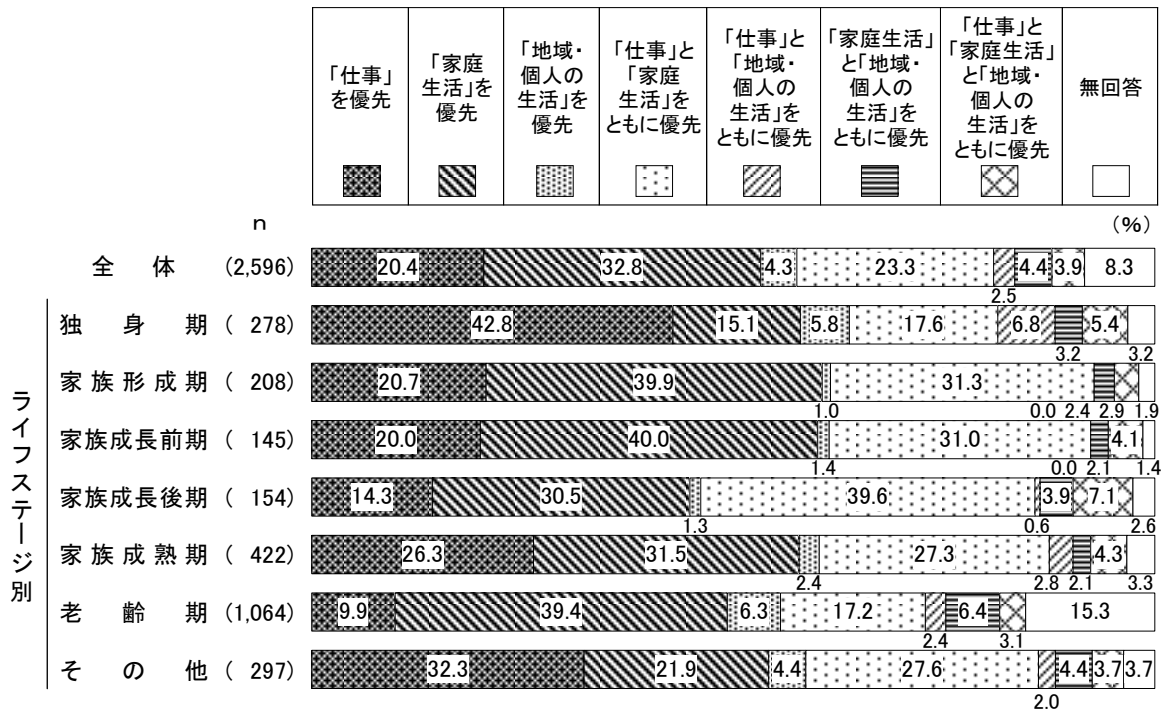


性別にみると、『『家庭生活』を優先』は女性（39.1%）が男性（25.6%）より13.5ポイント高くなっている。一方、『『仕事』を優先』は男性（26.9%）が女性（14.9%）より12.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『『仕事』を優先』は18～29歳（37.2%）で4割近くと多くなっている。『『家庭生活』を優先』は65歳以上（39.4%）で4割弱と多くなっている。『『仕事』と『家庭生活』をともに優先』は50～59歳（31.0%）で3割強と多くなっている。（図3-54-2）

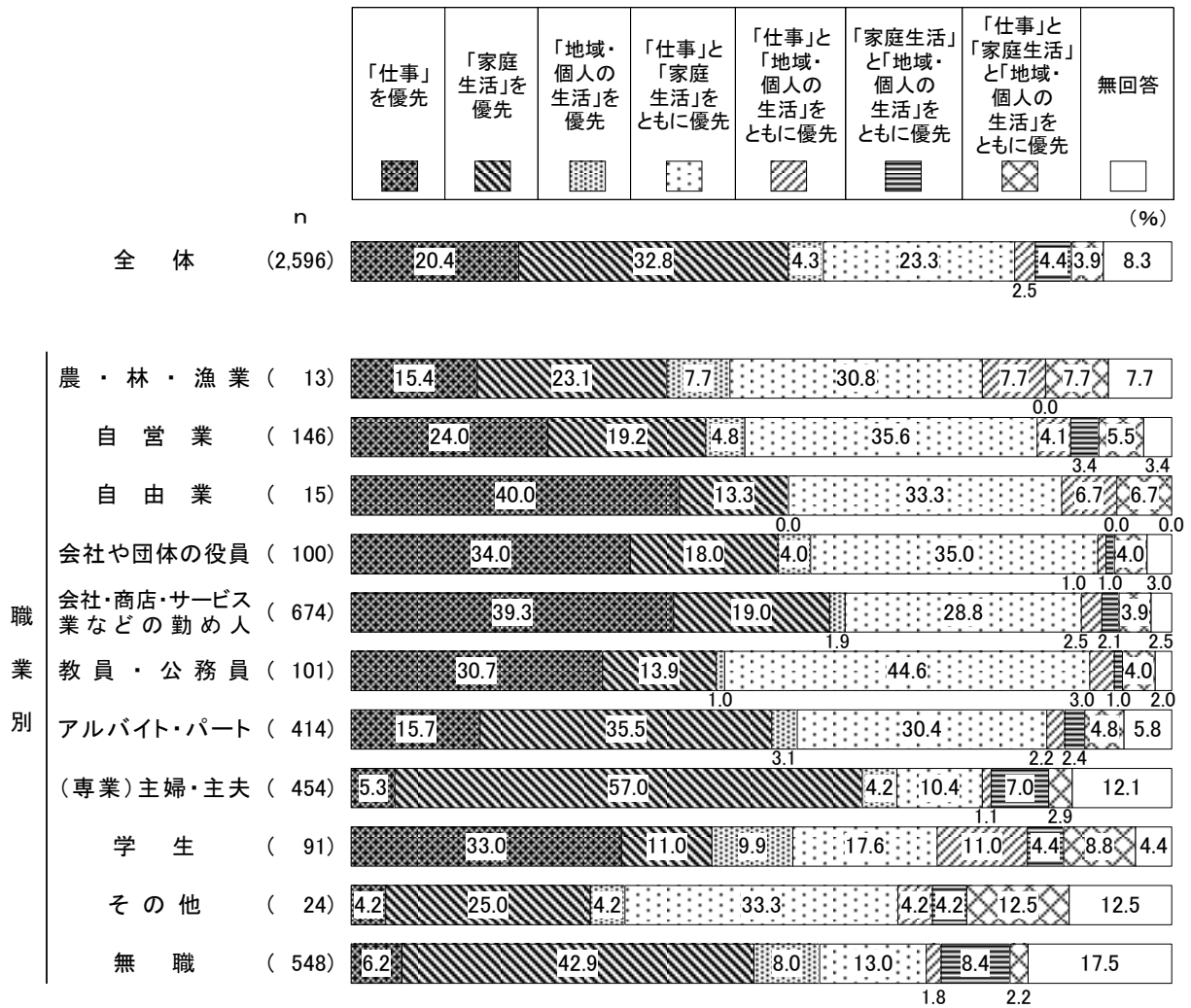


図3-54-3 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－ライフステージ別



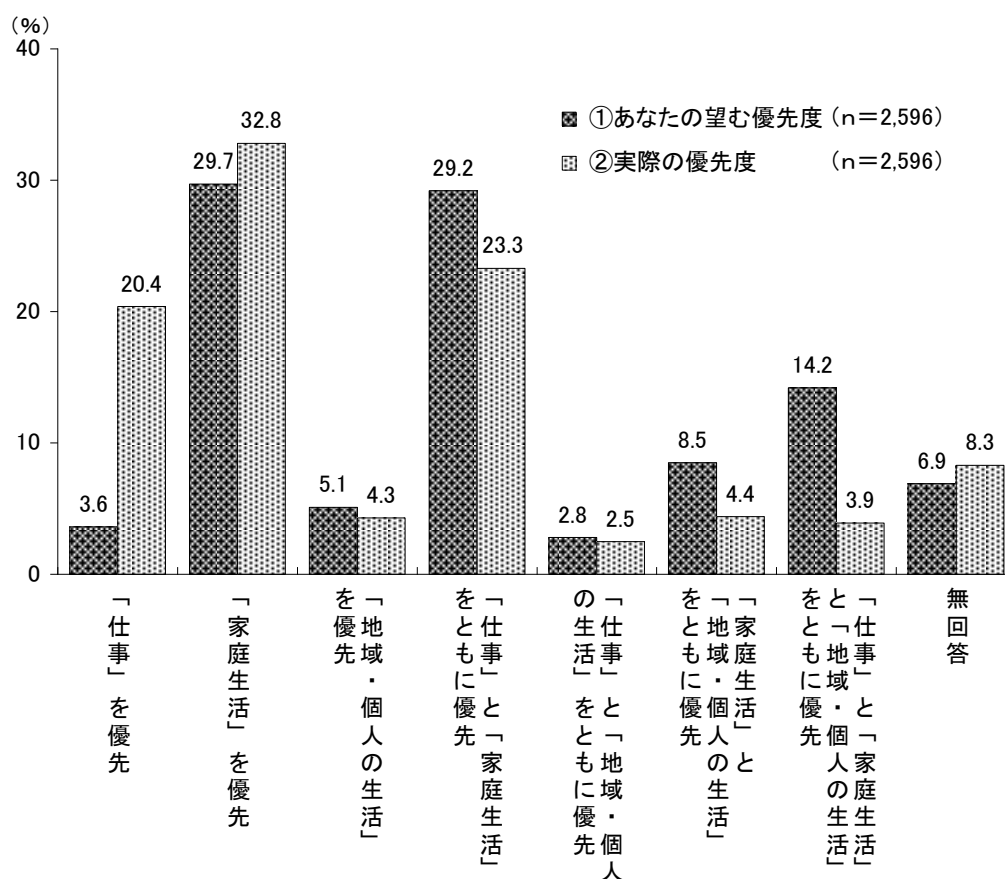
ライフステージ別にみると、「『仕事』を優先」は独身期（42.8%）で4割強と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は家族成長前期（40.0%）で4割と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（39.6%）で4割弱と多くなっている。（図3-54-3）

図3-54-4 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－職業別



職業別にみると、「『仕事』を優先」は会社・商店・サービス業などの勤め人（39.3%）で4割弱と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は（専業）主婦・主夫（57.0%）で6割近く、無職（42.9%）で4割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は教員・公務員（44.6%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-54-4）

図3-54-5 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度




「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度について比較したところ、『仕事』を優先は②実際の優先度（20.4%）が①希望する優先度（3.6%）を16.8ポイント上回っており、全7項目の中で最も両者の比率の差が大きくなっている。次いで比率の差の大きい『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先は②実際の優先度（3.9%）が①希望する優先度（14.2%）を10.3ポイント下回っている。3番目に比率の差が大きい『仕事』と『家庭生活』をともに優先も②実際の優先度（23.3%）が①希望する優先度（29.2%）を5.9ポイント下回っている。

一方、全7項目の中で最も比率の差が小さいのは『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先で②実際の優先度（2.5%）と①希望する優先度（2.8%）の比率の差が0.3ポイントとなっている。（図3-54-5）

図3-54-6 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度-②実際の優先度別

(%)

	n	①あなたの望む優先度							無回答	
		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	を「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先	を「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先		
全体	2,596	3.6	29.7	5.1	29.2	2.8	8.5	14.2	6.9	
②実際の優先度	「仕事」を優先	529	11.0	21.9	4.5	40.1	5.3	4.9	11.3	0.9
	「家庭生活」を優先	851	1.9	60.2	2.1	18.0	1.3	8.9	6.8	0.8
	「地域・個人の生活」を優先	112	0.9	11.6	52.7	6.3	1.8	9.8	15.2	1.8
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	606	1.8	14.5	1.2	57.3	2.1	4.5	18.2	0.5
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	66	1.5	3.0	19.7	19.7	25.8	10.6	19.7	-
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	114	0.9	8.8	6.1	3.5	-	56.1	24.6	-
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	102	2.0	9.8	2.0	4.9	1.0	7.8	71.6	1.0
	無回答	216	1.9	8.8	1.4	7.9	0.5	0.9	4.2	74.5

(注)  は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をみると、実際に「『仕事』を優先」している人（529名）においては、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」することを希望する人（40.1%）が約4割で最も多くなっており、「『仕事』を優先」することを希望する人（11.0%）は1割強となっている。一方、実際の優先度で「『仕事』を優先」以外の項目を回答した人たちにおいては、①希望する優先度と②実際の優先度が一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。（図3-54-6）

図3-54-7 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致

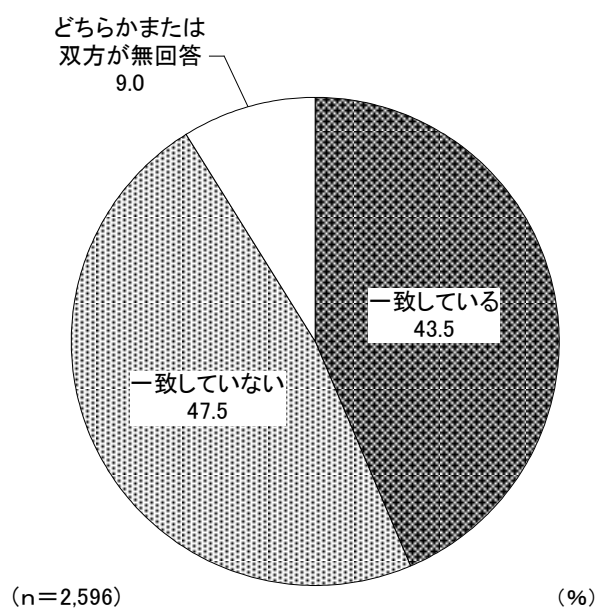


図3-54-6に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、①希望と②実際の2つの回答が一致した人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できている人の割合（43.5%）は4割強となっている。

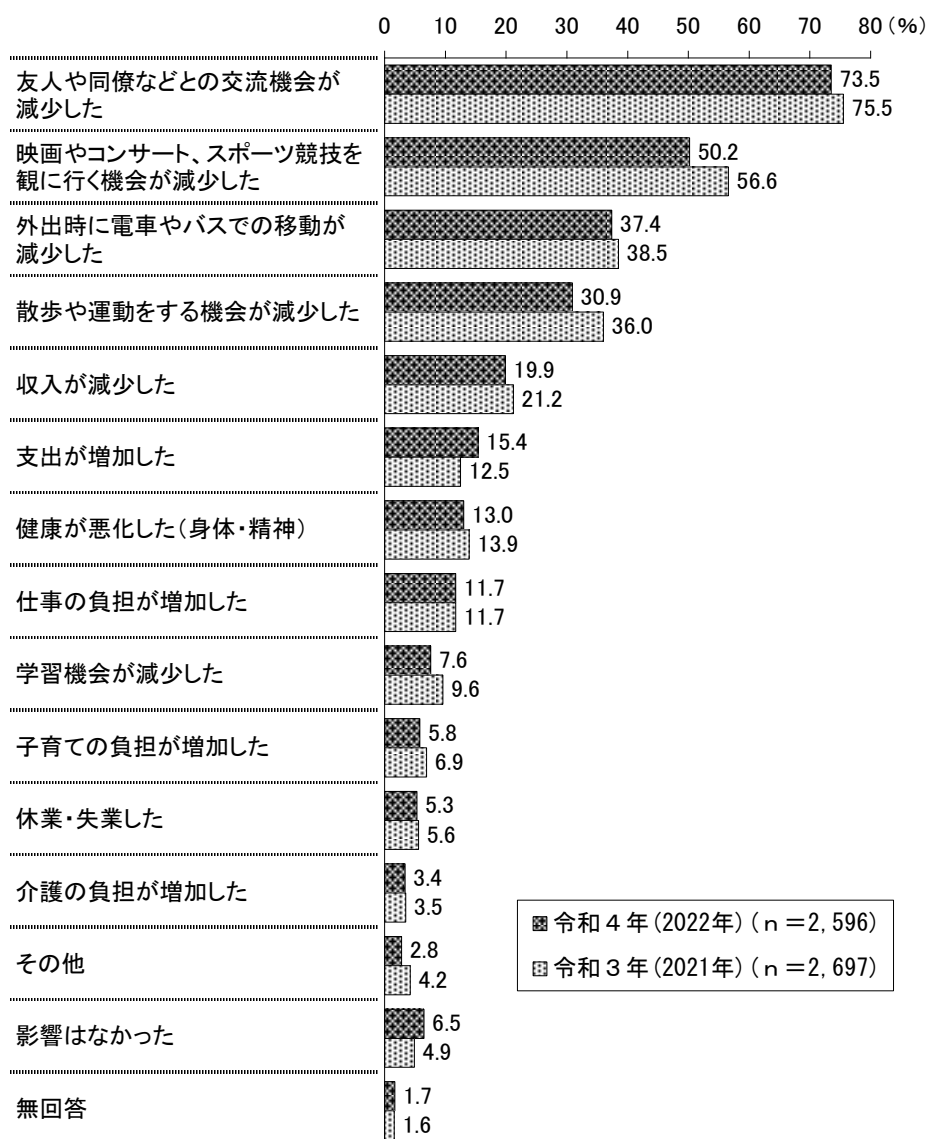
一方、2つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できていない人の割合（47.5%）は5割近くとなっている。（図3-54-7）

## (55) 新型コロナウイルス感染症による生活への影響

◇「友人や同僚などとの交流機会が減少した」が7割強

問60 国内で新型コロナウイルス感染症の感染が起きてから（2021年1月以降）、あなたの生活にどのような影響がありましたか。（〇はいくつでも）

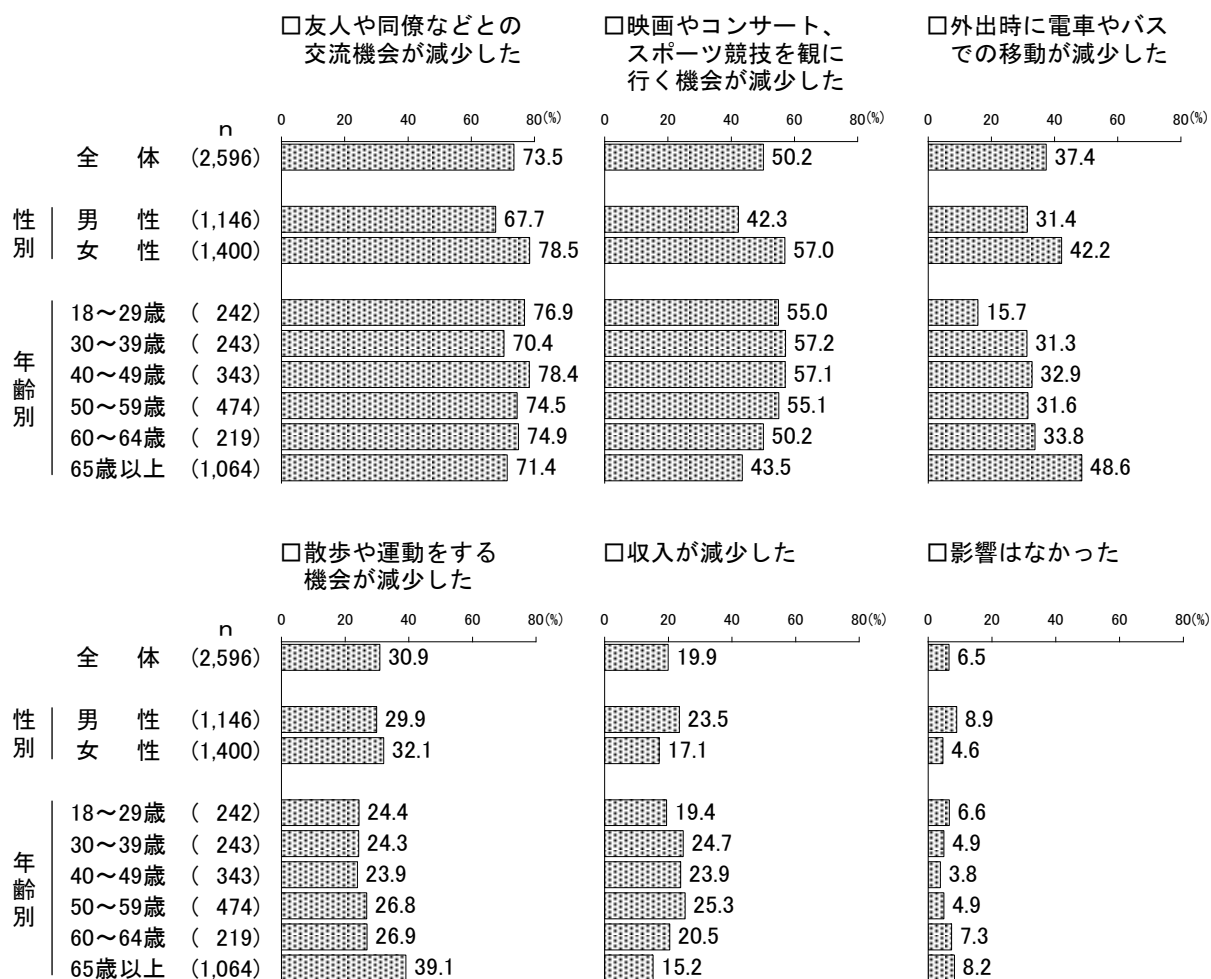
図3-55-1 新型コロナウイルス感染症による生活への影響—全体、経年比較



新型コロナウイルス感染症による生活への影響を聞いたところ、「友人や同僚などとの交流機会が減少した」（73.5%）が7割強で最も多くなっている。次いで「映画やコンサート、スポーツ競技を観に行く機会が減少した」（50.2%）、「外出時に電車やバスでの移動が減少した」（37.4%）、「散歩や運動をする機会が減少した」（30.9%）などの順となっている。一方、「影響はなかった」（6.5%）は1割未満となっている。

前回の調査と比較すると、「映画やコンサート、スポーツ競技を観に行く機会が減少した」は令和3年（2021年）（56.6%）より6.4ポイント、「散歩や運動をする機会が減少した」は令和3年（2021年）（36.0%）より5.1ポイント、それぞれ減少している。（図3-55-1）

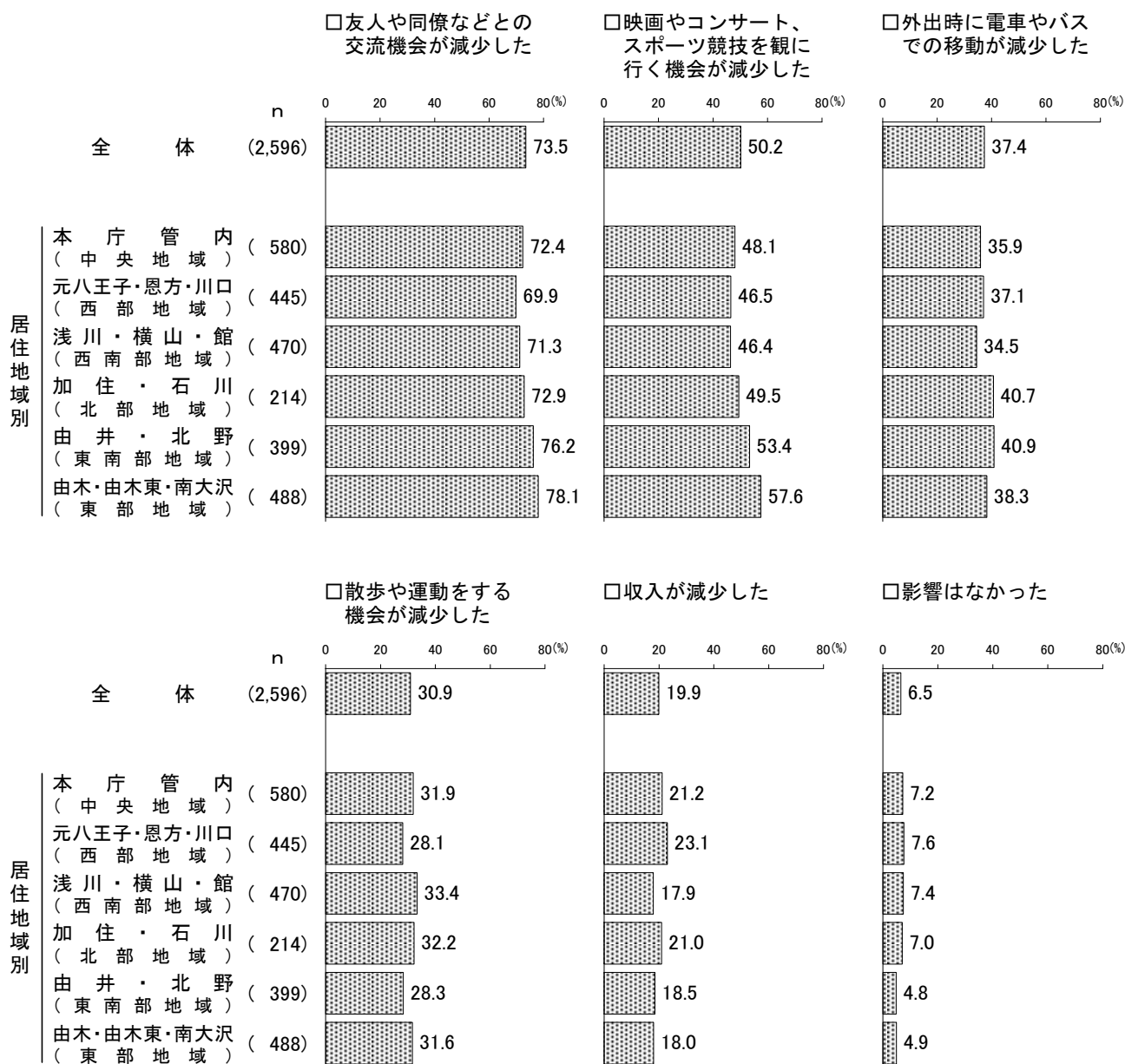
図3-55-2 新型コロナウイルス感染症による生活への影響—性別、年齢別  
(上位5位+「影響はなかった」)



性別にみると、「映画やコンサート、スポーツ競技を観に行く機会が減少した」は女性（57.0%）が男性（42.3%）より14.7ポイント、「友人や同僚などとの交流機会が減少した」は女性（78.5%）が男性（67.7%）より10.8ポイント、「外出時に電車やバスでの移動が減少した」は女性（42.2%）が男性（31.4%）より10.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「収入が減少した」は男性（23.5%）が女性（17.1%）より6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「友人や同僚などとの交流機会が減少した」は18~29歳（76.9%）と40~49歳（78.4%）で8割近くと多くなっている。「外出時に電車やバスでの移動が減少した」は65歳以上（48.6%）で5割近くと多くなっている。「散歩や運動をする機会が減少した」は65歳以上（39.1%）で4割弱と多くなっている。（図3-55-2）

図3-55-3 新型コロナウイルス感染症による生活への影響－居住地域別  
(上位5位+「影響はなかった」)



居住地域別にみると、「友人や同僚などとの交流機会が減少した」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（78.1%）と由井・北野（東南部地域）（76.2%）で8割近くと多くなっている。「映画やコンサート、スポーツ競技を観に行く機会が減少した」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（57.6%）で6割近くと多くなっている。「外出時に電車やバスでの移動が減少した」は由井・北野（東南部地域）（40.9%）と加住・石川（北部地域）（40.7%）で約4割と多くなっている。（図3-55-3）

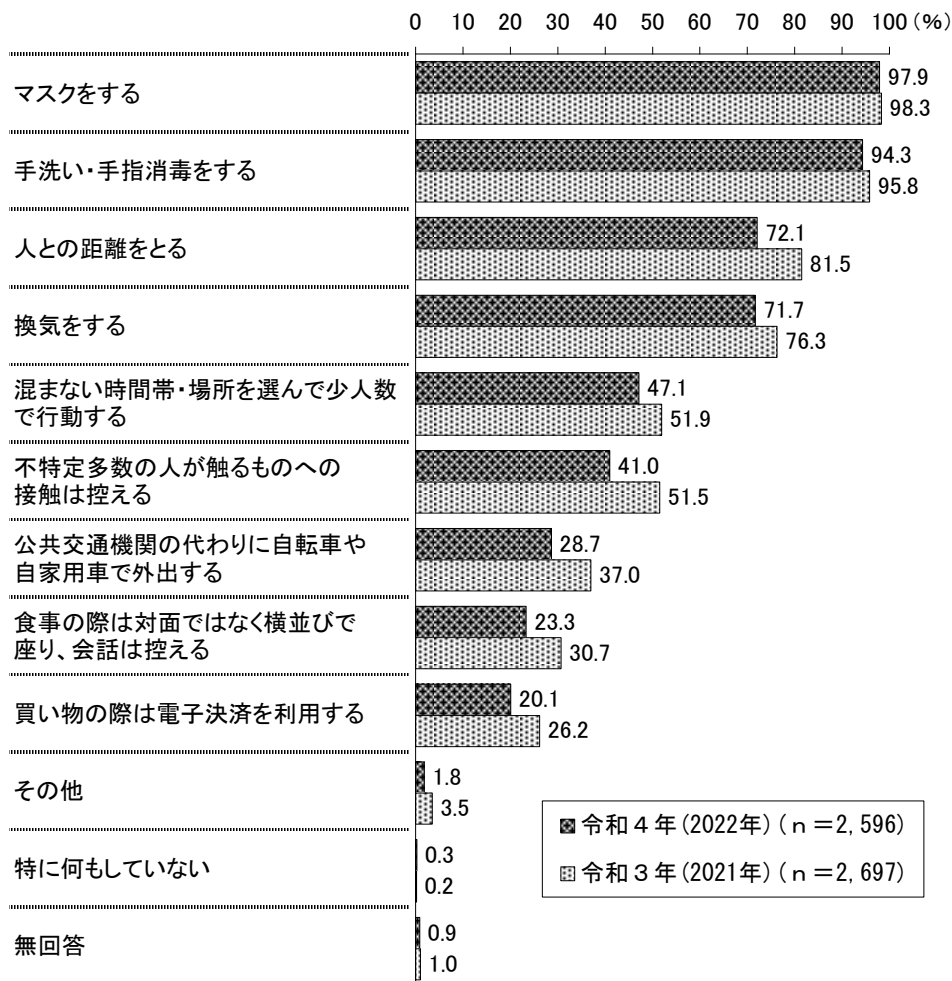


## (56) 新型コロナウイルス感染症の対策

◇「マスクをする」が10割近く

問61 新型コロナウイルス感染症対策として、あなたが日常生活の中で心掛けていることはありますか。(〇はいくつでも)

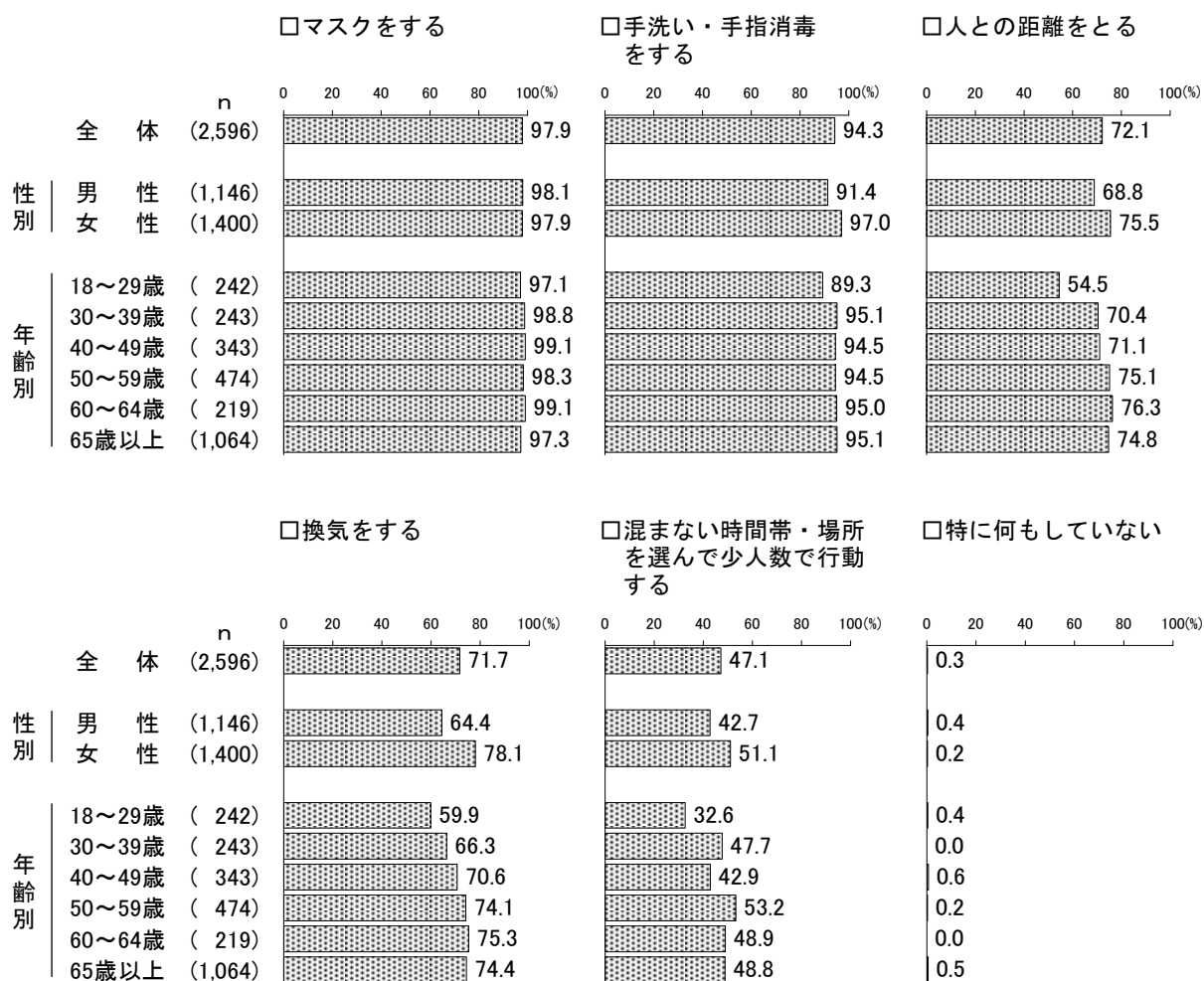
図3-56-1 新型コロナウイルス感染症の対策—全体、経年比較



新型コロナウイルス感染症対策として、日常生活の中で心掛けていることを聞いたところ、「マスクをする」(97.9%)が10割近くで最も多くなっている。次いで「手洗い・手指消毒をする」(94.3%)、「人との距離をとる」(72.1%)、「換気をする」(71.7%)、「混まない時間帯・場所を選んで少人数で行動する」(47.1%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「不特定多数の人が触るものへの接触は控える」は令和3年(2021年)(51.5%)より10.5ポイント、「人との距離をとる」は令和3年(2021年)(81.5%)より9.4ポイント、それぞれ減少している。(図3-56-1)

図3-56-2 新型コロナウイルス感染症の対策—性別、年齢別（上位5位+「特に何もしていない」）

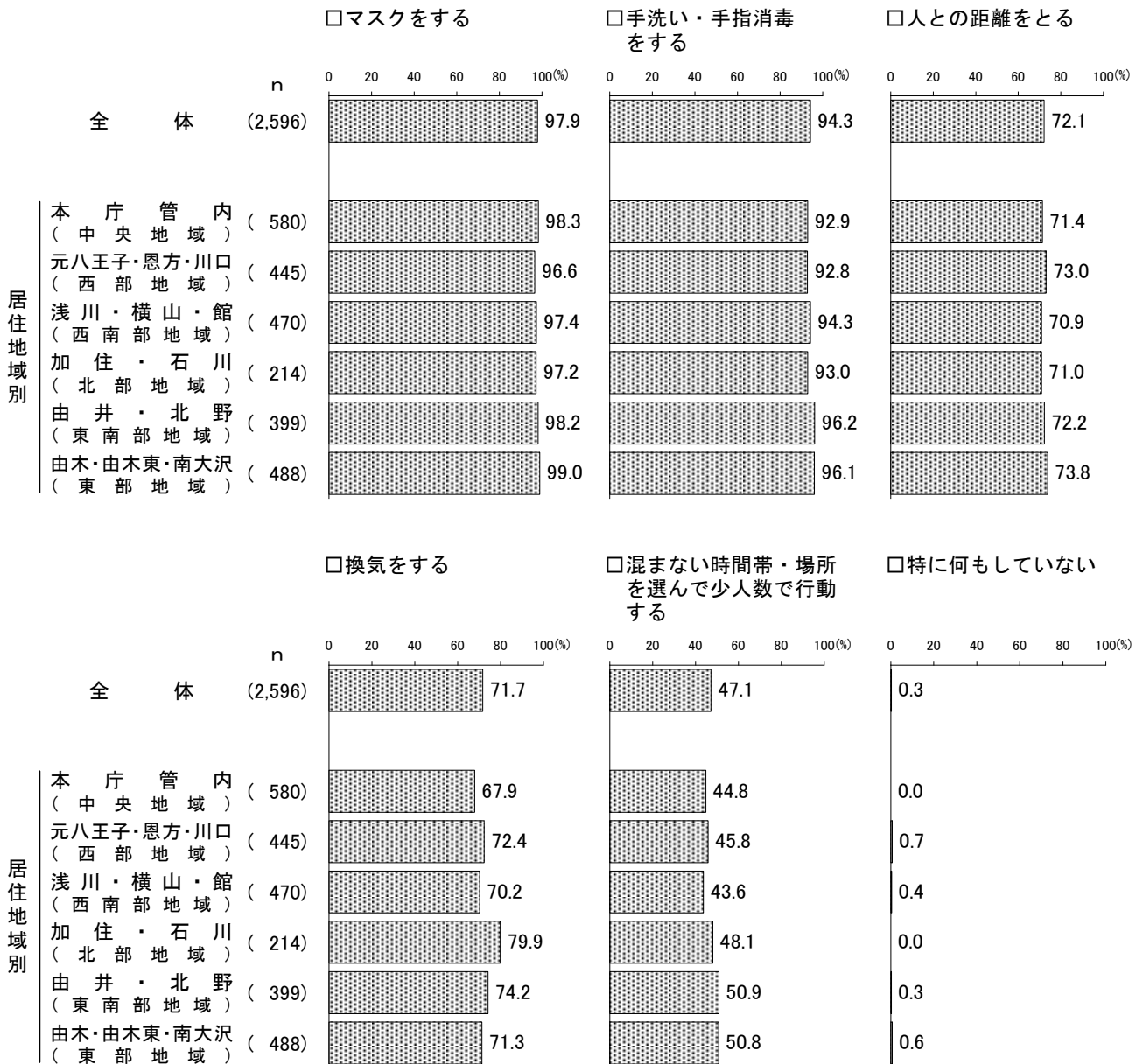


性別にみると、「換気をする」は女性（78.1%）が男性（64.4%）より13.7ポイント、「混まない時間帯・場所を選んで少人数で行動する」は女性（51.1%）が男性（42.7%）より8.4ポイント、「人との距離をとる」は女性（75.5%）が男性（68.8%）より6.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「人との距離をとる」は60～64歳（76.3%）で8割近くと多くなっている。「混まない時間帯・場所を選んで少人数で行動する」は50～59歳（53.2%）で5割強と多くなっている。

（図3-56-2）

図3-56-3 新型コロナウイルス感染症の対策—居住地域別（上位5位+「特に何もしていない」）



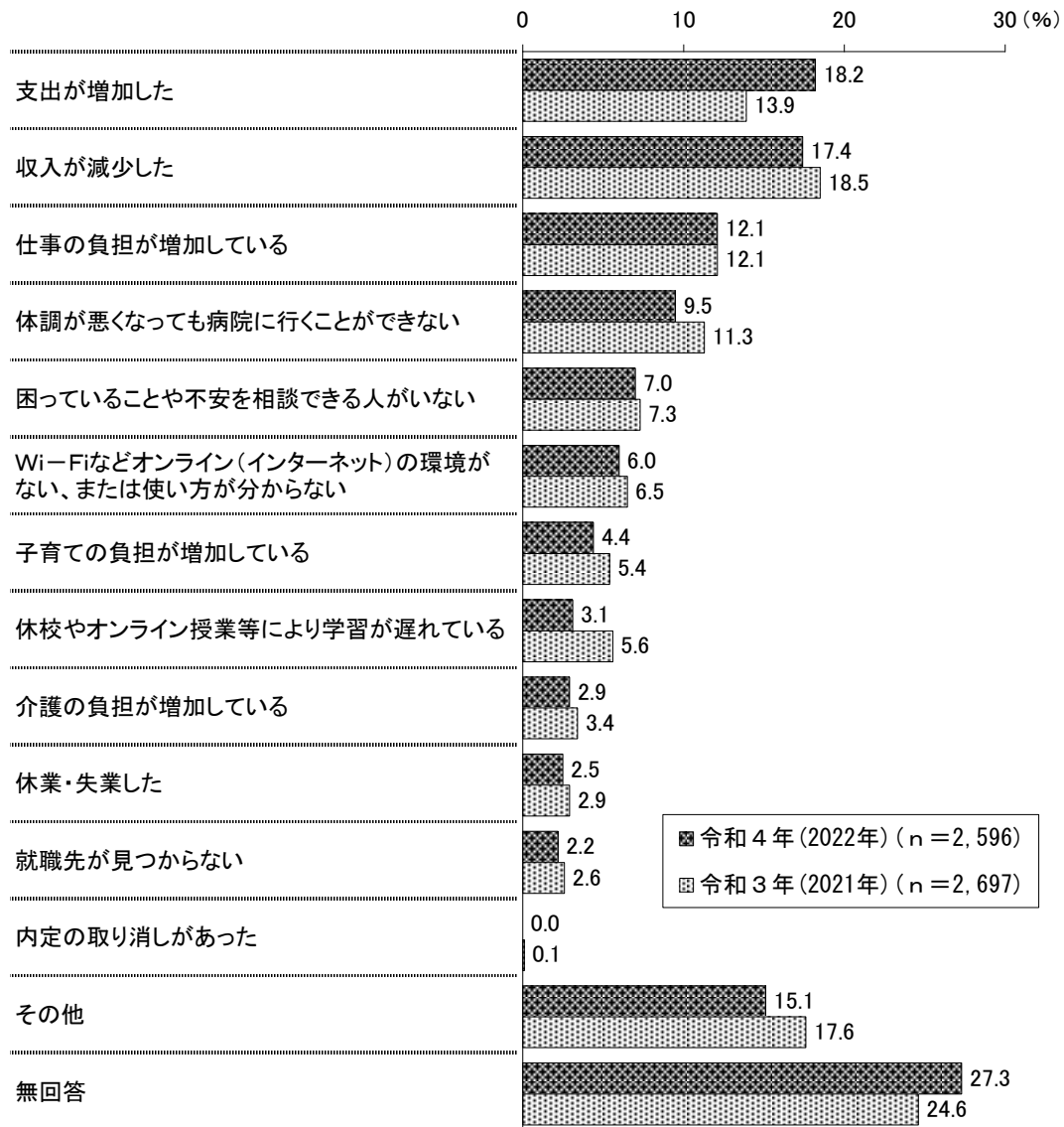
居住地域別にみると、「換気をする」は加住・石川(北部地域) (79.9%) で8割弱と多くなっている。「混まない時間帯・場所を選んで少人数で行動する」は由井・北野 (東南部地域) (50.9%) と由木・由木東・南大沢 (東部地域) (50.8%) で約5割と多くなっている。(図3-56-3)

## (57) 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること

◇「支出が増加した」と「収入が減少した」がともに2割近く

問62 あなたが現在、コロナ禍において困っていることを教えてください。(〇はいくつでも)

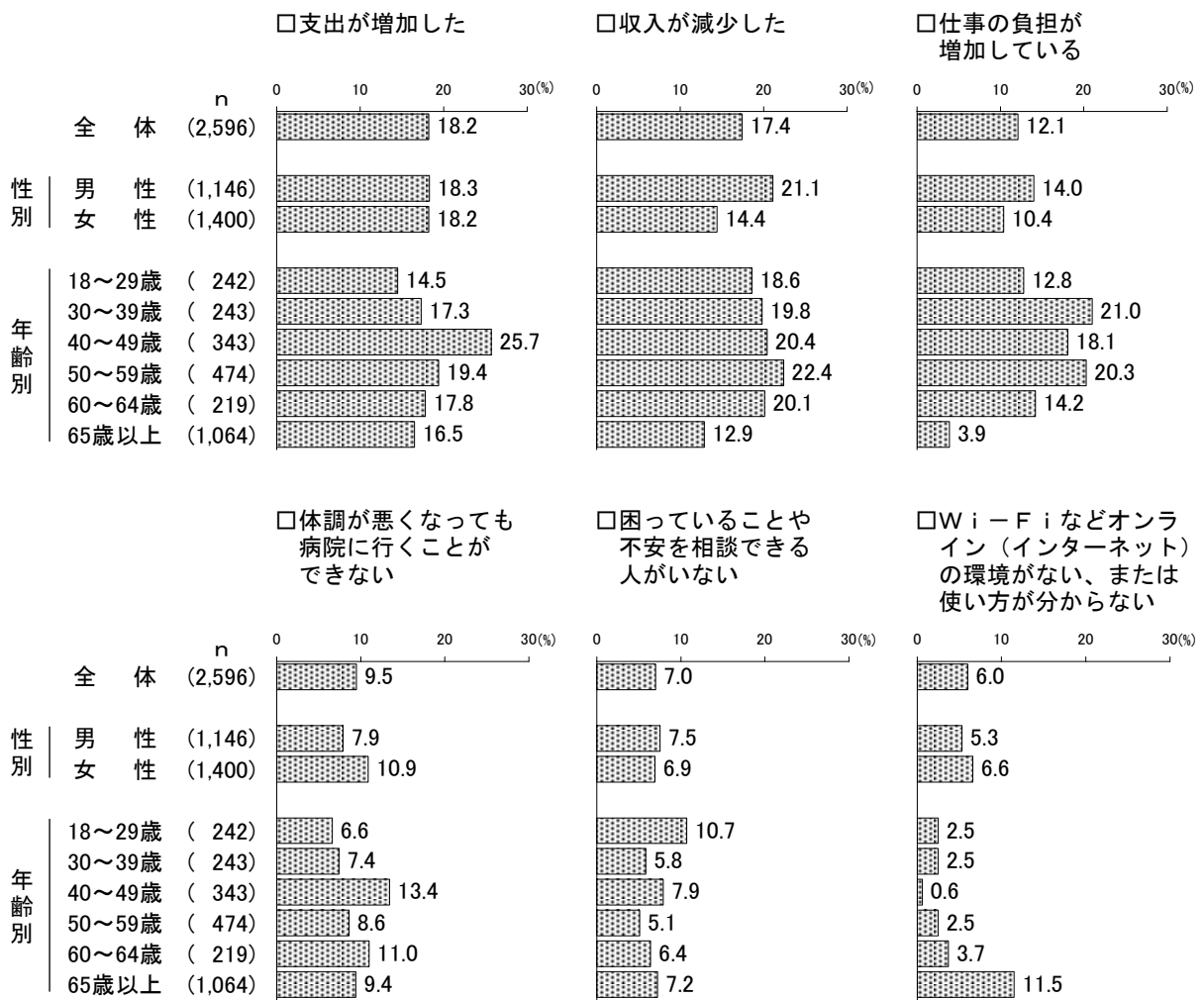
図3-57-1 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていることー全体、経年比較



コロナ禍において困っていることを聞いたところ、「支出が増加した」(18.2%)と「収入が減少した」(17.4%)がともに2割近くで多くなっている。次いで「仕事の負担が増加している」(12.1%)、「体調が悪くても病院に行くことができない」(9.5%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「支出が増加した」は令和3年(2021年)(13.9%)より4.3ポイント増加している。一方、「休校やオンライン授業等により学習が遅れている」は令和3年(2021年)(5.6%)より2.5ポイント減少している。(図3-57-1)

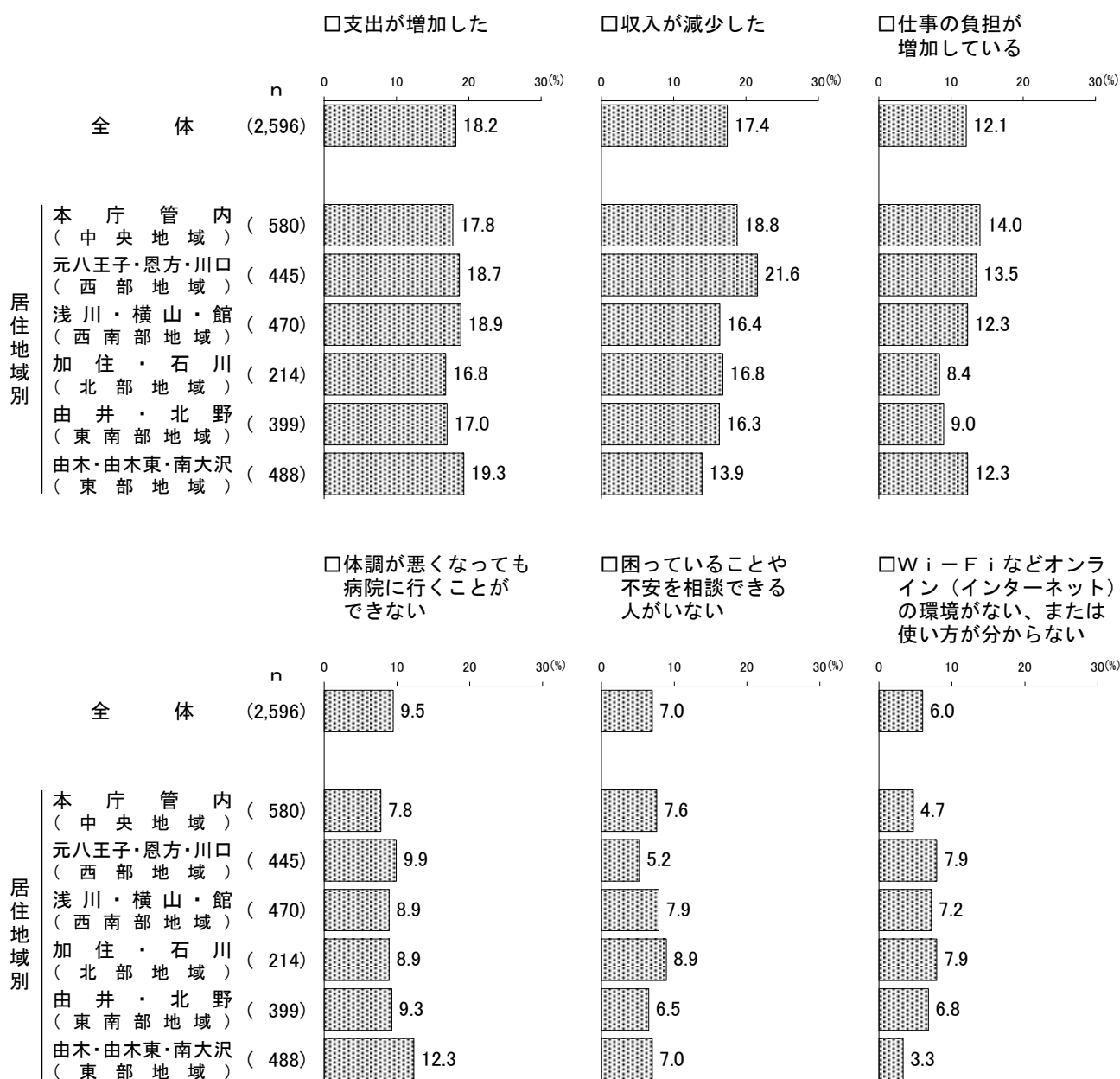
図3-57-2 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること—性別、年齢別（上位6位）



性別にみると、「収入が減少した」は男性（21.1%）が女性（14.4%）より6.7ポイント、「仕事の負担が増加している」は男性（14.0%）が女性（10.4%）より3.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「体調が悪くても病院に行くことができない」は女性（10.9%）が男性（7.9%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「支出が増加した」は40~49歳（25.7%）で2割台半ばと多くなっている。「収入が減少した」は50~59歳（22.4%）で2割強と多くなっている。「仕事の負担が増加している」は30~39歳（21.0%）で2割強と多くなっている。（図3-57-2）

図3-57-3 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること—居住地域別（上位6位）



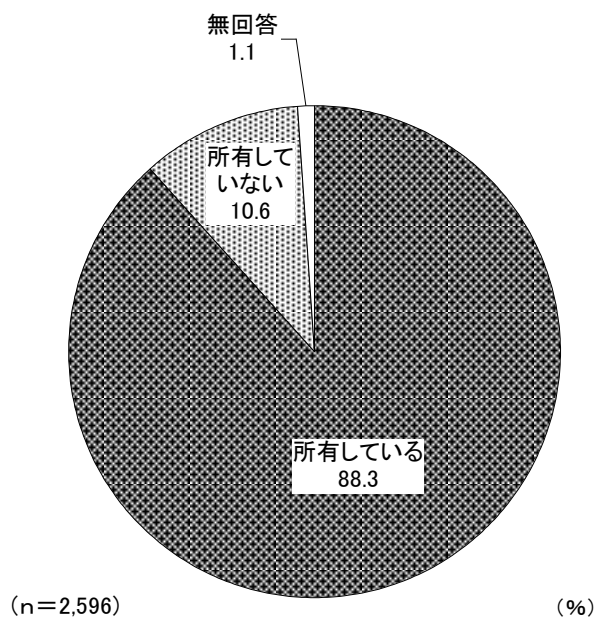
居住地域別にみると、「支出が増加した」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（19.3%）で2割弱となっている。「収入が減少した」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（21.6%）で2割強と多くなっている。（図3-57-3）

## (58) スマートフォンの所有状況

◇「所有している」が9割近く

問63 あなたは、スマートフォンを所有していますか。(○は1つだけ)

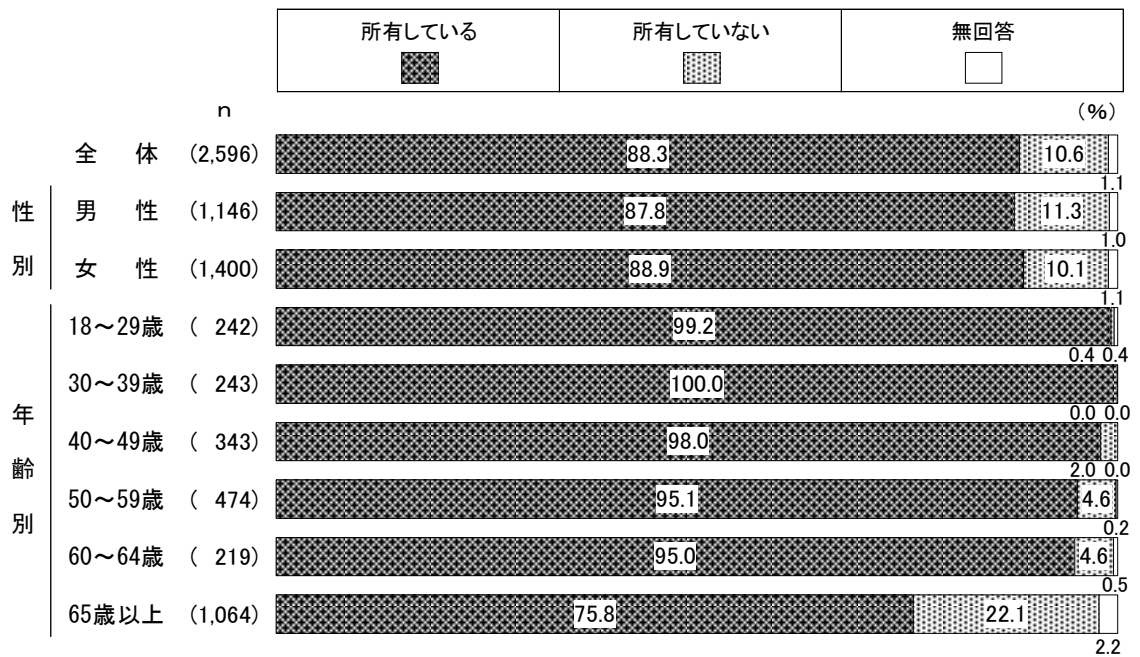
図3-58-1 スマートフォンの所有状況—全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

スマートフォンを所有しているか聞いたところ、「所有している」(88.3%)が9割近く、「所有していない」(10.6%)は約1割となっている。(図3-58-1)

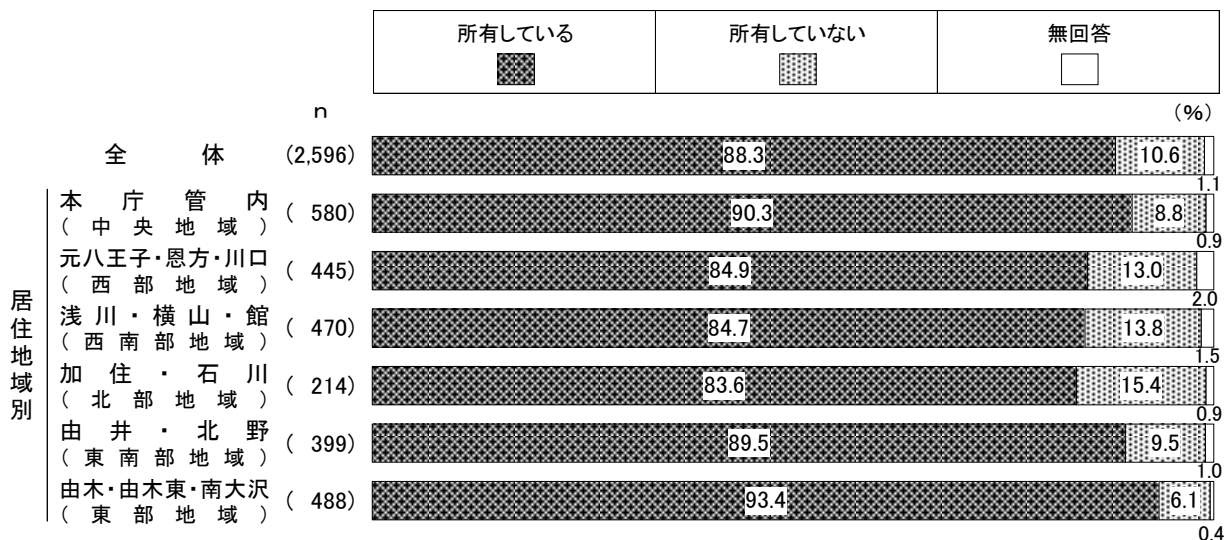
図3-58-2 スマートフォンの所有状況－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「所有している」は30～39歳（100.0%）で10割と多くなっている。一方、「所有していない」は65歳以上（22.1%）で2割強と多くなっている。（図3-58-2）

図3-58-3 スマートフォンの所有状況－居住地域別



居住地域別にみると、「所有している」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（93.4%）で9割強と多くなっている。（図3-58-3）



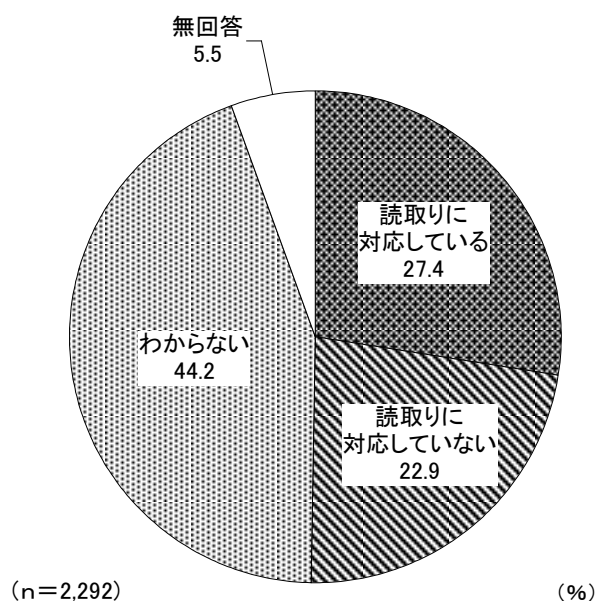
## (59) マイナンバーカード読取りの対応可否

◇「読取りに対応している」が3割近く

(問63で「所有している」とお答えの方へ)

問63-1 あなたが所有しているスマートフォンは、マイナンバーカードの読取りに対応していますか。(○は1つだけ)

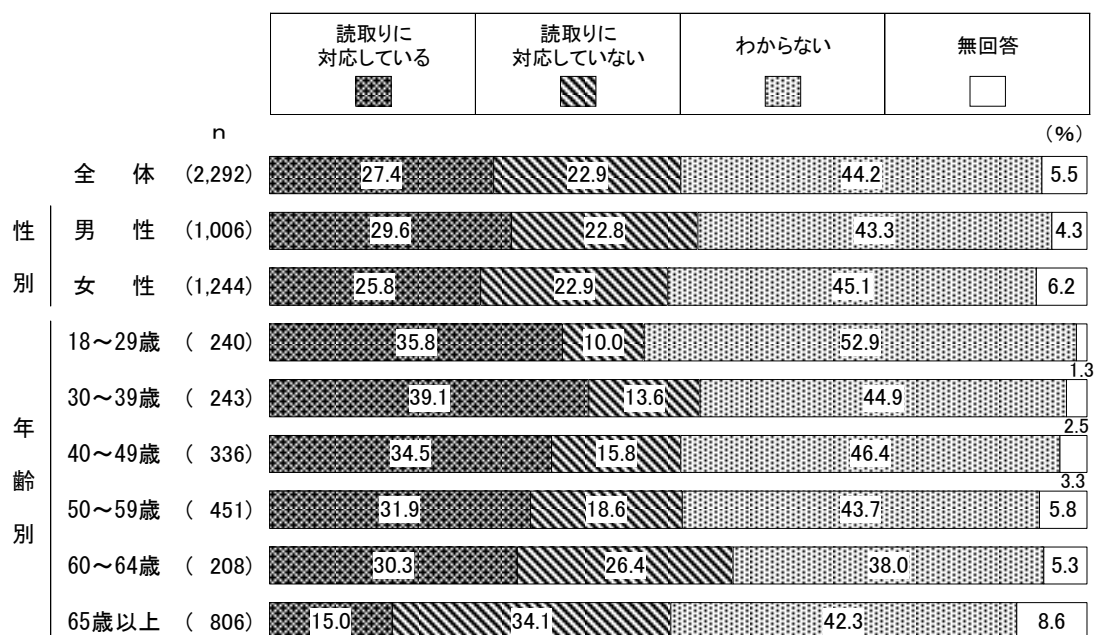
図3-59-1 マイナンバーカード読取りの対応可否-全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

スマートフォンを「所有している」と回答した2,292人に、所有しているスマートフォンは、マイナンバーカードの読取りに対応しているか聞いたところ、「読取りに対応している」(27.4%)が3割近く、「読取りに対応していない」(22.9%)は2割強となっている。また、「わからない」(44.2%)は4割台半ばとなっている。(図3-59-1)

図3-59-2 マイナンバーカード読取りの対応可否—性別、年齢別

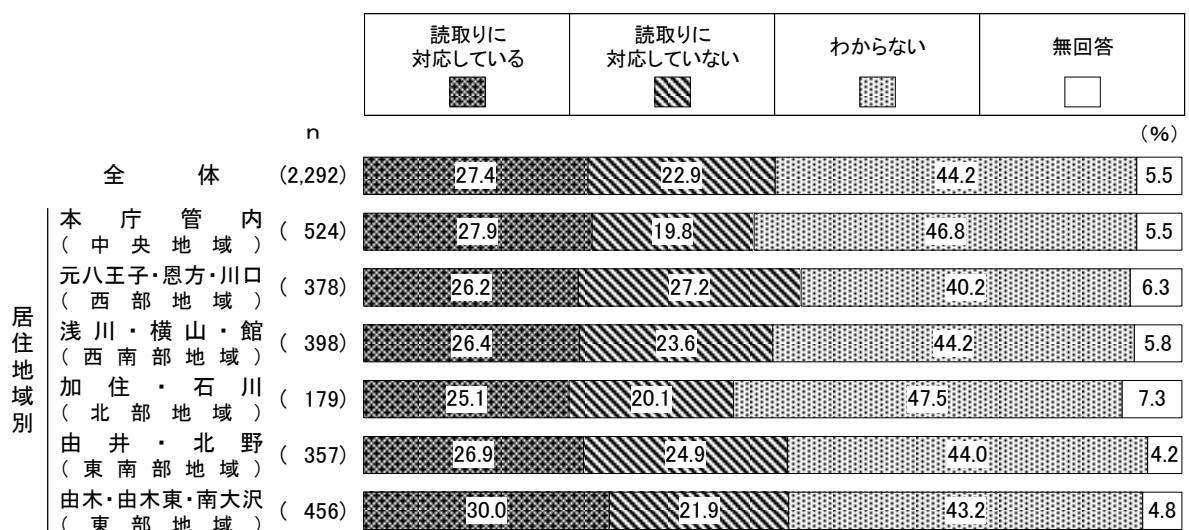


性別にみると、「読取りに対応している」は男性（29.6%）が女性（25.8%）より3.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「読取りに対応している」は30～39歳（39.1%）で4割弱と多くなっている。一方、「読取りに対応していない」は65歳以上（34.1%）で3割台半ばと多くなっている。

(図3-59-2)

図3-59-3 マイナンバーカード読取りの対応可否—居住地域別



居住地域別にみると、「読取りに対応している」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（30.0%）で3割と多くなっている。一方、「読取りに対応していない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（27.2%）で3割近くと多くなっている。(図3-59-3)

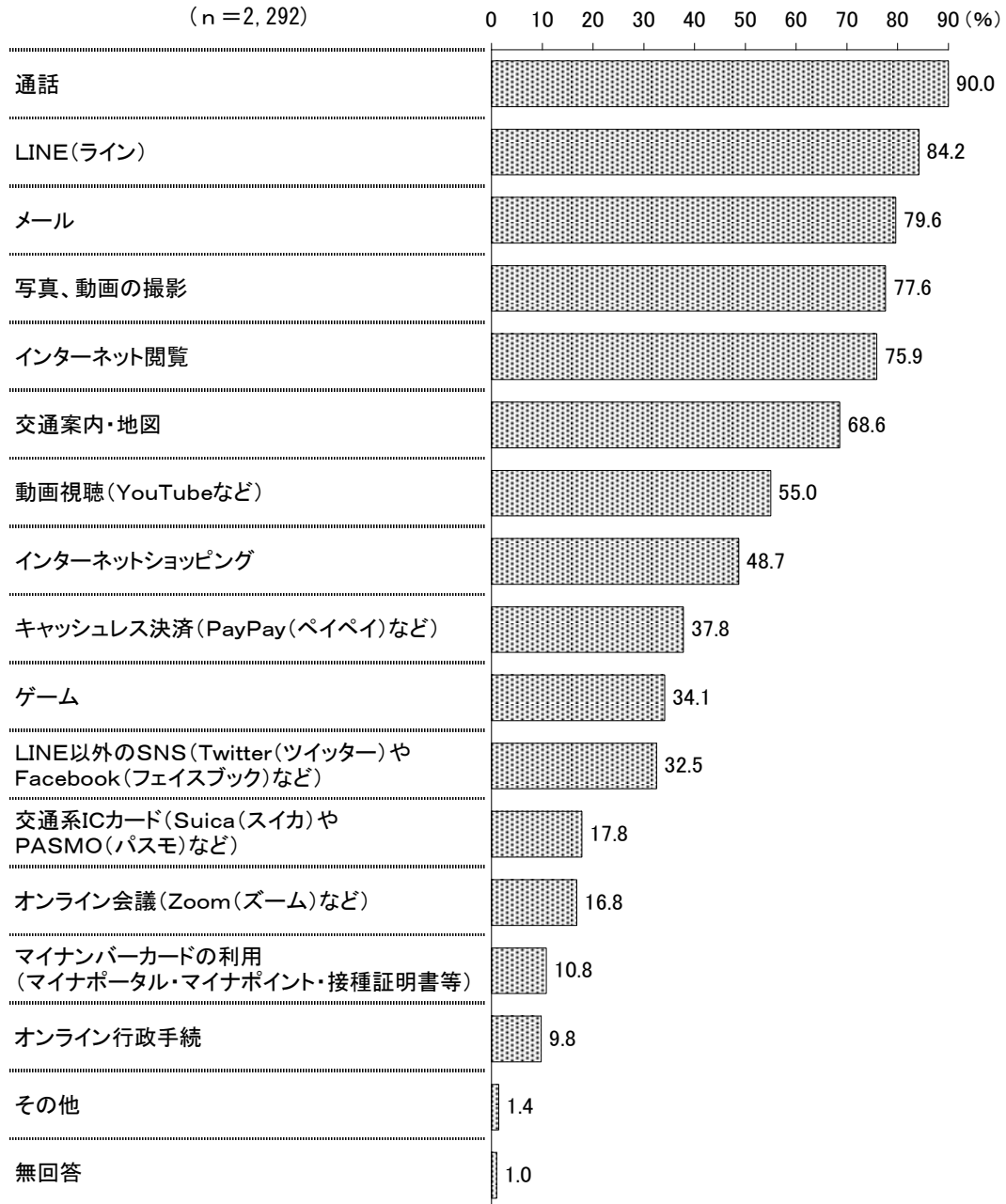
## (60) スマートフォンの利用方法

◇「通話」が9割

(問63で「所有している」とお答えの方へ)

問63-2 あなたは、スマートフォンをどのようなことに利用していますか。(〇はいくつでも)

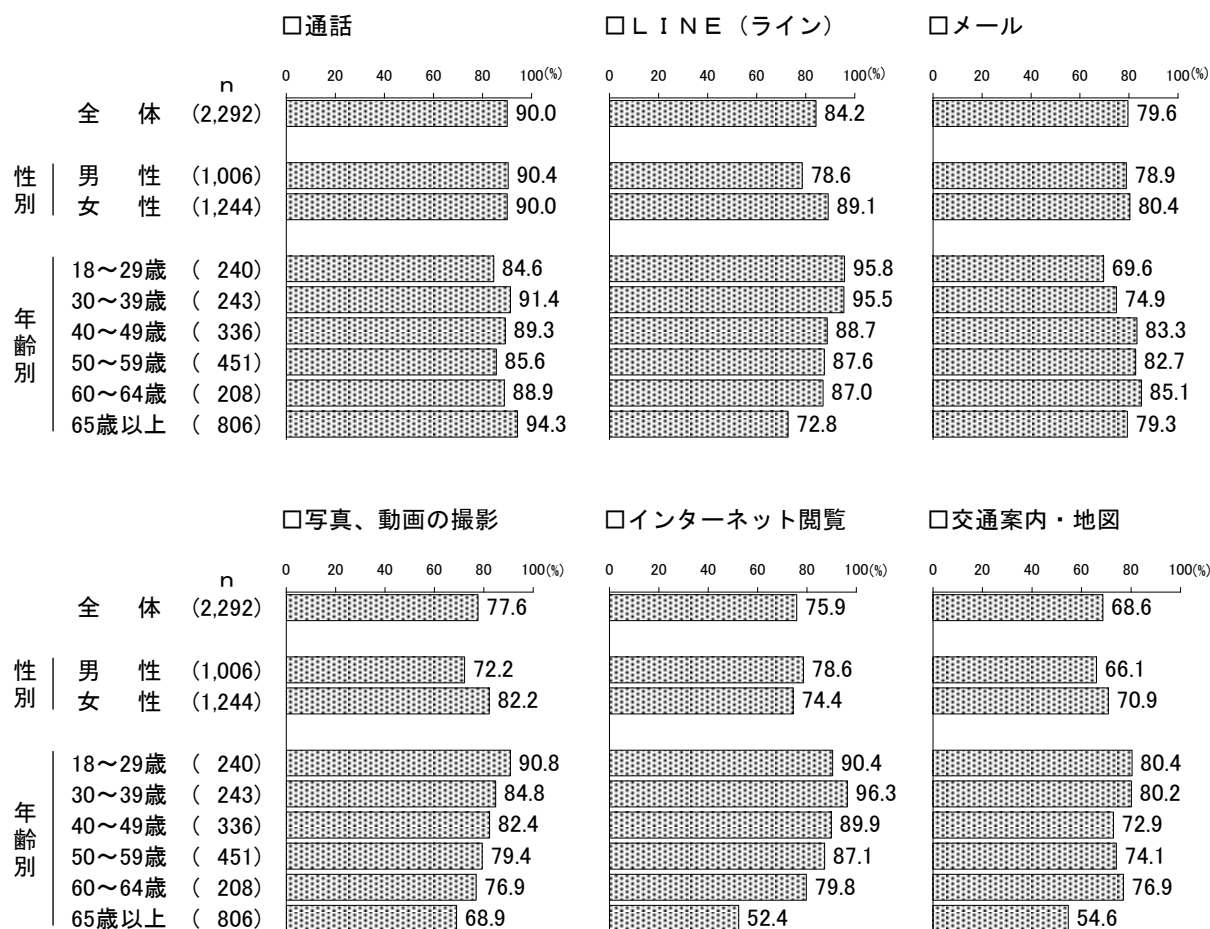
図3-60-1 スマートフォンの利用方法-全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

スマートフォンを「所有している」と回答した2,292人に、スマートフォンをどのようなことに利用しているか聞いたところ、「通話」(90.0%)が9割で最も多くなっている。次いで「LINE(ライン)」(84.2%)、「メール」(79.6%)、「写真、動画の撮影」(77.6%)、「インターネット閲覧」(75.9%)などの順となっている。(図3-60-1)

図3-60-2 スマートフォンの利用方法—性別、年齢別（上位6位）

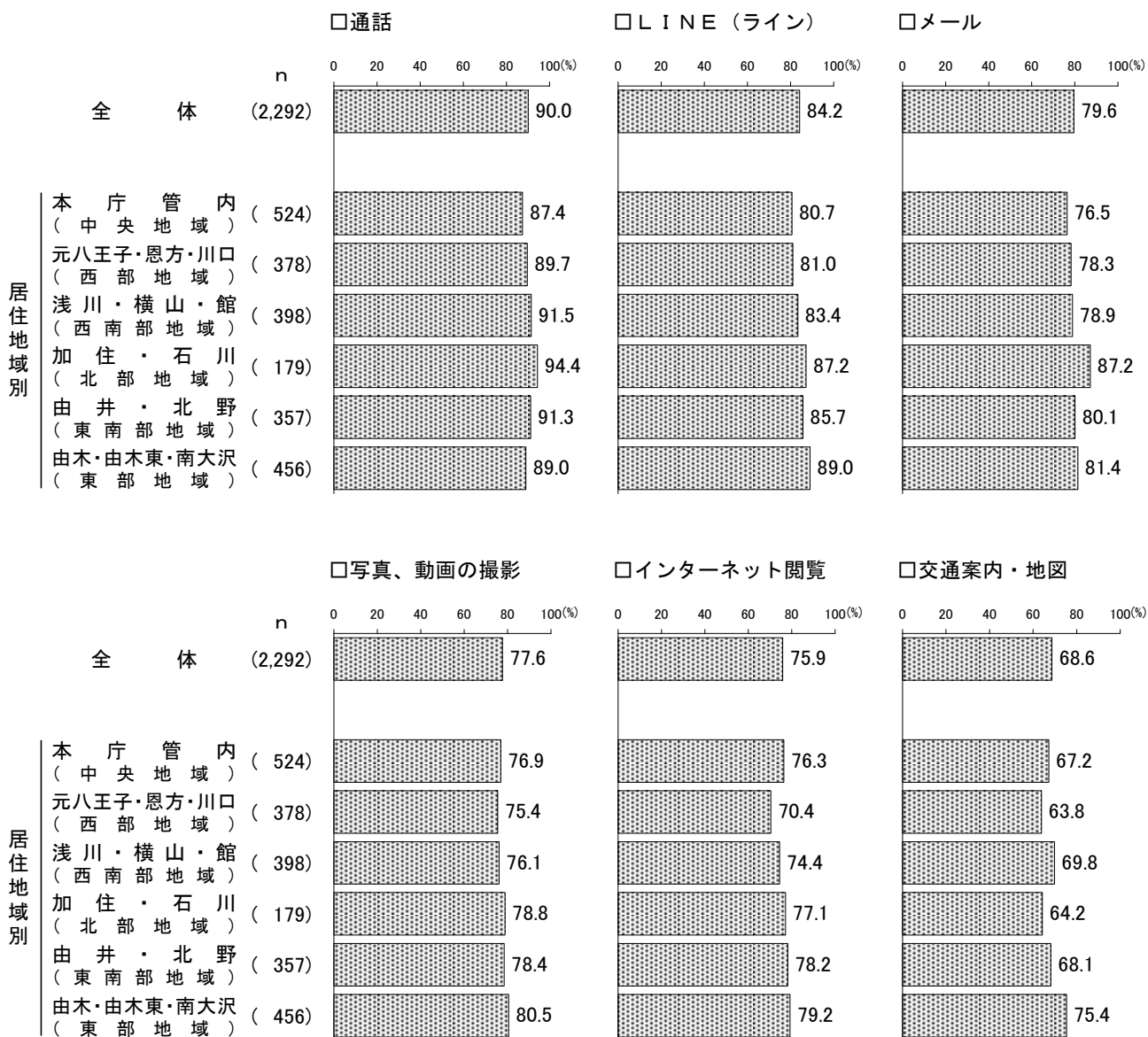


性別にみると、「LINE (ライン)」は女性 (89.1%) が男性 (78.6%) より10.5ポイント、「写真、動画の撮影」は女性 (82.2%) が男性 (72.2%) より10.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「インターネット閲覧」は男性 (78.6%) が女性 (74.4%) より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「通話」は65歳以上 (94.3%) で9割台半ばと多くなっている。「LINE (ライン)」は年代が低くなるほど割合が高く、18~29歳 (95.8%) と30~39歳 (95.5%) で9割台半ばと多くなっている。「インターネット閲覧」は30~39歳 (96.3%) で10割近くと多くなっている。

(図3-60-2)

図3-60-3 スマートフォンの利用方法—居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「通話」は加住・石川(北部地域) (94.4%) で9割台半ばと多くなっている。「LINE (ライン)」は由木・由木東・南大沢 (東部地域) (89.0%) で9割弱と多くなっている。「メール」は加住・石川(北部地域) (87.2%) で9割近くと多くなっている。(図3-60-3)

## (61) 市の相談体制の充実度

◇《《そう思う》》が3割台半ば

問64 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。(○は1つだけ)

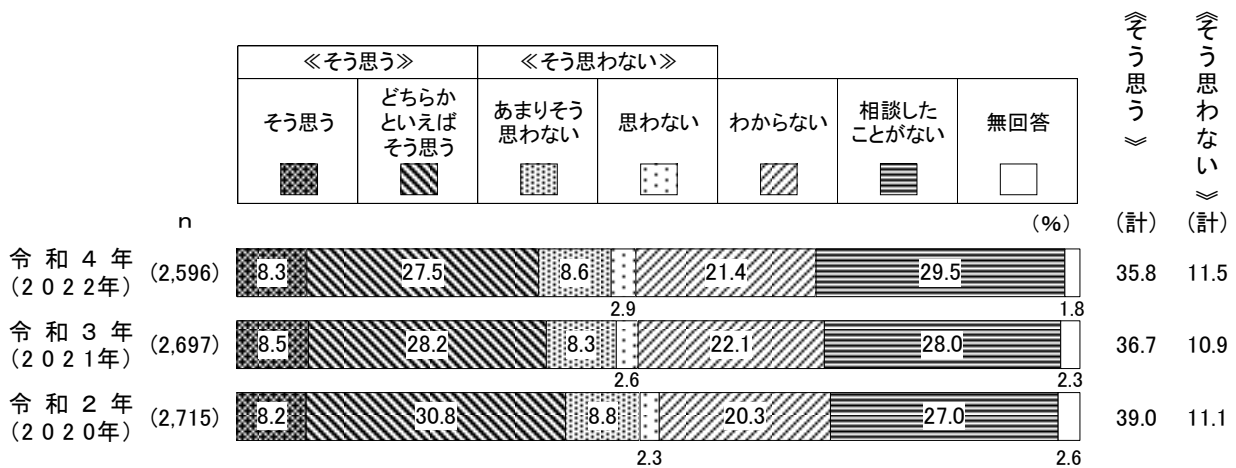
※市では、専門機関・専門家と連携し、次のような相談を行っています。

- 人権、女性福祉、女性のための相談
- 生活にお困りの方の自立相談
- 法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしの手続
- 年金・雇用保険・労働条件
- 交通事故 ○税金 ○行政 ○消費生活
- 外国人のための生活相談、行政書士相談
- 地域活動への参加 ○起業 ○就職
- 住まいのなんでも相談、住宅の増改築に関する相談
- 高齢者の福祉と介護、高齢者総合
- 専門家による成年後見制度・権利擁護相談
- ひとり親家庭、子ども家庭総合、専門家による子育て相談
- 総合教育相談、こども電話相談
- あなたの心の相談室、こころの健康相談
- H I Vに関する相談・検査
- 保健福祉・栄養・歯科
- 理学療法士による健康相談
- 医療に関する電話相談

など

※これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談まどぐち」（毎月1日号に掲載）や、市ホームページをご覧ください。

図3-61-1 市の相談体制の充実度—全体、経年比較

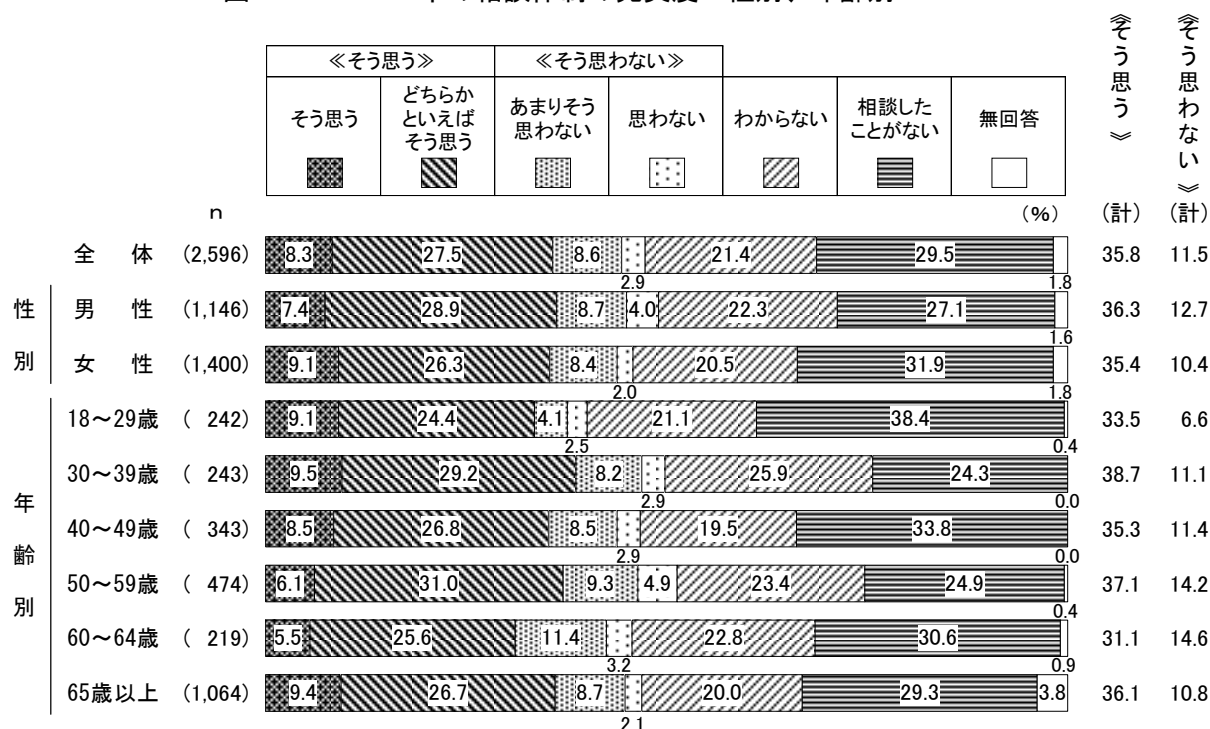


市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、「そう思う」(8.3%)と「どちらかといえばそう思う」(27.5%)を合わせた《《そう思う》》(35.8%)は3割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(8.6%)と「思わない」(2.9%)を合わせた《《そう思わない》》(11.5%)は1割強となっている。また、「相談したことがない」(29.5%)は3割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-61-1)

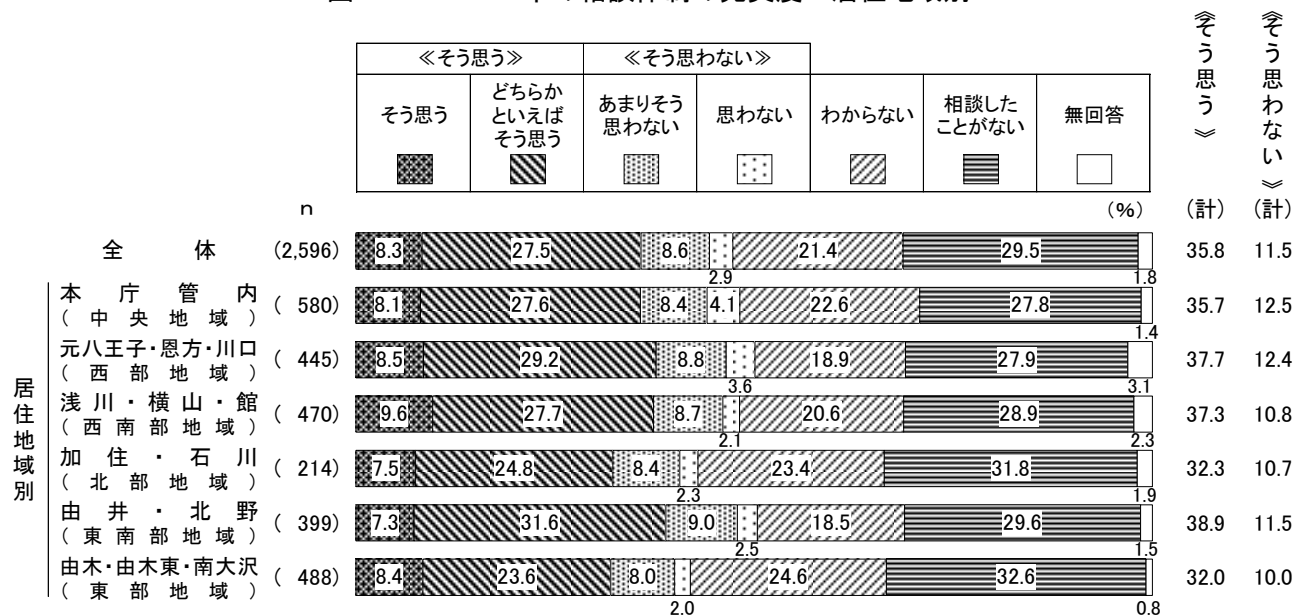
図3-61-2 市の相談体制の充実度—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（12.7%）が女性（10.4%）より2.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は30～39歳（38.7%）、50～59歳（37.1%）、65歳以上（36.1%）で4割近くと多くなっている。（図3-61-2）

図3-61-3 市の相談体制の充実度—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（38.9%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（37.7%）、浅川・横山・館（西南部地域）（37.3%）で4割近くと多くなっている。

（図3-61-3）

## (62) 行財政運営

### ◇《評価する》が5割強

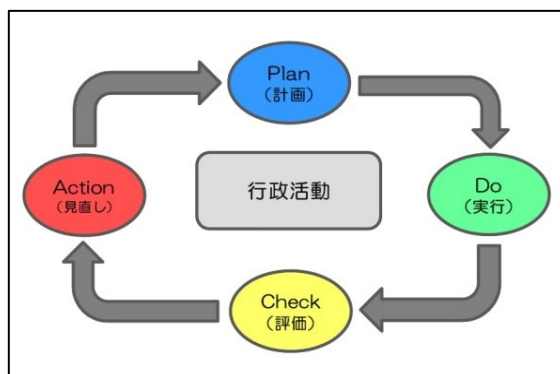
問65 市は、下欄のような取り組みにより、効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努めています。

このような市の取り組みに対するあなたの評価をお選びください。(○は1つだけ)

#### (1) 計画行政の推進

○市の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン2022」に掲げた49の施策の実現に向け、向こう3か年に実施する主な事業を示した「アクションプラン(実施計画)」を策定し、計画的な行政運営を行っています。なお、現在令和5年度(2023年度)からの基本計画「(仮称)はちおうじ未来デザイン2040」策定に併せて、新たな行政マネジメントの手法について検討しています。

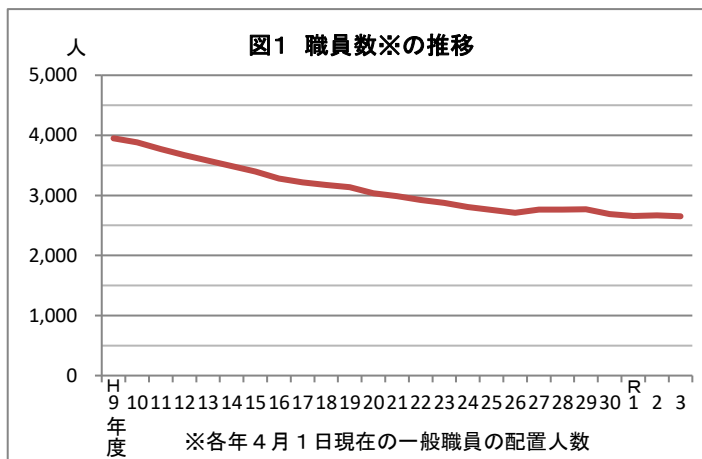
PDCAサイクル



#### (2) 行政運営の効果・効率性を高める取り組み

○公共施設の管理・運営などにおいて、市が実施するよりも効果・効率的で質の高いサービスを提供できるものについては、民間事業者のノウハウを積極的に活用しています。

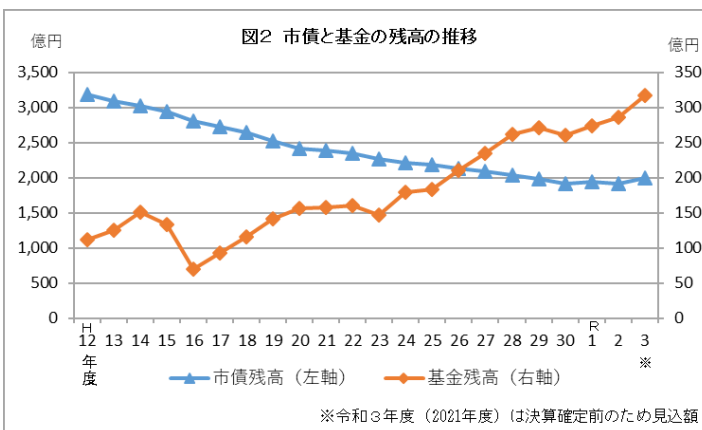
○職員が担うべき役割を明確化し適正な定員管理を行うことにより、平成9年度(1997年度)の3,950人をピークに職員数は減少し、令和3年度(2021年度)には、2,652人になりました。(図1)



#### (3) 健全な財政運営

○全国的な高齢化社会の進展、少子化対策の実施などを背景に、社会保障関係経費が増加し続けており、財政危機におちいる可能性を表明する自治体も出てきています。

○市債(市の借金)の残高は、平成12年度(2000年度)の3,184億円が最大でしたが、削減の取組により令和3年度(2021年度)は2,001億円(見込)になっています。一方、

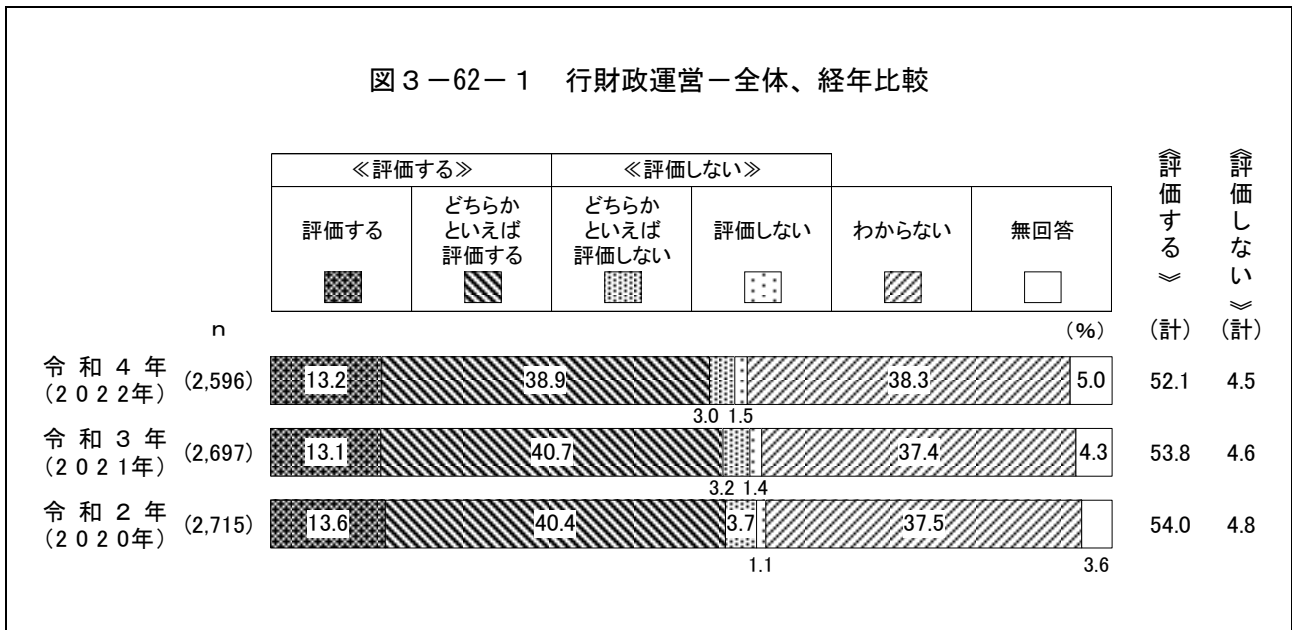


同じ期間で基金(市の貯金)の残高は、112億円から317億円(見込)まで増加しています。(図2)

○今後人口減少社会となり、市税収入等の減少が見込まれますが、公共施設の老朽化、災害に強いまちづくりなど課題は山積しています。そうしたなかでも、市では効果・効率的な行政運営を行うことで、将来世代に過度な負担を残さない財政運営に努めています。なお、市の予算・決算及び財政状況については、ホームページでも公表していますので、ご覧ください。



図3-62-1 行財政運営—全体、経年比較

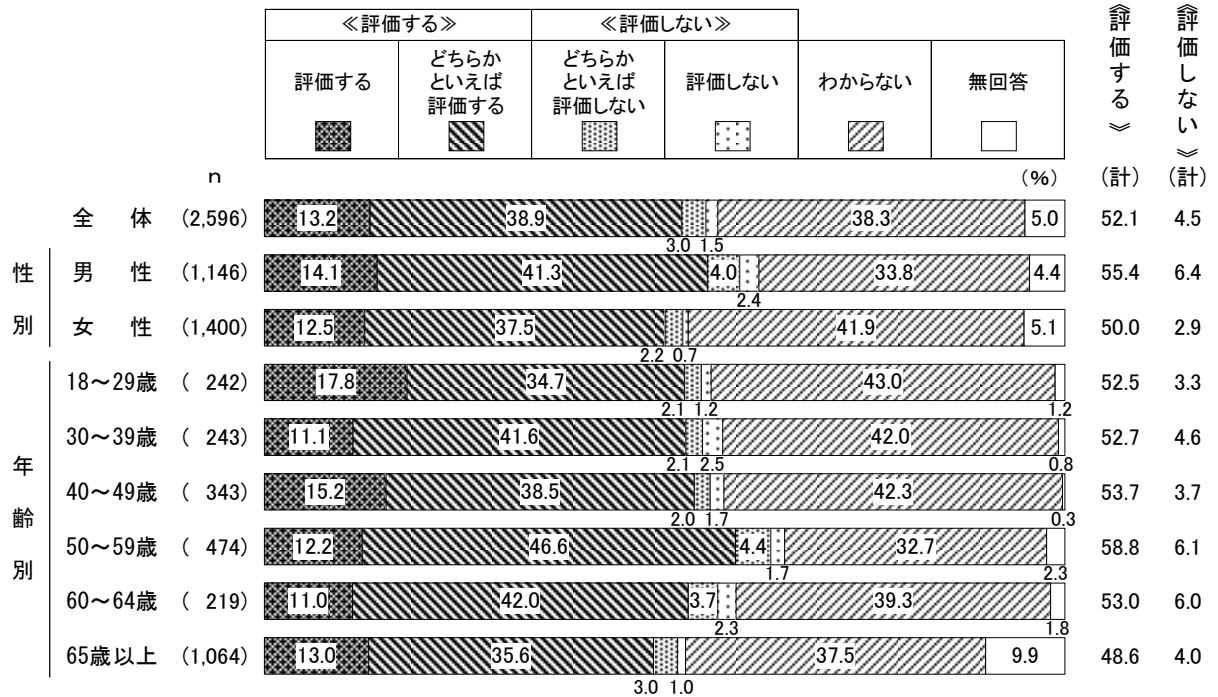


効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して評価するか聞いたところ、「評価する」(13.2%)と「どちらかといえば評価する」(38.9%)を合わせた《評価する》(52.1%)は5割強となっている。一方、「どちらかといえば評価しない」(3.0%)と「評価しない」(1.5%)を合わせた《評価しない》(4.5%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和3年(2021年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-62-1)

図3-62-2 行財政運営—性別、年齢別

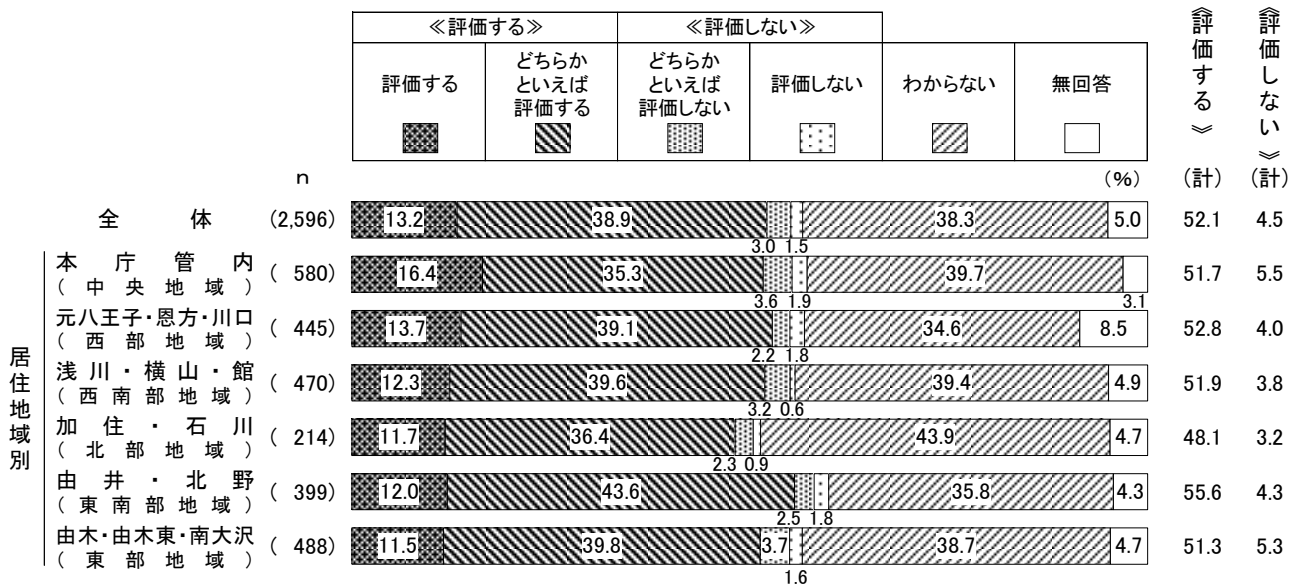


性別にみると、《評価する》は男性（55.4%）が女性（50.0%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《評価する》は50～59歳（58.8%）で6割近くと多くなっている。

(図3-62-2)

図3-62-3 行財政運営—居住地域別



居住地域別にみると、《評価する》は由井・北野（東南部地域）（55.6%）で5割台半ばと多くなっている。(図3-62-3)

## (63) 市の行財政運営を評価しない理由（自由意見）

（問65で「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」とお答えの方へ）

問65-1 評価しない理由があれば、お書きください。（自由記述）

効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して、「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」と答えた118人に、評価しない理由を自由記述形式で聞いたところ、85人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがあ

- 職員数を減らすことよりも、より多くの人が八王子市に住みたいと思い、市の人口が増えるような施策を進めて、職員数を増やせる方法を考えるべきではないかを感じる。（男性18～29歳）
- 高齢者ばかりでなく若年、ファミリー層にも寄り添って頂きたい。開発より必要なもの、ハード面の整備や公園の遊具の充実、先に取り組んで頂きたい。どうか子供たちがすこやかに過ごしていける町になるようお願いします。（女性30～39歳）
- （2）について、職員数の減少が適正な行政運営と捉えていません。ピーク後に中核市になっていると思いますが、職員数を減らして適正な行政運営ができているのでしょうか。もし職員に過大な負担を強いているのであれば、適切な市民サービスに繋がらないと思います。将来世代に過度な負担を残さないためにも、人数云々ではなく、市に適切な人材や適性人数を集めるよう努力が必要と考えます。（女性30～39歳）
- 市債が減り、基金が増えたのは一見良いですが、効率的にお金が使われていないのでは？と思ってしまう。投資にもお金は適切に回っていますか？企業で言う「ROE」のようなもので判断した方が良いのではないのでしょうか。（男性30～39歳）
- 市民への情報公開が不足している。（女性40～49歳）
- 職員を減らすことで、残った職員のワークライフバランスは取れているのか？市が率先してワークシェアに取り組み、長時間労働できない人が職を得る助けになってほしい。（女性40～49歳）
- 職員数を減らすよりも、研修や資格取得などで、「エキスパート」を増やしてほしい。例えば障害者福祉のジャンルなら、急増する発達障害ニーズに応える人員を増してほしい。  
(女性50～59歳)
- 産業交流センターなどの箱物を建てても、市民が喜ぶような施策にはなっていないのではないかと。南口周辺の再開発についてもしかり。建築業の方が潤うだけのように感じます。（男性50～59歳）
- 大規模開発等の旧態依然とした成長志向型の産業活性化にお金をかけるのではなく、豊かな自然環境を活かした循環型の暮らしができる地域づくりにお金をかけてほしい。職員を減らすことが効率化ではない。一定レベルの行政を維持するには職員が必要だと思う。（男性50～59歳）
- 市の未来の都市づくりのビジョンが見えない。商店街がさびれるばかりで、市との一体感がない。大きな店、会社が減少している。学校とマンションばかりでは集客効果が少ない。  
(男性65歳以上)
- 職員数の減少だけでは評価出来ない。その背景が示されてはじめて、評価が出来る。それをこのように提示していることに不安を感じる。マンパワーが不可欠な部署があるはずで、それをどのように対応したのか？委託化したのであれば、それは人件費を委託費に置き替えただけで、行政の質の低下かも知れません。そのような点まで踏み込んで、政策実施結果の評価を示してもらいたい。（男性65歳以上）